

2006年度

神戸女学院大学 専任教員
教育・研究業績報告集

神戸女学院大学

FD センター

2006年度 教育・研究業績報告集の発刊にあたって

本学では、従来から教員の研究業績を神戸女学院大学研究所が発行する『神戸女学院大学論集』上で公開してきましたが、2005年度から教員活動評価制度の試験的運用が始まるとともに個々の教員の業績に関するデータの取り扱いを一元化する意味でFDセンターが集約することになりました。また、2008年度に大学認証評価を受ける関係から、2007年5月1日現在における教員の教育・研究業績をとりまとめる必要がありました。そこで、従来公表していた研究業績に加えて、教育や社会活動等についての活動内容を盛り込んだ『2006年度 神戸女学院大学 専任教員 教育・研究業績報告集』をここに発刊する運びとなりました。

今年度の報告集は、大学認証評価において必要とされる項目を含むため、かなり内容量も大きなものになっています。この『教育・研究業績報告集』を通覧すれば、本学教員が教育、研究、社会活動の諸分野においてどのような仕事をしているかをおおよそ把握できるはずです。ここに記載されている業績や活動記録は、原則として教員本人の申告によるものであり、自己評価活動の一端を表しています。

このような業績の公開が外部への情報の発信につながり、本学の教育研究活動のいっそうの向上をもたらすことになれば幸いです。

2008年2月

FDセンター・ディレクター
遠藤 知二

目 次

文学部	英文学科	教授	原 田 園 子	----- 1
			平 井 雅 子	----- 3
			松 縄 順 子	----- 6
			溝 口 薫	----- 8
			長 尾 ひろみ	----- 10
			Cynthia J.N.SETON	----- 12
			田 島 和 彦	----- 14
			立 石 浩 一	----- 16
			鶴 野 ひろ子	----- 18
			山 田 由美子	----- 20
			吉 田 純 子	----- 22
		准教授	泉 川 泰 博	----- 24
			栗 栖 和 孝	----- 26
			田 邊 希久子	----- 28
			Yolanda Alfaro TSUDA	----- 30
			和 氣 節 子	----- 32
		専任講師	Margaret KIM	----- 34
			Ryan D. KLINT	----- 36
			David G. McCULLOUGH	----- 38
	総合文化学科	教授	古 庄 高	----- 39
			浜 下 昌 宏	----- 41
			飯 謙	----- 43
			飯 田 祐 子	----- 45
			石 川 康 宏	----- 47
			岩 田 泰 夫	----- 49
			小 松 秀 雄	----- 51
			真 栄 平 房 昭	----- 53
			松 田 央	----- 55
			三 杉 圭 子	----- 57
			孟 真 理	----- 59
			村 上 直 之	----- 61
			難 波 江 和 英	----- 62
			高 橋 友 子	----- 64
			内 田 樹	----- 66
			上 西 妙 子	----- 69
			上 野 輝 将	----- 70

文学部	総合文化学科	准教授	金田知子	-----	72	
			川村暁雄	-----	75	
			藏中さやか	-----	77	
			宮田道昭	-----	79	
			高橋雅人	-----	80	
			田中真一	-----	82	
			渡部充	-----	84	
			横田恵子	-----	86	
			米田眞澄	-----	88	
音楽学部	音楽学科	教授	Boris BEKHTEREV	-----	90	
			石黒晶	-----	93	
			中村健	-----	97	
			西明美	-----	101	
			西田直孝	-----	103	
			斉藤言子	-----	104	
			澤内崇	-----	107	
			島崎徹	-----	108	
			田中修二	-----	110	
			津上智実	-----	112	
			若本明志	-----	114	
			山上明美	-----	116	
			Sergey N. ZAGADKIN	-----	118	
			准教授	佐々由佳里	-----	119
				辻井淳	-----	122
			専任講師	村越直子	-----	126
				岡田将	-----	128
人間科学部	心理行動学科	教授	出口弘	-----	130	
			生野照子	-----	132	
			小林哲郎	-----	135	
			國吉知子	-----	136	
			水田一郎	-----	138	
			森永康子	-----	140	
			山祐嗣	-----	142	
			山口素子	-----	144	
			准教授	石谷真一	-----	146
				Wai-Ling LAI	-----	148
				三浦欽也	-----	150
				田島孝一	-----	152

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	教授	遠藤 知 二	-----	153
		川合 真一郎	-----	155
		西田 昌 司	-----	158
		野寄 玲 児	-----	160
		塩見 尚 史	-----	162
		寺嶋 正 明	-----	165
		山本 義 和	-----	168
	准教授	金沢 謙太郎	-----	170
	高岡 素 子	-----	172	
	体育	教授	井上 紀 子	-----
谷 祝 子			-----	176

凡 例

▷掲載対象は2007年5月1日現在の在職教員とした。

▷配列は、学部学科ごとに教授、准教授、専任講師の順序とし、それぞれアルファベット順とした。

▷記載事項

氏名、専門分野、研究課題。

1. 教育活動

担当授業科目／教育内容・方法の工夫*／授業評価への対応／作成した教科書、教材、参考書*／教育方法・教育実践に関する発表、講演等*／その他教育活動上特記すべき事項*

2. 研究活動

著書*／学術論文*／演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表*／学会発表**／その他**／特許・実用新案*／科研費等の助成金の受領状況*／主な研究活動*

3. 学内における活動

主な学内活動*

4. 社会活動

学会役員等*／講演**／公開レッスン**／コンクールの審査等**／学外機関委員等*／主な社会活動*／受賞・栄誉*

* 過去5年間(2002年4月～2007年5月)の活動を記載。

** 2006年度の活動を記載。

■ 専門分野 英語教育 英語教育史

■ 研究課題1 神戸女学院における英語教育史

2 早期英語教育

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(I) 英語研究、こどもの言語、ジュニアセミナー、シニアセミナー、英語科教育法 I、教育実習 I / 教育実習 II、総合英語 II、英語科教育法 II、初期神戸女学院

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2006年4月～2007年1月 E106, GE240, E397については、2006年度に初めての担当であったので学生の実力を鑑みてプリント教材と学期に数回の課題を工夫しつつ修正を重ねた。

●2006年4月～7月 Ed330aにおいて、特に復習を要すると思われた1年次2年次に履修済みの発音記号と文法用語についての練習をし、小テストを実施し習得させることを試みた。

■ 授業評価への対応

●2006年6月、2007年1月 各授業において、返却された授業評価結果をコピーし、各項目について説明をし、評価の低い項目に関しては以後の指導の際に特に注意し改善を心がけた。また、過去連続して担当している科目や後期の評価結果については、前年度あるいは前期の評価結果を述べ努力の結果を示したり、改善されていない点においては以後更に努力する旨を伝えた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2006年4月～2007年1月 2週間毎E106 については、予習のreadingがし易いように、範囲の内容に関する質問を毎回10題程度用意しプリント配布。これは、予習の一助とし、また中間・期末考査への復習の手立てとした。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●2006年11月8日 実施音楽学部の音楽のアウトリーチのプログラムの一つである「ひよこプロジェクト」を実施した。音楽学部学生と英文学科4年次で教育実習を済ませた学生有志の幼稚園児への英語導入の授業を2回(2006年11月8日)行った。幼児英語として歌と動作を用いた指導、子供たちへの英語での語りかけの指導案の作成と実施への指導をした。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 女子教育、再考, 冬弓舎, 236pp., 68-80, 06.7.

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

寄稿:『女性を幸せにする大学』, 現代高等教育問題研究会 編, プレジデント社, 188-197, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

2005年度までは役職上研究活動への時間がとれなく実質皆無であった。2006年度は早期英語教育の研究を始め、その成果の一部を上記の「ひよこプロジェクト」実施にあたって参考にし、さらに、2007年1月の西宮市子育て支援センターの5周年記念講演会の講演とした。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年度～2005年度は役職上の活動が多々あった。2005年2月22日開催の総合文化学科主催シンポジウムの講師。2006年度は宗教活動委員、礼拝担当等の活動に終わった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1989年～現在 大学英語教育学会(JACET)紀要論文 審査委員

1998年4月～2006年3月 大学英語教育学会(JACET) 評議員

2006年4月～現在 大学英語教育学会(JACET) 理事

■ 講演(2006年度)

07.1.30 西宮市子育て支援センター5周年記念講演会講師

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2002年～2005年3月 大学基準協会相互評価委員会外国語学系専門評価分科会 主査

2002年4月～2005年3月 文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会 特別委員

2002年4月～2006年3月 西宮市大学交流協議会 理事

2002年4月～2006年3月 日本私立大学連盟 教育研究委員

2002年～現在 広島市立大学運営協議会 委員

2004年～2006年3月 文部科学省高等教育局現代的教育ニーズ取組選定委員会 委員(第3部会主査)

2005年4月～現在 文部科学省高等教育局法人 運営調査委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

2002年度～2005年度は、役職上学外諸機関・委員会等の理事・役員を務めた。2002年度～2004年度には大学基準協会相互評価委員会外国語学系専門評価分科会主査。2002年度～2006年度には広島市立大学運営協議会委員。2002年度～2005年度に文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会特別委員(大学設置分科会)委員。2004～2005年度に文部科学省高等教育局現代的教育ニーズ取組選定委員会委員(第3部会主査)。2005年度～2006年度に文部科学省法人運営調査委員。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 英米文学、比較文学、ヨーロッパ現代美術と文学
- 研究課題1 第一次大戦前後のヨーロッパ美術と文学の精神
 - 2 D.H.ロレンスとR.M.リルケとニーチェ
 - 3 近代日本文学の国際性

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 リーディング&ディスカッション (I) 英米文学、英米文学テーマ別研究、ジュニアセミナー、イギリスの文学と歴史、
- 大学院 英文学演習(小説)、修論指導、論文指導、英文学特殊研究III

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2003年8月～現在 俳句の指導で自然を見る目と感覚を養い、死を前に生の感動を記し続けた子規の『仰臥漫録』を読み、松山や東京を訪れ、その文学と生き方を院生、学生有志と研究し、日・英・対訳本を作り『今、生きる！子規の世界』(遊タイム出版)として出版した。学部授業や国際授業(海外から来た学生とともに受ける英語の特別授業)でこの本を使用し、その後の学生もこれを読み、感動をもって文学、言葉の力について考える。
- 2004年4月～現在 文学が、自分自身の人生や現実の社会、歴史に深く関わる手段であることを学生に体感してもらうための工夫：第一次、第二次大戦、戦争の主題を多様な角度から扱う文学を読み、背景資料の調査、批評、各自の考えを引き出し議論してもらう。
- 2006年2月～現在 本学開催の国際シンポジウム講演原稿を大学院生に読ませて翻訳を指導し、解りやすい英・日・対訳教科書を作る。それを学部2-4年の学生に読ませ、そこで解説される英文学作品で興味を引いたものの原書を読み論じてもらう(先輩と後輩の協力も体験)。

■ 授業評価への対応

- 作品の背景となった土地を自分で歩き、調査での発見を学生と分かち、パワーポイントその他で関連する歴史的事件などの資料、写真、絵画、映画の一部など見せ、知らなかった！と実感させる。半分以上、英語で授業を行い講義に集中させる。詳細の説明を日本語で補う。先輩の大学院生の研究発表、教師の国際学会発表の一部を紹介する。講演会を企画し、英語の特別授業への参加を促す。毎週のようにレポートを提出させ、コメントをつけて返し、Eメールでもコンタクトを取り感想、提案を伝える。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年から2003年に作成、2003年8月出版 子規『仰臥漫録』を読書研究、調査、翻訳する有志学生の会を指導し、日英対訳『今、生きる！子規の世界』(遊タイム出版)を出版
- 2005年から翻訳指導・編集作業にかかり、2006年2月出版 本学で企画司会した国際シンポジウムの講演3つを、教員1名とともに大学院生、卒業生の翻訳を指導して英語・日本語の対訳教科書を作成。『今日の世界と文学』(大阪教育図書、2006)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2004年5月 英国ケンブリッジ大学クレアホールで、特別講演“The Birth of Modern Japanese Literature”を行い、日本文学を知らない聴衆に日本人の文学の精神を英語と画像で伝え、感動を与える方法を提示。
- 2005年3月 在ロンドン日本大使館、ヨーク大学在ロンドン日本大使館、およびヨーク大学で、特別講演“Soseki in London: The Birth of Modern Japanese Literature”を行い、英国の作家、英文学者、日本語を勉強中の大学生、一般人も含む聴衆に向かい、日本人の心を英語で世界に伝える方法を提示。
- 2006年3月 ダブリンのアイランド俳句協会、およびケンブリッジ大学クレアホールアイランド俳句協会(ダブリン)およびケンブリッジ大学クレアホールで、“Haiku in English”(英語で俳句を作る)のワークショップと講演“Shiki's Diary and Haiku”を行い、英語で俳句を作り句会をする意味と方法を提示。言語、文化の壁を超えたコミュニケーションの方法と意味の体験授業。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2004年のクレアホールとの提携以来、現在まで大学院生の研究を国際的に行うことを奨励指導し、ケンブリッジ大学クレアホールと大学の提携により、毎年、大学院生2名が短期間(11週間)滞在研究できるよう道をつける。1)2003年8月国際ロレンス学会(京都)、2)2006年日本ロレンス協会全国大会、および3)日本ジョージ・エリオット協会全国大会で発表。2)は『ロレンス研究』に論文掲載し、3)は『ジョージ・エリオット研究』に論文掲載予定。大学院生の研究発表を奨励指導し、優れたものは全国大会と国際学会での発表を行わせる。また審査のある学会誌への投稿を促す。2004年5月よりワイオミング大学オナー・プログラムの短期留学生一行と本学学生が対等に英語で句作し句会。
- 2006年10月より岡田山俳句・月例会、現在まで、大学で俳句の会(岡田山俳句)を作り、大学院生、学部生、教職員、同窓生、多様な立場と年齢の者が定期的に集まり、自然に向かい対等な観察と創造を行い、実感に基づき議論する。海外の学生とも自然を前に対等な句作と意見交換を、英語で行い楽しむ。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] Michael Bell・Keith Cushman, D. H. Lawrence: Literature, History, Culture, Kokusho-Kankokai Press, 05.9
- [共著] Simonetta de Filippis・Nick Ceramella: D. H. Lawrence and Literary Genres, Loffredo Editore, 04

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著]見えない戦争-第一次世界大戦とロレンス, 女性学評論 第19号, 21-34, 05.3
- [単著]なぜ小説を書くのか? -『家畜』にみる、キング氏の人と文学, フランシス・キング研究 第7号, 13-22, 05.7

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- パネル司会: “D. H. Lawrence, Singular or Plural”, 国際ロレンス学会パリ大会, パリ第10大学, フランス, 07.3.19-31
- D. H. Lawrence and the Expressionist Pictures of Horses, 国際ロレンス学会パリ大会, パリ第10大学, フランス, 07.3.19-31

■ その他(2006年度)

翻訳監修:『今日の世界と文学の対話』, 平井雅子・和気節子 監修 神戸女学院大学英文学翻訳チーム, 大阪教育図書, 06.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 研究助成金 [代表者], ロマン派からロレンスの文学へ, 2002年度, 20万円

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 近世俳句文化の研究と英訳, 2003年度, 85万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], ロレンス書簡集の研究と翻訳, 2003年度, 100万円

本学研究所 出版助成金 [代表者], Now, to Be! 今、生きる! 子規の世界, 2003年度, 131万円

本学研究所 研究補助 [代表者], The Everlasting Underground in Women in Love Medieval Brothhood, Industrial Art and the War Imagined, 2003年度, 10万円

本学女性学インスティテュート 研究助成金 [代表者], ロレンスの小説における強い女と弱い女のレトリック, 2003年度, 10万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 漱石・子規の往復書簡と西洋思想(近代文学誕生の鍵として), 2004年度, 20万円

本学女性学インスティテュート 研究助成金 [代表者], 第一次大戦を背景とする女性像の問題(D.H.ロレンスからバット・パーカーへ), 2004年度, 10万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 国境線に生きる-第一次世界大戦をめぐるカロッサとハンガリー、ルーマニア国境の文学, 2005年度, 30万円

本学女性学インスティテュート 研究助成金 [代表者], 日本の女性、世界の女性とロレンス文学, 2005年度, 10万円

本学女性学インスティテュート 国際学会出張補助金 [代表者], 2005年度, 10万円

[代表者], ドイツ表現主義とロレンスの小説, 2006年度, 30万円

[代表者], 父権思想から母権思想へ: 第一次大戦をめぐる文学とヨーロッパ思想, 2006年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

1) 英文学、第一次大戦前後の文学の切り口から、19世紀末から20世紀のヨーロッパ前衛美術と文学に研究対象を広げ、当時のヨーロッパと英国の文学芸術が民族、文化を超えて交流しアフリカ、アジアの芸術を取り入れつつ培った「世界的交流」の実態とその精神を追求してきた。ヨーロッパ各地に散るその時代の絵画を多く見る、第一次大戦を記録する一連の文学の深い読みと、そこに登場する東欧諸国の都市と地方を訪れ、変化とともにそこに残る不変の精神を検証するなど、現地調査の鉄則に基づき、その後の世界大戦、今日に比して問うべき問題の本質に迫る姿勢。地道な調査と文学、思想書の詳細な読みに基づき「時代精神」の本質に迫る大胆な挑戦が、毎年1-2回の国際学会発表と研究書で国際的評価を得て、新分野の開拓として認められつつある。

2) 日本文学を世界に紹介する、という活動が認められ、ロンドン日本大使館、ケンブリッジ大学、ヨーク大学、アイルランドで講演。英文学の知識・言葉の感性を生かし、日本文学の読み込み、創造性を活用した翻訳を行い、比較分析し、英欧の感性にも訴えるものを総合的に作りあげる新しい文学。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

1) 学生の活動、学究意欲を促進し、学問や社会貢献への情熱を生むため、有志学生の参加できる企画を、毎年、立ち上げ支援した。(アフガン難民支援募金活動)(子規『仰臥漫録』を翻訳し、対訳本を国際学会でプレゼント)(国際学会講師を招きシンポジウムとその原稿翻訳、出版)(谷川俊太郎の詩を英訳し氏を囲み発表・談笑する会)(学生の批評エッセイ、英語俳句、優れた英文作品を冊子にまとめ、配布)

2) 新聞、ラジオを通して上記、学生の活動、研究の紹介を重ねる。

3) 社会、世界の重要な情報、歴史、思想、芸術、科学などの本質に触れるよう、各分野の第一級の人物を招き、講演会や交流を企画。

4) 学会、シンポジウムの学内開催、企画。

5) 大学院生などの学会発表奨励と指導、学部生との情報交流。

6) ゼミ旅行と、研修に基づく発表、活動。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1998年4月～現在 日本ロレンス協会 役員

2001年4月～2003年3月 日本英文学会 評議員

2003年4月～2006年3月 日本英文学会 編集委員

2003年4月～2006年3月 日本ジョージ・エリオット協会 編集委員・評議員

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2005年4月～現在 兵庫県HUMAP委員会 委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

- 1) 学生の社会貢献活動(アフガン難民支援募金活動ほか)を支援、補佐。
- 2) 映画「ベアテの贈りもの」上映を企画立案、すなわち憲法の女性の権利の条項立案に関わったベアテ・シロタ・ゴードンと、その志を実体化した日本女性の活動史について学ぼうと企画し、赤松良子氏招聘を果し、教員学生一体の学院公開行事とするのに貢献。
- 3) NHKラジオ文化講座、新聞掲載エッセイ、高校出張授業、公開講座などを通し、英文学と日本文学、心の大切さを訴えた。
- 4) 岡田山の自然に目と心を開き言葉にする「岡田山句会」を企画プロデュースし、教職員、大学院生、学生、家族、同窓生の参加交流を図る。
- 5) 『チャタレイ夫人の恋人』特別資料展とロレンス協会全国大会、公開シンポジウムを本学で開催し、「文学」と「表現の自由」について社会の関心を高めた(各紙報道)。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 通訳理論、異文化コミュニケーション、国際関係

- 研究課題1 通訳理論の構築と実践との関連研究
 2 Verbal Communicationの展開と今後の展望
 3 国際会議における国際関係の位置付け

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 通訳の理論と実技(Ⅲ-1)、異文化コミュニケーション、同時通訳、
 大学院 同時通訳演習Ⅰ・Ⅱ、通訳実習、通訳実践特別講義、修論指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2004年4月～現在(通訳トレーニング法を活用した英語運用能力の向上プログラム) 通訳トレーニングに用いられる方法(シャドウイング、ラギング、パラフレージング)を用いて、英語のリスニングの能力の向上、内容の正確な把握、分析力を養成する。敏速な言語変換で内容を自分の英語で再表現し、集中力を高めることができた。
- 2004年7月～現在(2004年度13回、2005年度15回、2006年度15回、2007年7月まで11回)(On the Job Training) 国際会議、講演会、シンポジウムの同時通訳の現場を体験する。そのために、事前に背景知識習得の勉強会を十分行う。現場での緊張感、集中力を養い、敏速な反応と異文化間コミュニケーションの重要性を学習した。
- 2005年～現在 月平均3-4回(夏休み、春休みを除く) 特別勉強会(OJT用)人間科学部、音楽部、総合文化学科の先生方を講師として、OJTのための基礎知識の勉強会を開催。多岐に亘る分野の入門講義を受講して、Liberal Arts & Sciencesとしての教養を身につけている。

■ 授業評価への対応

- 学生は随時研究室を訪れ授業コメントを受ける事の出来るように配慮している。授業の速度、難易度は評価を見て調整している。同時通訳法のクラスは学期末に学生に匿名で授業のコメントを提出させている。学生の同時通訳のパフォーマンスはテープに録音しているので、それと対比して改善を図っている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年4月～現在 学生のlistening能力向上の為の教材開発(コンピュータ上で使用) 日本が関わる国際情勢のトピックをBBC、ABC等のニュースより選択し、継続してトピックを追い、ビデオを作成。コンピュータ上に共通ファイルを設け学生が教材に常時アクセスできるようにした。
- 2005年度～現在 月平均3-4回(夏休み、春休みを除く) 授業中に使用したBBCニュースはテーマごとに別途ビデオ編集し、視聴覚ライブラリーに保管し、随時学生がアクセスして、復習出来るようにした。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2004年8月～現在(通訳教授法指導、研修セミナー及び講演会開催) 毎年8月に、モンレー国際大学院、翻訳通訳大学院より通訳担当教官2名を招聘し、高度な通訳教授法のセミナー及び講演会を神戸女学院で開催している。同時通訳、逐次通訳の教授法のきめ細かいセミナーをワークショップを交えて行ってきた。
- ポスターセッション:2004年11月、2005年3月、講演:2005年3月(ビッグサイト)、2005年6月(和歌山)、9月(青山学院大)12月(千里)、2006年3月(上智大) 文科省、各学会の依頼により、2004年度現代GP採択プログラム「通訳トレーニング法を活用した英語運用能力向上の英語教育方法」のポスターセッション(2回)、講演会(5回)を行った。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2004年～現在 西宮市、LEAF主催の一連の環境問題セミナー、ワークショップ、兵庫県主催YLP、WHO等の国際シンポジウム、大阪市大大学院 International Schoolのセミナーの同時通訳指導、その他年間約22のOJTの指導。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] ニュールンベルグ裁判と同時通訳, エンタイトル出版 59pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] 中村勝則・東野勝治・松縄順子, 双方向マルチメディア環境下での語学教育システムの開発, 平安女学院大学研究年報, 03.3
 [単著] "Challenge of Change" Ms. Nancy K. Baker (アメリカ大使夫人) 特別講演, 女性学評論 第19号, 115-163, 04.4

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 通訳・翻訳コースのカリキュラム作成と問題点, 日本通訳学会年次総会, 青山学院大学, 東京, 05.9
 神戸女学院文学研究科、通訳・翻訳コースのカリキュラムの問題点と今後の課題, 日本通訳学会関西支部定例学会, 千里, 06.12

■ その他(2006年度)

- 翻訳:『会議通訳』, ローデリック・ジョーンズ, ウィンター良子・松縄順子 翻訳, 松柏社, 240pp., 06.4

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学研究所 出版助成金 [代表者], 「会議通訳」翻訳, 2005年度, 71万2000円

- 本学研究所 出版助成金,「ニューロンベルグ裁判と同時通訳」, 2006年度, 91万8220円
- 文部科学省 「現代GP」助成金, 1500万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

OJT活動として学内で開催される、講演会、国際シンポジウム、Assembly Hour、Chapel Hour の外国人講師の講演の同時通訳指導、兵庫県、西宮市主催の国際シンポジウム、ワークショップの同時通訳を担う学生指導。
「現代GP委員会」委員長

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2005年～現在 日本通訳学会 関西支部幹事

■ 講演(2006年度)

公開講座「イギリス研究」文化的側面より(2004年～現在)開催, ACTA西宮市大学交流センター

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 英文学
- 研究課題1 ヴィクトリア朝小説(チャールズ・ディケンズなど)
 - 2 20世紀イギリス小説(コンラッドなど)
 - 3 近代社会と小説の方法

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 英作文・英文法の基礎、ジュニアセミナー、特殊講義(英米文学)、イギリスの文学と歴史、シニアセミナー
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2003年4月～現在 今日の学生の興味や背景に配慮した授業の組み立ての工夫
 - 2003年4月～現在 英文読解力の向上、履修内容の習得率向上に関する工夫
 - 2006年4月～現在 つづり字体が読みにくい学生への板書の工夫としてパワーポイントを導入する
- 授業評価への対応
 - 学生の授業への反応と照合し、授業の理解、習得度向上工夫の材料としている。
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2005年4月～現在 本格的な長編小説にも進んで取り組めるよう、筋を損なわない抜粋を作成する。
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
 - 2004年Vistas 6号 共通英語カリキュラムと実践について広報誌に紹介
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)
 - 2001年度4月～2004年度3月 2002-2004年度、共通英語教育委員長として2001年度から実施された新共通英語のカリキュラムの実践、運営を引き続き行った。またこのカリキュラムを補完し学生の英語学習を支援する種々のシステムの導入と整備をおこなった。

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編, はじめてのジェンダースタディーズ, 北大路書房, 03.2
- 学術論文(過去5年間)
 - [単著] Little Dorrit における市場社会の主体欲望, 神戸女学院大学論集 第51巻第2号, 67-76, 04.12
 - [単著] ニューゲイト・ノヴェル批判小説『キャサリン』の「成功」と「失敗」: 小説家サッカーはいかにして生まれたか, 神戸女学院大学論集 第52巻第2号, 3-17, 05.12
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
 - Dickens's Journalism: "Well-Authorized Rappings" について, ヴィクトリア朝研究会, 大手前大学, 06.6.24
- その他(2006年度)
 - 書評: 川本静子・松村昌家『ヴィクトリア女王 - ジェンダー・王権・表象』, 女性学評論 第21号, 神戸女学院大学女性学インスティテュート, 07.3
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
 - 本学研究所 総合研究助成金 [代表者], ロレンス書簡集の研究と翻訳, 2003年度, 100万円
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 19世紀小説に関する著作準備中

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)
 - 2002年度、教務副部長、2001年より引き続き、共通英語委員会委員長兼務。共通英語新カリキュラムを実施、新制度の整備、運営。イントラネットによる自習システムの導入、英語テストの複数回実施を開始。並行して表彰制度の導入を行い、新カリキュラムの補助システムを整備。その他英文学科の教務委員。2004年、GP委員。2005年、学科入試委員。同窓会講演会委員。同窓会奨学金委員、その他。

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2005年11月～現在 日本ヴィクトリア朝文化研究学会 運営委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

日本ヴィクトリア朝文化研究学会 運営委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 通訳学

■ 研究課題1 通訳教授法

2 司法通訳

3 裁判における通訳制度

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ジュニアセミナー、対話-音楽から広がる知の世界、通訳の理論と実技(I)、通訳の理論と実技(II)、シニアセミナー、通訳の理論と実技(III-2)、人権論

大学院 通訳理論・教授法II、修論指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2004年度～2006年度 通訳トレーニングに使うソフトの開発
- 2004年度～2006年度 通訳トレーニングを行うマルチメディア教室の設計に参加
- 2005年度～2006年度 イギリス視察で見てきた通訳トレーニング用のソフトの検証と導入

■ 授業評価への対応

- アンケートの評価を元に学生と対話の時間を持って来た。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年度～2006年度 独自の通訳トレーニング教材を録画、録音して作成。
- 2004年度～2006年度 インターネット上のVOA Special Englishを編集して教材として運用。
- 2005年度～2006年度 通訳トレーニング用のソフトシステムを考案。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2006年11月 女学院において、英語高校教員のための模擬授業、および指導を行った(通訳トレーニング法を用いた英語運用能力向上)。
- 2002年～2006年 神戸市英語教員再教育プログラムの講師をつとめる。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2006年1月 4年生のゼミ旅行で卒論集中指導を行う
- 2006年7月、9月 通訳プログラム所属学生のOJTの引率

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 渡辺修・水野真木子・長尾ひろみ, 司法通訳, 松柏社, 04.4
 [共著] 真田是・長尾ひろみ, 社会福祉と通訳論-司法通訳から考える人権, 文理閣, 05.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 法廷通訳人のプロフェッショナリズム, リーガル・エイド研究 第11号, 財団法人法律扶助協会, 05.6

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- "Possibility of Miscarriage of Justice in Melbourne Case", Forum of International Federation for Interpreters (FIT), Magdeburg, Germany, 04.5
 通訳トレーニング法を用いた英語教授法, 日本コミュニケーション学会, 早稲田大学, 04.9
 パブリック・サービス通訳翻訳とは, 日本パブリックサービス通訳翻訳学会基調講演, 西宮市大学交流センター, 05.9
 法廷通訳の現状, 言語政策学会, 京都大学, 05.10
 遠隔同時通訳研究, 日本パブリックサービス通訳翻訳学会, 立命館大学, 06.9.1
 医療通訳の現状とその役割, ヒューマンケア心理学会, 神戸女学院大学, 06.9.15

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

遠隔同時通訳研究

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

英文パンフレット作成に当たる。現代GPホームページのデザイン。Vistasの記事になる。同窓会主催講演会で「通訳」に関して講演する。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年4月～2006年3月 日本司法通訳人協会 会長
2005年9月～現在 日本パブリックサービス通訳翻訳学会 理事

■ 講演(2006年度)

06.8.1 「通訳トレーニング法を用いた英語教育」 神戸市英語教員指導向上研修
06.9.5 「法廷から見た外国人の人権」 桃山大学人権週間講演会
06.11 「司法通訳の問題」 横浜市手話通訳者研究会
07.1 「日本における外国人犯罪の動向」 芦屋カレッジ

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2002年4月～2005年3月 財団法人日本YMCA同盟 常議委員
2002年4月～2005年3月 財団法人大阪YMCA 理事
2002年4月～2005年3月 スペシャルオリンピックス日本 兵庫理事

■ 主な社会活動(過去5年間)

世界YMCA同盟常務委員(ジェンダー委員長)、日本YMCA同盟常議員、財団法人大阪YMCA理事として世界平和、青少年育成に貢献。また、スペシャルオリンピックス日本・兵庫理事として知的障害を持った人たちのスポーツによる自立支援をおこなう。日本パブリックサービス通訳・翻訳学会理事、大阪地方裁判所登録法廷通訳人、大阪弁護士会通訳人研修講師等では日本における外国人のライフラインである司法通訳の発展および研修に従事する。これにより日本における外国人の人権を保障するものである。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 English as a Foreign Language and Intercultural Communication

- 研究課題1 Intercultural communication
 2 Teaching methods in content/language learning + teaching
 3 Culture in mystery novels

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション (I)(グローバル・スタディーズ)、英語発音法、ジュニアセミナー、リーディング、ライティング&ディスカッション: B、講義&ディスカッション (I):グローバル・スタディーズ、シニアセミナー

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- every January/February Every year 4 of us who write the GC105 class source pack of materials update it. Wrote the curriculum and 6 new courses.
- 2004/2005/2006 Go on fieldtrips with students ethnographic museum in Osaka, movie and speakers.
- 2× in 2004/2005/2006 Invited speakers for students of global communication. Invite students to my house for traditional dinner.

■ 授業評価への対応

- Read them and talk a little if the results are not good, but if the results are OK the next semester/year, I take them into consideration.

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- every year ①4 people do the course work for the freshman 105 class. ② Pronunciation class materials. ③ Supplement junior and senior class materials. ④ I do this for ALL my classes. ⑤ Make tapes, get movies and scenes from movies, create activities, exercises.

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- every year, 2 times a year, the teachers of 105 and 205 meet and discuss methods to each other.
- every year, whom the need arises I advise new contract teachers in how to teach their classes and help them. when the need arises, I advise part-time teachers too.

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2002~present A new course global communication was started, this meant writing the curriculum, writing 6 new courses over 4 years, refining the courses. During this time 3 full-time tenured of 4 teaches left the college due to bullying, power harassment, and disgust at the obstacles put in our way. The new program got no support. When teachers left, I had to take over teaching extra koma, help new teachers and we work very well together and have successful program.

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] B.Cooney・K..Cohen・S.Ryan・C.Seton, Global Communication in Japanese Universities: A new direction for English Education, Kobe College Studies Vol.L No.1 (No.146), 3-34, 03.7

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], Japanese University Global Communication Programs in English : A Contrastive Analysis/Feasibility Study, 2002年度, 90万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

I had cancer and have been recovering so far the last one and a half years, I had been writing little, except for class materials and teaching and directing students, I have spent much time testing my own teaching methods, personal research.

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

I do not officially manage anything although I am a member of the English Education Curriculum Committee. I keep in touch with all the non-Japanese part-time and in close, constant touch with the full-time non-Japanese teachers, offering support, encouragement and advice when asked for it.

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

9 times –semester 1, 11 times –semester 2 I teach an alumnae class, for 20 times a year, we use the book "The Best American Short Stories" of 2005, 2006, every year.

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

06.2, 06.6,7 Eiken Ikkyu Level Examiner STEP Society for Testing English Proficiency

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

Hard to say what "Social activities" means. Whose society? I am a regular 1st level judge for the STEP, Eiken test. I am still an examiner for the cambridge-based IELTS tests administered by the British Consulate. I keep in touch with the few other non-Japanese and Japanese intercultural communication teachers, am interviewed for their research, go to meetings and mingle, talk about new ideas.

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 言語学
- 研究課題1 英語理論言語学
- 2 自然言語処理
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(Ⅰ) 英語研究、英語学入門、ジュニアセミナー、英語の構造(Ⅰ)、日英語対照言語学、シニアセミナー、英作文・英文法の基礎

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●使用したテキストは、必要な限り、解釈が難しいところは全て図式化したプリントを作成した。コンピュータも授業中に使用し、解説した。いつも自分の専攻(言語学)へ学生が集まるよう、なるべく各学生に興味を持たせるよう努力している。4年次ゼミ生に対しては、学生が自由に意見を書きこめるホームページ(ブログ)を用意している。

■ 授業評価への対応

●学生の授業評価の意見は、積極的に取り入れている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2002年4月～現在 使用する教科書には出てこない内容(特に3年次の日英語比較研究)を、自分の過去の論文や他の論文などをまとめてプリントを作る。

●2002年4月～現在 4年次ゼミ生には最新言語学理論をコンピュータ上で動かせるように(各自が理論的展開を確認するため)、プリントなどで教材を用意している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] 田島和彦 他4名, Hands off Love : A Narrative Reading of Will's Dark Lady Sonnets, 2003 Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 03.1

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], Dark Lady Sonnetsの複合多面的再構築, 2002年度, 90万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

個人的な問題で研究活動が思うように進んでいない。学会や他大学での講演等の話もあるが、そのような理由で断っている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2006年度英文学科入試問題作成委員長として、新たにディクテーションをオーラルテストの一部として計画し復活させた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

特にラジオ番組を通して英語、言語学のおもしろさを一般に伝えること。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 言語学

- 研究課題1 言語理論の哲学的評価
2 言語学的知識の教育的有用性
3 メディアと言葉の関連性

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(Ⅰ) 英語研究、英語で発信する日本文化、英語学入門、音声学、シニアセミナー、ジュニアセミナー

大学院 言語学特論、修論指導、論文指導、英語学特殊研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 1999年4月～現在 ウェブを利用した授業内容の公開
- 1999年4月～現在 ウェブを利用したテスト(持ち込み可)等の告知
- 2003年度からゼミ生を中心に初め、徐々に拡大して現在に至る 学生とのコミュニケーション回路の確保の努力(メール、電話、SNSなど)

■ 授業評価への対応

- 1999年4月～現在 評価内容のウェブ上での公開及びそれに対するリスポンス
- 1999年4月～現在 欠点等の検討及び可能な限りの修正
- 2002年度～現在 点数集計後、学生に対し、結果の報告とフィードバック(授業中)

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年1月25日 『音韻理論ハンドブック』(英宝社:共著、西原哲雄、那須川訓也 編)
- 2005年5月9日 『日本を伝える! 英語で折り紙』(ナツメ社:山口真著、立石浩一 訳)
- 2006年2月3日 Blackwell Companion to Syntax 1-V. eds. by Martin Everaert and Henk Van Riemsdijk (多重主格構文についての1章を執筆)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2006年8月12日 「非折紙者に英語で折紙を教える際の注意事項「人形」(前川淳作『折紙探偵団98号』)をモチーフにして、日本折紙学会第12回折紙探偵団コンベンション(8月11-13日 御茶の水女子大学)における講演
- 2006年9月9日 “Redundancies of Verbal Instructions in Origami Diagrams” The 4th International Conference on Origami in Science, Mathematics, and Education (9月8-10日, California Institute of Technology)における研究発表
- 2007年3月5日 「IT機器及びネットを使用する授業運営の経験的評価」神戸女学院大学大学研究所総合助成「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」研究分担者(研究代表者:出口弘, 研究発表会における発表)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 1999年4月～現在 ウェブ掲示板を利用した学生の質問等の処理
- 1999年4月～現在 授業中のコンピュータ使用による理解度の促進
- 2006年4月～現在 メールリストを使用したゼミ生との連絡

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 西原哲雄・那須川訓也 編, 音韻理論ハンドブック, 英宝社, 236pp., 04.1
[共著] ◎山口真・ジューン・サカモト・立石浩一, 英語で折り紙A to Z, ナツメ社, 224pp., 04.6
[共著] ◎山口真・立石浩一, 日本を伝える! 英語で折り紙, ナツメ社, 255pp., 05.5
[共著] Martin Everaert・Henk Van Riemsdijk 編, Blackwell Companion to Syntax 1-V., Blackwell Publishers, 5巻本, 主格構文についての1章を, 06.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 文法の一部としての語彙層の是非, 音声研究 第6巻第1号, 34-43, 02.4
[単著] Lexical Strata and Phonological Constraints: The Case of No-NT, KLS22,40 (発表要旨), 02.10
[単著] Are Borrowed Morphemes Always Foreign?, A New Century of Phonology and Phonological Theory: A Festschrift for Professor Shosuke Haraguchi on the Occasion of His Sixtieth Birthday (eds. by Takeru Honma, Masao Okazaki, Toshiyuki Tabata, and Shin-ichi Tanaka), 258-267, 03.10
[単著] Phonological Patterns and Lexical Strata, In: Hajicova, E., Kotesovcova, A., Mirovsky, J. (ed.): Proceedings of CIL17, CD-ROM. Matfyzpress, MFF UK. Prague, 2003. ISBN: 80-86732-21-5, 04.1
[単著] 折り図のネーム表現は説明なのか解説なのか(実況なのか)? Part1, 折紙探偵団 第90号, 11-13, 05.3
[単著] 折り図のネーム表現は説明なのか解説なのか(実況なのか)? Part 2, 折紙探偵団 第91号, 11-13, 05.5

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 非折紙者に英語で折紙を教える際の注意事項「人形」(前川淳作『折紙探偵団98号』)をモチーフにして、日本折紙学会第12回コンベンション, お茶の水女子大学, 06.8.11-13
Redundancies of Verbal Instructions in Origami Diagrams, The 4th International Conference on Origami in Science, Mathematics, and Education, California Institute of Technology, 06.9.8-10
IT機器及びネットを使用する授業運営の経験的評価, 神戸女学院大学大学研究所総合助成「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」研究分担者(研究代表者:出口弘, 研究発表会における発表, 神戸女学院大学, 07.3.5

■ その他(2006年度)

英訳:『西川誠司作品集』, 西川誠司 山口真編 立石浩一英訳, おりがみはうす, 192pp., 03.5
英訳:『折紙図鑑昆虫II』, ロバート・J・ラング 山口真編 立石浩一英訳, おりがみはうす, 196pp., 03.8
英訳:『神谷哲史作品集』, 神谷哲史 山口真編 立石浩一英訳, おりがみはうす, 228pp., 05.1

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

科学研究費補助金(基盤研究(C)) [分担者], 英語母音産出における音響的特徴と調音運動機序の習得に関する研究[研究分担者], 2005年度~2007年度(3年間), 150万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究(研究代表者: 出口弘), 2006年度, 15万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

現在研究の焦点が移りつつあり、一つ一つがまだ端緒の段階である。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

二年生学生主事('03~'04)、情報処理センターKCNET運営委員('03~'04)、教務委員('05~'06)、共通英語教員委員長('05~'06)、他入試業務等。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2003年4月~2006年3月 日本英文学会 編集委員
2003年8月22日~現在 日本折紙学会 評議員
2005年4月~現在 日本音韻論学会 理事
2006年4月~2009年3月 日本英文学科大学 代表委員
2007年4月~現在 日本英語学会 評議員

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 アメリカ文学

- 研究課題1 エミリー・ディキンソンと東洋の文化
2 英米詩における宗教と科学の葛藤
3 エズラ・パウンドとウィリアム・バトラー・イェイツの影響関係

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 リーディング&ディスカッション (I) 英米文学、英米文学テーマ別研究、アメリカの文学と歴史、ジュニアセミナー、シニアセミナー
大学院 米文学演習(詩)、米文学特殊研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2000年度4月～現在 できるだけ、視覚に訴える資料を用意し、教材提示装置でそれらを見せながら講義をしています。
- 2000年度4月～現在 講義物の授業では、前回の講義内容について5つのクイズを毎回の授業の初めに行い、復習を促しています。またそれを出席チェックとし、出席点も成績に反映させています。
- 2001年度～現在 英詩の基礎を教える時には、英語の歌を用いて、わかりやすく説明し、英詩を受け入れやすくしています。

■ 授業評価への対応

- 学生から苦情があれば、それに対して説明するなり、改善に心がけている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2005年2月～2007年3月 An Encyclopedia of Emily Dickinsonを日本語に翻訳しました。2007年5月出版。学生や大学院生のエミリー・ディキンソンの詩の学習に役立つと思われます。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] Emily Dickinson's Marble Disc: A Poetics of Renunciation and Science, Eihosha, 287pp., 02.12
[共著] 原成吉・長畑明利 監修, 記憶の宿る場所 -エズラ・パウンドと20世紀の詩, 思潮社, 139-157, 05.10

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] ディキンソンと自然科学 -特に「死」に関して, ヘンリー・ソロー研究論集 第32号, 92-102, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学研究所 出版助成金 [代表者], Emily Dickinson's Marble Disc : A Poetics of Renunciation and Science, 2002年度, 107万円
本学研究所 国際学会出張補助金 [代表者], イタリア・ラパロにおいての第21回エズラ・パウンド国際学会にて発表, 2005年度, 20万円
私学研修福祉会 [代表者], 学術研究振興資金(国内研修) 「Emily Dickinsonの詩における日本文化の影響」, 2006年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2000年度から2004年度まで、英文学科長を務め、新コースを軌道に乗せ、また学部と大学院に通訳プログラムを作りました。本大学院から博士号を出さねばならないので博士論文を書くようにと言われたため、英文学科長という過酷な労働条件の中で、博士論文を書き、2002年に博士号を取得し、それを出版しました。どんなに忙しくても、研究意欲はありますので、さらに幾つか論文を発表し、2005年には国際学会で口頭発表もしています。それはあらゆる私的生活の犠牲と、忍耐と努力の結果であり、正に言葉通り、身を削ってきたものです。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2000年度から2004年度まで英文学科長として、英文学科の運営に努力し、学科内のトラブルに対処すると同時に、英文学科代表として、学務委員会、入試委員会、人事委員会、将来計画委員会などに出席し、また研究科委員会、入試広報・説明会、めぐみ会などにも出席し、その他あらゆる広報活動に参加し、英文学科だけでなく大学全体のために、手を抜くことなく、惜しみない努力をしました。特筆すべきは、グローバル・コミュニケーション・コースを軌道に乗せ、英文学科に通訳プログラムを、大学院に通訳コースを設けたことです。その結果、英文学科の受験者数の急落を何とか止めることができた、と、自負しています。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

- 1987年4月～ 日本エミリオ・ディキンソン学会 理事
- 1998年4月～ 日本エズラ・パウンド協会 理事
- 2002年4月～2007年3月 日本現代英米詩学会 理事
- 2004年4月～2007年3月 日本アメリカ文学会 関西支部事務局幹事
- 2004年4月～2006年3月 日本エミリオ・ディキンソン学会 副会長
- 2006年4月～ 日本エミリオ・ディキンソン学会 会長

■ 講演(2006年度)

- 06.6.22 神戸シルバー・カレッジ特別授業「フェノロサ・パウンド・イエイツ」

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

- 2005年4月～2007年8月 エミリオ・ディキンソン国際会議 開催運営委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

- 神戸市シルバー・カレッジから依頼され、ボランティアで特別講義を1回行った。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 英文学
- 研究課題1 西洋文学
- 2 比較文化
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 リーディング&ディスカッション(I) 英米文学、英米文学テーマ別研究、シェイクスピアとその時代、ジュニアセミナー、シニアセミナー
- 大学院 論文指導、英文学特殊研究 I

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

● 教員側からの一方的な押し付けではなく、学生が自主的・意欲的に勉学に取り組む環境づくりを行っている。学生間の相互啓発が効を奏し、現在は概ね好評であるが、将来的には人数が多い場合にも同様の効果を上げ、学生間の意見交換をさらに活発化するのが当面の課題である。演習はもとより講義科目においても、教師が一方的に話すのではなく、学生の研究活動を中心に授業を組み立て、その都度補佐とフィードバックするという双方向性を目指した。学生の発表頻度が多い授業の場合は、事前指導を厳しく行い、発表内容の完成度を高めるように努力した。卒論、セミナー・ペーパーの作成など、学生の達成度に格差が出やすい授業では、アイデアシート、プロジェクトシート(段階別)、推敲用シートを作成し、週毎の明確な目標を設定し、学生の負担感を減少することで、ほぼ全員が期日までに一定の水準のものを仕上げられる工夫を行った。

■ 授業評価への対応

● アンケート開始時期より現在までアンケートで改善すべき点があった場合には、次期の授業で改善する努力をした。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] 第三帝国のR・シュトラウス -音楽家の喜劇的闘争, 世界思想社, 272pp., 04.4
- [共著] ©Tom Clayton・Susan Brock・Vicente Fores・Yumiko Yamada 他24名, Shakespeare and the Mediterranean: The Selection of Proceedings of the International Shakespeare Association World Congress, University of Delaware Press 468pp., 04.n.d.
- [共著] ©Kurt Reichenberger・Dario Fernandez-Morena・Yumiko Yamada 他17名, Cervantes y su mundo II, Edition Reichenberger 469pp., 05.n.d.
- [共著] ©Dario Fernandez-Morena・Michael Hanke・Yumiko Yamada 他9名, Cervantes in the English-Speaking World, Edition Reichenberger 220pp., 05.n.d.
- [共著] ©樋口正義・世路蛮太郎・山田由美子 他12名, 『ドン・キホーテ』を読む, 行路社, 263pp., 05.3
- [共著] ©樋口正義・本田誠二・山田由美子 他32名, 『ドン・キホーテ』事典, 行路社, 800pp., 05.12
- [共著] ©Minoru Fujita・Michael Shapiro・Yumiko Yamada 他12名, Transvestism and the Onnagata Traditions in Shakespeare and Kabuki, Global Oriental, 213pp., 06 ND.
- [共著] ©藤田實・入子文子・山田由美子 他7名, 図像のちからと言葉のちから, 大阪大学出版会, 334pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] リヒャルト・シュトラウス、セルバンテス、そしてベン・ジョンソン、イスパニア図書 第5号, 38-49, 02.11
- [単著] MiltonのJonson像 -快樂と徳の和解, 第78会大会Proceedings, 125-27, 06.9

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

司会・講師: シンポジウム「詩人の詩人論」, 日本英文学会第78会大会, 中央大学名古屋キャンパス, 06.5.20-21

■ その他(2006年度)

論評: シュトラウスは時代に背を向けたのか? -《ダフネ》制作の背景, 東京二期会オペラ劇場《ダフネ》プログラム, 東京二期会, 54-57, 07.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], Dark Lady Sonnetsの複合多面的再構築, 2002年度, 90万円
 本学研究所 研究助成金 [代表者], 英文学における『ドン・キホーテ』, 2004年度, 20万円
 日本学術振興会研究費補助金・研究成果公開促進費 [分担者], 2006年度, 150万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

著書7冊(単著1、共著6、分担執筆1)、内4冊が英語によるリフレリー付海外出版(内1冊は巻頭論文)、学会発表8回、内全国大会3回、国際学会4回、論文2篇、講演3回、東京交響楽団ならびに東京二期会演奏プログラム執筆4回。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年度文学研究科長・教務委員、2003年度・2004年度入試委員、英語問題作成委員長、2005年度・2006年度学生主事。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1998年4月～2003年3月 日本シェイクスピア協会 役員
2005年4月～2006年3月 日本英文学会 理事
2006年4月～2008年3月 日本シェイクスピア協会 Editorial Board
2006年4月～2008年3月 本英文学会 関西支部理事

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

プロの楽団・オペラ団の演奏会のプログラムに大学名入りで4回寄稿。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 アメリカ文学

■ 研究課題1 アメリカ思春期文学の文化論的研究

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション (I) 英米文学、自己表現法(B) (小論文 他)、ジェンダーと文学、シニアセミナー、ジュニアセミナー

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度、2004年度、2006年度 E387ab American Literature and Historyの授業では、詳細な授業計画を学生に事前に周知し、readingが苦手な学生のために、毎回の課題読書に対応して、質問事項を用意し、作品を読む手助けをした。また、各自の自由時間に鑑賞すべき映画タイトルを指定し、レポートを提出させて、作品理解の一助とした。シラバスは、毎回、改訂した。
- 2003年度、2004年度、2006年度 E262ab Thematic Study of Literatureの授業では、前・後期で使用するテキストを学生が読了できるように、学生のreadingの手引き書として授業開始日に15頁ほどの質問用紙をまとめて配布した。readingの苦手な学生が1冊を読了でき、卒論研究での読書へと誘導することができた。
- 2003年度、2004年度、2005年度、2006年度 E367ab Gender and Literatureの授業では、ノート作りの苦手な学生を考慮して、毎回の授業の概要を書いた資料を配付し、キーワード、キーコンセプトを確認しながら、授業を進めた。また、一部に映像を使って、作品のイメージを紹介し理解を深めさせた。授業評価を、原書読書の報告、授業中の発表、期末の試験と多様化して行った。

■ 授業評価への対応

- 授業評価の結果を学生に報告し、特に、記述された評価については、学生に紹介した。また、この結果を、次年度の授業にフィードバックして、シラバス改訂を行った。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 文学批評書『Waking Sleeping Beauty』(『ねむり姫がめざめるとき』)を翻訳出版し、E397 Junior SeminarとE497 Senior Seminarで教科書として使用している。理論書の参考文献として、卒業論文にも使用されている。
- 2005年からは、自著『少年たちのアメリカ』(2004年)をE367ab Gender and Literatureの授業に教科書として使用している。思春期文学のジェンダー研究の資料を具体的に学生に提示できるようになった。
- 2006年には、思春期文学の理論書Disturbing the Universe (『宇宙をかきみだす』)を翻訳出版した。E497 Senior Seminarや文学研究科の授業での参考文献としている。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] ◎上領達之 他, 人間理解のコモンセンス, 培風館, 149-163, 02.4
- [共著] ◎M. Sarah Smedman 他, Bridges for the Young: The Fiction of Katherine Paterson, Scarecrow P, 158-171, 03.4
- [共著] ◎Ann Lawson Lucas 他, The Presence of the Past in Children's Literature, Greenwood P, 187-193, 03.9
- [共著] ◎Roderick McGillis, Children's Literature and the Fin de Siecle, Greenwood P, 157-168, 03.11
- [単著] 少年たちのアメリカ-思春期文学の帝国とく男, 阿吡社, 281pp., 04.2
- [共著] ◎吉田純子・阿部美春・細川佑子, 身体で読むファンタジー -フランケンシュタインからもののけ姫まで, 人文書院, 92pp., 04.12
- [共著] Adaptation as a Strategy of Children's Literature, Provddiv UP, 79-89, 05.12
- [共著] ◎Jack Zipes, Oxford Encyclopedia of Children's Literature, Oxford UP, 1875pp., 06.5

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] Tarzan of the Apesにみる男性性の再活性化? 「野性」を母とするサバイバル戦略, 神戸女学院論集 第49巻第2号, 29-45, 02.12
- [単著] Revitalizing Manhood in Tarzan of the Apes: Strategy of Having Mother 'Wilderness', 第10回日韓美学研究会・第2回東方美学会 報告書, 205-211, 03.3
- [単著] Telling a New Narrative of American Adam and His Manhood in I Am the Cheese, Tinker Bell. 49, 60-75, 04.2
- [単著] アメリカ思春期小説にみる男性性の研究, 平成14年度~平成15年度科学研究費補助金(基盤研究C-2)研究成果報告書, 90pp., 04.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- アメリカ思春期文学にみるジェンダーの構築・解体, 第45回日本児童文学学会, 都留文科大学, 06.11.12
- KadohataのWeedflowerと記憶のテクノロジー, 日本イギリス児童文学会・西日本支部研究会, 京都精華大学交流センター, 07.3.10

■ その他(2006年度)

- 訳書:『宇宙をかきみだす』, 吉田純子監訳, 人文書院, 313pp., 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

基盤研究(C)(2) [代表者], アメリカ思春期小説にみる男性性の研究, 2002年度~2003年度(2年間), 260万円
本学研究所 出版助成金 [代表者], 少年たちのアメリカ, 2003年度, 65万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年度-2003年度には、科研費による課題「アメリカ思春期小説にみる男性性の研究」を研究した。その研究成果を国際学会 International Research Society for Children's Literatureで、2003年、2004年に口頭発表した。このテーマの研究課題を単著『少年たちのアメリカ』でまとめて、2004年に出版した。また、思春期文学をポスト構造主義理論で読む研究をさらに進めて、クリステヴァ理論を用いた思春期文学研究の発表を、IRSCのダブリン大会(2005年)と、日本イギリス児童文学学会西日本支部例会(2006年)で行った。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年度-研究所委員、文学研究科委員、オープンキャンパス担当。2003年度~2004年度-3・4年生主事、国際交流センター運営委員、参与会委員、教育トップ100委員(8月まで)、人事選考委員、文学研究科委員、大学院自己評価委員、オープンキャンパス担当。2003年は推薦入試の面接員とAO入試、推薦入試で入学予定者の課題を指導。2005年度~2006年度-英文学科長。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1998年11月~2007年10月 日本イギリス児童文学学会 理事
2003年8月~2005年7月 International Research Society for Children's Literature Board Member
2003年11月~2005年10月 日本イギリス児童文学学会 国際委員
2005年11月~2007年11月 日本イギリス児童文学学会 理事
2006年6月~2009年5月 Children's Literature Association International Board Member

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 国際関係理論、アメリカ外交、東アジアの国際関係

- 研究課題1 同盟理論研究
2 アメリカの東アジア外交
3 東アジア安全保障研究

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 リーディング&ディスカッション (I)(グローバル・スタディーズ)、ジュニアセミナー、講義&ディスカッション(IV): グローバル・スタディーズ、リーディング、ライティング&ディスカッション: H、国際関係の諸問題、シニアセミナー、西宮市大学交流センター科目
大学院 専門領域通訳特論(政治・経済)I

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2005年度～ 教科書のリーディング部分についてQ&Aをつくり、読解能力の向上とともに、内容の理解を促している。また、授業内容をできるだけリーディングと関連付けることで、ヒアリングによる理解能力の向上にも努めている。
- 2005年度～ アクティブ・ラーニングなどを用いて、学生にできるだけ授業中に考え、かつ発言することを促している。
- 2005年度～ 歴史的な事件などをよりよく理解してもらうために、効果的にDVD、ビデオなどの教材、映画の一部分などを厳選して見せるようにしている。

■ 授業評価への対応

- 2006年度 2006年度のE205の授業で用いた教科書がやや難解だという評価であったため、本年度は教科書を変更し、これに伴って新たな授業内容を開発中である。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 毎年度(2005年度～) 英文科のグローバル・コミュニケーションでは英語で授業をすることになっており、担当授業の殆どで毎年、新たな教材の開発、修正またはアクティブ・ラーニングの利用など、常に英語で授業の内容が理解できるように、授業用の教材・資料の開発、改定を行っている。尚、現在進行形の国際問題を授業に取り入れ、学ぶ内容が現実の問題であることを学生に意識してもらうよう努力している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2006年度 ゼミ生の他大学大学院への進学についての相談、指導を行った。分野の異なる進学であったが、勉強の仕方、面接の際の注意事項など、受験のための指導を行い、学生の第一志望の大学院に進学することができた。卒業後、および将来の大学院進学や留学を考えているレベルの高い学生に対して2週間に1回のセミナー形式の授業を行った。高度な英語の論文を読み、議論するというもので、適切な論文の選定に労力を要したが、将来の学生の進学に役立てば幸いである。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 久保文明・赤木完爾編、現代東アジアと日本6 アメリカと東アジア、慶応大学出版、265-286、04.8
[共著] Korean Peninsula and Four Powers in the Post-Cold War Era, Meabong Publishing House, 273-84, 04
[共著] G.W.ブッシュ政権期の日米外交安全保障政策資料集(米国側資料)(総括、外交、朝鮮半島を単独執筆、米軍再編を共同執筆、および全体の編集を担当)、日本国際問題研究所、06

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] The Origin of the Northern Territories Dispute and Triangular Bargaining Dynamics Among the Soviet Union, Japan and the United States, Comparative Culture Vol.8, 21-40, 02.11
[単著] 第二次台湾海峡危機の再検証: 二超大国の狭間の中国外交, 国際政治 第134号, 26-4, 03.11
[単著] The Evolution of Japan's Post-Conflict Contributions: From a Reluctant Player to an Honest Broker?, Peace Forum No.30, 30-46, 04.3
[単著] Strategic Innovation or Strategic Nonsense?: Evaluating the Bush National Security Strategy, The Japanese Journal of American Studies No.15, 257-272, 04.6
[単著] Review Article: the Emerging Pictures of U.S. Foreign Policy Making under the Bush Administration, Comparative Culture Vol.10, 63-76, 04.11
[単著] 日ソ国交回復交渉をめぐる日本の自主外交模索とアメリカの対日戦略, 国際政治 第144号, 130-145, 06.2
[単著] South Korea's Nordpolitik and the Efficacy of Asymmetric Positive Sanctions, Korea Observer Vol.37 No.4, 05-41, 06.12
[単著] Security Dependence and Asymmetric Aggressive Bargaining: North Korea's Policy toward Superpowers, Asian Security Vol.3 No.1, 45-71, 07.1

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- ハブ・スポーク型システムの流動化と東アジアの安全保障, 東アジア政経学会東日本大会, 東海大学, 06.5.11
Unpacking Japanese Anti-militarism, International Political Science Association, 福岡県国際会議場, 06.7.10
ジャービスのシステム理論: 同盟研究と研究方法論に与える示唆, 日本国際政治学界年次大会, あずさアカデミアパーク, 06.10.15
日ソ国交正常化交渉と日本の独自外交, ロシア史学会, 明治大学, 06.10.29

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費若手研究(B) [代表者], 同盟の維持と崩壊に関する論理的・実証的研究: 北東アジアに於ける同盟政策の分析, 2003年度～2004年度, 220万円
日本学術振興会科学研究費若手研究(B) [代表者], 米軍再編・米国朝鮮半島政策が日米・韓米同盟に与える影響と日本の東アジア外交, 2005年度～2006年度(2年間), 150万円
日本国際政治学会 [代表者], 国際交流促進奨学金, 2004年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学務の負担が大きく、思ったように研究を進められない環境の中、それでも過去2年間に毎年論文2本以上の成果を発表できたのは幸いである。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

大学コンソーシアムひょうごへの本学代表としての参加、広報委員、オープン・キャンパス企画委員などを務めてきた。また、教育実習関連での高校訪問を行った。更に隔年毎に入試問題作成に携わっている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2003年4月～2005年3月 宮崎県大学コンソーシウム設立委員会 執行委員会委員
2006年4月～現在 兵庫県大学コンソーシウム国際交流委員会 委員
財団法人日本国際問題研究所 アメリカ外交研究プロジェクト 委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 理論言語学

- 研究課題1 音韻論
2 形態論
3 最適性理論

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(Ⅰ) 英語研究、英作文・英文法の基礎、英語学特殊研究(Ⅰ)、英語学入門、英語の構造(Ⅱ)、ジュニアセミナー、シニアセミナー

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2004年4月～現在 基本的な内容を教えるだけではなく、自分の研究を含めて最近の知見を時々授業で話し、授業内容の先にある展開を学生に伝えるようにした。
- 2004年4月～現在 学生が自分で考え、それを発表する機会を多く取ることにより、学生が授業に参加しているという意識を高めるように心掛けた。
- 2004年4月～現在 学生に理解できているかを時々確認し、履修者全員の理解度を確認しながら授業を進めた。

■ 授業評価への対応

- 2004年4月～現在 板書を丁寧に行うように心掛けた。
- 2004年4月～現在 簡単な部分は速く進み、難しい部分は速度を落とし、めりはりのある授業を心掛けた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 西原哲雄・那須川訓也 編 窪菌晴夫・太田聡・栗栖和孝・上田功・山根典子・田中伸一・豊島庸二・高橋豊美・南篠健助・三間英樹・立石浩一・北原真冬・深澤はるか, 音韻理論ハンドブック, 英宝社, 05.1

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] Affixation-reduplication interactions and morphological opacity in Tagalog, Proceedings of the Western Conference on Linguistics 第12巻, 292-304, 02
- [単著] Danish vowel inventory and Dispersion Theory, 音声研究, 93-103, 02.12
- [単著] Subtractive morphology in Hessian German, 音韻研究 第6巻, 79-88, 03.5
- [単著] Overapplication via self-conjunction, 音韻研究 第7巻, 17-24, 04.2
- [単著] Gradient prosody in Japanese, Journal of East Asian Linguistics 第14巻3号, 175-226, 05
- [単著] Surface optionality from underlying optionality, 音韻研究 第8巻, 41-48, 05.4
- [単著] Morphosyntactic relativization of faithfulness: evidence from Chaha, Proceedings of the Kansai Linguistic Society 第25巻, 66-76, 05.6
- [単著] Deriving anti-faithfulness effects in nonconcatenative morphology, Proceedings of the Linguistics and Phonetics Conference 2002, 523-550, 06
- [単著] Rotuman incomplete phase as morphologically driven word optimization, Proceedings of the Linguistics and Phonetics Conference 2002, 893-911, 06
- [単著] Theoretical implications of mimetic voicing in Japanese, Japanese/Korean Linguistics Vol.14, 51-62, 06
- [単著] Phonological derivedness in Yamato-Japanese voicing phonology, 音韻研究 第9巻, 49-58, 06.4

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- Asymmetric voicing and relativized markedness, The 4th Formal Approaches to Japanese Linguistics Conference, 大阪大学, 06.8.17
- Positional and segmental licensing in Japanese mimetic palatalization, 音韻論フォーラム2006, 早稲田大学, 06.8.24
- Weak derived environment effect, The 37th Annual Meeting of the North East Linguistic Society, University of Illinois, Urbana-Champaign, 06.10.14

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

コンスタントに研究を行ない、学会発表や論文の出版も行って来たが、自分の水準からすると物足りなさを感じる。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

多くの委員会活動やオープンキャンパスなどに携わり、また入試の試験監督や採点をはじめ、入試業務にも多く携わってきた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年4月～2005年3月 日本音声学会 庶務委員
2007年4月～現在 日本音韻論学会 理事

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 翻訳理論、翻訳教育
- 研究課題1 英日翻訳における複文の訳し方
 - 2 翻訳とフレーズ表現
 - 3 翻訳と異文化コミュニケーション

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 通訳翻訳、ジュニアセミナー、シニアセミナー
 - 大学院 翻訳演習 I、修論指導
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2004年4月～2007年3月 教員からの説明が一方的・長くなりすぎないよう、ポイントを絞って、わかりやすさに腐心した。自宅学習の習慣をつけてもらうよう、課題を毎回出した。
 - 2005年4月～2007年3月 授業で毎回、担当の学生に主体的な調査と発表を行わせた。
- 授業評価への対応
 - 2004年4月～2007年3月 学生の要望の記入がある場合、可能な限り取り入れた。
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2006年4月～2007年1月 翻訳の教科書を執筆した。
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
 - 2005年12月 翻訳訓練における「順送りの訳・逆送りの訳」という概念の導入(日本通訳学会翻訳研究分科会第1回研究会)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)
 - 2004年4月～2007年3月 学習や調査におけるインターネットの活用法を学生に指導した。
 - 2006年4月～2007年3月 クラスブログを作成し、自宅学習の補助となるようにした。

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 田邊希久子・光藤京子, Practical Skills for Better Translation (英日英翻訳実践トレーニング), マクミラン・ランゲージハウス, 07.1
- 学術論文(過去5年間)
 - [単著] 大学での翻訳による構文解析指導 - 順送りの訳との関連から, 日本通訳学会翻訳研究分科会論集『翻訳研究への招待』, 07.1
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
 - 翻訳:『リーダーの「伝える力」: 事実・感情・シンボルで語りなさい』, ダイヤモンド社, 199pp., 06.5
 - 翻訳:『ユダの福音書: イエスと“裏切り者”の密約』, 日経ナショナルジオグラフィック, 06.7
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 2003年度より翻訳教育を開始し、理論的な執筆・発表にはあまり時間が割けなかった。2006年度に入り、教育活動をめぐる研究の成果が著書や論文の形で結実した。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)

- 講演(2006年度)

- 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 女性学、移民学、人間安全保障、グローバリゼーション

■ 研究課題1 Gender, Migration, Borders, Globalization

2 Human Security

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション (I)(グローバル・スタディーズ)、講義&ディスカッション (II): グローバル・スタディーズ、英語論文の書き方、リーディング、ライティング&ディスカッション:C、ジュニアセミナー、シニアセミナー、女性学(実践編)、特殊講義(グローバル・スタディーズ)

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- Attendance in "Case Study Method" of Teaching at Harvard University.
- Attendance in theoretical IT and Education courses in Japan and abroad.
- Attendance in workshops on Gender and Women's Rights in Japan and abroad.
- Attendance in workshops on Human Rights and Migration in Japan and abroad.
- Attendance in workshop on Globalization (UN), etc.
- Used photography as a Fieldwork Methods class approach in Japan and abroad.
- Took students to conferences and workshops in Japan and abroad.
- Took students to museums and out-of-school activities in Japan and abroad.
- Introduced "Case Study Method" for 3rd year students in Japan and abroad.

■ 授業評価への対応

- Results of Comments and Evaluations are discussed in all classes.
- Comments and evaluations are incorporated in new syllabus for the next term or schoolyear.

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- Every new schoolyear Sourcepack Material for E-105 (developed together with other Global Communication Section teachers) since 2003 to present.
- 2004 to Present, Guide to Fieldwork Research incorporating Photography was produced for the Fieldwork Methods Class.
- 2004 to Present, Guide to Family History Research was produced for the Advanced Writing Class.

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2005.8.31 "Case Study Method" and its use in College-level teaching", Workshop conducted in the Philippines (2006)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- I start from the students' point of view and I continuously learn from other teachers in other countries about their method of teaching, approach, perspective, content, pacing and teaching materials. Yearly attendance in education and teaching related courses in Japan and abroad.

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] ◎Neuman, Trafficking and Smuggling of Human Beings to Japan, United Nations, 600, 02.7
- [共著] ◎Tsuda・Yu, エキスプレスフィリピン語, 白水社 (CD-ROM), 03
- [共著] 表と裏, Japan Views Trafficking, Asia Women's Fund, 04
- [共著] "Country Report on Japan" in Country Reports on Northeast Asia, UNESCO, 05.12
- [共著] Conflicting Views on Human Rights, Human Security and National Security in Japan, Mu'tah University, 06.9

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] Human Security and the Issue of Trafficking: Where Does Japan Stand?, 女性学評論 第19号, 05.3
- [単著] Notes on the 50th Year of the Normalization of Japanese-Philippine Diplomatic Relations and the Postwar Reparations Agreement, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 06.12
- [単著] Fieldwork Notes: On Recording and Writing the History of People at the Fringe of Japanese Society, 女性学評論 第21号, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- Conflicting Views on Human Rights, Human Security and National Security in Japan, Conference on Security, Human Rights and Democracy, Amman, Jordan, 06.7.11
- Japan as No.1: The Migration and Trafficking of Women and Children, Institute of Women's Studies Special Seminar, University of the Philippines, 06.8.1
- Exchanging Places: Japanese Women Migrating to the United States and the Filipino Women Migrating to Japan, Assumption College, Sociology Dept., 06.8.2
- On the 50th Anniversary of the Formalization of Japan-Philippine Diplomatic Ties: Some Recurring Issues and Problems, Inaugural Lecture, Graduate School of Migration Studies, Miriam College, Philippines, 06.8.2
- On Being a Woman without a Space, Society for International Families, Fukushima, 06.8.15
- Japan-Philippine Relations in the 21st Century, Japan-Philippine Forum, Kyoto, 06.11.4

■ その他(2006年度)

Photo Exhibit : Society is Photography, Photography is Society-1, Joint Photo Exhibit, 神戸女学院大学, 06.6
Photo Exhibit : Society is Photography, Photography is Society-2, Joint Photo Exhibit, 神戸女学院大学, 06.6
Photo-Essay Exhibit : From Leyte to Kobe: The Life and Times of a Soldier from Nowhere, Photo-Essay Exhibit, Campus Plaza, Kyoto, 06.11

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 研究助成金 [代表者], The Impact of Anti-Terrorism Policies on Women and Children: A Case Study of Southern Philippines, 2003年度, 20万円
[代表者], Trafficking in Japan, 2005年度, Mu'tah University (Jordan)
[分担者], Conference Grant, 2006年度, \$1000
[代表者], Women at the Fringe of Japanese Society, 2006年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

My research is international, and intended to help policy and law formulation, and people.

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

I work VERY hard in whatever administrative work I'm given even if there is little appreciation for foreign teachers within the English Department and entire college.

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1996-Present Association for Asian Studies /Member
1996-Present Society for Japanese Studies at Harvard /Member
1998-Present Int. Oral History Association /Member
2003-Present Asian Studies Conference Japan /Member
2006-Present Asia Pacific Migration Association /Publication Reviewer
2006.11-Present Philippine Studies Osaka Group /Convenor

■ 講演(2006年度)

06.8.1 Japan as No.1: The Migration and Trafficking of Women and Children
06.8.2 Some Recurring Issues and Problems on Japan-Phil. Diplomatic Ties
06.8.3 Exchanging Places : Japanese Women in the US, Asian Women in Japan
06.8.16 Fukushima, Workshop for International Families

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

2004年～現在 International HURIGHTS Award

■ 学外機関委員等(過去5年間)

1999年～現在 Women in Development /Member
2000年～現在 Bridging Women /Regional Chair
2000年～現在 CTIC・JFY Educational Program /Trustee
2002年～現在 Mikuni Women's Group /Chair
2002年～現在 Amnesty International /Member
2004年～現在 Japan National Coalition Against Trafficking in Persons /Founding Member
2005年～現在 Friends of the Assumption /Charter Member

■ 主な社会活動(過去5年間)

I am very active in social issues and church-related activities.

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

International cooperation award Presidential Award on Academic Cooperation (Jordan)

- 専門分野 イギリス・ロマン派文学
- 研究課題1 S.T.Coleridgeとプラトニズム、ドイツ観念論との関係
- 2 英文学と神話、聖書
- 3 イギリス・ロマン派文学と環境文学・エコロジー

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション (I) 英米文学、英米文学テーマ別研究、英語の構造 (I)、ジュニアセミナー、シニアセミナー、英語ワークショップ、神話と文学、聖書と文学

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2003年度(育児休業明け)～現在 専門が英文学であるため、3年生向け半期担当科目『文学と聖書』を継続して担当しているが、それ以外のクラスでも、ひろく文学作品にみられるキリスト教精神にふれようと努めている。
- 特に2005年度～現在 3・4年生のゼミでは、出来るだけゼミ生の個人発表の場の機会を増やすようにこころがけ、そのために課外時間に指導するときは設定した。また論文執筆のための図書館での外部検索を用いた資料の見つけかた等、実際に図書館で指導するときは設けている。
- 特に2005年度～現在 IT活用の工夫として、少人数クラスではメーリングリストを作って意見の交換などをしたり、e-learningとしてのALC利用を奨励、実際に特定のクラスではデモンストレーションを行ったりした。

■ 授業評価への対応

- 2003年度(育児休業明け)～現在 参考資料が多くあったほうが授業評価も良く、また黒板の板書の見にくさを解消するために、全ての授業でのプリント作成、配布に心がけた。同上参考文献名を知らせるだけよりも、実際に抜粋引用を配布し、紹介説明するようにしている。図書館の指定参考書コーナーにも適宜、選本するように心がけている。また、AVライブラリーを活用し、関連ビデオ、DVDをできるだけ授業中に部分的に観よう工夫している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2006.2 監修『今日の世界と文学の対話』(大阪教育図書)は大学テキストとして共同出版。実際、これをテキストに採用し、2006年度4年生の通年科目を開講した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] S.T.コールリッジと「美」の体験:アニー・ディラードとの比較, 神戸女学院大学論集 第53巻第3号, 3-21, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

コールリッジが追求した美, 第32回イギリス・ロマン派学会全国大会, 鳥取大学, 06.9.23-24

■ その他(2006年度)

翻訳監修:『今日の世界と文学の対話』, 平井雅子・和気節子 監修 神戸女学院大学英文学翻訳チーム, 大阪教育図書, 06.2
書評: 高山信雄著『コールリッジにおける想像力の体系』, イギリスロマン派研究 31号, イギリスロマン派学会, 97-100, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], ロレンス書簡集の研究と翻訳, 2003年度, 100万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 神戸女学院大学における『キャリア教育』のあり方に関する調査研究, 2004年度, 68万8000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2001年度に博士号を取得し、その際の博士論文の課題をさらに深め、広げて研究を続け、出版準備中である。全国的な学会から、発表依頼や書評依頼などがくるようになってきたことも、研究の励みとなっている。『イギリス哲学・思想事典』(2007秋出版予定)への執筆分担も視野を広げる良い経験となった。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

同窓会奨学金委員。学院カレンダー委員会委員としての英文キャプションを担当。KCC/KC インターンシップ学内担当者としてキャリアセンターと協力し、KCC側担当者の方とのメール連絡や面談のときをもった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 English as a Second Language

- 研究課題1 Test Evaluation
2 Student Motivation
3 Learner Autonomy

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(Ⅰ)(グローバル・スタディーズ)、英語発音法、英語論文の書き方、自己表現法(A)(スピーチ 他)、英語コミュニケーション、英語ワークショップ

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●Of course I'm always trying to improve my teaching skills. I never expect each class to go the way I've planned it. I am working on adjusting my lesson plans to suit the needs of each student. I've also challenged different methods to encourage motivating the students to participate actively and focus on their studies.

■ 授業評価への対応

●I always change ways of teaching to match the students learning styles. Each class has a different atmosphere and dynamics and I try to accommodate the student's needs as best as I can.

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●I tried to explain the lessons as clearly as I could so the students had more of an understanding of what is being said. I also tried to make the learning environment more comfortable for them by doing interactive exercises. Yes, I supplement the textbook with materials I've developed in a creative way. I use games, roleplays, interactive activities, presentations and community building as a means to supplement the main focus of what is being taught in class.

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- "Speak up for Yourself!": Thai TESOL International Conference, Khon Kaen, Thailand, January 29, 2004
- "A Promise to Me, Myself and I: Contract Learning", KOTESOL Conference, Seoul, Korea, October 28, 2006

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●I try to make my classes as communicative as possible. I make it more student-centered so they can participate actively. I also encourage students to be responsible learners instead of depending too much on the teacher, and that taking risks is part of language learning.

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] Focus on the Students: Motivation Through Self-Evaluation, Kwansai Gakuin University Annual Research Report of the Language Center, 31-52, 03.3
- [共著] M.C.Kim・R.E.Miller, Computers in the EFL Writing Class: Hindrance or Help?, Kobe College Studies, Vol. LII, No.3, 25-33, 25-33, 06.3
- [単著] Life is Opportunity, KCIWS No.42 (News Letter), 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)

- 学外機関委員等(過去5年間)

- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 The interaction of phonetics and phonology
- 研究課題1 Research on native language of Mexico and the sounds of those languages
- 2 Research on the role of "creaky voice" in Upper Mecaxa Totonac to describe location in the language
- 3

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 英語発音法、世界の英語、英語論文の書き方 (A)、リーディング、ライティング&ディスカッション: G、自己表現法 (B) (ビジネス文書 他)、英語コミュニケーション
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - Year 2006 Concerted efforts through private research to refine teaching methods. Specifically with regard to Reading, Writing, and Discussion, and Effective Writing. Effort was taken to review various text books and articles in order to generate a syllabus.
- 授業評価への対応
 - Year 2006 I revised my syllabi and made adjustments to personal teaching style.
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - Spring 2006 On a weekly basis I attempt to use realia in my courses in order to ground more technical or theoretical concepts within the real English speaking world. I have employed magazine articles, newspaper articles, television shows, movie clips and political speeches.
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)
 - The transition to the Japanese language student from the American language student has taken some adjustment. The inductive teaching method, which I have been trained in, and prefer to practice, is sometimes difficult in the Japanese University context. This was especially difficult in the first semester of work here at KC. I have continued to adjust my previous teaching methods in order to encourage discussion among my students. Also calling on students by name rather than wait for voluntary participation has been useful in garnering a wider perspective on issues.

研究活動

- 著書(過去5年間)
- 学術論文(過去5年間)
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)
 - I had intended to complete my doctoral dissertation this semester, however political difficulties at the University of Alberta as well as family issues, specifically the birth of my first son, have delayed my work on my dissertation.

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 Language Education
- 研究課題1 Comparative Television Studies
- 2 New Media
- 3 Leadership Education

教育活動

■ 担当授業科目

大学 リーディング&ディスカッション(Ⅰ)(グローバル・スタディーズ)、英語論文の書き方(A)、特殊講義(グローバル・スタディーズ)、リーディング、リーディング&ディスカッション: A、講義&ディスカッション(Ⅲ): グローバル・スタディーズ、ジュニアセミナー、シニアセミナー

大学院

- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] Try To See It My Way; The Role of Values in the English Language Classroom of Japanese University, 立命館言語文化研究 16巻4号, 281-296, 05.3

[単著] Can the Language Teacher Be a Moral Educator?, JALT(全国語学教育学会)2004年Conference Proceeding, 926-928, 05.8

[単著] Discussion in the Classroom: Rationale, Issues and Implementation, 立命館言語文化研究 17巻4号, 291-308, 06.3

[単著] A Discourse Community Approach to Film Studies Education for Language Students, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 75-88, 06.12

- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 教育学、人間形成論
- 研究課題1 アドラー心理学による現代の人間形成論
- 2 現代における学校教育
- 3 クリシュナムルティの思想と教育

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、教育原理、総合演習、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、教育実習 I / 教育実習 II、文献ゼミ、人間形成論、社会科・地理歴史科教育法

大学院 国際文化論(II)、修論指導、論文指導、比較文化学会合同研究A

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2004年度～現在 「人間形成論」の授業では、必要に応じてビデオ教材やプリント教材を用いて、授業内容の理解を促した。また、小グループに分けて議論させ、相互の意見交換の場を設けるようにした。毎回ミニレポートを提出させ、次の授業に反映するようにした。

●2004年度～現在 教職科目「総合演習」では、全国の「総合的な学習の時間」の実態を調べたり、海外の「総合学習」の様子を調べるために、リサーチルームで授業を行い、グループによる研究と発表とを行った。

●2005年度～現在 「基礎ゼミ」「文献ゼミ」の授業では、クラスを少人数のグループに分けて、グループ内での発表、討論の機会を多くもった。これにより、学生たちのより積極的な授業参加を促すことができた。

■ 授業評価への対応

●「人間形成論」の2006年度の授業は、朝1時限目であった。「遅刻した学生の教室への入室は、授業の開始後15分まで」と決めていた。これに対して、「入室を自由にしてほしい」という要望が1名あったが、口頭にて「自由にすると授業の妨げになるので」と、了解を得た。上記以外の授業評価については、特に対応を必要とするものはなかった。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●私学経営研究会「私学経営」No.333号(2002年11月発行)に、「神戸女学院大学におけるFDの実践と今後の課題」と題して報告した。(14-20頁)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●2004年度より、希望するゼミ生を公立小学校にボランティアとして派遣している。ボランティアの内容は、主として授業の補助である。小学校および学生の双方にとって得るところが大きい。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 山崎高哉編 他24名, 応答する教育哲学, ナカニシヤ出版, 141-159, 03.3

[共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎 253pp., 74-92, 05.1

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] 新教育課程と教師のあり方 -アドラー心理学を手がかりに-, 関西教育学会紀要26号, 184-188, 02.6

[単著] 「学力の崩壊」論を検証する -初等・中等教育を中心に-, 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 215-219, 03.7

[単著] 学習離れの教育的意味, 神戸女学院大学論集 第50巻第2号, 87-95, 03.12

[単著] 学力論の教育学的意味, 関西教育学会紀要 第28号, 221-225, 04.6

[単著] アドラー心理学による乳児の発達と教育, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 87-106, 06.7

[単著] アドラー心理学による幼児のしつけ, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 129-148, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

アドラー心理学の理論と実践を、現代の学校教育および人間形成論にどのように活かすことができるかについて、継続的に研究を続けている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年度は入試部長。2003年度から2006年度は総合文化学科長。2005年度から神戸女学院評議員(現在まで)。2006年度からは「教職課程委員会」の委員長を兼ねる。入試部長と学科長はともに非常に多忙な役職であるが、関係者の協力を得て、なんとか職務を果たすことができた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2000年4月～現在 関西教育学会 理事

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2000年度より関西教育学会の理事を務める。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 美学、芸術学
- 研究課題1 18世紀イギリスおよびヨーロッパ美学史
- 2 近代日本美学史
- 3 画像による人文学の可能性

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、美学(Ⅰ)
- 大学院 比較思想、修論指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 1995年4月～現在 ゼミ以外の講義形式の授業では、授業の最後に出席カードを配り、講義の感想や質問を自由に書かせ、次回の講義の最初に質問などに答えて、前回からの理解の連続性を保つようになっている。
- 1995年4月～現在 「美学」講義では、受講生の作品鑑賞力を養うために、展覧会ないし美術館の展示作品について画像をプロジェクターからスクリーンに映して解説する時間を約20分ほど毎回設けている。
- 1995年4月～現在 ゼミでは、どのゼミでも導入とブレイン・ストーミングのために、毎回担当者をあらかじめ決めてトピックの提供をさせて議論させている。

■ 授業評価への対応

- 2003年度4月～現在 とくに板書に対する苦情が目につくので、大きくわかりやすい字で書くよう心がけている。
- 2003年度4月～現在 「美学」講義では、とくに内容的に難しい論点の場合、進捗は無視して学生の質問を受け、答えることを授業時に行うこともある。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2000年度4月～現在 講義科目では、市販の教科書的なものは使用せず、自前のプリントを必ず用意して、講義内容の概略を示し、また学期末には、最初のプリントに書かれたこと以外の、授業時に取り上げた論点や命題を整理してプリントを作成、配布している。
- 2002年 講義用教科書として『妹の力』を出版。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2004年2月7日 「鑑賞ワーク・シートの功と罪」国際シンポジウム「鑑賞教育はいかにあるべきか」パネリスト(招待)、主催：日本美術教育学会・立命館大学21世紀COE・京都アートエンターテインメント創成研究、於：京都国立近代美術館
- "How to cultivate a good eye for good art", 13th Conference of Korean-Japanese Aesthetic Studies Society at Yeungnam University (Gyongsan, Korea)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 1990年～現在 国際学会として日韓美学研究会、東方美学会を韓国および中国の友人たちと設立、院生を中心に研究発表と学生同士の交流の場をつくっている。前者はすでに13回、後者は4回開いている。
- 1990年～現在 「神戸女学院美学研究会」を主宰、年数回の講師を招いた講演会や若手の研究者による研究発表会、研究合宿を主宰。
- 2006年9月25日～現在 美学に関心のあるゼミ生、院生、英文学生、院生、および若手研究者とともに「美学勉強会」を主宰。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] The Great Book of Aesthetics: Proceedings of the 15th International Congress of Aesthetics, Japan 2001 (CD-ROM), the Organizing Committee at Institute of Aesthetics and Philosophy of Art, Faculty of Letters, The University of Tokyo, 03
- [共著] 島根県立大学西周研究会 編, 西周と日本の近代, ペリカン社 490pp., 05.5
- [共著] 大庭健・川本隆史 他編, 現代倫理学事典, 弘文堂, 06.1
- [共著] 曾繁仁, 人与自然: 当代生態文明視野中的美学与文学, 南人民出版社, 河南人民出版社 500pp., 06.7

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 宮沢賢治の〈場〉-献身と野心の原点としての「心象」-, 神戸女学院大学論集 第49巻第1号, 53-68, 02.7
- [単著] Knowledge from outside; knowledge for 'divertissement' and Beyond, Diogene50(1), 97-104, 03.2
- [単著] 東洋思想の伝統からの美学的可能性, 第10回日韓美学研究会・第2回東方美学会 報告書, 65-75, 03.3
- [単著] 実存範疇としての「戯作的」-ある二葉亭四迷論-, 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 70-83, 03.7
- [単著] 津和野からの遊学者 -西周・森鷗外・亀井茲明-, 美術フォーラム21 第9号, 49-55, 04.1
- [単著] 柳田国男の見た森, ぐりーん・もあ 24, 22-23, 04.1
- [単著] QUO VADIS, DOMINA? -フェミニズム美術史・ジェンダー批評についての覚書-, 女性学評論 第18号, 101-115, 04.3
- [単著] 志賀重昂『日本風景論』にみる日本的崇高の可能性 -「跌宕」・山岳景仰と国粹-, 文芸学研究 第8号, 1-25, 04.3
- [単著] La foret vue par Yanagita Kunio: sa contribution a une idee contemporaine de l'ecologie, Diogene, no.207, Juillet-Septembre 2004, Diogene, 207, 15-19, 04.9
- [単著] Toward Aesthetics to get rid of "anything-goes" society and art, 第3回東方美学会 国際学術大会 報告書, 33-39, 04.12
- [単著] How to cultivate a good eye for good art 第13回日韓美学研究会報告書, 嶺南大学校美術大学, 7-13, 06.7.26
- [単著] 国文学からの美学(1) -国学から岡崎義恵「日本文芸学」の生成まで-, 文芸学研究 第11号, 1-16, 07.3.30

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

A Suggestion toward the Visual-oriented Humanities: In Case of Japanese Aesthetics of Painting, The 4th Conference of New Directions in the Humanities, Tunis(Univ. of Carthage), Tunisia, 06.7.4

A Comment on the Aesthetics of Bushido, 第4回東方美学会, 南開大学(天津), 06.10.4

国文学と美学:国文学からの美学(その2) -岡崎義恵の業績を中心に-, 第29回文芸学研究会, 大阪大学, 06.12.23

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(2) [代表者], 近代日本美学史における亀井?明の功績, 2002年度~2003年度(2年間), 250万円

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], リベラル・アーツの自己解析的再検討, 2002年度, 90万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 東洋思想の伝統からの美学的可能性, 2002年度, 20万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 日本の近代化と神戸女学院, 2003年度, 85万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], パワー・ポリティックスに抗する人文学的理念の可能性, 2003年度, 20万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 近代日本美学史におけるドイツ学的契機, 2004年度, 20万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 国際的なコラボレーションによるGendlin Archive作成のための重要文献デジタル化の試み, 2005年度, 125万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 神戸女学院と芸術, 2005年度, 125万円

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) [代表者], 国文学からの美学 -岡崎義恵の美学的日本文芸学の構想を中心に-, 2006年度, 140万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内での公務、学会での役員、海外での研究報告、等々による時間的制限の中で、相当程度時間をやりくりして、研究者としては必要最小限以上の活動成果は出していると思われる。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2006年度については皆無ながら、それ以前では、高校訪問(芦屋南高校、千里高校)、出張授業(宝塚北高校)、オープン・キャンパスの際の模擬授業も行なった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2000年4月~現在 日本イギリス哲学会 理事

2005年4月~現在 日本18世紀学会 監査

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

UNESCOの「21世紀における人類の思想」委員として、招聘される会議にパネリスト、コンサルタントとして参加している。また出席ができない場合でも、論文等を寄稿している。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 キリスト教学、旧約聖書学
- 研究課題1 旧約聖書詩編の編纂史
 - 2 ヘレニズム期ユダヤ教の教派
 - 3 ユダヤにおける古代オリエントおよびギリシアからの思想的影響

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、宗教史特講、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、キリスト教概説、キリスト教学(旧約学)、女性学(実践編)、文献ゼミ、聖書学(Ⅱ)、初期神戸女学院

大学院 キリスト教学

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●ハンドアウト・予稿の配布は2002年度～現在。視聴覚教材は2004年度から現在。すべての講義でハンドアウトを作成し、配布。そのプリントについては、『おちよぼ口』第72号, p.5 で好意的に評価されている。1年次配当のキリスト教概説では、ハンドアウトの他に予稿(次回講義内容の概要=約2500～2600字)を配布し、講義への理解を深めるよう工夫した。その講義のためには、パワーポイントによる視聴覚教材も製作した。

■ 授業評価への対応

●2002年度～現在 意見に対しては、真摯に受け止め、改めるべき点は改めている。変えられない点については、講義時間内に説明し、理解を求めている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●ハンドアウト・予稿の配布は2002年度～現在。視聴覚教材は2004年度～現在。すべての講義でハンドアウトを作成し、配布。1年次配当のキリスト教概説では、ハンドアウトの他に予稿(次回講義内容の概要=約2500～2600字)を配布。パワーポイントによる、視聴覚教材を製作した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●学生の理解度の確認や要望を聞くため、オフィスアワーなど講義以外の時間帯に声かけを心がけ、それらを講義用レジュメや予稿に反映させた。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 大貫隆 他4名 編, 岩波キリスト教辞典, 岩波書店, 1420pp., 02.6
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈り物, 冬弓舎, 306+11pp., 02.12
- [共著] 日本オリエント学会 編, 古代オリエント事典, 岩波書店, 1004pp., 04.1
- [共著] 木田献一 他1名 編, 新共同訳 聖書事典, 日本基督教団出版局, 733pp., 04.3
- [共著] 宮谷宣史 編, 悪の意味 -キリスト教の視点から-, 新教出版社, 04.6
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎, 05.1
- [共著] 中道基 編, イエスの誕生 -アドヴェントからクリスマスへ-, キリスト新聞社, 05.1
- [単著] 旧約詩編の文献学的研究 -第1ダビデ詩編を中心として-, 新教出版社, 05.2
- [共著] 中村信博 他2名 編, 聖書 語りの風景 -創世記とマタイ福音書をひらいて-, キリスト新聞社, 292pp., 06.1
- [共著] 池田裕 他3名 編, 新版 総説旧約聖書, 日本基督教団出版局, 565pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] シオンに想いをよせる者 -詩編3-14編と1-2編, 神戸女学院大学論集 第49巻第1号, 69-86, 02.7
- [単著] バッハ『マタイ受難曲』は何を語るか?, ムネーモシユネー 第4号, 33-40, 02.11
- [単著] 教育理念の再検討 -リベラルアーツを中心に-, 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 230-236, 03.7
- [単著] 『脱神殿』の思想的射程 -編集体としての第1ダビデ詩編, 神戸女学院大学論集 第50巻第2号, 51-62, 03.12
- [単著] 詩編33編の編集と主題 -4QPsaと4QPsqを参照して-, 旧約学研究 第1号, 24-40, 04.11
- [単著] オラトリオ《メサイア》に聴く『復活』, 信徒の友 2005年3月号, 26-31, 05.3
- [単著] コヘレト書の成立年代について, 神戸女学院大学論集 第52巻第2号, 91-101, 05.12
- [単著] ヘブライズム・キリスト教・明治学院の思想, Socially 第14号, 7-10, 06.3
- [単著] マアロート歌集(詩120-134編)と旧約詩編の文脈 -序説-, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 1-17, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

マアロート詩編(詩120-134編)と旧約詩編の文脈, 日本聖書学研究所2006年6月例会, 富坂キリスト教センター, 06.6.19

■ その他(2006年度)

書籍紹介: H.クリングバーグ『人生があなたを待っている』みすず書房 2006年, 信徒の友 2006年10月号, 日本基督教団出版局 91, 06.10

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 日本の近代化と神戸女学院, 2003年度, 85万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

力量以上に学内業務を担当する限られた時間内で、応分の成果を出せたと考える。筆者の研究領域は、短期間に結果を出す分野ではない。2006年2月に出版した『旧約詩編の文献学的研究』は過去10年ほど続けた研究の集成であった。そして2006年12月、『神戸女学院大学論集』第53巻第2号に発表した論文は、前著を土台とし、今後10年ほどの課題を展望するものである。したがって過去5年間は、筆者の40歳代から50歳代の研究を橋渡しする期間と性格づけられよう。今後も、諸研究の動向を見据えながら、時代を超えてわれわれの精神文化に貢献できる研究を志したい。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

過去5年間は間断なく役職を担当し、本学の運営・情宣に積極的に参与したと考える。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年4月～、2006年10月～2008年10月 日本基督教学会 理事
2002年4月～、2006年10月～2008年10月 日本基督教学会学会誌『日本の神学』編集委員
2002年4月～2003年10月、2004年10月～2006年10月 日本旧約学会 委員

■ 講演(2006年度)

①06.7.4、②06.9.19、③07.2.5「創造物語を考える」2006年度キリスト教セミナー(KCめぐみ会) ①『「はじめに」の意味』、②「六日間の創造」、③「人の創造と第七日目」
06.7.24「会衆派教会・アメリカンボード・神戸女学院」2006年度神戸女学院リトリート
06.9.8「旧約詩編はなぜ編まれたか」関西聖書塾
06.11.19「かけがいのない今を生きるために」日本基督教団各務原教会研修会
06.11.26「たえなる道しるべの-信仰は音楽に導かれ」日本基督教団豊中教会研修会
07.3.5「古い酒を新しい革袋に? -旧約詩編編纂の事情」兵庫同信会

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

1997年6月～現在 キリスト教学校教育同盟 教育研究委員会中央委員
2003年5月～現在 学校法人頌栄保育学院 評議員

■ 主な社会活動(過去5年間)

学校法人頌栄保育学院評議員、神戸YMCA専門委員、キリスト教学校教育同盟、諸教会における説教・講演等、キリスト教関係団体を中心に、積極的に講演担当や組織運営に携わった。本学教員として、応分の責務を果たしたと考える。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 日本近代文学、ジェンダー研究
- 研究課題1 語りにおける身体性
- 2 ジェンダーと日本近代の文化規範
- 3 夏目漱石研究

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 基礎ゼミ、日本文化・文学入門、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、日本文学概論、日本近現代文学研究、女性学(実践編)、文献ゼミ
- 大学院 日本文学演習、修論指導、比較文化学合同研究A

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度～2006年度 学生の意見や質問を徴収するために、各回の授業で、出席用紙を配布、回収し、次回授業でフィードバックしている。
- 2003年度～2006年度 下級生対象のゼミでは、レポートの書き方を学ぶため、独自に「資料の集め方」、「参考文献の書き方」、「引用のし方」、「発表のし方」等のマニュアルを作成している。
- 2003年度～2006年度 日本文学の授業において、映像表象との比較を組み入れ、多角的に文学を考えることを目指す授業を試みている。具体的には、映画の分析をとりいれ、学生には、各期6本の映画を鑑賞・分析させている。
- 2003年度～2006年度 履修生が100名をこえる日本文学入門の授業において、学生の予習を確認するために、ブラック・ボードを活用し、オンラインでの小テストを課している。

■ 授業評価への対応

- 各授業で、授業評価の報告をしている。講義形式よりも、学生のディスカッションを組み入れた授業の方が、満足度が高い結果が出る傾向があるので、できるだけ、ディスカッションを組み入れるようにしている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2006年 学内教員向け研修会の企画グループに参加し、「教養とは何か」について、インタビューおよびその分析を行い、研修当日には、グループを代表して報告者を務めた。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] ◎飯田祐子・関礼子・佐光美穂・中島美幸・孫知延・中山清美・米村みゆき、『青鞥』という場 文学・ジェンダー・〈新しい女〉, 森話社, 53-98, 02.4
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの, 冬弓社, 16-121, 02.12
- [共著] 中山昭彦・島村輝・飯田祐子・高橋修・吉田司雄 編 他10名, 文学の闇/近代の「沈黙」文学年報1, 世織書房, 3-26, 03.1
- [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編, はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房, 63-81, 03.2
- [共著] 小森陽一・成田龍一 編 木下直之・紅野謙介・大谷正・荒川章二・土屋好古・坪井秀人・原田敬一・大江志乃夫 他9名, 日露戦争スタディーズ, 紀伊国屋書店, 133-150, 04.2
- [共著] ◎沼野充義・桑野隆・大浦康介・鍛冶哲朗 他8名, 岩波講座文学 別巻 文学理論, 岩波書店, 231-250, 04.5
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓社, 01-217, 05.1
- [共著] 中山昭彦・島村輝・飯田祐子・高橋修・吉田司雄 編 他10名, ポストコロナルの地平 文学年報2, 世織書房, 165-184, 05.8
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 女子教育、再考, 冬弓社, 06.7
- [共著] 飯田祐子・日高佳紀・日比嘉隆 編 他9名, 文学で考える〈日本〉とはなにか, 双文社出版, 07.4

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 朱を奪う-読者となること・読者へ書くこと, 日本文学 52(1), 40-50, 03.1
- [単著] 物語としての家族, 現代思想 32(10), 146-157, 04.9
- [単著] 清張の、女と因果とリアリティ, 現代思想 33(3), 161-169, 05.3
- [単著] 『「明暗」の「愛」に関するいくつかの疑問, 漱石研究 18, 107-118, 05.11
- [単著] 田辺聖子とフェミニズム-重なりと違いと, 国文学解釈と鑑賞別冊, 172-179, 06.7
- [単著] 語り手を眺める『己』における視覚的な快楽, 国文学解釈と鑑賞 71(8), 175-179, 06.8

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

共著書や雑誌に年に数本の論文を発表してきており、継続的に研究活動を続けてきている。引用されることもあるので、質的にも一定の水準を維持することができていると思う。また、学会の展望などへの執筆も度々行っており、研究状況や学会の活動状況について、積極的に意見を提示してきた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

大学の委員だけでなく、学科内で構成された委員なども積極的につとめてきた。出版講演企画委員として、講演会とミニ・シンポの企画に参加し、シンポジウムの報告者をつとめ、また総文叢書の一冊として刊行された『女子教育、再考』にまとめるさいには、編集の任にあたった。また、オープン・キャンパスの企画委員や、ゆめうつ委員など、臨時につくられたさまざまな委員会の委員をつとめてきた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年4月～現在 日本文学協会 委員
2004年4月～現在 日本近代文学会 評議員
2007年4月～現在 日本近代文学会 編集委員
2007年4月～現在 日本近代文学会関西支部運営委員

■ 講演(2006年度)

06.9～07.2 西宮市生涯学習大学宮水学園

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 経済理論、経済政策
- 研究課題1 「構造改革」と総称される政府の経済政策の検討
- 2 現代日本経済のジェンダー視角からの検討
- 3 東アジアの経済共同に対する「慰安婦」歴史問題の影響の検討

教育活動

■ 担当授業科目

大学 文献ゼミ、キャリアを考える、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、経済学(国際経済を含む)、比較経済論、女性学(実践編)、基礎ゼミ、現代社会と経済学、知への好奇心Ⅱ(戦争と平和)

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 専攻ゼミⅠでのフィールドワークの実施 2004年9月より現在まで毎年韓国「ナヌムの家」訪問 2005年7月より毎年「私たちの戦争と平和資料館」と靖国神社見学
- 専攻ゼミⅠでの出版活動 2005年3月『ハルモニからの宿題』(冬弓舎)／2006年2月『「慰安婦」と出会った女子大生たち』(新日本出版社)を出版
- 各種ゼミ・講義での映像の活用 2004年度～現在まで15年戦争、「慰安婦」問題、イラク戦争、ワーキングプア、企業社会での女性差別、「風俗」産業についてなど、活用可能な各種の映像を活用している。

■ 授業評価への対応

- 全科目での実施は2004年頃から現在まで すべての講義科目でのテキストの活用、板書量の削減。いずれの講義科目にあっても板書量が多すぎるとの指摘があり、これを軽減することのできるテキストを活用するようにした。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年度より「女性学」等いくつかの授業でテキストとして活用 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会編『はじめてのジェンダー・スタディーズ』(北大路書房、2003年)
- 2006年度「経済学」のテキストとして活用 石川康宏『現代を探究する経済学』(新日本出版社、2004年)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2006年～現在 専攻ゼミⅠでのフィールドワークと出版の活動についての講演 歴史教育者のグループ、戦争と平和にかかわる市民グループなどの主催で各地で多数

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 労働者教育協会 編 辻岡靖仁 他, 知りたい聞きたい経済学Q&A, 学習の友, 167pp., 02.4
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの, 冬弓舎, 283pp., 02.12
- [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編, はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房, 247pp., 03.2
- [共著] 山田敬男・牧野広義・石川康宏, 軍事大国化と「構造改革」, 学習の友, 198pp., 04.1
- [単著] 現代を探究する経済学, 新日本出版社, 246pp., 04.7
- [共著] 鯉坂真・牧野広義 他6名, ジェンダーと史的唯物論, 学習の友, 279pp., 05.1
- [共著] 石川康宏ゼミナール 編, ハルモニからの宿題, 冬弓舎, 252pp., 05.3
- [共著] 神戸女学院大学 石川康宏ゼミナール 編, 「慰安婦」と出会った女子大生たち, 新日本出版社, 173pp., 06.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 「空洞化」を促進する財界の対アジア戦略, 日本の科学者 第415号, 10-15, 02.8
- [単著] 大企業中心主義から生まれた「小さな政府」, 社会保障 第405号, 6-14, 03.3
- [単著] マルクス主義とフェミニズム フェミニズムの問題提起を受けとめて, 唯物論と現代 第31号, 34-50, 03.5
- [単著] 世界情勢の発展と「帝国主義」レーニンの時代と今日, 経済 第105号, 167-177, 04.6
- [単著] 憲法9条こそ日本経済再生への道 歓迎されるアジアの一員めざして, 経済 第112号, 28-40, 05.1
- [単著] 成長する東アジアと日本の未来, 唯物論と現代 第37号, 17-32, 06.6
- [単著] 「人間発達の経済学」とマルクス・労働運動・セン, 経済科学通信 第110号, 42-47, 06.6
- [単著] 人口変動とマルクスの資本主義分析, 経済 第132号, 81-100, 06.9
- [単著] 「新憲法草案」と東アジアの中の日本, 経済科学通信 113号, 30-36, 07.4

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

「新憲法草案」と東アジアの中の日本, 基礎経済科学研究所, 立命館大学, 06.9.23

■ その他(2006年度)

- 論文: 前進する東アジアの共同とアメリカによるアジア政策の転換, 前衛 9月号, 日本共産党, 92-104, 06.9
- 論文: 平和と人権と健全な経済のために, 日本国憲法が輝く社会を, 民商 10月号, 全国商工団体連合会, 2-8, 06.10
- 報告: 「慰安婦」と出会った女子大生たち, 保育情報 10月号, 保育研究所 1, 06.10
- エッセイ: 「慰安婦」問題と出会い, 学びと出会った私たち, 女性のひろば 11月号, 日本共産党, 78-86, 06.11
- 論文: 格差社会とジェンダー 女性の働き方・生き方, 季刊・労働者教育, 労働者教育協会, 38-43, 06.12
- 論文: 連載・侵略を反省し, 平和な日本づくりの決意をあらたに, 福祉のひろば 12-3月号, 総合社会福祉研究所

論文:安倍改憲内閣と「もう一つの日本」, 全労連 1月号, 全国労働組合総連合, 1-9, 07.1

論文:憲法どおりの政治へ向けて、今年も政治がおもしろい, 建設のひろば 1月号, 東京土建一般労働組合, 5-9, 07.1

論文:長時間労働・女性差別とマルクスのジェンダー分析, 前衛 3月号, 日本共産党, 84-105, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

執筆論文数、共著をふくむ著作出版数も年々増加しており、研究対象の幅も広がってきている。順当なところだと考えている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

学科内・大学での各種委員会に取り組んできた。2006年度には、はじめて大学での委員会の責任者を担うなど、次第に役割も重いものとなってきている。教育・研究とのバランスを失しないように、時間配分については意識的な自己管理が必要だと考えている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2001年12月～現在 関西勤労者教育協会 常任理事

2002年9月～現在 総合社会福祉研究所 理事

2007年5月～現在 労働者教育協会 常任理事

■ 主な社会活動(過去5年間)

講演会は毎年100回前後に達しており、すでに手一杯との感がある。各種市民団体での役職活動も増加している。学内外での仕事のバランス調整が問題となりつつある。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 社会福祉学
- 研究課題1 セルフヘルプ運動とその支援
 - 2 ソーシャルワーカーの機能
 - 3 ソーシャルワーク実践

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 基礎ゼミ、文献ゼミ、人間福祉学入門、精神保健福祉援助技術総論、社会福祉援助技術現場実習指導、精神保健福祉援助実習、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)
- 大学院 ソーシャルワーク実習、社会福祉学演習

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 講義ノートの作成、新聞の記事でレジメの作成、ビデオの活用、現場の人々を講師としてお呼びする。ロールプレイなどを用いて体験学習を進める。講義ノートは、以下のノートを作成。2004年6月精神保健福祉援助技術総論、論文の書き方2005年6月にそれぞれ印刷し、配布。毎年度、配布している。ビデオなどの活用は、毎年度実施している。
- 毎年5回ほど開催、講演会や研修会への引率をする。あるいは、学外から現場の精神保健福祉士および精神障害者、障害者、家族を招き、話をしてもらう。2002年から毎年3人を招いている。

■ 授業評価への対応

- 2002年～現在 話し方の工夫、板書の改善など

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 精神保健福祉援助技術総論(分担執筆)、精神保健福祉士援助技術各論(編著)、精神保健福祉論(分担執筆)、以上、中央法規出版、2003年2月
- 精神保健福祉論(分担執筆)、中央法規出版、2007年1月
- 公衆衛生(分担執筆)、医学書院、2007年2月

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2006年7月 精神保健福祉士養成校協会全国研修会1,実習教育の教育実践の方法に関する発表と司会

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 毎年、2回参加。毎年のように、教育の方法に関する研修に参加。たとえば、プレイバックシアターなどの体験学習、SST(社会生活技能訓練)の教育方法などです。また、精神保健福祉士養成課程の学生に対する国家試験の受験学習への支援

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 岡上和雄・田中英樹・丸山晋 編, 精神科リハビリテーション, 中央法規出版, 212-219, 02.1
- [共著] ◎岩田泰夫・藤井達也・前田ケイ, 精神保健福祉援助技術各論, 中央法規出版, 1-276, 03.2
- [共著] ◎谷中輝雄・寺谷隆子・田中英樹, 精神保健福祉援助技術総論, 中央法規出版, 260-276, 03.2
- [共著] ◎谷中輝雄・田中英樹・住友雄資, 精神保健福祉援助演習, 中央法規出版, 178-182, 04.2
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎, 134-166, 05.1
- [共著] 岩田泰夫 編著, シナリオで学ぶSST, 中央法規出版, 1-237, 05.5
- [共著] ◎新保祐元・岡村正幸・高橋一, 精神保健福祉論, 中央法規出版, 197-230, 07.1
- [共著] 岩田泰夫・松田正巳, 生活保障制度と生活者の健康, 医学書院, 190-202, 07.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] ◎岩田泰夫・丸田一郎, ピアカウンセリングとその実践上の指針, ファシリテーズネット 第45号, 23-32, 03.3
- [単著] 患者会などのセルフヘルプグループで蓄えられてきた援助原理, 精神科臨床サービス 3-4, 428-436, 03.10
- [共著] ◎岩田泰夫・植松純子, セルフヘルプグループとその支援その1, ファシリテーズネット 第46号, 24-4, 03.10
- [共著] ◎岩田泰夫・西田ゆかり, セルフヘルプグループとその支援その2, ファシリテーズネット 第47号, 9-25, 04.3
- [共著] ◎岩田泰夫・太田幸代, セルフヘルプグループとその支援その3, ファシリテーズネット 第48号, 23-37, 04.8
- [共著] ◎岩田泰夫・友宗かよ, 社会復帰施設などの組織の運営原理と専門職の援助指針, ファシリテーズネット 第49号, 23-29, 05.3
- [共著] ◎岩田泰夫・友宗かよ, 生活技能訓練(SST)の実践その1, ファシリテーズネット 第49号, 54-84, 05.3
- [共著] ◎岩田泰夫・植松純子, 生活技能訓練(SST)の実践その2, ファシリテーズネット 第50号, 49-67, 05.10
- [共著] ◎岩田泰夫・植松純子, 社会復帰施設などの組織の運営原理と専門職の援助指針, ファシリテーズネット 第50号, 7-20, 05.3
- [単著] 大阪府精神保健福祉相談員の実践, 大阪精神衛生研究 51号, 32-37, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学研究所 総合研究助成金[代表者], 自立生活センターおよび精神障害者のグループ活動などの活動と運営の原理, 2002年度, 90万円
本学研究所 研究助成金[代表者], 精神障害者へのソーシャルワーク, 2002年度, 20万円
本学研究所 総合研究助成金[代表者], 精神障害者の生活支援, 2003年度, 100万円
本学研究所 研究助成金[代表者], ヘルパーセラピーなどの援助原理の内容とその成立要件, 2003年度, 20万円
本学研究所 総合研究助成金[代表者], べてるの家の生活支援の実践の原理と方法, 2004年度, 95万円
本学研究所 研究助成金[代表者], セルフヘルプグループの専門職の支援とその方法, 2004年度, 20万円
本学研究所 研究助成金[代表者], 精神障害者への相談援助活動, 2006年度, 20万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

- 2002年4月～現在 日本精神科救急学会 評議員
2004年7月～現在 日本精神保健福祉士養成校協会 理事

■ 講演(2006年度)

- 06.4.8 「はなすとさく」 医療法人 医真会
06.5.13 「セルフヘルプグループの力」 医療法人 医真会
06.6.10 「自分が自分のベストフレンドになる」 医療法人 医真会
06.7.8 「別れ」 医療法人 医真会
06.10.2 「面接の方法 その1」 社会福祉法人 精神障害者社会復帰促進協会
06.11.1 「相談面接の実際 その1」 社会福祉法人 精神障害者社会復帰促進協会
06.12.6 「セルフヘルプグループと支援法」 大阪府
07.1.17 「ケースワークの実践」 大阪府
07.1.26 「相談面接の実際 その1」 兵庫県
07.2.24 「セルフヘルプグループとその支援」 兵庫県家族会連合会
07.2.25 「セルフヘルプグループとしての断酒会のあり方」 名古屋市断酒連合会
07.2.28 「相談面接の実際 その2」 兵庫県

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

- 2002年2月～2004年4月 ヤドカリ研究所 主任研究委員
2002年～2004年 神戸市ホームヘルプサービス 評価委員
2002年～2004年 神戸市障害者ケアマネジメント体制整備検討委員会 委員長
2002年～2004年 神戸市障害者ケアマネジメント評価委員
2002年～2005年6月 精神保健福祉士国家試験委員
2002年～2007年3月 レビュー編集委員
2002年～現在 社会福祉法人 やなぎの里 評議員
2002年～現在 社会福祉法人 浅香山記念会 監事
2002年～現在 社会福祉法人 朋志美会 評議員
2002年～現在 神戸市市民調査委員会 特別委員
2004年～現在 患者の権利オンブズマン委員
2004年～現在 神戸市社会復帰施設連盟 顧問
2004年～現在 神戸市精神保健福祉専門委員
2006年4月～現在 神戸市障害者推進協議会 副会長

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 社会学
- 研究課題1 現代の地域社会の諸問題
- 2 アクターネットワーク論の再検討
- 3 デジタル社会の社会学的再考

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、地域社会学、西宮市大学交流センター科目、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、社会学概論、基礎ゼミ、知への好奇心Ⅱ(戦争と平和)
- 大学院 社会学演習(Ⅰ)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月～現在 近年の学生の「筆記能力の低下」や「専門書離れ」などを考えて、担当科目の基本用語や重要な専門用語は板書するとともに、必要な場合には一覧表を作成し配布した。
- 2002年4月～現在 ほぼ毎回、授業内容に関連する図表や事例の資料を配布し、テキストがある場合でも補足するよう努力した。
- 2002年4月～現在 授業内容の理解度を、そのつど知るために授業の終わりに簡単な小テストを実施し、次の授業時に解答のおさらいをした。

■ 授業評価への対応

- 開始2002年4月～現在 板書した字が読みにくいなどの評価に対しては、できるかぎり丁寧な読みやすい字を書くように努めている。
- 開始2004年4月～現在 授業内容が抽象的で難解であるという評価に対しては、極力事例を取り上げたり、関連資料を配布し、学生が理解できるように配慮している。
- 開始2005年4月～現在 私語が多いなどの評価に対しては、そのつど注意したり、学生と双方向の対話をして、円滑に授業ができるように努力している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月～現在 出版社に依頼して公刊された教科書や参考書は作成していないが、毎年、授業内容に関する「手作りの教材」をそのつど作成している。
- 2002年12月～現在 総合文化学科の教員が各専門分野のキーワードを分担執筆した『知の贈りもの』が出版され、ゼミや講義の教科書や参考書として利用している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2005年4月～現在 教員研修会の分科会において、教育方法・教育実践に関する簡単な発表を行っている。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2002年12月～現在 総合文化学科では、総文叢書という形で教員全員が学科単位で学生の教材向けの本を出版し、ゼミなどの少人数教育の中で活用している。
- 2002年4月～現在 科学研究費補助金の地域社会調査(京都市・彦根市)に際して、聞き取り調査とアンケート調査の実践的共同作業に参加させ、調査能力と社会的コミュニケーション能力の向上を試みている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著]神戸女学院大学文学部総合文化学科 編、知の贈りもの、冬弓舎、273pp., 02.12
- [共著]上野輝将 他12名、新修彦根市史 第九巻 史料編 近代二・現代、彦根市、925pp., 05.2
- [共著]神戸女学院大学文学部総合文化学科 編、知の贈りもの 増補改訂版、冬弓舎、306pp., 06.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著]リスク社会と西宮市の環境問題、西宮市地域研究報告書『自発的な市民活動と新たなまちづくり』、41-52, 02.5
- [単著]芦田徹郎『祭りと宗教の現代社会学』、ソシオロジ 第143号、138-142, 02.5
- [単著]リスク社会と彦根市の都市計画、神戸女学院大学論集 第50巻第1号、142-162, 03.7
- [単著]京都市の祇園祭の社会学的再考(中間報告)、神戸女学院大学論集 第50巻第2号、98-121, 03.12
- [単著]大老井伊直弼のコメモレションの文化社会史(その1)、神戸女学院大学論集 第51巻第2号、166-190, 04.12
- [単著]都市の祭りとコメモレション『都市のユニバーサリズム、ナショナリズム、ローカリズム』、340-365,
- [単著]京都市の平安遷都記念祭と内国勸業博覧会の歴史社会学的再考、神戸女学院大学論集 第52巻第1号、104-133, 05.7
- [単著]言葉とジェンダーと権力、神戸女学院大学女性学評論 第20号、114-137, 06.3
- [単著]中筋直哉『群衆の居場所』、日本都市社会学会年報24、225-228, 06.9
- [単著]祇園祭・山鉦町の人びとの心意気、神戸女学院大学論集 第53巻第3号、63-82, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 京都の祇園祭の文化的再生産をめぐる、第79回日本社会学会大会、立命館大学、06.10.28-29

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(1)[分担者],都市のユニバーサリズム、ナショナリズム、ローカリズム,2001年度~2004年度(4年間),4500万円
本学研究所 総合研究助成金[分担者],自立生活センターおよび精神障害者のグループ活動などの活動と運営の原理,2002年度,90万円
本学研究所 研究助成金[代表者],リスク社会における都市の諸問題,2002年度,20万円
本学研究所 総合研究助成金[分担者],精神障害者の生活支援,2003年度,100万円
本学研究所 研究助成金[代表者],京都祇園の伝統文化の継承,2003年度,20万円
本学研究所 総合研究助成金[分担者],べてるの家の生活支援の実践の原理と方法,2004年度,95万円
本学研究所 研究助成金[代表者],現代社会と記念祭(コメモラシオン),2004年度,20万円
本学研究所 研究助成金[代表者],ハイ・モダニティの社会学再考,2005年度,30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

科学研究費補助金による共同研究(2001年度~2004年度)、ならびに毎年の学内研究助成金による個別研究を行い、それなりの成果を報告書や各種の雑誌に掲載し、また日本社会学会大会において口頭発表している。ある程度、着実に研究し、色々なルートで成果を発表しているとは言え、単著の形で学術書を刊行していない点については不十分であると言わざるを得ない。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

年齢的にベテランの域に入りつつあるため、入試の出題責任者や模擬授業の担当をはじめ、大学の多様な各種委員や委員長などを務め、何とか大学運営に貢献しているかと自己評価している。ただ、目に見えるような、注目すべき成果や貢献をしているとは言い難い。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2005年10月~2007年9月 日本都市社会学会年報 編集委員

■ 講演(2006年度)

06.4-7 西宮市大学交流センター 単位共通講座(12回)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

1995年4月~現在 新修彦根市史編纂・現代史部会 執筆委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

科学研究費補助金による聞き取り調査などで地域住民と関わり、また彦根市史(全12巻)編纂の現代史部会の執筆委員(1995年~現在)として市民向けの本や研究報告などを書いたり、さらに西宮市の大学共同講座の授業を担当している。細々とした形ではあるが、地域社会に向け活動しているとは言え、もっと積極的に具体的な形で社会貢献をしなければならないと考えている。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 日本史
- 研究課題1 東アジア海域世界の交流史
 - 2 海運・流通ネットワーク史
 - 3 近世日本の境界領域論

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、日本史(Ⅱ)、史料で探る日本の歴史、西宮市大学交流センター科目、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、基礎ゼミ
- 大学院 比較文化学合同研究A、日本史特殊講義、論文指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2003年4月1日～現在 専攻ゼミにおける資料の読解工夫

■ 授業評価への対応

- 2003年4月1日～現在 質問に対してプリントを配布するなどの方法により、応答・指導を工夫した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月1日～現在 『新体系日本史12 流通経済史』(山川出版社、2002年)を作成、東アジア貿易史の理解度を深めた。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2003年4月1日～現在 歴史調査の現場と博物館における資料見学、およびフィールドワークの実践を行った。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 桜井英治・中西聡 編, 新体系日本史12流通経済史, 山川出版社, 513pp., 02.8
- [共著] 豊見山和行 編, 日本の時代史18琉球・沖縄史の世界, 吉川弘文館, 305pp., 03.1
- [共著] ◎安里進 他, 沖縄県の歴史, 山川出版社, 322pp., 04.7
- [共著] 真栄平房昭・菊池勇夫 編, 近世地域史フォーラム①列島史の南と北, 吉川弘文館, 264pp., 06.1
- [共著] 山本博文 監修 他16名, ビジュアルNIPPON江戸時代, 小学館, 06.10

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 近代沖縄の自立と従属, 東北学 vol.6, 02.4
- [単著] 16・17世紀の東アジア貿易と琉球, 経済史再考, 03.3
- [単著] 16～17世紀における琉球海域と幕藩制支配, 日本史研究 第500号, 04.4
- [単著] 清代中国における海賊問題と琉球, 東洋史研究 第63巻3号, 04.12
- [単著] 明末・中国人の琉球渡航記, 海路 第2号, 05.9
- [単著] 首里城の女たち, 首里城研究 No.8, 06.3
- [単著] 琉球王国に伝来した中国絵画, 沖縄文化 第100号, 60-88, 06.6
- [単著] 奄美香から見た海域アジア交易, 九州大学21世紀COEプログラム国際ワークショップ「新たなる東アジア像を求めて」, 15-16, 06.9
- [単著] 「琉客談記」から見える中国像, 歴博フォーラム報告集「国際社会の中の近世日本」, 38-47, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 海の香料貿易史, 第4回沖縄研究国際シンポジウム, イタリア・ヴェネツィア, 06.9.12
- 奄美香から見た海域アジア交易, 21世紀COEプログラム国際ワークショップ, 九州大学, 06.9.15
- 清国を訪れた琉球使節の見聞録, 第8回琉球・中国交渉史に関する国際シンポジウム, 中国・北京, 06.11.13
- 「琉客談記」から見える中国像, 第57回歴博フォーラム, 国立歴史民俗博物館, 06.12.17

■ その他(2006年度)

- 蔡温の海事政策, 建設情報誌しまたてい No.38, 沖縄建設弘済会, 6-9, 06.7
- 書評:『国宝・琉球国王尚家関係資料のすべて』, 沖縄タイムス, 沖縄タイムス社, 06.8
- 論評:ヴェネツィアの旅から-沖縄研究国際シンポジウム参加記, 月刊榕樹 9月号, 兵庫沖縄協会, 6, 06.11
- 論評:中世の堺商人と琉球, 月刊榕樹 2月号, 兵庫沖縄協会, 07.2
- 論評:東アジアの十字路 9・10連載, 日中友好新聞 第2092、2093号, 日中友好協会, 07.3
- 論評:「尚家文書調査の先駆者・横山重」, がじゅまる通信 No.49, 榕樹書林, 1-3, 07.4

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(2) [代表者], 東アジアの交易・物流構造と琉球, 2004年度～2006年度(3年間), 180万円
- 本学研究所 研究助成金 [代表者], 東アジア貿易圏と日本-流通経済史の視点から-, 2002年度, 20万円
- 本学女性学インスティテュート 研究助成金 [代表者], 近世法制史料にみる女性, 2002年度, 10万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 日本の近代化と神戸女学院, 2003年度, 85万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 明代中国人の海外認識と琉球, 2005年度, 30万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 近世日本の境界領域についての研究, 2006年度, 30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

大学院生の研究活動を支援するための方策として、読書会を企画し、その指導に当たっている。これによってゼミでの討論内容も以前に比べて活発化していると思う。
個人研究では、科研費に基づき、東アジア貿易と物流についての研究を3年間にわたり続けてきた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

KCCフェローシップの留学生受け入れにあたり、2006年度には、米国プリンストン大学の大学院生ピーター・セバスチャン氏を招いて学内で公開講演会を開催した。これの企画運営を通じて、大学院生・学部ゼミ生たちの学習意欲を高めることができた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

07.1.22-26 「アジア文化交流史」 国立大学法人山口大学人文学部集中講義

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2000年4月～現在 沖縄県歴代宝案 編集委員

2003年4月～現在 国立歴史民俗博物館リニューアル展示検討委員会 専門委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

研究所女性学インスティテュート主催の学外公演(於、宝塚女性センターエル)をおこなった。2005年11月

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

2004年 沖縄研究奨励賞

- 専門分野 キリスト教神学、宗教哲学
- 研究課題1 キリスト教と日本の宗教との比較
 - 2 キリスト教の霊性
 - 3 キリスト教思想史

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、キリスト教思想史、キリスト教概説、キリスト教学(キリスト教思想)、基礎ゼミ
- 大学院 比較宗教学、修論指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2003年4月～2006年3月 キリスト教概説の授業のために聖書の基礎知識を提供する工夫をした。宗教的人間論の授業のために神社仏閣を見学して、資料などを収集した。
- 2005年4月～現在 専攻ゼミと比較宗教学の授業のために宗教的な生き方を問う文献をテキストとして探し、吟味した。
- 2006年4月～現在 文献ゼミ、専攻ゼミの人数が多くなったために、グループ協議を行うことにした。また月に一回、課題を提出させた。

■ 授業評価への対応

- 板書や話し方に注意するようになった。
- プリントはなるべく文章にしてまとめるようにした。私語を防ぐために、座席指定にしている。質問に適宜応じるようにしている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2003年4月～2006年3月 『キリスト教思想序論』を出版し、キリスト教概説のテキストとして使用した。
- 2005年4月～現在 『信じること、疑うこと』を出版し、文献ゼミ、専攻ゼミのテキストとして使用した。
- 2006年4月～現在 キリスト教学の授業のために聖書を題材とした絵画の写真を集め、パワーポイントで紹介した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] キリスト教思想序論, キリスト新聞社, 03.3
- [単著] 信じること、疑うこと, 冬弓舎, 05.3
- [単著] キリスト教の基礎, キリスト新聞社 186pp., 07.4

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] キリスト教の人間論(その2), 神戸女学院大学論集 第49巻第1号, 89-111, 02.7
- [単著] キリスト教的グノーシス主義, 神戸女学院大学論集 第49巻第2号, 93-107, 02.12
- [単著] ハイデッガーによる存在の思索(その1), 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 87-107, 03.7
- [単著] ハイデッガーによる存在の思索(その2), 神戸女学院大学論集 第50巻第2号, 65-85, 03.12
- [単著] ツァラトゥストラの教説(その1), 神戸女学院大学論集 第52巻第1号, 33-50, 05.7
- [単著] ニーチェのニヒリズム, 日本カトリック神学会誌 第16号, 61-79, 05.8
- [単著] ツァラトゥストラの教説(その2), 神戸女学院大学論集 第52巻第2号, 71-89, 05.12
- [単著] 神の超越性と内在性, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 3-21, 06.7
- [単著] キリスト教の霊性(その1), 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 33-51, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- キリストの形, 日本カトリック神学会, 英知大学, 06.9.18

■ その他(2006年度)

- 書評: 飯謙著『旧約詩編の文献学的研究 第1ダビデ詩編を中心として』新教出版社、2006年2月、神戸女学院学報(No.147)、神戸女学院 30, 06.7

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学研究所 研究助成金 [代表者], キリスト教とグノーシス主義の研究, 2002年度, 20万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

- 宗教哲学と比較宗教学の視点から近代・現代哲学とキリスト教の関係を考察した。それによってニーチェ、ハイデッガーなどの哲学に対するキリスト教思想の影響を明確に指摘することができた。また地道な聖書研究も行った。以上の研究を踏まえて、『キリスト教思想序論』『信じること、疑うこと』という著書を出版し、授業のテキストとして使用することができた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

学生部長として学生主事会と学生寮運営委員会を運営し、学生生活支援センターと学生長の統括を行った。学生寮の運営に関して、助言と支援を行った。また年間目標として禁煙プログラムを実施し、講演会の企画を行った。連絡協議会を開催し、自治会と協議した。
3回行われた保護者懇談会に出席し、講話と個人面談を行った。
チャプレン補として日常のキリスト教活動を担当した。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2002年4月～現在 キリスト教学校教育同盟 夏期研修会実行委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

キリスト教学校教育同盟夏期研修会実行委員としてキリスト教学校教育同盟に所属する学校の教職員のための研修会を企画、運営した。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 現代アメリカ小説
- 研究課題1 多文化社会におけるマイノリティの諸相
- 2
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、アメリカ研究、総合英語Ⅱ、女性学(理論編)、文献ゼミ
大学院 国際文化論(Ⅰ)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2005年4月～現在 パワーポイントを用い、見やすい授業プレゼンテーションを心がけた。同時に、授業で使用したパワーポイントのスライドを配付資料とし、配布しない場合はBlackboardのコース文書にあげた。
- 2002年4月～現在 講義形式の授業では双方向コミュニケーションをはかるために、毎回授業コメントを提出させ、次の授業の冒頭で質問に答え、興味深いコメントを紹介した。
- 2002年4月～現在 個人web siteを授業の度に更新し、授業内容を公開することで、やむをえず欠席した学生の指導、毎年フォーマットが決まっている卒業論文の指導に活用した。Blackboard導入以降はシラバスの担当者名からリンクをはった。

■ 授業評価への対応

- 2002年4月～現在 講義形式の授業では教材提示装置でデータを授業中に公開した。
- 2002年4月～2005年3月 特に自由記述欄に注意を払い、改善の目安とした。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2003年2月10日出版 共著『はじめてのジェンダー・スタディーズ』を執筆

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編、はじめてのジェンダー・スタディーズ、北大路書房、247pp., 03.2
- [共著] 山下昇・林以知郎 編 赤井勝哉・秋篠憲一・浅井雅志・石井重光 他、表象と生のはざままで -葛藤する米英文学、南雲堂、776pp., 04.8
- [共著] 山下昇・渡邊克昭 編 大井浩二・長谷川裕一・花岡秀・竹本憲昭・辻本庸子 他、20世紀アメリカ文学を学ぶ人のために、世界思想社、338pp., 06.1
- [共著] 古典を読む会編修委員会 編 武田貴子・辻本庸子・長畑昭利・本合陽・坂本季詩雄 他、語り明かすアメリカ古典文学 12、南雲堂、380pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] ブハラティ・ムカジーの『タイガーの娘』におけるブラーミン女性と教育、女性学評論 第18号、21-35, 04.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 研究助成金 [代表者], Bharati Mukherjeeにおける feminism, ethnicity, critique of America-The Holder of the Worldを中心に、2002年度、20万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningの教育効果に関する実践的研究、2004年度、95万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 少人数教育に情報機器を効果的に用いる教育方法の検討、2005年度、125万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究、2006年度、5万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

現代アメリカ小説のマイノリティの諸相として、インド系女性作家ブハラティ・ムカジーの作品評価を記した。日本ではまだ読者が少ないため、紹介を兼ねて、ポストコロニアル文学の一端をとりあげることができた。その後、「クィア文学」という章を『20世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』で担当し、トニ・モリソンの作品を例に、非異性愛主義文学の可能性を記述することができ、クィア批評をわかりやすく紹介するとともに作品分析を提示することによって、批評理論を実践に適用することができた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年4月～2005年3月 アメリカ文学会 関西支部地区委員
2005年4月～2007年3月 アメリカ文学会 関西支部事務局幹事
2007年4月～現在 アメリカ文学会 関西支部評議員
2007年4月～現在 アメリカ文学会 関西支部編集委員

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 ドイツ文学
- 研究課題1 ヘルマン・ブロッホ
 - 2 klassisch-Moderneの長編小説
 - 3 ホロコーストの記憶

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 専攻ゼミ(Ⅰ)、基礎ゼミ、外国語セミナー(ドイツ語)、ヨーロッパの言語と文化、ドイツ文学、ドイツ語(Ⅰ)文法
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2002年度～現在 演習のみならず講義でもミニレポート、クイズ、小テストなどで受講生の参加を促す。
- 授業評価への対応
 - 2002年度～現在 結果を公表し学生とともに改善策を考える。
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2002年度～現在 講義資料はほぼ毎回プリント作成、外国語授業の補充プリント作成、音声映像資料編集
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 入野田真右・青山寛・齋藤成夫・武田竜也・山口光一、価値崩壊と文学－ヘルマン・ブロッホ論集, 同学社, 03.1
 - [共著] 上西妙子・野村正人・音川紘一・遠藤剛毅, 諸芸術の出会いとところ, 神戸女学院大学研究所, 06.3
- 学術論文(過去5年間)
 - [単著] 群衆のなかの個人－ヘルマン・ブロッホの群衆論, ドイツ文学 第130号, 140-153, 06.1
 - [単著] 虚構のホロコースト回想記は何を語るのか－B. ヴィルコムリスキ『断片』事件をめぐる, 神戸女学院大学論集 第51巻第3号, 9-25, 06.3
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
 - Hermann Brochs "Die Verzauberung" als gescheiterter "religiöser" Roman, Vortrag, Institut für Deutsche Philologie, ミュンヘン大学, 06.11.28
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
 - 本学研究所 総合研究助成金 [代表者], リベラル・アーツの自己解析的再検討, 2002年度, 90万円
 - 本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 諸芸術の出会いとところ, 2004年度, 95万円
 - 本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 神戸女学院と芸術, 2005年度, 125万円
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 地道で堅実な研究活動を続けてきた。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)
 - 各種委員会への参加、広報誌への寄稿、公開講座や学外講座を担当。バザーでゲーティンステイテュートと協力しドイツ紹介の企画(中高部)。

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
 - 2002年4月～2006年3月 阪神ドイツ文学会 編集委員
 - 2004年4月～2006年3月 阪神ドイツ文学会 幹事
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2005年4月～2007年3月 日本私立大学連盟 教育研究委員会基本問題分科会

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野
- 研究課題1
- 2
- 3

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 基礎ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、メディアリテラシー入門、文献ゼミ、知への好奇心Ⅱ(戦争と平和)
 - 大学院 社会学演習(Ⅱ)
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
- 学術論文(過去5年間)
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 英米文学、批評理論
- 研究課題1 現代思想
- 2 文化学
- 3 推理小説

教育活動

■ 担当授業科目

大学 文献ゼミ、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、外国語セミナー(英語I)、比較文化特殊研究(IV)、ワークショップIV(クリエイティブライティング)、基礎ゼミ

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度～2006年度(各年度通年) レポート指導(ほとんどすべての科目のレポートについて、コメントと評価を明記するレベルを超えて、懇切丁寧な指導を行った。具体的には、レポートの書き方のガイダンス、クラスによっては下書きの提出、提出されたレポートの徹底添削[(1)日本語表現、(2)論の展開、(3)発想の転換と思考の工夫])
- 2002年度～2006年度(3～4回生の専攻ゼミ中心) 執筆した書籍や雑誌(原稿)を教材として利用して、授業を企画・運営した。書いたものを読んで、内容について話し合うばかりでなく、本や雑誌(原稿)を書くプロセス、出版社や担当者とのやりとり、市場での反応等を含めて、「書く」という行為にまつわる作業や現象をも教材とした。
- 2006年度後期～現在 「クリエイティブ・ライティング」という新しい科目を設置・担当して、学生たちの日本語表現力・発想力・思考力の向上を図った。

■ 授業評価への対応

- 2002年度～2006年度 ほとんどすべての科目について、授業評価の問題点と改善点について確認し、必要に応じて話し合った。特に、学生の自助努力(授業の予復習や授業外での読書)の欠如については、具体的にアドバイスをして、学生たちの世代的・構造的な問題の改善に努めた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2005年度～現在(出版は2004年3月10日:冬弓舎)『恋するJポップ』(文化論に関連した授業やクリエイティブ・ライティングの授業等で利用)
- 2005年度～現在(出版は2004年11月20日:光文社新書[内田樹との共著])『現代思想のパフォーマンス』(4回生の専攻ゼミ[前期]でテキストとして利用)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2005年6月25日 関西学院大学英米文学学会講演:「学問のでんぐり返り」
- 2005年12月15日 広島女学院大学FD講演:「学びのでんぐり返り-大学教育への提言」

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 作成は2006年度(2007年3月)、配布は2007年度(2007年4月の最初の授業)。基礎ゼミ(全クラス共通)の「レポートの書き方(入門編)」を学科の承認を得て(単独で)作成し、全クラスに配布した。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの, 冬弓舎, 02.12
- [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会編, はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房, 03.2
- [共著] 難波江和英・内田樹, 現代思想のパフォーマンス, 光文社, 04.1
- [単著] 恋するJポップ, 冬弓舎, 04.3
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎, 05.1

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

- エッセイ:音楽誌が書かないJポップ批評 42平井堅, 別冊宝島, 宝島社, 71-72, 06.4
- 英語青年 2006.7, 研究社, 50-51, 06.7
- 書評:英語青年 2007.3, 研究社, 8-9, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学女性学インスティテュート研究助成金 [代表者], Jポップに見る男と女の言説-平成の若者の『ころもとなき』(PART III), 2002年度, 10万円
- 本学研究所 出版助成金 [代表者], 恋するJポップ, 2003年度, 64万円
- 本学総合文化学科 出版助成金 [代表者], 恋するJポップ, 2003年度, 100万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2004年度までは順調。特に2004年度は、単著1冊、共著(2名)1冊を出版して、その時点までの成果を示すことができた。しかし、2005年度から現在(2007年度)に至るまで、家庭の事情(母の長期入院-死去、父の二度の大手術-入院治療-退院-自宅療養)のため、研究活動は停止せざるを得なくなった。現在も、母の死による消耗と父の日常の世話のため、研究活動を十分に再開できる状態には至っていない。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

「研究活動に対する自己評価」の項目で記した家庭の事情により、研究活動と同様、学内活動も十分に役割を果たしたとは言えない。むしろ役職等については、大学側に御配慮をいただいて、深く感謝している。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

「研究活動に対する自己評価」の項目で記した家庭の事情により、社会貢献活動はほとんどまったく行えなかった。(但し、2007年度については、父の病状がある程度回復したため、公開講座等を含めて、少しずつ活動を再開している。)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 イタリア中近世史
- 研究課題1 中世イタリア社会史
- 2 マフィアとジェンダー
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 文献ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、外国語セミナー(イタリア語)、ヨーロッパ社会史(Ⅰ)、基礎ゼミ
大学院 比較社会史、論文指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月15日～現在 講義科目(「ヨーロッパ社会史」(Ⅰ))において、視聴覚教材を用いて学生により具体的なイメージをもって授業が理解できるよう工夫している。
- 2002年4月15日～現在 講義科目(「ヨーロッパ社会史」(Ⅰ))において、毎回受講生に質問・意見を書いて提出してもらい、次回の授業でフィードバックしている。
- 2006年7月14日～現在 「基礎ゼミ」と「文献ゼミ」において、学期末のレポートを一週間早く提出させ、授業の最終日に受講生の全員に各自のレポートについて公開口頭試問を行い、これを成績に反映させている。

■ 授業評価への対応

- 授業評価アンケートの結果を参照し、次の授業に反映させている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年度前期と2006年度前期の「基礎ゼミ」のテキストとして使用。神戸女学院大学文学部総合文化学科編、『知の贈りもの-文系の基礎知識』、冬弓舎、2002年
- 2003年度前期の「専攻ゼミ」(Ⅰ)のテキストとして使用。2005年、2006年の「専攻ゼミ」(Ⅰ)の参考書としても使用。森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会編、『はじめてのジェンダー・スタディーズ』、北大路書房、2003年

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2003年7月12日 佐藤学氏を招いた総合文化学科シンポジウム「市民的教養とは何か」にコメンテーターとして参加(神戸女学院大学総合文化学科編、『教養教育は進化する』、冬弓舎、2005年、に収録)
- 2005年2月22日 女性学インスティテュートの主催で、女子教育をテーマとしたシンポジウムを企画、司会として参加(神戸女学院大学総合文化学科編、『女子教育、再考』、冬弓舎、2006年、に収録)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] Il Rinascimento dei trovatelli. Il brefotrofo, la citta e le campagne della Toscana nel XV secolo., Edizioni di Storia e Letteratura (Roma), 178pp., 03.1
- [単著] 路地裏のルネサンス-花の都のしたたかな庶民たち, 中央公論新社, 184pp., 04.1
- [共著] 甚野尚志・堀越宏一 編 有光秀行・遠山茂樹・徳井淑子・池上俊一・河原温・亀長洋子・佐久間弘展・上尾信也・関哲行・前川久美子, 中世ヨーロッパを生きる, 東京大学出版会, 157-172, 04.2
- [共著] 斎藤寛海・山辺規子・藤内哲也 編 城戸照子・徳橋曜・高田京比子・亀長洋子・三森のぞみ・大黒俊二・和栗珠里・北田葉子・高田良太・伊藤亜紀・木村容子, イタリア都市社会史入門(仮題), 昭和堂, 07.1
- [共著] ◎山辺規子・斎藤寛海・高田京比子・亀長洋子・城戸照子・北田葉子・徳橋曜・大黒俊二, 中世・近世イタリアにおける地方文化の発展とその環境, 科研・研究成果報告書, 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] マフィアとジェンダー-パレルモの反マフィア運動の視座から, 女性学評論 第21号, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

- 論文: アッディオ・ピッツォ-パレルモの新しい反マフィア市民運動, 地中海学会月報 299号, 地中海学会 6, 07.4

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(1) [分担者], 中世・近世イタリアにおける地方文化の発展とその環境, 2003年度～2006年度(4年間), 1370万円
- 本学研究所 出版助成金 [代表者], Il Rinascimento dei trovatelli. Il brefotrofo, la citta e le campagne nella Toscana del XV secolo., 2003年度, 3,677ユーロ
- 本学研究所 助成金 [代表者], マフィアとジェンダー, 2006年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2003年度には著書で単著2点 Il Rinascimento dei trovatelli. Il brefotrofo, la citta e le campagne nella Toscana del XV secolo (Roma, Edizioni di Storia e Letteratura)と『路地裏のルネサンス』(中央公論新社)と共著『中世ヨーロッパを生きる』(甚野尚志・堀越宏一編、東京大学出版会)、2005年度は書評「斎藤寛海著『中世イタリアの商業と都市』」(『史学雑誌』第114編 第10号)、2006年度は科研の研究成果報告書と本学女性学インスティテュートが発行する『女性学評論』にそれぞれ論文1点ずつ刊行している、自分としては十分な研究成果を上げていると評価できる。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2003年度と2004年度に総合文化学科学生主事を担当し、2004年度より2007年度まで本学女性学インスティテュートのディレクターとして授業のコーディネイトや学内外の講演、連続セミナーの企画を行っている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2003年4月～2007年3月 イタリア学会 評議員
2004年4月～2007年3月 イタリア学会 幹事

■ 講演(2006年度)

2006年3月7日 「眼鏡と時計 -中世ヨーロッパの発明品」 神戸YWCA弥生

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 フランス現代思想、映画論、武道論
- 研究課題1 ユダヤ教思想
- 2 武道的身体論
- 3 映画の構造分析

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、対話-音楽から広がる知の世界、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、フランス語(I)文法、基礎ゼミ、メディアと知
- 大学院 比較文化・文学、修論指導、論文指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●学生の記事力が低下しているため、2004年度には全ゼミで毎週エッセイを課して書く力の涵養をめざした。添削の負担があまりに大きく一年で挫折したが、代わりに「クリエイティブ・ライティング」という書くことに特化した新しい教科を開講することになった(2006年度より)。初年度は難波江教授と私が担当した。この教科は他の教科(副専攻のメディア・コミュニケーションコースの「メディアと知」「プレゼンテーションの技法」「プロフェッショナル・ライティング」など)とも連動して、最終的には全学的な「日本語運用能力を向上させるための教育プログラム」に編成される予定である。

●演習におけるやりとりを全時間録音し、これをテキストに起すという実験的な授業を大学院と学部専攻ゼミで行った。特に教育的効果をねらって行ったものではなく、講義録を出版したいという出版社の要望に応じてそうしたものだが、結果的には院生・学生たちともに自分たちの受けている授業が活字化するという心理的プレッシャーが働いて緊張感をもって授業に臨んだように思う。大学院の2004年度の講義録は『街場のアメリカ論』(2005年、NTT出版)、2005年度の講義録は『街場の中国論』(2007年、ミシマ社)としてそれぞれ刊行された。学部の2006年度の比較文化学特殊講義の講義録『現代霊性論』(釈徹宗師との合同講義、本願寺出版社)は2008年度内に刊行予定。

■ 授業評価への対応

●ゼミの授業評価では毎回「毎回どの程度、予習復習をしていますか?」という項目が際立って低い。これは演習も講義も学生の自由研究発表を中心に行っているため、発表の前週に扱う主題を訊いて、発表者以外にもその論題についての予習を求めているのであるが、チェックする方法がなく、さっぱり徹底していない。復習のために毎回感想レポートを課したことがあるが、ゼミ受講生50名以上のレポートを読んで添削して返すという作業時間が確保できなかった。授業評価でこれだけが際立ってポイントが低いのが、対応策がない。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] 映画の構造分析, 晶文社, 241pp., 03.3
- [単著] 寝ながら学べる構造主義, 文藝春秋, 207pp., 03.6
- [単著] 死と身体, 医学書院, 242pp., 04.1
- [共著] 内田樹・平川克美, 東京ファイティングキッズ, 柏書房, 275pp., 04.1
- [単著] 他者と死者, 海鳥社, 274pp., 04.1
- [共著] 内田樹・名越康文, 14歳の子を持つ親たちへ, 新潮社, 204pp., 05.4
- [共著] 内田樹・池上六朗, 身体の言い分, 毎日新聞社, 260pp., 05.7
- [共著] 内田樹・春日武彦, 健全な肉体に狂気は宿る, 角川書店, 230pp., 05.8
- [共著] 平川克美・内田樹, 悪い兄たちが帰ってきた 東京ファイティングキッズリターン, バジリコ, 285pp., 06.1
- [共著] 平川克美・小田嶋隆・町山智浩・内田樹, 九条どうでしょう, 毎日新聞社, 199pp., 06.3
- [共著] 三砂ちづる・内田樹, 身体知, バジリコ, 245pp., 06.4
- [単著] 態度が悪くてすみません, 角川書店, 245pp., 06.4
- [共著] シンポジウム講演録, 溶解する大学, 慶應義塾大学出版会, 06.5
- [共著] 甲野善紀・内田樹, 身体を通して時代を読む, バジリコ, 289pp., 06.6
- [単著] 子どもは判ってくれない, 文藝春秋, 341pp., 06.6
- [単著] 私家版・ユダヤ文化論, 文藝春秋, 241pp., 06.7
- [単著] 下流志向, 講談社
- [単著] 狼少年のパラドクス, 朝日新聞社
- [共著] 現代高等教育問題研究会編, 女性を幸福にする大学, プレジデント社, 07.3
- [共著] 身体の知恵, 大和書房, 07.4
- [共著] 守伸二郎との対談, 韓氏意拳 拳の学としての意味, スキージャーナル社, 07.4
- [共著] ◎谷祝子・前林清和・内田樹・安田忠典・伴義孝・小田慶喜・菅原福子・中川昌幸・三浦敏弘・三宅眞理, 自己を語る身体表現, 冬弓舎, 265pp., 07.4

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 武術的能楽論, 国立能楽堂 第273号, 06.5
- [単著] 構造主義の思想的意義, 現代のエスプリ 第475号, 07.2

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ その他(2006年度)

エッセイ:旅の途中(3)「自己愛と隣人愛」,日本経済新聞,日本経済新聞社,06.4
エッセイ:旅の途中(4)「えんぴつ」の知恵,日本経済新聞,日本経済新聞社,06.5
エッセイ:まず日本語を,日本教育,(社)日本教育社,06.5
エッセイ:芸術的能楽論,国立能楽堂 第273号,日本芸術文化振興会,06.5
エッセイ:常識的!(3)「標準化圧への恐怖」,山陰新聞(4/12)他,共同通信配信
エッセイ:常識的!(4)「2006年問題」,熊本日日新聞(5/8)他,共同通信配信
エッセイ:内田樹が読み解く7つのキーワード,AERA,朝日新聞社,06.6
エッセイ:旅の途中(5)「ロハス」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:常識的!(5)「女性嫌悪のアメリカ」,共同通信配信
エッセイ:常識的!(6)「個人情報保護」,神戸新聞(6/13)他,共同通信配信
エッセイ:旅の途中(6)「脚下照顧」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:お金と幸福,日経WOMAN 7月号,日本経済新聞社
エッセイ:緩和医療,毎日新聞「水脈」(7/5),毎日新聞社,06.7
エッセイ:旅の途中(2)「言葉の力と外国語」,日本経済新聞,日本経済新聞社,06.8
エッセイ:戦後日本の「考える人」100人 伊丹十三,考える人,新潮社,06.8
エッセイ:戦後日本の「考える人」100人 手塚治虫,考える人,新潮社,06.8
エッセイ:戦後日本の「考える人」100人 長谷川町子,考える人,新潮社,06.8
エッセイ:反対者を代表しない「公人」たち,東奥日報,東奥日報社,06.8
エッセイ:旅の途中(7)「それは何の役に立つんですか?」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:常識的!(8)「大学教育の崩壊について」,共同通信配信
エッセイ:常識的!(9)「世界の趨勢」
エッセイ:旅の途中(8)「フランス人の断言癖」,日本経済新聞,日本経済新聞社
解説:「激しく欠けているもの」について,加藤典洋著「村上春樹イエローページ2」,幻冬舎文庫,06.9
エッセイ:その世代的個性,伝道 第66号,本願寺出版社,06.9
エッセイ:著作権保護の一般解,毎日新聞「水脈」(10/4),毎日新聞社,06.10
エッセイ:教育崩壊と経済合理性,文藝春秋特別版,文藝春秋,06.11
エッセイ:公教育の知的プラットフォームを再建せよ,中央公論 11月号,中央公論社,06.11
エッセイ:身体で読む本(1),読賣新聞(11/5),読売新聞社,06.11
エッセイ:身体で読む本(2),読賣新聞(11/12),読売新聞社,06.11
エッセイ:身体で読む本(3),読賣新聞(11/19),読売新聞社,06.11
エッセイ:身体で読む本(4),読賣新聞(11/16),読売新聞社,06.11
エッセイ:女子大有用論,産経新聞,産経新聞社,06.11
エッセイ:旅の途中(9)「呪鎮の場」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:旅の途中(10)「オーラル英語教育の功罪」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:旅の途中(11)「意地悪化する社会」,日本経済新聞,日本経済新聞社
エッセイ:常識的!(10)「リクルートの要諦」,共同通信配信
エッセイ:常識的!(11)「硫黄島の鎮魂」,共同通信配信
エッセイ:常識的!(12)「バザールの風儀」,共同通信配信
映画批評:ブローックバック・マウンテン,エビス 3月号,読賣新聞
映画批評:V フォォー・ヴェンデッタ,エビス 4月号,読賣新聞
映画批評:間宮兄弟,エビス 5月号,読賣新聞
映画批評:ダヴィンチ・コード,エビス 6月号,読賣新聞
映画批評:M:i:III,エビス 7月号,読賣新聞
映画批評:スーパーマン・リターンズ,エビス 8月号,読賣新聞
映画批評:ザ・フォッグ,エビス 9月号,読賣新聞
映画批評:トンマツコルへようこそ,エビス 10月号,読賣新聞
映画批評:父親たちの星条旗,エビス 11月号,読賣新聞
映画批評:硫黄島からの手紙,エビス 12月号,読賣新聞
映画批評:バベル,えびす 4月号,読売新聞社

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], e-learningの教育効果に関する実践的研究,2004年度,95万円
本学研究所 総合研究助成金[分担者], 少人数教育に情報機器を効果的に用いる教育方法の検討,2005年度,125万円
本学研究所 助成金[分担者], e-learning 研究,2006年度,5万円
本学研究所 助成金[分担者], いきがいの研究,2006年度,5万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.4.15 「現代霊性論(1)」朝日カルチャーセンター
06.5.20 「現代霊性論(2)」朝日カルチャーセンター
06.6.17 「現代霊性論(3)」朝日カルチャーセンター

06.6.20 「時間・記憶・同期」 精華大学超一般教養講座
06.10.21 「武術的立場(1)」 朝日カルチャーセンター
06.10.27 「死者とのコミュニケーションは可能か？」 応典院
06.11.12 「教育崩壊と経済合理性」 大谷高校
06.11.18 「武術的立場(2)」 朝日カルチャーセンター
06.12.2 「街場のアメリカ論」 日本アメリカ文学会関西支部
06.12.16 「武術的立場(3)」 朝日カルチャーセンター

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2002年4月～2006年4月 日本ユダヤイスラエル文化研究会 理事

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 フランス文学
- 研究課題1 文学
- 2 文体論
- 3

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、基礎ゼミ、フランス文化論
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
- 学術論文(過去5年間)
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
 - 本学研究所 研究助成金 [代表者], 絵画の構成要素と文体, 2002年度, 20万円
 - 本学研究所 研究補助 [代表者], 1960年代から見るフランスの文体論, 2003年度, 10万円
 - 本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 諸芸術の出会いとところ, 2004年度, 95万円
 - 本学研究所 研究助成金 [代表者], ブルーストとキュビズム, 2005年度, 30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年から2005年には、「論集」での発表はかなり活発だったが、2006年からは、大きくまとめようとしているため、発表はない。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)
 - 考えようとして、苦慮中。

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
 - 2005年～2007年3月 日本文体論学会 常任理事
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)
 - 不活発であることは認識している。
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 日本近現代史
- 研究課題1 社会運動史
 - 2 思想史 - ナショナリズム論
 - 3 女性史

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、基礎ゼミ、現代日本論、歴史学入門、文献ゼミ
- 大学院 日本文化論、論文指導、比較文化学合同研究A、比較文化学特殊研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2005年4月～現在 テキストの予習を促がすために、ほとんど毎回質問メモを事前に提出させ、講義の際、それらを活用した。
- 2005年4月～現在 課題レポートを講義最終日の前週に提出させ、全体的講評、個々へのコメント付きで返却した。
- 2006年4月～現在 低学年の学生に社会的問題関心を抱かせるため、基礎ゼミや文献ゼミで新聞の切り抜きを授業に持参させ、要約、コメントをさせるようにした。

■ 授業評価への対応

- 2005年4月～現在 授業評価で常に低い「予習・復習時間」改善のため、毎回、質問・感想メモの提出と、それに対する教師の応答を恒例化した。その結果、講義では予習項目は高水準になった。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月～現在 基礎ゼミや文献ゼミで新聞の論壇時評や文化時評をコピーし、小論文のモデル教材として活用した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 上野輝将・岡田知弘・三羽光彦・野田公夫・小松秀雄・高木和美、新修彦根市史 第九巻 史料編(近代二・現代), 彦根市, 957pp., 05.2
- [共著] 広川禎秀・上野輝将・山田敬男・森下徹・吉田ふみお・福島在行・大森実・三輪泰史・石月静恵・大野節子, 戦後社会運動史論, 大月書店, 262pp., 06.1
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 女子教育、再考, 冬弓舎, 240pp., 06.7

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 「ポスト構造主義」と歴史学 - 「従軍慰安婦」問題をめぐる上野千鶴子・吉見義明の論争を素材に, 日本史研究 第509号, 1-33, 05.1
- [単著] 日本軍性奴隷制(「従軍慰安婦」)問題と最近の動向, 神戸女学院大学女性学評論 第20号, 43-67, 06.3
- [単著] 「冬のソナタ」論 - その「保守性」と「革新性」をめぐって, 神戸女学院大学女性学評論 第21号, 1-48, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

- 書評: 広川禎秀『恒等恭の思想史的研究』, 市大日本史, 180-186, 06.5

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

研究分野の社会運動史、思想史、女性史、地域史でそれぞれ成果を出した。また歴史哲学(歴史の方法)の面でも学界に一石を投ずることができたと思う。反省点としては、社会運動史の分野で、実証的な研究書を刊行する計画であったが、方法論的な試論に止まったことで、近い将来課題を達成したい。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2005年度に特色GP(音楽アウトリーチ)、2005年度現代GP(キャリアデザイン)、2007年度(キャリアデザイン)のワーキング・グループに参加した。2005年度から、教育開発センター・ディレクターとして、2005年度教授会研修会(初年次教育)、2006年度(教養教育)の企画、ワーキング・グループの組織、報告集づくりに尽力した。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 社会福祉学
- 研究課題1 アフリカの精神保健福祉
 - 2 精神障害者の包括的地域ケア
 - 3 イギリスのソーシャルワーク

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 基礎ゼミ、社会福祉援助技術現場実習指導、精神保健福祉援助実習、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、精神保健福祉論、文献ゼミ、精神保健福祉援助基礎実習、精神保健福祉援助実習
- 大学院 社会福祉学特殊講義(Ⅰ)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月～現在 学生把握のための様式作成 学生をできるだけ個別に把握できるように、学生自身の似顔絵入りの「自己紹介カード」を作成し利用している。
- 2002年4月～現在 学生参加型の授業を目指した展開 教員の一方通行の知識伝達ではなく、学生が主体的に参加し発言し考えることができるような授業展開を行っている。具体的には、課題別のグループ活動、ロールプレイ、事例検討を用いたグループディスカッションを取り入れている。その他、体験型学習として、障害者疑似体験なども行っている。
- 2002年4月～現在 学生の理解度の把握 授業の毎回の出席カードには質問やコメントを書くように学生に伝え、次の授業の初めに税員の前で一つひとつの質問に答え、またコメントを全体で共有するようにしている。
- 2006年5月～現在 学外スピーカーの招聘 社会福祉援助技術実習では、学生が利用者に対する理解を深めることができるように当事者や当事者の家族を招聘して話をお聞かしている。

■ 授業評価への対応

- 2006年7月～現在 学生へのフィードバック 授業評価については、結果を学生に口頭でフィードバックを行っている。
- 2006年10月～現在 授業評価結果に基づく授業改善 授業評価の結果に基づき、評価が低い項目については改善努力をした。具体的には、学生に授業外での学習の機会を提供するなど工夫した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月～2006年3月 『精神科リハビリテーションワークブック』(中央法規出版、2000年) 本書のなかから「アクティブリスニング」、「問題解決技法」を用いてロールプレイを行った。
- 2002年4月～現在 『子ども家庭問題におけるケースマネジメントとアセスメントシートの開発事業報告書』(社会福祉法人東京社会福祉協議会、2001年) インテーク時におけるフェイスシートの記入方法や、ジェノグラムやエコマップなどの描き方を本教材を用いて実践的に指導している。
- 2002年4月～現在 『社会福祉援助技術論』(相川書房、2002年) 本書のなかから「事例研究法」を取り上げ、実習指導に用いている。
- 2002年4月～現在 『精神保健福祉援助演習-実践力を育てるためのワークブック』(相川書房、2004年) 本書は、精神保健福祉士を目指す学生のためのテキストブックである。精神保健福祉論、精神保健福祉援助実習等の精神保健福祉士養成コースの科目には、本書を適宜用いて指導している。
- 2006年11月～現在 『暴力・虐待・ハラスメント-人はなぜ暴力をふるうのか?』(ナカニシヤ出版、2005年) 基礎ゼミでは、本書を参考に、「暴力」を多面的に捉えたテーマを設定し、グループ発表を行った。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2002年4月～現在 e-mailを用いた学生の相談や連絡 e-mailを用いて個別の学生への授業に関する連絡や相談に対応している。特に、実習を行っている学生については、e-mailを利用して定期的に状況を把握するように心がけている。
- 2004年4月～現在 卒業生へのフォローアップ 卒業後も定期的に卒業生との親睦会を開催し、卒業生(特に社会福祉現場で仕事をする卒業生)からの相談に応じている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] Murakami, M.・Mizuno, M.・Kanata, T., Comprehensive Treatment of Schizophrenia -Linking Neurobehavioral Findings to Psychosocial Approaches-, Springer, 246-253, 02.4
- [共著] 久保絃章・北川清一・山口稔 編 高橋幸三郎・中村佐織・丹野真紀子・新保美香・竹沢昌子・宮岡京子・金田知子 他, 社会福祉援助技術論, 相川書房, 41-50, 02.4
- [共著] 岡田進一・金田知子・TanvNgoh Tiong・岩崎浩三・佐々木誠二・笹岡真弓・福山和女・坪井栄孝・広井良典・藤林慶子 他, 保健医療ソーシャルワーク実践シリーズ第1巻, 中央法規出版, 22-45, 03.1
- [共著] 岩間文雄・金田知子・興那嶺司 編, 精神保健福祉援助演習-実践力を育てるためのワークブック-, 相川書房, 3-5,10-23,34-42,103-108,109-116,146-154, 04.2
- [共著] 水野雅文・村上雅昭・佐久間啓 編 安西里美・伊藤貞子・稲井友理子・大谷典子・小田健一・金田知子・小林啓之・小林靖・高橋佳代 他16名, 精神科地域ケアの新展開 -OTPの理論と実践-, 星和書店, 60-65,161-166, 04.5
- [共著] ◎藤本修・荒賀文子・東牧子・角典哲・今西徹・岩間文雄・内田由可里・大林千恵・金田知子・亀岡智美 他, 暴力・虐待・ハラスメント 人はなぜ暴力をふるうのか, ナカニシヤ出版, 163-175, 05.7
- [共著] ◎三友雅夫・趙敏廷・谷川和昭・石井孝子・越智久恵・茶谷利つ子・金田知子・丸紀和子・古川繁子・森岡豊・勅使河原隆行・矢羽田明美・鈴木力雄・宮内克代・森山治・田中清・井上深幸, 社会福祉概論, メヂカルフレンド社, 95-101,101-105, 06.1
- [共著] ◎藤本修・東牧子・荒賀文子・今西徹・岩間文雄・大林千恵・岡山孝政・金田知子・角典哲・弘田洋二・丸山総一郎・水田一郎・安村直己, 現場に活かす精神科チーム連携の実際, 創元社, 78-82,121-124,149-152,162-165,174-178, 06.1
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈り物 増補改訂版, 冬弓舎, 72-77, 06.3
- [共著] ◎岩間文雄・岩間麻子・幸重忠孝・金田知子・興那嶺司・伊藤泰三・半羽利美佳・長江史憲・土田耕司・木本達男・西久保幸子・大西尚子・安積麻衣子, ソーシャルワーク記録の研究と実際, 相川書房, 37-48, 06.4

[共著] 落合雄彦・金田知子 編 アデボイエガ・オグレンシ・近藤英俊・林正樹・亀井伸孝・古閑純子・オラスルボミ・オゲデングベ、アフリカの医療・障害・ジェンダー - ナイジェリア社会への新たな複眼的アプローチ, 晃洋書房, 1-38, 39-56, 57-75, 77-95, 225-257, 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] 山崎美貴子・山下道子・齋藤舘・山下興一郎・稲垣美加子・金田知子・小林理・根本久仁子・耕田昭子, 知的障害をもつ母親の子育て支援の実証的研究 - 母子生活支援施設の利用者への聞き取り調査を通して -, 研究所年報 第33号, 161-175, 03.3
[共著] 村上雅昭・水野雅文・稲井友理子・高橋佳代・松本弘子・廣瀬会里・金田知子・山下千代, 東京の都市部における包括的地域精神医療の実践, 精神神経学雑誌, 1181-1184, 03.11
[共著] 金田知子・落合雄彦, ナイジェリアにおける産科瘻孔(フィスチュラ)問題, 関西福祉大学研究紀要 第7号, 241-250, 04.3
[単著] イギリスのソーシャルワーク教育の展開とその新たな動向 - アートからサイエンスへ? -, ソーシャルワーク研究 118号, 19-25, 04.7
[単著] 精神保健福祉士からみた情報共有のあり方, 精神科臨床サービス Vol.16 No.2, 70-174, 06.4

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

書評: British Journal of Social Work Vol.35 No.6, ソーシャルワーク研究, 相川書房, 83-86, 06.4
研究ノート: 植民地期英領アフリカにおける精神保健施設, 龍谷大学・国際社会文化研究所紀要, 第8号, 龍谷大学・国際社会文化研究所, 93-103, 06.5
資料: ナイジェリア南西部の精神科病院入院患者に対するインタビュー調査, 龍谷大学・国際社会文化研究所紀要 第8号, 龍谷大学・国際社会文化研究所, 104-121, 06.5
書評: British Journal of Social Work Vol.36 No.3, ソーシャルワーク研究, 相川書房, 78-81, 06.7
書評: British Journal of Social Work Vol.36 No.5, ソーシャルワーク研究, 相川書房, 82-85, 06.10
書評: British Journal of Social Work Vol.36 No.6, ソーシャルワーク研究, 相川書房, 85-87, 07.1

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費補助金萌芽研究 [代表者], ナイジェリアの精神保健福祉への包括的地域ケア・アプローチの適応に関する研究, 2003年度~2005年度(3年間), 310万円
龍谷大学国際社会文化研究所 [分担者], サハラ以南のアフリカの精神保健, 2004年度~2005年度, 60万円
本学研究所 助成金 [分担者], 人権と社会正義に基づく社会開発・ソーシャルワーク-アジア・オセアニアの現状と日本との比較検討, 2006年度, 130万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年度から2006年度の研究活動については、①ナイジェリアの精神保健福祉、②精神障害者の包括的地域ケア、③イギリスのソーシャルワーク、の3つのテーマを中心に行った。
①については、ナイジェリア精神保健福祉に関する研究テーマで科研費が採択され、その研究成果として著書を出版した。
②については、みなとネット21(NPO法人)のメンバーとして実践活動に携わりながら、論文、書籍等でその実践研究成果を発表した。
③については、『ソーシャルワーク研究』において、年4回、British Journal of Social Workの書評を掲載している。その他、社会福祉および精神保健福祉を学ぶ学生を対象とした書籍(テキスト)も何冊か出版した。
以上のことから、過去5年間の研究活動については、自分なりに評価できるものと考えている。今後は、数ではなく、質の上での向上を目指していきたい。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年4月~2006年3月(前任校)では、学内運営活動には積極的に関わってきた。例えば2005年度は7つの委員会に所属し、そのうちの2つの委員会の委員長を務めていた。広報活動においても、高校での模擬授業(年3~4回)、高校生を招いての体験学習、オープンキャンパスでの模擬授業なども行っていた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2000年7月~ 『ソーシャルワーク研究』編集協力員
2001年3月~2003年3月 NPO法人「みなとネット」理事
2003年5月~2006年3月 社会福祉法人「なごみ」評議員

■ 主な社会活動(過去5年間)

NPO法人の理事(2001年～2003年)、社会福祉法人の評議員(2003年～2006年)を務めていたが、勤務先が変わったため、現在は継続していない。今後は、地域社会への活動にも力を入れていきたい。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 国際社会学、国際政治理論
- 研究課題1 開発における人権の役割
 - 2 グローバル社会における公共空間と民主主義
 - 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、NGO・NPO論、人権論、キャリアを考える、専攻ゼミ(Ⅱ)、市民のための現代社会・政治
大学院 社会学特殊講義(Ⅳ)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2000年度～現在 面談を積極的に行うためインターネット上で予約可能なシステムを実現、年間50-100回ほどの個別面談をゼミ学生に限らず実施している。
- 2002年度～現在 フィールドワーク主体の授業方法を検討、ゼミ、多文化フィールドワークなどの授業で実践した。学生のモチベーション、問題意識の向上などの成果を得ている。

■ 授業評価への対応

- 2002年4月～現在 学生の理解度に合わせて進度を変えた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 『平和学をはじめ』(晃洋書房、2002年)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] ◎池尾靖志・山岸尚之・松田哲・菊地真理, 平和学をはじめ, 晃洋書房, 300pp., 02.7
- [共著] ◎吉川元・三上貴教・土佐弘之, 国際関係論を超えて, 山川出版, 280pp., 03.6
- [共著] ◎江橋崇・山崎公士・金子国筐, 人権政策学のすすめ, 学陽書房, 230pp., 03.6
- [共著] ◎金東勲・中井伊都子・金子匡良・野沢萌子, 人権保障の新たな展望?国内人権機関の機能と役割, (財)アジア・太平洋人権情報センター, 200pp., 04.3
- [共著] ◎馬橋憲男・臼井久和, 新しい国連・冷戦から21世紀へ, 有信堂, 260pp., 04.4
- [単著] グローバル民主主義の地平 -アイデンティティと公共圏のポリティクス, 法律文化社, 250pp., 05.1

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 情報と人間の安全保障 -地球的公共圏モデルから見た情報技術の役割, 平和研究 第28号, 50-59, 02.11
- [単著] 地球社会の統合の行方 -世界銀行の環境社会配慮基準形成と地球的公共圏の役割, 法政理論 第36巻3・4号, 82-112, 04.3
- [単著] 地球社会におけるシステム媒介統合の作用 -世界銀行の形成過程から, 神戸女学院大学論集 第50巻第3号, 59-70, 04.3
- [単著] 開発協力における人権に基づく開発アプローチ(RBA)の可能性 -対カンボジア援助政策の検討より, 神戸女学院大学論集 第51巻第2号, 83-102, 05.7
- [単著] マルチチュード・複雑な世界における変革の主体を求めて, 国際政治 第143号, 155-164, 05.11
- [単著] 参加・エンパワメントと人権 -「人権に基づく開発アプローチ」の付加価値の検証-, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 149-164, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

人権に基づくアプローチによる開発協力における市民社会組織の役割, 第17回国際開発学会全国大会「開発と人権」分科会, 東京大学本郷キャンパス, 06.11.26

■ その他(2006年度)

ミレニアム+5サミットとミレニアム開発目標, 部落解放増刊号・人権キーワード2006, 解放出版社, 116-119, 06.6
ODA実施体制の「改革」, 部落解放増刊号・人権キーワード2006, 解放出版社, 164-167, 06.6
人権と法・民主主義, 部落解放 2006年10月号, 解放出版社, 14-19, 06.10

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], 神戸女学院大学における『キャリア教育』のあり方に関する調査研究, 2004年度, 68万8000円
本学研究所 研究助成金[代表者], カンボジアへの開発援助における人権配慮の役割, 2004年度, 20万円
国際協力基金[代表者], 国際協力機構総合研修所客員研究員, 2005年度, 100万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

これまでのグローバル社会の政治理論に関する研究をまとめ、博士号を2005年に取得、同年単行本として出版した。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

アカデミックハラスメントガイドラインの策定を同検討委員会の委員長として進めた。ボランティア・サポート委員会の設置を働きかけ、実現した。キャリア教育委員会の委員として、インターンシップ制度の制度化を行った。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 06.6.24 「国際社会は北朝鮮の人権問題をどう見るか -第7回北朝鮮人権・難民問題国際会議に参加して」 アムネスティ・ジャパン・関西連絡協議会
- 06.7.2 「国際社会は北朝鮮の人権問題をどう見るのか -第7回北朝鮮人権・難民問題国際会議に参加して」 アムネスティ・ジャパン
- 06.7.5 「脱心でっかちの人権論」 西宮市人権講座
- 06.9.21 「脱『心でっかち』の人権論 -思いやりでは人の権利は守れない」 京都人権文化講座
- 06.10.28 「人はなぜ人権を発明したのか…女性の権利が必要なわけ」 神戸女学院大学女性学インスティテュート・学外講演会
- 07.2.21 「教育における人権の役割」 大阪女学院大学研修会
- 07.2.24 「ODA政策をどのように変えるのか」 関西NGO協議会・ODAセミナー
- 07.3.4 「人権としてのパブリックサービス通訳・通訳における人権」 パブリックサービス通訳学会

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

- 2002年4月～ (特活) 関西NGO協議会 提言専門委員会委員
- 2003年8月～ (特活) 「環境・持続社会」研究センター 理事
- 2003年10月～ (特活) AM-ネット 監事
- 2004年4月～ (財) アジア・太平洋人権情報センター 企画運営委員
- 2004年6月～ (特活) メコンウォッチ 監事
- 2004年9月～2006年8月 国際協力機構環境社会配慮審査会
- 2005年4月～ NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会 世話人
- 2005年4月～ 西ノ宮人権同和教育協議会
- 2006年10月～現在 日本貿易振興会環境社会配慮ガイドライン改訂委員会

■ 主な社会活動(過去5年間)

NPOの役員および国際協力機構、日本貿易振興機構などでの公益に関わる業務を行った。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 日本古典文学
- 研究課題1 中古中世和歌文学における題詠のあり方
 - 2 中古中世和歌文学と漢籍との関連性
 - 3 歌題集成書の成立と展開

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 文献ゼミ、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、日本文学講読(I)、教育実習II、日本語(I)漢字、基礎ゼミ、日本文化・文学入門
- 大学院 日本文学特殊講義

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2005年度『大学生のための日本語表現実践ノート』(共著・風間書房)を作成し、基礎ゼミや専攻ゼミIの導入部分で使用。基礎的な日本語運用能力の向上をはかり、「読む」「書く」「話す」の三領域のバランスを意識しながら、総合力を高めるよう指導をおこなった。
- 2005年度～現在 文献ゼミでは、文学部リサーチルームの協力を得て、スキャナーを使用した発表資料作りを課し、受講生がOS機器への扱いに習熟するよう指導した。基礎ゼミでは、全員の高等発表を行い、そこで得た課題をレポートにまとめるという二段階の過程を経ることで、大学での学びの実践を促進した。
- 大学院の講義では最新の学会発表や刊行物の内容を摂取し、「学問の今」を伝えるよう努力した。

■ 授業評価への対応

- 2005年～現在 学生が予習にかかる時間が不足していると考えられた「日本文化・文学入門」では、初回講義時に、詳細なシラバスを配布し、予習しやすい環境作りを心がけた。
- 2005年～現在 授業時に使用するプリントは前の時間に配布し、予習を促した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 『大学生のための日本語表現実践ノート』(共著、米田明美・蔵中さやか・山上登志美、風間書房、05.4)
- 田中登・山本登朗編『平安文学研究ハンドブック』(和泉書院、04.5)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの, 冬弓舎, 02.12
- [共著] 藤岡忠美先生喜寿記念論文集刊行会 編, 古代中世和歌文学の研究, 和泉書院, 「古き詞」へのいざない-『和歌一字抄』、『袋草紙』証歌群をめぐって-, 219-236, 03.2
- [共著] 片山享 編, 日本文芸論叢, 和泉書院, 「建礼門院右京太夫と隆信の「むさしあぶみ」-『伊勢物語』歌詞の展開-, 03.3
- [共著] 井上宗雄・中村康夫・妹尾好信・蔵中さやか・古瀬雅義・日比野浩信・田野慎一・安道百合子・松本智子, 校本『和歌一字抄』付索引・資料, 風間書房, 本文編(p.895)・索引資料編(p.249), 04.2
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎, 05.1
- [共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの 増補改訂版, 冬弓舎, 新項目執筆, 06.3
- [共著] 文集百首研究会 編, 定数歌・百首歌全訳叢書 文集百首全訳, 風間書房, 591pp., 07.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著]『勅撰一字抄』・『和歌一字抄』共通歌一覧稿, 神戸女学院大学論集 第49巻第2号, 1-33, 02.12
- [単著] 建礼門院右京大夫の詠作手法-表現摂取という視点から-, 神戸女学院大学論集 第52巻第2号, 1-18, 05.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 国文学研究資料館平成14年度共同研究[研究分担者]代表:井上宗雄[分担者], 増補本『和歌一字抄』に関する研究情報の出版公開, 2002年度, (総額) 68万8000円
- 日本学術振興会平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費[分担者], 『校本『和歌一字抄』付索引・資料』刊行経費補助, 2003年度, 651万3000円
- 本学研究所 総合研究助成金[分担者], 近世俳句文化の研究と英訳, 2003年度, 85万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

- 藤原清輔撰『和歌一字抄』(含、増補本)、慈円・定家・寂身による「文集百首」に関する研究を、それぞれ共同研究の形で実施。その成果(校本、諸資料の作成、注釈等)を出版の形で公開した。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2004年度から2006年度まで学生主事として活動。

学院カレンダー委員としてカレンダー作りに参画。

日本語教員養成課程連絡委員会委員として活動。新たな実習先(神戸YMCA専門学校)を得るとともに、これまでの実習先との関係維持に努めた。見学先として複数の日本語教員現場の理解を得た。

その他、学科内の各種委員の職務にも積極的に取り組んだ。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2001年4月～現在 中古文学会 関西部会運営委員

2006年11月～現在 和歌文学会 委員

■ 講演(2006年度)

06.6.22 「『源氏物語』須磨・明石巻の受容」 兵庫県高齢者いきがい創造協会 いなみの学園

06.9.30 「新古今時代における『源氏物語』受容」 大学連携ひょうご講座

06.11.4 「浮舟への憧憬 -『建礼門院右京大夫集』より-」 大学連携ひょうご講座

06.11.30 「『源氏物語』世界の受容 -『建礼門院右京大夫集』の場合」 兵庫県高齢者いきがい創造協会 いなみの学園

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会理事として活動。特に「めぐみ会奨学金」の仕事に関わった。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 中国近代史
- 研究課題1 中国近代の経済
- 2 上海の都市社会史
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 基礎ゼミ、アジア史研究、日本語教授法(Ⅱ)(日本語教育内容論)、西宮市大学交流センター科目、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、文献ゼミ、日本アジア関係史、地理歴史科教育法
- 大学院 文化基礎論(Ⅱ)、比較文化学合同研究A

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[単著] 中国の開港と沿海市場 -中国近代経済史に関する一視点, 東方書店, 06.2

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] 19世紀中葉、上海における豆規銀本位制の成立について -中国在来の地域通貨金融機構の一考察-, 東洋学報 第84巻 第3号, 02.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

コメンテーター: 中国現代史研究会特別例会(東京東洋文庫との研究交流会)「山東に関する地域史研究」, 立命館大学, 04.1

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 出版助成金 [代表者], 中国の開港と沿海市場, 2005年度, 93万9000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年～ 中国現代史研究会『現代中国研究』編集委員

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 倫理学
- 研究課題1 古代ギリシア倫理思想
 - 2 ヨーロッパ中世倫理思想
 - 3 現代応用倫理学

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、哲学、倫理学、哲学入門、文献ゼミ
大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月1日～現在 毎回の講義の終わりに出席した学生に講義に対するコメントや質問を書いてもらい、次回に教員がコメントをつけて返却した。とりわけ大事なコメントや質問に関しては次回の講義の際に取り上げ、説明を行った。
- 2006年4月1日～現在 古代ギリシアに関する具体的なイメージを学生が持てるように、写真やビデオなどの映像を用いた講義を行った。

■ 授業評価への対応

- 2002年4月1日～現在 各学期の最終の時間に授業評価の結果について学生たちに公表し、その上でさらに意見を求めた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月1日～現在 毎回の講義時には原則としてその講義のレジュメを配付した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 自由の創設, 神戸女学院大学論集 第49巻第3号, 51-67, 03.3
- [単著] プラトンの体育論序説 -Respublica III, 403c9-412b1, 女性学評論 第17号, 37-53, 03.3
- [単著] プラトン『国家』における《意欲すること》の諸相, 西洋古典学研究LII, 45-56, 04.3
- [単著] Logos between the Lawgivers and the Guardians in Plato's Republic, Skepsis, XV/ii-iii, 442-451, 04
- [単著] ソクラテスと他者をめぐるとの覚え書き, 平成16年度、平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 62-81, 06.3
- [単著] ソクラテスの対話における《他なるもの》, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 53-64, 06.12
- [単著] ペトルス・アベラルドゥス『倫理学』における「同意」, 神戸女学院大学論集 第53巻第3号, 23-38, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

アベラルドゥス『倫理学』における「同意」, 第190回京大中世哲学研究会, 京都大学, 06.11.4

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], リベラル・アーツの自己解析的再検討, 2002年度, 90万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 日本の近代化と神戸女学院, 2003年度, 85万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年度からプラトンの『国家』に関する集中的な研究を行い、学会発表を3度行い、学術論文を2つ公にした。これはプラトンの政治思想や倫理思想に関する従来の見方の変更を迫るものであり、有意義であった。また2005年度以降、新たにソクラテス研究とアベラルドゥス研究に取り組み、それぞれ口答発表と論文により研究の一端を公にすることができた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002年度および2003年度には学生主事を務め、他に毎年のように学科の各種委員を務めた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)

- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 言語学、音声学、日本語教育
- 研究課題1 日本語のプロソディー(リズム・アクセント・イントネーション)の一般化
- 2 音声現象の他言語との対照
- 3 音声基礎研究の日本語教育への応用

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、日本語教授法(Ⅱ)(日本語教育内容論)、日本語(Ⅰ)文法・作文、日本語学研究(Ⅱ)、教育実習Ⅱ、日本語(Ⅱ)読本、文献ゼミ、日本語教授法(Ⅰ)(日本語教育概論)

大学院 日本語学

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2004年4月～現在 専門的内容の説明にも、なるべく身近な内容から話を始めるように工夫した。

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●2004年12月 『教養教育は進化する』(冬弓舎,2004)で「教養教育としての日本語教育」を執筆

●2004年4月 神戸女学院論集(2004)に「教育における興味と達成感」執筆。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈り物, 冬弓舎, 306pp., 02.12

[共著] 神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 教養教育は進化する, 冬弓舎, 253pp., 05.1

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] 日本語における短縮語形成とアクセント, 日本言語学会第125回大会発表論文集, 115-122, 02.11

[単著] 特殊モーラ階層の二面性とアクセント: 外来語アクセントにおける長音と撥音のふるまい, 平成15年度科研基盤研究成果報告書『プロソディーの普遍性と個別性に関する研究(2)』, 105-112, 04.3

[単著] 初中級文型とイントネーション教育: 否定文型のアフォーカス, BATJ(British Association for Teaching Japanese as a Foreign Language) Journal 5, 98-109, 04.11

[単著] 日本語におけるリズム・アクセントの「ゆれ」と音韻・形態構造, 神戸大学大学院文化科学研究科博士学位論文, 172pp., 05.9

[共著] ◎田淵里奈・田中真一, 「あるよ」「ないよ」が「非難・不満の答え」に関こえるイントネーション: 広東語を母語とする日本語学習者による発話の分析, 『日本音声学会80周年記念大会・第20回全国大会予稿集』, 105-110, 06.10

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

アクセント付与における音韻・形態構造の関わりについて, 関西言語学会26回大会, 甲南大学, 06.5.22-23

「あるよ」「ないよ」が「非難・不満の答え」に関こえるイントネーション: 広東語を母語とする日本語学習者による発話の分析, 日本音声学会第20回全国大会, 順天堂大学, 06.9.30-10.1

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B) [代表者], 日本語音声教育に向けてのリズム・アクセント・イントネーションの基礎的研究, 2001年度～2003年度(3年間), 150万円

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(2) [分担者], プロソディーの多様性と普遍性に関する総合的研究, 2003年度～2005年度(3年間), 130万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2003年度～2005年度にかけて、博士論文の執筆に専念した。したがってその他の分野では多くの研究成果はあがっていない。2006年度から、学会発表や論文投稿を精力的に再開した。その成果が2007年度以降の業績に反映されるはずである。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

日本語教員養成課程連絡委員会の委員長として、同課程の運営に携わった。また、入試広報(パンフレットその他)の取材に積極的に協力した。学生主事として、学生生活の支援に関わった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年4月～9月 日本言語学会 夏期講座準備委員
2005年4月～現在 日本音声学会 庶務委員
2006年8月～現在 日本音韻論学会 事務局(書記)

■ 講演(2006年度)

06.4.4 「日本語の音:ことばとの結びつき」 神戸女学院大学春季公開講座

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 イギリス文学
- 研究課題1 ユートピア文学
- 2 イギリス・ロマン派
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、文献ゼミ、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、対話-音楽から広がる知の世界、外国語セミナー(英語II)、イギリス研究、英米文化・文学入門

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度～2003年度「ネットワーク・コミュニケーション」(2002年度～2003年度)の授業では、パーソナル・コンピュータを用いたコミュニケーション(メール、Webメール、メーリング・リスト、チャットなど)を指導した。普通教室に無線LANを導入し、学生にノート・パソコンを持たせることで、モバイル・コンピューティングの実践も行った。
- 2004年度～現在「イギリス研究」(2004年度～2006年度)の授業では教科書に代わるものとして、毎回A4、6ページ程度の講義プリントを作成し配布した。講義ではOHP、DVDなど多様な視覚的資料を用いて、学生の理解の一助とした。また記述式の小テスト(クイズ)を頻繁に行い、次の授業で一部を紹介しつつコメントし、一方的な講義にならないように留意した。
- 2005年度～現在「文献ゼミ」(2005年度～2006年度)の授業では、グループによる発表が中心であったが、小論文(エッセイ)を課し、毎回添削し、翌週には一部を紹介し、コメントした。学生たちが互いの文章から学べるよう、また授業が双方向的なものとなるように留意した。

■ 授業評価への対応

- 2002年～現在 2002年以降、すべての授業で授業評価アンケートを実施し、評価結果については学生に報告している。学生からの自由記述による評価、要望については、多数にのぼるクラスについてはプリントにして配布し、少数のクラスについては口頭で紹介し、こちらの意見などを伝えている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004年度～現在「イギリス研究」の講義プリントを全て作成している。毎回、A4で6ページ程度。
- 2004年度「文化の翻訳」(比較アニメ論)の全授業の講義プリントを作成した。各回A4で4ページ程度。
- 2002年度～2003年度「ネットワークコミュニケーション」の全授業の講義プリントを作成した。Web上にHTML版の用語集、基礎知識などを公開した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著]神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの, 冬弓舎, 273+x pp, 105-109, 255-259, 266-270, (「サブカルチャー」「ユートピア」「リテラシー」), 02.12
 [共著]神戸女学院大学文学部総合文化学科 編, 知の贈りもの 増補改訂版, 冬弓舎, 306+xi pp., 137-141, 288-292, 299-303, (「サブカルチャー」「ユートピア」「リテラシー」), 06.3

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

書評: 佐藤八寿子『ミッション・スクール あこがれの園』, 女性学評論 第21号, 神戸女学院大学女性学インスティテュート, 139-144, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

近年は研究活動はまったくと言ってよいほど停滞している。研究より教育の方に時間を割いていることが理由の一つである。総合文化学科では専門の分野以外の科目を多数担当してきたため、それらの準備にかなりの時間を当てなければならなかった。担当科目も限定されてきたので、今後は研究にも精を出したいと思う。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

総合文化学科の比較的若手教員による委員会、『女性学評論』編集委員、連絡協議会など、上記にカウントされない委員会での活動はあった。最近では選挙で選ばれる委員はあまり担当していないが、それ以外の学内活動は比較的良好であると思う。

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)

- 講演(2006年度)

- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)

- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 ソーシャルワーク、社会開発、社会調査
- 研究課題1 人権と社会正義に基づくソーシャルワーク実践の日豪比較研究
 - 2 滞日アジア女性の医療と子育て支援
 - 3 若者の性感染症予防プログラムの開発と有効性の検証

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、文献ゼミ、専攻ゼミ(Ⅰ)、専攻ゼミ(Ⅱ)、社会調査計画法、キャリアを考える、社会調査実習、社会調査入門
大学院 社会学特殊講義(Ⅱ)、修論指導

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2004年度～現在(本学着任は2004年) 社会調査入門教育において、少人数・双方向のクラス運営を心がけ、そのための教材開発を行った。
- 2006年度～現在(本学着任は2004年) 文献ゼミのクラスを、シチズン・リテラシー向上の場と位置づけ、体験型学習を取り入れておこなった。具体的には、独自教材の開発と市議会傍聴の体験学習である。
- 2005年度・2006年度 「自然と人間」のクラスにおいて、担当回でさまざまな社会問題の被害当事者を招聘し、学生との対話を試みた。

■ 授業評価への対応

- 2004年度～現在(本学着任は2004年) 双方向性を重視したクラス運営が評価を得ているため、引き続き参加型学習の徹底に努めた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2004年度女性学インスティテュート主催の連続講演において、「ピア・エデュケーションによる性教育」について講演を行った。
- 2006年度教育開発センターの教員研修活動、「神戸女学院の教養教育」において、学生の意識調査の実査部分を企画し、その分析を担った。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2004年度専攻ゼミ生を、神戸で開催された国際エイズ学会の関連諸活動に参加させた。具体的には、NGOスタッフとの対話や地域開発に関するシンポジウムへの参加である。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 平野智之・菊地栄治, るるくていこう!: 総合学習時代のピア・エデュケーション, 学事書房, 255pp., 03.1
- [共著] ◎加茂陽 他, 日常性とソーシャルワーク, 世界思想社, 03.1
- [共著] ◎加茂陽 他, 支援論の評価と吟味(「被虐待児童への支援論を学ぶ人のために」), 世界思想社, 288pp., 06.5

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 薬害エイズという経験: 未来につなぐために, 輸入血液製剤によるHIV感染問題調査報告: 第1次報告書, 14-17, 03.6
- [単著] 「クレイム申し立て」を行わない人々: 女子学生の「恋愛観」から考える若い女性のエンパワーメント, 女性学評論 第19号, 183-194, 05.3
- [単著] 包括的性教育の推進を阻むジェンダー・フリー教育バッシング, 女性学評論 第20号, 21-38, 06.3
- [単著] 血液凝固因子製剤によるHIV感染がもたらした血友病治療医コミュニティの変容, 輸入血液製剤によるHIV感染問題調査報告: 第3次報告書, 21-38, 06.3
- [単著] フィリピン・マニラにおける諸大学視察レポート, 女性学評論 第21号, 123-128, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

- DV関連イベント参加レポート: 「親密な関係における暴力: アメリカの研究は日本に適用出来るのか?」, COSMOニュースレター 第29号, The Community of Supporting Members Osaka, 06.6
- シンポジウム記録: 「薬害エイズ調査からの報告」, ネットワーク「医療と人権」ニュースレター 第14号 フォーラム報告特別号「命を育む思想」, ネットワーク「医療と人権」, 161-180, 07.3
- 日豪クロストークセッション: 「人権と社会正義に基づく社会開発とソーシャルワーク」報告集, 神戸女学院総合研究助成報告書, 57pp., 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B) [代表者], 当事者参加型リサーチによる滞日外国人コミュニティの開発, 2002年度～2004年度(3年間), 950万円
- 日本学術振興会研究費補助金基盤研究(B) [研究分担者] [分担者], 被害当事者・家族のライフストーリーの社会学的研究: 薬害HIV感染被害問題を中心に, 2006年度, 38万円
- 日本学術振興会 [代表者], 日本学術振興会海外研究者招聘事業(短期), 2006年度, 招聘者交通費・滞在費全額本学研究所総合研究助成金 [代表者], 人権と社会正義に基づく社会開発とソーシャルワーク, 2006年度, 130万4000円

本学女性学インスティテュート 研究助成金 [代表者], フィリピン・マニラにおける女子大学との連携可能性について, 2006年度, 10万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年度までは、他大学に在籍していた。2001年度から3年間にわたって社会福祉学領域で科研費が採択され、代表研究者を務めた。その間、2003年～2004年にかけてはフルブライト研究員としてアメリカに滞在、「若者の性感染症予防プログラム」に関する日米比較研究を行った。その後、本学に移籍し、2006年度に学術振興会海外研究者招聘助成を受け、オーストラリアから研究者を招聘し、社会福祉領域において日豪共同研究を行った。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

在職年数が現在で4年目であるため、あまり大学の運営や広報に携わる機会はなかった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2006年8月～現在 the Editorial Board of the Journal of Social Work Education

■ 講演(2006年度)

06.10.15 「薬害エイズ調査からの報告」フォーラム「薬害と医療」
06.11.25 「HIV感染者のQOL」QOL研究会

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2006年11月～現在 厚生労働省エイズ戦略研究運営委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

2001年度より滞日外国人医療支援NPO“Center for Health and Rights of Migrants”の理事を務める。また、2006年度より、厚生労働省のエイズ戦略研究運営委員を務め、国家施策としてのエイズ予防戦略研究のプログラム評価を行っている。さらに、2006年度から the Journal of Social Work Education誌のアジア地区編集委員となる。講演については、本学女性学インスティテュートの連続講演(2004年度)で講演を一度行っている。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 法学
- 研究課題1 国際人権法による男女平等の保障
- 2 女性に対する暴力の防止と被害者保護における法の役割
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 基礎ゼミ、文献ゼミ、専攻ゼミ(I)、専攻ゼミ(II)、国際法、女性と司法、法律学/法律学(国際法を含む)、家族と法、現代社会と法、自然と人間、女性学(実践編)

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2005年4月1日～現在 授業の理解を深めるために、判例評釈、法令解説など関連資料を配布したり、授業のテーマに沿ったビデオを使用したりした。

■ 授業評価への対応

●2005年4月1日～現在 学生が毎回授業の終わりに提出するコメントカードに記載された質問に次回の授業のはじめに答え、学生の理解を深めるように心がけた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2005年11月1日～2006年3月15日 一般向けの教材作成として、大阪府の作成する中高生向けに女性差別撤廃条約を解説したマンガの冊子を監修した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] ◎吉田容子・戒能民江・大津恵子・武藤かおり・上内鏡子・斉藤百合子・藤本伸樹・青木理恵子・玉井桂子, 人身売買をなくすために受入大国日本の課題(第2章1), 明石書店, 216pp., 72-90, 04.1

[共著] 青木理恵子・稲葉奈々子・ゆのまえ知子・斉藤百合子・藤本伸樹, 日本における人身売買の被害に関する調査研究報告書(第1章-3、第5章-1、巻末資料-解説(1)), 人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)/お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア(F-GENS), 152pp., -12,84-89, 05.3

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] 国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約を補足する人身売買、特に女性および子どもの人身売買を防止し、抑止および処罰するための議定書」採択と日本の取組み-人身売買の処罰と被害者の保護を中心として, 研究紀要 第10号, 179-201, 05.3

[単著] 人身売買防止のための国際条約, 自由と正義 第56巻, 93-99, 05.12

[単著] 女性の昇格・賃金差別訴訟における女性差別撤廃条約の適用, 女性学評論 第20号, 1-19, 06.3

[単著] 人権の視点から人身売買の被害者保護・支援を検証する, アジア・太平洋人権レビュー 2006, 21-27, 06.6

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

講演記録:「男女共同参画に向けての社会制度・慣行の見直しのために」, しまねの男と女 第21号, しまね女性センター, 2-6, 06.11

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

トヨタ財団 [分担者], 人身売買被害者支援の連携の構築-地域・国境を越えた支援に向けて, 250万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 人権と社会正義に基づく社会開発とソーシャルワーク, 2006年度, 130万4000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

研究論文の発表に加え、他大学の研究共同プロジェクトに参加し、成果物を公表することができた。研究成果に基づいてNGO主催のシンポジウム、地方公共団体主催の人権講座、研修などで国際社会における人権保障の取組み、国内外の女性に対する人権侵害の状況等について、より多くの人に情報を提供し、ともに考える機会を提供することができた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

女学院の大学案内にゼミ紹介を掲載し、オープンキャンパスでは模擬授業を行うことができた(2006年度)。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 06.4.15 「人身売買って何？その実態と被害者支援」名古屋YWCA多目的ホール
- 06.5.18 「人権問題」奈良県職員研修
- 06.7.26 「なぜサポートが必要か？」弁天町市民学習センターDV講座
- 06.9.2 「知ろう！活かそう！男女共同参画の法律・制度 ～条約・憲法・基本法のココロ～」しまね女性センター市民講座
- 06.11.9 「女性差別撤廃条約と基本法」東大阪市イコーラム市民講座
- 07.2.2 「大学におけるハラスメントの防止について」滋賀大学教職員研修
- 07.3.3 「女性の人権について」八幡市南ヶ丘隣保館人権講座
- 07.3.27 「国際人権について」茨木市新人研修

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

- 1998年4月～2006年3月 京都市精神医療審査会委員
- 2000年4月～2006年3月 城陽市女性行動計画「さんさんプラン」推進懇話会委員長

■ 主な社会活動(過去5年間)

京都市精神医療審査会委員および城陽市女性行動計画「さんさんプラン」推進懇話会委員長を2006年3月31日まで務めた。また、市民団体である「DV被害女性と子どもをサポートする会・COSMO」の設立共同代表を2007年3月31日まで、人身売買禁止ネットワーク「JNATIP」の運営委員については現在に至るまで務め、サポート活動および社会啓発活動を積極的に行っている。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 Piano Music
- 研究課題1 Russian Music
 - 2 Music by N.K.Mdtner
 - 3 Music by P.I.Tchaikowsky and A..N.Scriabin

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 ピアノ実技(専攻)
- 大学院 ピアノ実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●As usually, I thought about the individual development of my students, about the pieces which they need to play and which they better avoid playing at the exams, about the enlargement of their horizons, of the rise of their cultural level. I studied the pieces which they were playing, I read many books about the composers and music, about teaching, listened to many different recordings and recommended my students to listen to them, gave them CDs. I often go to the theater, to the concerts, to the exhibitions, visit museums and often I share my impressions with my students. But the main thing is that I do not permit them to play badly. They should respect music. (and love it.)

■ 授業評価への対応

●There was no necessity to respond. My students do not need to write me anonymously, we are always talking very frankly. I am teaching individually, I am not teaching groups.

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●I am teaching since 1966. I love music and my work and I have some experience. But, of course, as all human beings, I can do mistakes in teaching. We are learning from our mistakes and we are always learning, even teaching. There are 3 things I would like to say. First, the composer and the music need respect, the piece should never be played not well enough. Second, the teacher is responsible of the way his student is playing. The teacher can not teach every note (and he should not do it), but he should teach basic things of playing: polyphony, sound, phrasing, balance, flexibility, sense of structure, expressivity, style, using of the pedal, but the piece should correspond to the student's capacities and both the teacher and the student should work very hard. The bad performance (I mean bad, not not enough good) is an act of vandalism, destroying of art.

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] CD: "Boris Bekhterev-I bis-the encores"(Pieces by Mozart, Beethoven, Schubert, Chopin, Liszt, Tchaikowsky, Rachmaninov, Prokofiev, Ravel, Debussy.), Phoenix Classics, Total Time: 79:07, Recording: 03.3
- [単著] CD: "Medtner Piano Sonatas and Fairy Tales", Camerata Tokyo, Total Time:79:06, Recording: 04.10
- [共著] CD: Scriabin "Sonatas, Preludes and other pieces", Camerata Tokyo. Inc, Recorded 06.11.7-8, Issued 07.2

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- Music by Mozart, Liszt, Debussy: Piano Recital for KC teachers and students, KC Music department Concert Hall, 02.6.28
- H. Wolf: "Verbonntheit" etc.(Wolf, Tchaikowsky, Japanese Songs), Recital with Soprano Harumi Okada, Osaka, Imperial Hotel, Chapel, 02.10.18
- F. Liszt: Mephisto-Walzer N3 etc., Piano Recital, Portugal, Leiria, Teatro da Sieva, 02.11.28
- F. Liszt: Mephisto-Walzer N3 etc., Piano Recital, Italia. Montebelluna, Il Teatro civico, 03.3.7
- W.A.Mozart: Kegelstadtrio etc., Concert of Trio with G.Babuadze(violin) and Z.Gogua(viola), Kawachi-Nagano Lovely Hall, 03.5.24
- W.A.Mozart: 2 Concerti for 2 Pianos and Orchestra, Concert with Yoko Ikeda(piano) and Mozart Chamber Orchestra, Osaka, Izumi Hall, 03.5.31
- J. Brahms: Haydn-Variations op.56 for 2 Pianos etc., Concert with colleagues-prof.Otogawa, Yamagami, doc.Sassa, KC KODO, 03.6.14
- F.Schubert: Impromptus op.142-1,3, A concert, dedicated to the memory of the pianist Naoyuki Inoue, Nishinomiya, Mukogawa University, Music Department Hall, 03.7.5
- C.Debussy: "Feux d'artifice", Mini Concert at the Summer Academy, KC Music Department Hall, 03.7.24
- W.A.Mozart: Sonata for 2 pianos K.448, Osaka Autumn Festival, Osaka, Izumi Hall, 03.8.16
- F.Schubert: Impromptus op.142-1,3,4, Puccini "O, mio babbino caro..." etc., "Schubertiade" Solo and with Soprano Tomoko Nakamura, Sasayama, school, 03.9.27

F. Chopin: Variations on a theme by Paganini for Piano, A Concert, dedicated to the memory of the pianist Masahiko Sato. With Yoko Ikeda, Osaka, Phoenix Hall, 03.11.11

N. Medtner: "Mittchen-Sonate" op.25N1, Chapelhour for the KC High School Students, KC KODO, 03.12.8

F.Schubert: "Winterreise"(20 songs), Recital with tenor Yoshifumi Hata, Osaka Higashi Umeda Church, 04.1.10

F.Chopin: Polonaise op.53 P.I.Tchaikowsky "The Nutcracker-Suite" etc., Concert for children (out reach) solo and piano-duo with Prof. Serguei Milchtein, Maiko. Maiko Villa, Ajsai Hall, 04.2.11

N.Medtner: Piano sonatas and Fairy Tales All Medtner programme, Recital for students of KC, KC Music Department Hall, 04.10.8

N.Medtner: Piano sonatas and Fairy Tales All Medtner programme, Recital for some of my students, Nishinomiya-Kitaguchi, Yamaha Shinkyo, Abitex-Room, 04.10.10

N.Medtner: Piano sonatas and Fairy Tales All Medtner programme, Recital, Nishinomiya-Kitaguchi, Yamaha Shinkyo, Opus Salon, 04.10.16

F.Schubert: Fantasie f-moll for Piano, 4 Hands etc., "Schubertiade-Tamba"Piano-duo with the pianist Masahi Katayama, International Music Festival., Tamba, Tamba no Mori Koen Hall, 04.10.31

F.Schubert: "Winterreise"(20 songs), Recital with tenor Yoshifumi Hata, Osaka. Higashi Umeda Church, 05.1.8

H.Wolf: "Mignon" etc., Concert of KC professors, with Mezzo-Soprano Akemi Nishi, KC Auditorium (KODO), 05.6.11

R.Wagner: "Wesendonk Lieder" etc., Recital with Mezzo-Soprano Akemi Nishi, KC Urchin Hall, 05.6.22

P.I.Tchaikowsky: "Valse des fleurs" from "The Nutcracker" for 2 pianos, Chapelhour for the KC High School Students, with Prof. S. Milchtein, KC KODO, 05.7.12

Favorite Japanese Songs "Hatsukoi" etc., 9th Summer Music Festival Osaka, with Soprano Harumi Okada, Osaka, Izumi Hall, 05.8.27

F.Chopin: 3 ecossaises, Tarantella etc., Concert for Children (out reach), KC Auditorium (KODO), 05.10.22

F. Schubert: "Winterreise"(20 songs), Recital with tenor Yoshifumi Hata, Osaka Higashi Umeda Church, 06.1.14

Scriabin: Sonatas NN2,8,9,10 etc., Recital, Nishinomiya-Kitaguchi, Yamaha, Shinkyo, Opus-salon, 06.10.27

Scriabin: 2 Poems op.32-solo, Elgar "Salut d'amour"-with Prof. Naotaka Nishida (flute), Concert, dedicated to the 30th anniversary of Elise-Academy, Kobe, Matsukata Hall, 06.11.19

Scriabin: Sonata-Fantasy(Sonata N2)op.19 etc., Concert, dedicated to the memory of Prof. Y. Milstein, France, Paris, Salle Cortot, 06.12.19

Mozart: Concerto for 2 pianos and orch. K. 365 with Ikeda Yoko and Teleman Chamber Orchestra, Mozart's Piano Concertos, Osaka, Izumi Hall, 07.3.24

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], A subsidy for the recording of the CD "Scriabin-Sonatas, Preludes and other pieces", 2006年度, 50万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

I am studying with a great interest and love. The work of preparing every year a new special programme is hard, but I am happy to do it, because I choose the composer and the pieces for every CD by myself. I am a very lucky person: the critics usually like my recordings, I am working with a very respected and famous recording firm Camerata Tokyo. I am deeply grateful to the research Institute of KC which partly but very generously sponsorizes my work. The artists are rarely completely satisfied with the results of their work. I would like to play some episodes better. But programme is long and time of the recording is limited. The work is done. It's time to study the next programme. My recordings are my tribute to Russia, which literature, art, music I deeply love, the country which gave me the possibility to become what I am, and to Japan, where I happily live and work already for 11 years. I hope that Japanese musicians and music fans will find my recordings interesting, enjoyable and useful.

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

I am sorry, my Japanese is very poor, so I hardly could do more. I try to do my best participating at the work of the committee for elections.

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

Master class organized by IMC at Osaka Shinsaibashi Yamaha Music store 07.2.28

■ コンクールの審査等(2006年度)

Osaka 7th International music Competition, Member of the jury, Ibaraki shi, Create Center Hall, 06.10.6-7,9

Kobe 12th International Students Competition, President of the jury, Kobe, the Hall of the Industrial Promotion Center, 07.1.7-8

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 作曲
- 研究課題1 現代音楽分野の作曲
- 2 合唱分野の作曲
- 3 コンピュータ音楽分野の研究

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 作曲Minor、和声学(Ⅰ)、和声学(Ⅱ)、楽器論、対位法(Ⅰ)、対位法(Ⅱ)、対話、作曲実技(専攻)、作曲実技(副専攻)
- 大学院 作品分析B、作曲実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002.4.1～現在 授業それぞれに応じた進行を考えるようにしている。必修授業科目については要領のよい進行で学生の理解が進むように配慮し、また選択授業科目では自由で面白い授業展開をめざしている。
- 2006.4.1～現在 作曲個人レッスンにおいては、学生作品のよいところをまず認めながら同時に学生が求める指導を押し量り、タイミングよく適切なアドバイスを与える事が最も肝要であると、近年改めて感じている。当たり前の事ではあるが、まずは日々目の前の学生に向き合う、新鮮で前向きな姿勢を心がけている。

■ 授業評価への対応

- 2002.4.1～現在 授業評価アンケートについては、学生からのコメントの記入や、また直接の発言がある場合は特にそれを重視し、迅速に対応するようにしている。
- 2006年度実施 アンケート記述内容によると、授業が丁寧という評価とともに少し説明がくどいとの評価もあった。教室全体の反応に気を配り、全体への説明と個々の学生への対応をタイミングよく組み合わせよう心がけている。また、授業に熱が入り終了時刻が定時を少し過ぎるきらいがあり、学生から指摘があった。時間厳守を心がけている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002.4.1～現在 「対位法Ⅰ」および「対位法Ⅱ」の授業は、この授業のために執筆した自前の教科書『調和するうたと響き-解説と実習 二声対位法-』(1996年4月第1刷、1998年4月第3刷発行 石黒晶著 和歌山印刷所)を一貫して用いている。2002年度より現在までは、この教科書原稿を修正しながら、本からプリント配布に切り替え、さらに補助的問題集を加えながら授業を進めている。
- 2002.10.1～現在 「楽器論」の授業は、この授業のために執筆した自前の教科書『楽器論ノート』(1997年10月第1刷、2001年10月第3刷発行 石黒晶著 和歌山印刷所)を用いている。この教科書を希望学生に配布し、さらに授業には各回レジュメや補助的な楽譜や図版資料を配っている。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 発表 2005.10.12 大学教授会研修会の『導入教育を中心とした教育実践報告』において、「“劇場型”授業」-音楽学科導入教育についての報告-と題して発表を行ない、教育開発センターの同報告集における執筆を担当した。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 授業開始 2004年度前期 2004年度より開設された主題コース科目「対話-音楽から広がる知の世界」の発案企画に携わり、また初年度の授業担当者及びコーディネーターとして運営に関わった。この「対話」は、毎年多くの学生が履修する(2007年度は182名)授業となっている。
- 公演開催 05.11.30 2005年度の舞踊専攻開設記念公演において、音楽学科学生の出演を想定したオープニング作品《CLAPPING!》を舞踊専攻教員と共同制作し、希望参加の学生25名(4年生9名、3年生10名、2年生2名、1年生4名)の練習指導にあたり、自らも共演した。(本学論集 第53巻第1号参照)
- 06.2～現在 直接の指導学生ではないが、本学卒業生や院修了生がコンクール受賞披露コンサート等で石黒作品を演奏するにあたっては、その練習指導を行なう事が多くなってきている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] 楽譜:同声合唱のための《紀州うた拍子》 1. 浜踊り唄 2. 子守唄 3. 子ども遊びうた トンボ〜くすぐり 4. 柿採り唄, カワイ出版, 43pp., 03.12
- [共著] CD:「混声合唱団LOCUS第8回定期演奏会」(2枚), 同合唱団制作, 05.5
- [共著] CD:「三大学女声合唱連盟第21回ジョイントコンサート」, 同合唱団制作, 05.7

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著]《影なす樹々》-オンド・マルトノ&チェンバロ五重奏曲「田園詩」より-, 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 109-119, 03.7
- [単著] 舞台作品共同制作の試み 《CLAPPING!》-Sequences for Two Forms of Percussion-, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 23-48, 06.7

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- 同声合唱のための《紀州うた拍子》より〈浜踊り唄〉〈柿採り唄〉, 和歌山児童合唱団演奏会, Oxnard highschool, California, 02.4.1
 《紀州うた拍子》全曲〈浜踊り唄〉〈子守唄〉〈こども遊びうた トンボ〜くすぐり〉〈柿採り唄〉, 和歌山児童合唱団演奏会, Bakersfield convention center, California, 02.4.2
 《紀州うた拍子》より〈こどもあそびうた〉〈柿採り唄〉, 和歌山児童合唱団演奏会, Chipman junior highschool, California, 02.4.4
 《紀州うた拍子》全曲, 第45回全日本花いっぱい和歌山大会式典, 和歌山市, 和歌山マリーナシティ, 02.4.27
 《紀州うた拍子》全曲, 国際ソロプチミスト和歌山30周年記念式典, 和歌山市, 和歌山ターミナルホテル, 02.5.18
 弦楽三重奏曲《草原のラプソディ》嬉遊曲/夜曲/止まない舞踏 初演, [作曲・編曲], 第6回コンセール・シュプレーム, 名古屋市, 電気文化会館ザ・コンサートホール, 03.3.7
 オンドマルトノ&チェンバロ五重奏曲《田園詩》1.光り映す大気 2.影なす樹々 3.宙を踏み踊り 4.エピソード・祈り 改訂初演, [作曲・編曲], 第6回コンセール・シュプレーム, 名古屋市, 電気文化会館ザ・コンサートホール, 03.3.7
 《紀州うた拍子》より 柿採り唄, 和歌山児童合唱団演奏会45回定期演奏会, 和歌山市, 県民文化会館 大ホール, 03.5.11
 《紀州うた拍子》より 柿採り唄, デンマーク・和歌山合唱祭, 和歌山市, 市民会館 小ホール, 03.8.9
 《紀州うた拍子》より 柿採り唄, The 35th Tolosa International Choral Competition, Tolosa, Spain, 03.10.29
 《紀州うた拍子》より 柿採り唄, トローサ国際合唱コンクール受賞記念報告演奏会, 和歌山市, ビッグ愛 大ホール, 03.12.10
 ソプラノと三人の奏者のための《三つの沖繩の歌》全曲1.シヨカネ 2.宇地泊節 3.京太郎御知行, 『二期会週間2004 第3夜』, 港区, サントリーホール, 04.5.26
 同声合唱のための《紀州うた拍子II》より〈酒造り唄〉 初演, [作曲・編曲], "World Youth Choir in WAKAYAMA", 和歌山市, 県民文化会館 大ホール, 04.8.11
 同声合唱のための《紀伊のこどものうた遊び》より〈ねんねさっしゅり〉, 2004神戸女学院大学 岡田山祭『音楽学部3年生による演奏会』, 神戸女学院講堂, 04.10.30
 歌曲〈つきのひかり〉, 『岡田実里 学内ソロリサイタル』, 神戸女学院音楽館ホール, 04.11.2
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈ねんねさっしゅり〉, 『和歌山県合唱祭』, 田辺市, 和歌山紀南文化会館, 04.11.3
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉《紀州うた拍子II》より〈酒造り唄〉, 『関心流和歌山県本部50周年記念式典』, 和歌山市, 市民会館大ホール, 04.11.20
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, 『和歌山県少年少女合唱団合同演奏会』, 御坊市, 市民会館大ホール, 04.11.23
 無伴奏チェロのための《絃歌三章》全曲, 『まど・みちおと響きあう仲間たち』, 名古屋市, 名東文化小劇場, 04.12.17
 歌曲集《つきのひかり》全曲〈あさつゆ〉〈やまびこ〉〈つきのひかり〉〈ウサギ〉〈カンナ〉〈どうしていつも〉〈木〉 初演, [作曲・編曲], 『まど・みちおと響きあう仲間たち』, 名古屋市, 名東文化小劇場, 04.12.17
 歌曲集《つきのひかり》より〈カンナ〉〜チェロ&ピアノ伴奏編曲版 初演, 『まど・みちおと響きあう仲間たち』, [作曲・編曲], 名古屋市, 名東文化小劇場, 04.12.17
 歌曲集《つきのひかり》全曲《絃歌三章》全曲, 神戸女学院大学音楽学部音楽学科専門研究会『つきのひかり』-東京フィル、黒川正三、本学非常勤講師らによるコンサート-, 神戸女学院オルチン館合奏室, 05.1.11
 歌曲集《つきのひかり》より〈つきのひかり〉〜ハープ伴奏編曲版 初演, [作曲・編曲], 神戸女学院大学音楽学部音楽学科専門研究会『つきのひかり』-東京フィル、黒川正三、本学非常勤講師らによるコンサート-, 神戸女学院オルチン館合奏室, 05.1.11
 六つの無伴奏混声合唱曲《沖繩わらべうた》全曲, 『第8回混声合唱団Locus定期演奏会』, 江戸川区, タワーホール船堀大ホール, 05.2.13
 《紀州うた拍子 I》より〈子守唄〉, 『和歌山県立向陽高等学校合唱部定期演奏会』, 和歌山市, 県民文化会館小ホール, 05.3.21
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, "X International Choir Competition Budapest 2005", Festival Theatre in Budapest, Hungary, 05.3.24
 《紀州うた拍子》全曲, 第20回三大学女声合唱連盟ジョイントコンサート, 葛飾区, かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール, 05.4.29
 和歌山児童合唱団2005年度委嘱作品 同声合唱のための《紀伊のこどものうた遊び》全曲〈七草なずな〉〈もうたんしゅ〉〈ねんねこうた〉〈なんねんぼ〉 初演, [作曲・編曲], 和歌山児童合唱団第47回定期演奏会, 和歌山市, 県民文化会館大ホール, 05.5.1
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, 愛・地球博イベント「スペイン国バスク州ウィーク 和歌山児童合唱団 in 愛・地球博」, 愛知郡長久手町, 愛・地球博会場センターゾーン愛・地球広場とスペイン館, 05.6.17
 《沖繩わらべうた》より〈佐良浜のハイミヤ〉, 第42回京都合唱祭, 京都市, 京都会館, 05.7.1
 混声合唱のための〈丹後の織女〉 初演, [作曲・編曲], 第42回京都合唱祭, 京都市, 京都会館, 05.7.1
 歌曲〈つきのひかり〉, ソプラノとギターによる二人のコンサート, 大阪市住吉区, 木村音楽サロン, 05.7.9
 民謡集《ねんねこ歌つづり》より〈ややこら眠れ〉〈ていんさぐぬ花〉 初演, [作曲・編曲], 神戸女学院大学音楽学部夏期講習ミニコンサート, 神戸女学院大学音楽館ホール, 05.7.23
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, 7th World Symposium on Choral Music in Kyoto, Japan Workshop seminar A, 京都市, 国立京都国際会館大会議場, 05.8.1
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, 広東実験中学校合唱団 in 和歌山, 和歌山市, 市民会館小ホール, 05.8.4
 歌曲集《ねんねこ歌つづり》より〈ややこら眠れ〉〈ていんさぐぬ花〉, 南香代子ソロリサイタル, 神戸女学院大学音楽館ホール, 05.10.18
 《ねんねこ歌つづり》より〈ややこら眠れ〉〈ていんさぐぬ花〉, 成川美術館第3回ハープミニコンサート, 神奈川県足柄下郡, 箱根成川美術館, 05.10.30
 記念公演オープニング作品《CLAPPING!》 初演, [作曲・編曲], 神戸女学院大学音楽学部開設100周年 舞踊専攻開設記念公演, 芦屋市, ルナホール, 05.11.30
 《紀伊のこどものうた遊び》より〈ねんねこうた〉〈なんねんぼ〉, 兵庫芸文センターオープニングシリーズ「コーラスEXPO 2006」, 西宮市, 兵庫県立芸術文化センター大ホール, 06.2.11

〈つきのひかり〉, 兵庫芸文センターオープニングシリーズ「ミュージック・グランプリ・フェスティバル」, 西宮市, 兵庫県立芸術文化センター小ホール, 06.2.12

〈つきのひかり〉, 兵庫芸文センターオープニングシリーズ「ミュージック・グランプリ・フェスティバル」, 西宮市, 兵庫県立芸術文化センター小ホール, 06.2.12

《紀伊のこどものうた遊び》より〈ねんねこうた〉〈なんねんぼ〉, 草津市合唱祭, 草津市, 市民会館アマカホール, 06.3.19

《紀伊のこどものうた遊び》より〈なんねんぼ〉, 和歌山児童合唱団コンサート, 中華人民共和国広東州広州市, 星海音楽ホール, 06.5.15

六つの無伴奏混声合唱曲《沖縄わらべうた》より〈佐良浜のハイミヤ〉, 第42回京都合唱祭(合唱団Aleph), 京都市, 京都コンサートホール小ホール, 06.6.4

混声合唱のための《虹の橋》初演, [作曲], 第42回京都合唱祭(合唱団Aleph), 京都市, 京都コンサートホール小ホール, 06.6.4

歌曲〈つきのひかり〉、民謡集《ねんねこ歌つづり》より〈ややこら眠れ〉〈初恋〉(越谷達之助作曲)、〈歌に生き愛に生き〉(ブッチーニ作曲)、和歌山県師範学校・和歌山大学教育学部附属小学校創立130周年記念同窓会総会 音楽セレモニー, 和歌山市, 和歌山大学教育学部附属小学校体育館, 06.6.17

無伴奏チェロのための《絃歌三章》, 2006年大東文化大学オープンカレッジ 春期講座, 板橋区, 大東文化大学板橋キャンパス, 06.7.1

女声合唱のための《紀伊の国のうた拍子》全曲〈祝い歌〉〈夏の仕事歌〉〈秋のいのこ餅〉〈うたえ歌〉初演, [作曲], 第17回朝日作曲賞本選会, 渋谷区, 国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール, 06.7.13

《沖縄わらべうた》全曲, 紫陽花の会&Chor Tomhet合同演奏会「南国の憂いと喜び」, 江別市, 江別市民文化ホール, 06.7.30

《沖縄わらべうた》より〈アカナー〉(赤田主里殿内)〈三村節〉, 獨協埼玉高校・中学文化祭, 越谷市, 獨協埼玉高等学校・中学校体育館, 06.9.24

独奏マンドリンのための《遙かな古都へ》初演, [作曲], 第2回大阪国際マンドリンコンクール&フェスティバル, 大阪市, ザ・フェニックスホール, 06.10.8

同声合唱のための《紀州うた拍子》より〈子守唄〉, 第48回 近畿音楽教育研究大会全体会(日新中学校合唱部), 和歌山市, 市民会館大ホール, 06.10.31

ソロ・ピアノのための《CODE FOR FLOWERS》初演, [作曲], 演連コンサートOSAKA44 小幡麻紀 ピアノ・リサイタル, 大阪市, いずみホール, 06.11.28

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

執筆:女声合唱のための《秋のいのこ餅》, ハーモニー 2007年春号 第37巻140号, 社団法人全日本合唱連盟, 07.4

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], 「第6回コンセラー・シュプレーム演奏会」での作品発表, 2002年度, 30万円
 本学研究所 研究補助, 「小幡麻紀ピアノ・リサイタル」における作品発表《CODE FOR FLOWERS》, 2006年度, 8万5650円
 本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 総合研究助成「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」, 2006年度, 108万8272円

■ 主な研究活動(過去5年間)

この期間、学外演奏会数、新作発表数ともに年を追って漸増してきている。声楽作品が比較的多いが、その中には合唱コンクール等でくりかえし演奏されたり作曲賞公募で入賞したものがある。
 また作品が学内で再演されたり、本学在学学生や卒業生によって学内外で演奏される機会も出てきている。
 発表作品のいくつかは楽譜出版や専門誌への楽譜掲載やCD制作に発展し、また新作のいくつかは「大学論集」で研究成果として報告している。
 2005年度舞踊専攻開設記念公演や2006年度夏期講習ミニコンサートの新作など、教育や広報とも連携したコラボレーション制作も行ってきた。
 2006年度より本学総合研究「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」に参加している。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2005年度は音楽学科作曲専攻改組において積極的に企画立案にあたり、2年越しの改組実現のために尽力した。
 2006年度は引き続き、新ミュージック・クリエイション専攻のために尽力した。新専攻パンフレットを作成し、作曲部会主任として配布に努力した。配布先については高校や中学にとどまらず、楽器店、音楽教室、合唱団等新たな本学志望者の獲得をめざした。自らの学外演奏会やコンクール、大学夏期講習など全てが広報活動の場でもありと考え、新専攻の案内に努めた。
 2006年度末は音楽学科で単位不足による卒業未了者が多く発生したが、上級生学生主事として学生と保護者への説明および指導にあたった。
 2005年度～2006年度の自己評価委員会では、施設設備小委員会の委員長を務めた。
 また、入試業務のより確実な遂行のために作業手順を工夫提案し、2007年度一般入試(前期)より採用された。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.11.25 「ダンスを感じる音楽がきこえます」 2006年神戸女学院秋期公開講座

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

第28回全日本おかあさんコーラス大会関西支部和歌山大会 審査員, 海南市民交流センター ふれあいホール, 06.6.4
平成18年度和歌山市児童生徒文化奨励賞 審査員, 和歌山市役所, 07.1.26

■ 学外機関委員等(過去5年間)

02.4 ~現在 学校法人みどり学園 理事

04.8.8 平成16年度全日本合唱コンクール和歌山県大会 審査員

05.2.1 平成16年度和歌山市児童生徒文化奨励賞 審査員

05.6.5 第27回全日本おかあさんコーラス大会関西支部和歌山大会 審査員

06.2.2 平成17年度和歌山市児童生徒文化奨励賞 審査員

■ 主な社会活動(過去5年間)

全日本合唱連盟関係コンクール審査、和歌山市教育委員会の奨励賞選考委員が数年続いている。

和歌山市の学校法人理事職は本年より記述するが、これは永年にわたって務めているものである。

2005年度の「7th World Symposium on Choral Music in Kyoto, Japan Workshop seminar A」では自作上演にともない解説を行った。

2006年度には本学の秋期公開講座を担当した(共同)。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

2006年度 第17回朝日作曲賞佳作入賞(朝日新聞社、全日本合唱連盟)

- 専門分野 指揮
- 研究課題1 オペラ指揮・制作
 - 2 指揮、作編曲
 - 3 江戸末期～明治期の洋楽導入

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 管打合奏(Ⅰ)～(Ⅳ)、指揮法、合唱(Ⅲ)・(Ⅳ)、スコア・リーディング
- 大学院 オーケストラ特別実習(Ⅰ)・(Ⅱ)、オペラ特別実習(Ⅰ)・(Ⅱ)、創造芸術特論Ⅱ

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002～現在 「オペラ特別実習ⅠⅡ」では学生の能力・進度に合わせた補助教材の作製(編曲譜など)
- 2002～現在 編曲譜を作製し、教材として使用 「合唱ⅢⅣ」「管打合奏ⅠⅡⅢⅣ」「オーケストラ特別実習ⅠⅡⅢⅣ」「オペラ特別実習ⅠⅡ」
- 2006後期～現在 「指揮法」の授業では、指揮棒の使用についての授業展開を2006後期より開始。

■ 授業評価への対応

- 2006前後期～現在 前年度(前学期)授業評価の印象を授業開始時で触れる。(指揮法)

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 楽譜:ブラームス「ネニエ」女声合唱版, (株)ブレイメン音楽研究所

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- ニコライ:オペラ「ウィンザーの陽気な女房たち」, [指揮], 2002年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 02.6.21
- ベートーヴェン:「エグモント」序曲、小西利佳:「ピアノと弦楽合奏のための音楽」(初演)、プロコフィエフ:「ピーターと狼」、リムスキー=コルサコフ:交響組曲「シェヘラザード」、ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第3番, [指揮], 神戸女学院大学音楽学部第9回サマーコンサート, 伊丹アイフォニックホール, 02.6.25
- ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第3番,ブラームス「ネニエ」, [指揮], 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会, 神戸国際会館こくさいホール, 02.11.27
- ブラームス「ネニエ」女声合唱版, [編曲] 神戸国際会館こくさいホール, 02.11.27
- ロッシーニ:オペラ「セミラミデ」抜粋、ヴェルディ:オペラ「仮面舞踏会」抜粋、ドニゼッティ:オペラ「リータ」抜粋、ヴェルディ:オペラ「椿姫」抜粋, [指揮], 2002年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室 修士演奏会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 02.12.6
- ヘンデル:オラトリオ「ベルシャザール」他, [指揮・編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 02.12.20
- ヘンデル:オラトリオ「ベルシャザール」他, [指揮・編曲], 神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 02.12.20
- ヘンデル:オラトリオ「ベルシャザール」序曲 新オーケストレーション, [編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝および神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 02.12.20
- モーツァルト:オペラ「フィガロの結婚」抜粋, [指揮・チェハロ], 神戸女学院大学音楽学部「舞台表現法」・大学院音楽研究科「オペラ特別演習ⅠⅡ」発表会, 神戸女学院講堂, 03.2.13
- ヴェルディ:オペラ「ファルスタッフ」, [指揮], 2003年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 03.6.20
- 廣瀬量平:フルートオーケストラのための「ブルー・トレイン」、ドニゼッティ:歌劇「ランメルモールのルチア」より「あたりは沈黙に閉ざされ」、ヴェルディ:「オテロ」より「柳の歌」、ラスカ:交響詩「父の愛…パントマイムのためのピエロの物語」(初演) …21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」(大阪大学)協力企画, [指揮], 神戸女学院大学音楽学部第10回サマーコンサート, 伊丹アイフォニックホール, 03.6.24
- 團伊玖磨:オペラ「夕鶴」, [指揮], ニュー・シアターオペラ神戸「夕鶴」公演, 尼崎ピッコロシアター, 03.11.11
- ドニゼッティ:オペラ「連隊の娘」抜粋、ドニゼッティ:オペラ「ランメルモールのルチア」抜粋, [指揮], 2003年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室 修士演奏会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 03.12.3
- フォーレ:「レクイエム」より「Introit et Kyrie」, 「Pie Jesu」, 「Agnus Dei」, 「Liberate me」 「In Paradisum」、チャイコフスキー:オペラ「エフゲニ・オネーギン」より「ポロネーズ」、ファリャ:「三角帽子第2組曲」, [指揮], 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会, 神戸国際会館こくさいホール, 03.12.5
- マロツテ:「主の祈り」、中村健:4声フルートのための「いざうたえいざいわえ」ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 03.12.19

マロツテ:「主の祈り」、中村健:4声フルートのための「いざうたえ いざいわえ」、ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 03.12.19

マロツテ:「主の祈り」,[編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝および神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 03.12.19

オッフエンバック:オペレッタ「天国と地獄」,[指揮], ニュー・オペラシアター神戸第23回オペラ公演, アルカイックホール, 04.2.7-8

オッフエンバック:「天国と地獄」日本語詩作成, ニュー・オペラシアター神戸第23回オペラ公演, アルカイックホール, 04.2.7-8

オッフエンバック:「天国と地獄」挿入歌の作詞・編曲, ニュー・オペラシアター神戸第23回オペラ公演, アルカイックホール, 04.2.7-8

モーツァルト:オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」抜粋, [指揮・チェンバロ], 神戸女学院大学音楽学部「舞台表現法」・大学院音楽研究科「オペラ特別演習ⅠⅡ」発表会, 神戸女学院講堂, 04.2.12

モーツァルト(幡博編曲):「ディベルティメント 二長調 K.136 第一楽章」、サン・サーンス:歌劇「サムソンとデリラ」より「愛の神よ!私を助けに来て」、「あなたの声に我が心は開く」、ブリテン:「青少年のための管弦楽入門…ヘンリー・パーセルの主題による変奏曲とフーガ」,[指揮], 神戸女学院大学音楽学部第11回サマーコンサート, 伊丹アイフォニックホール, 04.6.22

ヨハン・シュトラウス=ジュニア:オペラ「こうもり」,[指揮], 2004年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 04.6.25

「オーディション」(ミュージカル「明日への扉」挿入曲), [作曲・編曲], 大阪スクール オブ ミュージック「明日への扉」公演, NHK大阪ホール, 04.10.22

「デュエット 大川&真弓」(ミュージカル「明日への扉」挿入曲), [作曲・編曲], 大阪スクール オブ ミュージック「明日への扉」公演, NHK大阪ホール, 04.10.22

ヘンデル:「メサイア」,[指揮], 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会, 神戸国際会館こくさいホール, 04.12.1

ヴェルディ:オペラ「リゴレット」抜粋、プッチーニ:オペラ「ボエーム」抜粋、ドニゼッティ:オペラ「ランメルモールのルチア」抜粋, [指揮], 2004年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室 修士演奏会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 04.12.4

ヘンデル:オラトリオ「メサイア」序曲、中村健:4声フルートのための「いざうたえ いざいわえ」、ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 04.12.17

ヘンデル:オラトリオ「メサイア」序曲、中村健:4声フルートのための「いざうたえ いざいわえ」、ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 04.12.17

「聖母マリアは産着を洗いたもう」,[編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝および神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 04.12.17

モーツァルト:オペラ「フィガロの結婚」抜粋, [指揮・チェンバロ], 神戸女学院大学音楽学部「舞台表現法」・大学院音楽研究科「オペラ特別演習ⅠⅡ」発表会, 神戸女学院講堂, 05.2.17

プッチーニ:「ラ・ボエーム」,[指揮], 2005年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 05.6.20

プッチーニ:「ラ・ボエーム」の2台4手ピアノ演奏譜の作成, [編曲(教材制作)], 2005年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 05.6.20

モーツァルト:「自動オルガンのためのアンダンテ K.616」(フルート合奏)、ロッシーニ:歌劇「ウィリアム=テル」より「暗い森」、マラー:「さすらう若者の歌」より第3曲、第4曲、シベリウス:交響詩「フィンランディア」、スメタナ:交響詩「モルダウ」,[指揮], 神戸女学院大学音楽学部第12回サマーコンサート, 伊丹アイフォニックホール, 05.6.28

チャイコフスキー:バレエ組曲『くるみ割り人形』より「花のワルツ」、フォーレ:「ドリー」,[ピアノ], はんしん自立の家「中村徹ピアノリサイタル」, はんしん自立の家, 05.9.11

シューマン:「鶴が岡」、ピアサル:「狩人アレン」、マスカーニ:「夜のとぼり深く」、ロイター:「四つ葉のクローバー」他, [指揮・ピアノ・話], 8th神戸元町ミュージックウィーク元町から生まれた音楽「スクエアピアノと神戸中央合唱団」, 神戸新聞社 松方ホール, 05.10.11

ワーク:「おじいさんの古時計」、ロイター:「四つ葉のクローバー」、ピアサル:「狩人アレン」他, [指揮・話], 日本キリスト教団兵庫教区信徒大会2005 クリスマス・フェスティバル, 神戸栄光教会大礼拝堂, 05.11.23

ドニゼッティ:オペラ「連隊の娘」抜粋、ドニゼッティ:オペラ「ランメルモールのルチア」抜粋, [指揮], 2005年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室 修士演奏会, ザ・カレッジ・オペラハウス, 05.12.3

フォーレ:「レクイエム」より「Introit et Kyrie」, 「Pie Jesu」, 「Agnus Dei」, 「Libera me」"In Paradisum", チャイコフスキー:オペラ「エフゲニ・オネーギン」より「ポロネーズ」、ファリャ:「三角帽子第2組曲」,[指揮], 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会, 神戸国際会館こくさいホール, 05.12.6

フォーレ「レクイエム」の女声合唱版の作成, [編曲(教材製作)], 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会, 神戸国際会館こくさいホール, 05.12.6

マロツテ:「主の祈り」、中村健:4声フルートのための「いざうたえ いざいわえ」、ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院大学クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 05.12.16

マロツテ:「主の祈り」、中村健:4声フルートのための「いざうたえ いざいわえ」、ビゼー:「アニュス・デイ」他, [指揮・編曲], 神戸女学院クリスマス礼拝, 神戸女学院講堂, 05.12.16

モーツァルト:オペラ「フィガロの結婚」,[指揮・チェンバロ], ニュー・オペラシアター神戸第25回オペラ公演 尼崎市総合文化センター開館30周年記念事業, アルカイックホール, 06.2.4-5

モーツァルト:オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」抜粋, [指揮・チェンバロ], 神戸女学院大学音楽学部「舞台表現法」・大学院音楽研究科「オペラ特別演習ⅠⅡ」発表会, 神戸女学院講堂, 06.2.16

中村茂隆:歌曲集「見えないものを」,[ピアノ], 東京藝術大学音楽学部同声会兵庫支部音楽会, 神戸市産業振興会館, 06.3.18

チャイコフスキー:バレエ組曲『くるみ割り人形』より「花のワルツ」、ドビュッシー:「小組曲」,[ピアノ], NPO法人手をつなぐ育成会「中村徹ピアノコンサート」, 三田市総合福祉センター, 06.3.21

ウェーバー:オペラ「魔弾の射手」のオーケストラ部分を、2台4手ピアノとホルンアンサンブルのために編曲, 2006年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会, 大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス, 06.6

ウェーバー:オペラ「魔弾の射手」,[指揮],2006年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室試演会,ザ・カレッジ・オペラハウス,06.6.19

ロッシーニ:「セヴィリアの理髪師序曲」(フルート合奏)、プッチーニ:「歌劇」ボエームより「私の名はミミ」、「あなたの愛の呼ぶ声に」、ドヴォルジャーク:「スラブ舞曲より」より第3曲、第4曲、ドビュッシー:「牧神の午後への前奏曲」他,[指揮],神戸女学院大学音楽学部第13回サマーコンサート,伊丹アイフォニックホール,06.6.27

シューマン:「楽しき農夫」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,シューマン:「メロディー」、ブルグミュラー:「アラベスク」、ブルグミュラー:「バラード」、ブルグミュラー:「貴婦人の乗馬」、クレメンティ「ソナチネ 八長調 第1楽章」、マクダウェル:「野バラに寄す」、ベートーヴェン:「ト調のメヌエット」、ゴセック:「ガヴョット」、サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

シューマン:「メロディー」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

シューマン:「楽しき農夫」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ブルグミュラー:「アラベスク」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ブルグミュラー:「バラード」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ブルグミュラー:「貴婦人の乗馬」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ブルグミュラー:「バラード」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

クレメンティ「ソナチネ 八長調 第1楽章」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

マクダウェル:「野バラに寄す」をピアノ初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ベートーヴェン:「ト調のメヌエット」をヴァイオリン初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

ゴセック:「ガヴョット」をヴァイオリン初学者を含むピアノトリオに編曲,イハラ楽器委嘱,サマーセミナーで教材として使用,(株)イハラ楽器,06.8.-

小林秀雄「落葉松」をピアノトリオに編曲 トリオ アッサンブラージュ委嘱,ピアノトリオの愉しみ Vol.2 トリオ アッサンブラージュ主催,箕面市立メイプルホール大ホール,06.8.26

「ひまわりのような」(ミュージカル「明日への扉」挿入曲),[作詞・作曲・編曲],大阪スクール オブ ミュージック公演:ミュージカル「明日への扉」,大阪NHKホール他,6.9.20

「ひとりてつよく」(ミュージカル「明日への扉」挿入曲),[作詞・作曲・編曲],大阪スクール オブ ミュージック公演:ミュージカル「明日への扉」,大阪NHKホール他,6.9.20

第2幕への前奏曲(ミュージカル「明日への扉」曲),[作曲・編曲],大阪スクール オブ ミュージック公演:ミュージカル「明日への扉」,大阪NHKホール他,6.9.20

ベートーヴェン:交響曲第9番,[指揮],共演:兵庫県立神戸高等学校OBオーケストラ、同OB合唱団 他 主催:神戸高校創立110周年記念「第九」演奏会実行委員会 他,神戸高校創立110周年記念「第九」演奏会,神戸文化ホール大ホール,06.9.17

南安雄:「日曜日」より 1.「朝」、5.「おやすみ」、ハイドン:「お留守居」,[指揮・ピアノ],神戸中央合唱団創立60周年記念音楽会,兵庫県立芸術文化センター大ホール,06.10.1

芥川也寸志:弦楽の為の三楽章、エルガー:「威風堂々 第1番」、ヘンデル:「メサイア」より「ハレルヤ」 他,[指揮],共演:兵庫県立神戸高等学校弦学部、同OBオーケストラ、同OB合唱団 主催:神戸高校創立110周年記念演奏会実行委員会,兵庫県立神戸高等学校創立110周年記念 第59回演奏会,神戸文化ホール大ホール,06.10.11

ペルゴレージ:オペラ「奥様女中(抜粋)」の編曲[2台4手ピアノとチェンバロ版の作成],2006年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室修士演奏会,大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス,06.12

モーツァルト:オペラ「羊飼いの王様」より ベートーヴェン:交響曲第9番,[指揮],神戸女学院大学音楽学部定期演奏会,兵庫県立芸術文化センター大ホール,06.12.5

ロッシーニ:オペラ「セヴィリアの理髪師」抜粋 ペルゴレージ:オペラ「奥様女中」抜粋,[指揮],2006年度大阪音楽大学大学院オペラ研究室 修士演奏会,ザ・カレッジ・オペラハウス,06.12.14

フランク:「天使の糧」新編曲,神戸女学院大学クリスマス礼拝・神戸女学院クリスマス礼拝,神戸女学院講堂,06.12.16

モーツァルト:オペラ「魔笛」,[指揮・チェンバロ],ニュー・オペラシアター神戸第26回オペラ公演,アルカイックホール,07.2.3-4(2日間2回公演)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

書評:石黒晶『紀州うた拍子』,神戸女学院 学報141号,04.7

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

教務ガイダンスシステムの構築に尽力。1995～現在に至る。
2006前期:教務システムに関して、音楽学科教職員対象に講演。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.9.10「鎖国時代のベートーヴェンと日本人」 神高クラブ

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

第69回全国学校音楽コンクール 兵庫県大会 中学校姫路地区予選, 姫路市市民会館, 02.8.9
第25回全国おかあさんコーラス 全国大会, 東京文化会館 大ホール, 02.8.25
NHK合唱コンクール 兵庫大会, 明石市民会館 アワーズホール, 03.8.9
全日本合唱コンクール 関西大会, 伊丹市民会館, 03.9.23
全日本合唱コンクール 関西大会, 池田市民会館, 03.10.13
NHK合唱コンクール 兵庫大会 中学校の部, 明石市立文化市民会館, 03.8.19
審査・講評:第35回神戸市立高等学校「芸術祭」(主催:市教委 他), 東灘区民センター うはらホール, 06.11.16
審査・講評:「幼児マーチングバンドカーニバル」, 兵庫県芸術劇場 大ホール, 07.2.11

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

神戸東灘文化協会幹事
障害者施設などでの演奏活動・ボランティア

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 声楽

■ 研究課題1

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

ドヴォルザーク:「母が教えたまいし歌」, 院長就任式, 神戸女学院講堂, 02.7.5

ビゼー:ハバネラ「恋は野の鳥」カルメンより, ジローオペラ賞記念コンサート, 新国立劇場 中劇場, 02.7.5

ヘンデル:オラトリオ「メサイヤ」, 中野区民合唱団 第10回特別記念定期演奏会, なかのZERO大ホール, 02.9.22

関寛斎の詠める歌より8曲, 「ちばのうた」あれこれ, ばるるホール(千葉市), 02.12.13

ヴェルディー:オペラ 仮面舞踏会 役名ウルリカ, 愛知芸術文化センター開館10周年記念公演, 愛知芸術劇場大ホール, 03.3.21,23

J.S.Bach: "Matthaus Passion", 湘南シティ合唱団第8回演奏会, 鎌倉芸術館, 03.5.25

モーツァルト:「レクイエム」, リラの門, 西国分寺いずみホール, 03.6.29

マスカーニ:「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツァ, 東京アカデミッシェカペレ第26回演奏会, Bunkamuraオーチャードホール, 03.11.30

ビゼー:Agnus Dei他, 神戸女学院大学クリスマス礼拝(昼の部), 神戸女学院講堂, 03.12.19

ビゼー:Agnus Dei他, 神戸女学院大学クリスマス礼拝(夜の部), 神戸女学院講堂, 03.12.19

ビゼー:「カルメン」よりハバネラ、セギディーリア 日本の歌、宵待ち草、九十九里浜他, 県民芸術劇場銚子公演「西明美&ニューフィル千葉名曲コンサート」, 銚子市青少年文化会館, 04.2.22

ベートーヴェン:「第九」, ハミングホール3周年を迎えて東大和の第九, ハミングホール, 04.2.29

しぐれに寄する抒情、母、「カルメン」よりハバネラ 他, オペラ名曲コンサート, 銚子市青少年文化会館大ホール, 04.10.30

ベートーヴェン:「第九」, 第19回 田辺第九演奏会, 紀南文化会館大ホール, 04.12.12

ビゼー:Agnus Dei 他, 神戸女学院大学クリスマス礼拝(昼の部), 神戸女学院講堂, 04.12.17

ビゼー:Agnus Dei 他, 神戸女学院大学クリスマス礼拝(夜の部), 神戸女学院講堂, 04.12.17

ヴォルフ:「ミニヨン」、中田喜直:「子守歌」他, 神戸女学院春季公開講座, 神戸女学院講堂, 05.6.11

ワーグナー:「ヴェーゼンドクの歌曲集全曲」他, 前期専門部会研究発表会, オルチン館合奏室, 05.6.22

中田喜直:「子守歌」、ワーグナー:「ヴェーゼンドクの歌」より(夢), 中・高等部礼拝, 神戸女学院講堂, 05.6.28

ワーグナー:「ヴェーゼンドクの歌曲集全曲」, 親子三人声の饗宴, 銚子市民センター, 05.8.21

ロジャーズ: "Climb Every Mountain", 神戸女学院大学音楽学部開設100周年舞踊専攻開設記念講演, ルナ・ホール, 05.11.30

フンパーディング:オペラ ヘンゼルとグレーテル 魔女, 兵庫県芸術文化センターオープニングシリーズ, 兵庫県立芸術文化センター大ホール, 05.12.23,25

ドヴォルザーク:「スノボ・マーテル」, 湘南シティ合唱団第10回演奏会, 鎌倉芸術館大ホール, 06.5.13

Bach & Mozart ~天と地に響くその調べ~, 京王プラザホテル札幌 エミネンスホール, 06.5.20

Bach & Mozart ~天と地に響くその調べ~, 京王プラザホテル札幌 エミネンスホール, 06.5.20

親子3人ジョイントリサイタル, 銚子市民センター, 06.7

チェロとのジョイントコンサート, 旭川藤女子高等学校講堂, 06.7.28

ミニコンサート, 札幌サンプラザ, 06.8.5

グスタフ・マーラー:交響曲第8番変ホ長調「千人の交響曲」, (財)岡山シンフォニーホール開館15周年記念ムジカ・ムンダーナ〜宇宙が鳴き響き始める〜, 岡山シンフォニーホール, 06.10.1

ベートーベン:交響曲第9番, 神戸女学院音楽学部100周年記念定期演奏会, 西宮市 芸術文化センター, 06.12.5

ベートーベン:交響曲第9番, 田辺第九演奏会, 田辺市 紀南文化会館, 06.12.10

ベートーベン:交響曲第9番, 東総の第九2006, 千葉県東総文化会館, 06.12.24

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

旭川市新人音楽会 公開オーディション審査, 06.8.6

全日本学生音楽コンクール 高校の部 予選と大阪本選, 大阪フェニックスホール, 06.9.4-5,10.30

全日本学生音楽コンクール 大学・一般の部 予選と大阪本選, 大阪フェニックスホール, 06.9.6,10.30

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 フルート

■ 研究課題1

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 オーケストラ(Ⅰ)～(Ⅳ)、管打合奏(Ⅰ)～(Ⅳ)、室内楽(Ⅰ)、室内楽(Ⅱ)、フルート実技(専攻)

大学院 フルート実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●学生個人個人の能力が違うので全員異なった指導をしています。

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●教材は一人一人全員、能力に合わせて選んでいます。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

クメンティー:フルート・ソナタ第3番op.2 他, 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル, 草津音楽の森国際コンサートホール, 02.8, 03.8, 04.8, 05.8, 06.8.17-30

ウイナー・ワルツ 他, ウィーン・フィル・コンサート, 三重県文化会館大ホール, 04.11.23

シューベルト:しほめる花の主題による序奏と変奏曲, 西田直孝フルートリサイタル, パストラルホール, 05.3.26

コレリ:ラ・ファリャ、マルチェッロ:フルート・ソナタop.2 No.11他., オルガンとフルートによるデュオコンサート, 新島学園礼拝堂, 06.8.31,06.9.1

メンデルスゾーン:フルート・ソナタop.4, ミュージックキャンプ2006, 秩父ミュージックパーク, 06.9.15-18

ジョリベ:五つの呪文, グランド・フルートコンサート, 津田ホール, 07.1.14

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 声楽
- 研究課題1 オペラ
- 2 歌曲
- 3 宗教曲

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 音楽科教育法Ⅱ、教育実習Ⅰ・Ⅱ、対話、声楽実技(専攻)
- 大学院 声楽実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- ~現在 学生個々のレベルに合わせて発声練習や練習曲選定を細やかに行う。
- ~現在 学生各々に合ったレパートリーを考えそれにふさわしい曲選びを行う。
- ~現在 ある程度力をつけてきた学生に対しては、実力に応じたコンクール、オーディション、演奏会など参加させパフォーマンスとしての経験を積ませる。

■ 授業評価への対応

- ~現在 アンケート結果を参考にし、学生の不満に対しては改善工夫をする。
- ~現在 学生の気質などを分析し、勉学意欲を高める方法を考える。
- ~現在 自由記述に対しては、具体的に個々に対応する。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2000年~現在 イタリア語の発音方法
- 2000年~現在 ドイツ語の発音方法

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2000年~現在 レッスンクラスを常時オープンにし、いつでも誰でも聴講、見学自由にした。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- ドニゼッティ:「ランメルムールのルチア」、オペラアリアの夕べ、大阪市、いずみホール、02.6.21
 ヴェルディ:「リゴレット」、華麗なるオペラ紀行、ザ・シンフォニーホール、02.9.21
 水野修孝:「天守物語」、オペラ「天守物語」、アルカイックホール、02.10.26
 ベッリーニ:「ノルマ」より、クラブファンタジーの夕べ、宝塚ベガホール、03.11.10
 ヴェルディ:「椿姫」より、アートフェスティバル、吹田メイシアター、03.7.19
 モーツァルト:「フィガロの結婚」、君よ！モーツァルトを聴け、綿業会館大ホール、04.3.13
 プッチーニ:「蝶々夫人」より、音楽の旅 イタリア、秋篠音楽堂、04.4.24
 山田耕筰:「からたちの花」他、日本歌曲の流れ、いずみホール、04.10.12
 レハール:「ジュディッタ」より、華麗なるオペレッタの饗宴、ザ・シンフォニーホール、05.1.11
 プッチーニ:「ラ・ボエーム」、オペラ「ラ・ボエーム」、宝塚ベガホール、05.3.27
 ヴェルディ:「椿姫」より、名曲コンサート、芦屋ルナホール、05.8.27
 ドビュッシー:「木馬」他(総合プロデュース)、フランス歌曲の流れ、大阪市、フェニックスホール、06.4.19
 ベッリーニ:オペラ「ノルマ」ノルマ役、オペラ「ノルマ」、尼崎市、アルカイックホール、06.5.27
 モーツァルト:「すみれ」他(総合プロデュース)、ドイツ歌曲の流れ、大阪市、いずみホール、06.6.8
 プッチーニ:「歌に生き恋に生き」(トスカ)、和歌山大学付属小学校創立130周年総会、和歌山大学付属小学校、06.6.17
 プッチーニ:オペラ「蝶々夫人」蝶々夫人役、名曲コンサート、芦屋市、ルナホール、06.9.2
 ビゼー:オペラ「カルメン」ミカエラ役、オペラ「カルメン」、神戸市、ピア・ジュリアン、06.9.23
 ビゼー:オペラ「カルメン」ミカエラ役、オペラ「カルメン」、神戸市、ピア・ジュリアン、06.9.24
 スカルラッチェ:「すみれ」他(総合プロデュース)、イタリア歌曲の流れ、大阪市、いずみホール、06.10.26
 ドジャース:「サウンド オブ ミュージック」より、管内少年コーラス大会、浪速少年院、06.11.9
 ヨハン・シュトラウス:オペラ「こうもり」より、素晴らしき音楽仲間達、宝塚市、ベガホール、06.11.16
 山田耕筰:「ばらの花に心をこめて」他、山田耕筰生誕120周年記念演奏会、大阪市、いずみホール、06.11.20
 ベートーベン:「交響曲第9番」ソプラノソロ、神戸女学院音楽学部100周年記念、西宮市、芸術文化センター、06.12.5
 クリスマスメドレー、クリスマスコンサート、大阪警察病院、06.12.9
 ベートーベン:「交響曲第9番」ソプラノソロ、田辺第九演奏会、田辺市、紀南文化会館、06.12.10
 ベッリーニ:「清き女神よ」(ノルマ)、春への予感 心ときめいて、神戸市、ピア・ジュリアン、07.2.28

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

多くのコンサート、オペラに出演し、自身のキャリアを積み、その上で自らの経験もふくめ、声楽専攻生の指導を行った。
その結果、多数のコンクール上位入賞者やオーディション合格者を出す結果につながった。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

学生副部長として、以下の委員会の構成員としての活動を行った。(学務委員会、学務連絡会、学生主事会、人事委員会、将来計画委員会、予算委員会、人権委員会、キャリア教育委員会、ボランティア・サポート委員会、学生寮運営委員会、連絡協議会、広報委員長)

学科選出委員として、以下の委員会構成員としての活動を行った。(入試委員会、教職課程委員会)

キャリアデザインプログラムのコーディネーターとして、副専攻プログラムの設立に関わる。

現代GP応募に3回関わる。(内2回採択される。)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

奈良県立高田高校音楽科 公開レッスン 06.7.12

大阪府立夕陽丘高校音楽科 公開レッスン 06.7.19

関西二期会オペラスタジオ 公開レッスン 06.9.14

関西二期会オペラスタジオ 公開レッスン 06.9.21

■ コンクールの審査等(2006年度)

日本演奏家コンクール, 吹田メイシアター, 06.4.9

和歌山新人演奏会 オーディション, 和歌山県民文化会館, 06.4.29

関西二期会 室内オペラキャストオーディション, 相愛学園, 06.7.30

大阪国際音楽コンクール 予選, 神戸うはらホール, 06.8.18

和歌山音楽コンクール, 和歌山市民会館, 06.8.23

NHK全国音楽コンクール(中学校の部), 大阪NHKホール, 06.9.9

NHK全国音楽コンクール(小学校、高等学校の部), 大阪NHKホール, 06.9.10

関西二期会本公演オペラキャストオーディション, 相愛学園, 06.9.17

大阪国際音楽コンクール グランドファイナル, 茨木クリエイティブセンターホール, 06.10.9

管内少年コーラス大会, 浪速少年院, 06.11.9

関西二期会 本公演キャストオーディション, 相愛学園, 06.12.7

関西二期会 オペラスタジオ本科 オペラ試演会審査, 大阪音楽大学, 06.12.17

関西二期会 オペラスタジオ予科 日本歌曲試験, 相愛学園, 06.12.24

関西二期会 オペラスタジオ本科 ソロ試験, アゼリア(大正)ホール, 07.2.17

関西二期会 オペラスタジオ予科 ソロ試験, 尼崎ピッコロシアター, 07.2.24

関西二期会 オペラスタジオ予科 オペラ試演会審査, 弁天町生涯学習センター, 07.3.13

関西二期会 オペラスタジオ入所オーディション, 相愛学園, 07.3.18

関西二期会 オペラスタジオ本科 修了オペラ審査, 尼崎ピッコロシアター, 07.3.24

日本演奏家コンクール 予選, 川西みつなかホール, 07.4.14

日本演奏家コンクール 地区本選, いたみアイフォニックホール, 07.4.28

■ 学外機関委員等(過去5年間)

1975年～現在 イタリア声楽コンクール 審査員

1994年4月～現在 宝塚演奏連盟 委員

1995年4月～現在 関西二期会オペラ賛助会 評議員

1995年4月～現在 和歌山新人演奏会 選考委員

1995年4月～現在 ベガコンクール 運営委員

2000年～現在 NHK 全国音楽コンクール 審査員

2000年～現在 日本演奏家コンクール 審査員
2002年4月～現在 和歌山県文化振興運営アドバイザー委員
2005年4月～現在 関西二期会 常任理事
2006年～現在 大阪国際コンクール 審査員
2007年4月～ 西宮市大学交流協議会 学生による地域活性支援委員会委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

関西二期会の常任理事として、多くの演奏会やオペラ公演に出演、又、プロデュース活動を展開する。
地域の文化振興財団とも密接に関わり、演奏会やコンクールの企画、出演、審査などを通して、地域の文化向上を目指す。
法務省矯正管内少年コーラス大会に審査及び演奏を通じて青少年の育成事業に関わる。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 作曲、音楽理論
- 研究課題1 作曲
 - 2 音楽理論
 - 3 ソルフエージュ

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ソルフエージュ(Ⅰ)、和声学(Ⅰ)、楽式論、和声学(Ⅲ)、和声学(Ⅳ)、作曲Minor、作品制作研究(Ⅰ)
大学院 作曲実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●授業は真剣勝負。つねに学生が、興味をもって生き活きと反応しているかいないか。一人でも興味なさそうにしていたらこちらの負け。最後まで全員がついてきたらこちらの勝ち。

■ 授業評価への対応

●要望、意見があれば即対応している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●教科書をそのまま使うことはありえない。そのクラスの能力や理解度によって説明の仕方は変わってくるので、毎回、黒板を使い再構成したものを提示している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

コーラスグループ「プティ・タ・プティ」CDアルバム「春・夏・秋・冬」の編曲・指揮。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

可能な限りのことはした。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 舞踊
- 研究課題1 コンテンポラリーダンス
- 2
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ハレエクステンション(Ⅰ)(Ⅱ)、アナライズクラス(Ⅰ)(Ⅱ)、対話
大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2007年2月14日～18日に行われた舞踊専攻第1回発表会の準備をするにあたり、授業時間外の時間を使い工夫して対応した。

■ 授業評価への対応

●生徒の技術的な進歩のみに目を向けるのではなく、個々の生徒が置かれている精神的な状況に注意をはらいながら授業を進めるよう心がけている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

「RIVER」, 日中韓ダンスプロジェクト, 東京芸術劇場 中ホール, 02.6.29-30

「Feeling is Everywhere」, 新国立劇場バレエ団J-BALLET Dance Creation, 新国立劇場 中ホール, 02.11.15-17

課題曲振付: ローザンヌ国際バレエコンクール, スイス ローザンヌ, ボーリュ劇場, 03.1

「WITHOUT WORDS」, アメリカ デンバー COLORADO BALLET 団公演, DENVER AUDITORIUM, 2003.4.12-27

「光 降る音」, ドンボスコ チャリティーコンサート, 東京オペラシティ, 03.5.12,13

「光 降る音」, ドンボスコ チャリティーコンサート, オーチャードホールBunkamura, 03.5.14

「SWANS」 「OUR SONGS」, 松岡バレエ団アトリエ公演, 愛知県勤労会館, 03.7.20

「バラの封印」, 宝塚歌劇団公演, 宝塚劇場大ホール, 03.11

「RIVER」, Association of Performing Arts presenters にて, アメリカ ニューヨーク, Japan Society, 04.1.9-10

「RIVER」, Japan Contemporary Dance Performance, カナダ モントリオール, Maison de la Culture Fronterac, 04.1.14

「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 帝国劇場, 04.3.6～5.30

「RED」, American Dance Festival にて, アメリカ ノースカロライナ, DUKE UNIVERSITY, 04.7.19-21

「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 中日劇場, 04.8.1-30

「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 博多座, 04.10.2-28

「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 大阪梅田コマ劇場, 04.11.3～12.12

「PATCH WORK」, ベルギー王立ロイヤルバレエスクール, ベルギー アントワープ, ロイヤルバレエスクール内劇場, 05.5.28-29

振付: JOURNEY, カナダ GOH BALLET COMPANY, カナダ バンクーバー, クイーン エリザベス プレイハウス シアター, 05.6.18-19

「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 帝国劇場, 05.9.1

神戸女学院大学音楽学部開設100周年記念公演, 芦屋ルナホール, 05.11.30

構成・演出・振付: 「RUN」, 兵庫県立芸術文化センター舞台芸術団体フェスティバル兵庫県洋舞家協会公演, 兵庫県立芸術文化センター, 06.2.11

振付: 「エリザベート」, 東宝ミュージカル, 日生劇場, 06.5.3-28

「NEVER SAY GOODBYE」, 宝塚ミュージカル, 東京宝塚劇場, 06.5.26

構成・演出・振付: 「BARDO」, GLOBAL TAPESTRY, アメリカ シカゴ, HARRIS THEATE, 06.9.27～06.10.1

構成・演出・振付: 「SILENT VOICE」, 山梨県民芸術祭, 山梨県民文化ホール, 06.11.12

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

コンテンポラリーダンスにおける身体運用と日常生活における身体運用の共通性

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

共通英語委員、現代GP通訳プログラム

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.7.8 「からだは話す」 身体運動文化学会関西支部講演会

06.11.2 「見て、聞いて、感じるダンス」 神戸女学院 秋の公開講座

■ 公開レッスン(2006年度)

札幌芸術の森 ローザンヌ国際バレエコンクール バレエセミナー 06.7.4-11

福岡市バレエ協会セミナー 06.10.7-9

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

西宮大学交流センターインターカレッジ西宮 市民対象講座

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 ピアノ
- 研究課題1 音楽、ピアノ実技
- 2 ピアノ指導法
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 ピアノ実技(専攻)
- 大学院 ピアノ実技(専攻)、指導法研究(隔年開講)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- ~現在 以前より学生の暗譜に対して、楽譜を切り張りするという独自の方法を考案、指導に取り入れている。
- 2006年後期 大学院『指導法研究』においては、被験者を人間科学部からピアノ初心者学生を派遣し、指導に当たらせ効果を上げた。

■ 授業評価への対応

- ピアノ実技については、担当者10数名での採点になるため、個別の対応はありえない。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- ラフマニノフ:練習曲集「音の絵」Op.39 他, 田中修二ピアノリサイタル, 松方ホール, 02.10.9
 リスト:メフィストワルツ 他, 田中修二ピアノリサイタル, 出石市ひぼこホール, 02.12.12
 シューマン:パピヨンOp.2 他, 田中修二ピアノリサイタル(三木音楽協会), 三木市森林公園音楽ホール, 03.6.15
 ベートーヴェン:ソナタ「ワルトシュタイン」他, 田中修二ピアノリサイタル(サロンコンサート協会), 姫路南風会サロン, 03.9.28
 チャイコフスキー:「四季」他, 田中修二ピアノリサイタル(サロンコンサート協会), 神戸シアターポシェット, 03.12.21
 シューマン:幻想曲(第1楽章), 神戸女学院生涯教育春季講座, 神戸女学院講堂, 04.5.15
 グリーグ:ピアノ協奏曲(指揮:斉藤一郎), 金蘭会音楽鑑賞会, ザ・シンフォニーホール, 04.11.4
 ショパン:スケルツォ第2番、シューマン:幻想曲 作品17 他, サロンクリスマスコンサート, 神戸シアターポシェット, 04.12.23
 シューベルト:ソナタ 変ロ長調 遺作 他, 田中修二ピアノリサイタル(ヤマハ神戸店主催), 神戸松方ホール, 06.10.19
 リスト:超絶技巧練習曲 第12番「雪かき」他, 中高部礼拝, 神戸女学院講堂, 06.10.31
 ラフマニノフ:前奏曲2曲, カバレフスキーコンクール開会式, ロシア・サマラフィルハーモニーホール, 06.12.2
 バッハ=ブゾーニ:シャコンヌ 他, 茨木西高校特別演奏会, 茨木クリエイティブセンター, 06.12.22

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

演奏会の回数は減っているが、様々なコンクールの審査、各地の楽器店のアドバイスレッスン(これを記入する項目はない)による知識集積は研究上役に立っていると考え

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

任期制ではあるが2004~2006年はピアノ主任として業務に当たり、学外への広報も積極的に行った。学生確保にも多大な貢献をしている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 06.5.11 兵庫県学生ピアノコンクール課題曲公開講座(三田ヤマハ)
- 06.5.29 兵庫県学生ピアノコンクール課題曲公開講座(加古川オクダ楽器)
- 06.6.8 兵庫県学生ピアノコンクール課題曲公開講座(神戸ヤマハ)
- 06.7.27 新響ブルグミュラーコンサート公開講座(新響楽器オーパス)
- 06.8.30 新響ブルグミュラーコンサート公開講座(新響楽器オーパス)

■ 公開レッスン(2006年度)

- 新響ブルグミュラーコンサートのための公開レッスン(新響楽器オーパス) 06.9.30

■ コンクールの審査等(2006年度)

- 姫路フレッシュコンサート 審査, 姫路パルナソスホール, 06.5.12
- 新響楽器ソナチネコンサート 審査, 新響楽器オーパスサロン, 06.6.17
- 安川加寿子記念コンクール 審査, 川西みつなかホール, 06.7.21
- 兵庫県学生ピアノコンクール 予選, 和田山ジュピターホール, 06.7.28-29
- 大阪国際コンクール 本選, 茨木クリエイティブセンター, 06.8.7
- 香川県音楽連盟ジュニアコンクール, 高松テルサホール, 06.8.19
- 香川音楽連盟コンクール, 高松テルサホール, 06.8.20
- 大阪国際コンクール 予選, 茨木クリエイティブセンター, 06.8.27
- 全日本学生音楽コンクール 予選, 大阪フェニックスホール, 06.9.10-11,16-18
- ヤマハヤングピアニストコンサート 審査, リック羽曳野ホール, 06.11.23
- カバレフスキー国際コンクール, ロシア サマラフィルハーモニーホール, 06.12.2-8
- ヤマハヤングピアニストコンサート 審査, 和歌山宮井楽器, 06.12.17
- 才能教育研究会 審査, 弁天町学習センター, 07.1.21
- 来音会コンクール, 池田アゼリアホール, 07.3.27

■ 学外機関委員等(過去5年間)

- ～現在 全日本ピアノ教育連盟 関西支部運営委員
- 2004年4月～現在 西宮大学交流協議会 市民対象講座委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

- コンクール審査、公開講座、また、楽器店のアドバイスレッスンなどにより大学のPRに貢献している。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 音楽学
- 研究課題1 クラウディオ・モンテヴェルディ研究
- 2 神戸女学院の音楽教育の歩み
- 3 アウトリーチ教育

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 音楽によるアウトリーチ(講義)、音楽によるアウトリーチ(実習)、初期神戸女学院、女性学(実践編)
- 大学院 楽書講読Ⅰ、副論文制作Ⅰ、副論文制作Ⅱ

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著]『転換期の音楽』編集委員会 編, 転換期の音楽, 音楽之友社, 488pp., 02.10
- [共著] 金沢正剛 監修, 音楽小辞典, 音楽之友社, 504pp., 04.1

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 地域における音楽活動の可能性について -阪神間の病院における院内音楽活動アンケートの結果, 神戸女学院大学論集 第50巻第3号, 04.3
- [単著] "What incited the 'Monteverdi Renaissance' ?" Musicology and Globalization: Proceedings of the International Congress in Shizuoka 2002, 04.11
- [単著] 原智恵子と神戸女学院, 神戸女学院大学論集 第52巻第1号, 05.7
- [単著] ギルドホール音楽院のアウトリーチ教育, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 06.7
- [単著] 原智恵子とピアノ購入歴 ~経理課の「備品台帳」の調査から~, 神戸女学院大学論集 第53巻第2号, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

演奏会プロデュース(シリーズ、全3回):

- 子どものための七夕コンサート, 神戸女学院大学音楽館合奏室, 02.7.6
- 子どものためのオルガン・コンサート, 神戸女学院講堂, 02.10.5
- 子供のためのクリスマス・コンサート, 神戸女学院講堂, 02.12.21

演奏会プロデュース(シリーズ、全4回):

- 子どものための七夕コンサート, 神戸女学院大学音楽館合奏室, 03.7.5
- 子どものためのスペシャル・コンサート, 神戸女学院講堂, 03.10.18
- 子どものためのクリスマス・コンサート, 神戸女学院講堂, 03.12.13
- 子どものためのピアノ名曲コンサート(神戸市民文化振興財団「アートベンチャー」入選事業), 舞子ビラ神戸あじさいホール, 04.2.11

演奏会プロデュース(シリーズ、全3回):

- 子どものための七夕コンサート, 神戸女学院講堂, 04.7.3
- 子どものためのスペシャル・コンサート, 神戸女学院講堂, 04.10.16
- 子どものためのクリスマス・コンサート, 神戸女学院講堂, 04.12.11

演奏会プロデュース(シリーズ、全3回):

- 子どものための七夕コンサート(子どものためのコンサート・シリーズ第11回), 神戸女学院講堂, 05.7.2
- 子どものためのスペシャル・コンサート~ピアノが奏でるダンスの世界~(子どものためのコンサート・シリーズ第12回), 神戸女学院講堂, 05.10.22
- 子どものためのクリスマス・コンサート(子どものためのコンサート・シリーズ第13回), 神戸女学院講堂, 05.12.10

演奏会プロデュース(シリーズ、全3回):

- 子どものための七夕コンサート(子どものためのコンサート・シリーズ第14回), 神戸女学院講堂, 06.7
- 子どものためのオルガン・コンサート(子どものためのコンサート・シリーズ第15回), 神戸女学院講堂, 06.10
- 子どものためのクリスマス・コンサート(子どものためのコンサート・シリーズ第16回), 神戸女学院講堂, 06.12

■ 学会発表(2006年度)

- 『音楽によるアウトリーチ』の試み -大学の実践から-(「音楽文化環境と地域社会」), 日本音楽学会第54回全国大会, 神戸大学 神大会館六甲ホール, 03.11.9

■ その他(2006年度)

水の都とバロック音楽, 月刊都響 2002年5月号, 東京都交響楽団, 02.5

CD企画・制作・解説: 猪本隆メモリアル・コンサート, コジマ録音, 02.5

楽曲解説: 第2夜: モンテヴェルディ《マドリガーレ集第7巻、第8巻》より, ポリーニ・プロジェクト2002 in Tokyo, 梶本音楽事務所, 02.10

楽曲解説: 第3夜: マレンツィオ《マドリガーレ集第9巻》より、ジェズアルド《5声マドリガーレ集》より, ポリーニ・プロジェクト2002 in Tokyo, 梶本音楽事務所, 02.10

出演解説: 「レゾナンツェン2005」, 第1回「ベスト・オブ・クラシック」, NHK FMラジオ, 05.7

出演解説: 「レゾナンツェン2005」, 第2回「ベスト・オブ・クラシック」, NHK FMラジオ, 05.7

プログラム解説: 「青柳いづみこピアノ・リサイタル」, 浜離宮ホール, 05.9

プログラム解説: 青柳いづみこCD『やさしい訴え: ラモー作品集』, kojima records, 05.9

報告書: アメリカ視察報告～ニューヨークとボストンのアウトリーチ活動, 神戸女学院大学音楽学部アウトリーチ通信 創刊号, 05.11

報告書: 音楽によるアウトリーチ, 特色GP報告書, 文部科学省, 06.2

講評: 西宮市教育委員会主催「学校サポートにしのみや」実践交流会, 西宮市役所東館, 06.2

報告書: 国内の事例に学ぶ, 神戸女学院大学音楽学部アウトリーチ通信 第2号, 06.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], リベラル・アーツの自己解析的再検討, 2002年度, 90万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], モンテヴェルディ・ルネサンスの流れ, 2002年度, 20万円

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 日本の近代化と神戸女学院, 2003年度, 85万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 地域社会における音楽の活用について, 2003年度, 20万円

日本学術振興科学研究費補助金基盤研究(C)(2) [代表者], モンテヴェルディ復興の文化史的諸相の解明, 2004～2005年度, 250万円(総額)

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 神戸女学院大学における『キャリア教育』のあり方に関する調査研究, 2004年度, 68万8000円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 原智恵子の軌跡-関西での活動歴, 2004年度, 20万円

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 神戸女学院と芸術, 2005年度, 125万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 初期神戸女学院の音楽教育, 2005年度, 30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

03.2.15 学校サポートにしのみや実践交流会 西宮市役所別館

03.3.2 バッハ・コレギウム・ジャパンII モンテヴェルディ・プロジェクト解説 埼玉県芸術文化振興財団

03.6.13 「声の競演としてのデュエット」女性学インスティテュート公開講座「デュエット～男女の共演～」

04.2.21 「学校支援者と学校とのかかわりを考える～これからの学校支援活動のあり方～」西宮教育委員会「学校サポートにしのみや第2回実践交流会」フレンテホール

05.10.19 「子育てにやさしい風を吹かせよう～子育てを子どもと音楽とともに」西宮市子育て総合センター

06.2.18 関西学院大学張記念館レクチャーコンサート「猪本隆の歌の世界」関西学院大学張記念館

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 声楽
- 研究課題1 R・ワーグナーに影響を与えた作曲家による声楽曲の研究
- 2
- 3

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 ｲﾀﾘｱ歌曲唱法、リサイタル、声楽実技(専攻)、声楽実技(副専攻)
 - 大学院 演奏芸術特論Ⅰ・Ⅱ、声楽実技(専攻)、声楽実技(副専攻)

- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
- 学術論文(過去5年間)
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
 - ベートーヴェン:交響曲第9番,京響第450回定演他,京都コンサートホール 他,02.12.26等 計4回
 - ベートーヴェン:交響曲第9番,第17回サントリーホールガラコンサート 他,サントリーホール 他,03.10.4等 計6回
 - ベートーヴェン:交響曲第9番,倉敷「第9」演奏会 他,倉敷市市民会館 他,04.11.28等 計4回
 - ベートーヴェン:交響曲第9番,アルカニックホール開館30周年記念「第9」 他,アルカニックホール 他,05.12.18等 計6回
 - ベートーヴェン:交響曲第9番,KC音楽学部開設100周年記念コンサート他,兵庫県立芸文センター,06.12.6等 計4回
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 年齢からの衰えで演奏活動は年4、5回と減少している。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)
 - 学部長、学科長としての通常活動のほか、2006年音楽学部開設100周年記念事業(舞踊専攻開設、記念冊子の刊行、記念講演会開催etc.)の準備委員長として活動。

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
 - 日本演奏家コンクール(声楽部門)第1次、第2次予選,吹田メイシアター中ホール,06.4.9,5.13
 - 大阪国際音楽コンクール(声楽部門)本選会,茨木市クリエイティブセンター,06.8.26
 - 全日本学生音楽コンクール 高校の部 予選と大阪本選,大阪フェニックスホール,06.9.4-5,10.30
 - 全日本学生音楽コンクール 大学・一般の部 予選と大阪本選,大阪フェニックスホール,06.9.6,10.30
 - 松方ホール音楽賞選考会,神戸・松方ホール,06.7.31
- 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 ピアノ
- 研究課題1 ロマン派とその時代
 - 2 シューマンとショパンのピアノニズム
 - 3

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 ピアノ実技(専攻)
- 大学院 室内楽特別実習Ⅰ・Ⅱ、ピアノ実技(専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年～現在 使用楽譜の種類拡大、違いを見比べ選択、検討できるように指示。
- 2002年～現在 課題演目における模範となる演奏のCD等の選択。
- 2002年～現在 学外での発表の場を多く与えて積極的に参加させる。

■ 授業評価への対応

- 2004年～現在 授業内で暗譜演奏の場合、曲を中断させずに通して聞いてほしいとの要望があり、可能な限り実施。
- 2005年～現在 レッスン時間が延びて次の学生に影響が出た為時間内に納まるよう工夫。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2005年～2006年 「舞曲におけるマズルカの特徴、演奏法」の参考レポート

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2003年～現在 毎年7月夕陽ヶ丘高校に於て公開講座

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2006年6月 全国レヴェルである宝塚ベガコンクールで大学院生が第3位入賞。神戸女学院生では初めての快挙となる。学部4年生が日本演奏家コンクール第3位。春日井コンクール第1位入賞する。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第4番 Op.58, アルカディア第11回定期演奏会, 神戸枚方ホール, 02.5.26
 ラフマニノフ:組曲第1番 Op.1, 第10回クライスコスモスコンサート, 宝塚ベガホール, 02.9.7
 ラフマニノフ:組曲第1番より Op.1-3,4, すばらしき音楽仲間, 宝塚ベガホール, 02.9.23
 ビゼー:子供の遊び、ルトスワフスキ:パガニーニ変奏曲、ラフマニノフ:組曲第1番, 人間はすばらしい世界から日本から, 神戸女学院講堂, 03.6.14
 タファネル:グランドファンタジー, ミニコンサート, 神戸女学院ホール, 03.7.23
 ベートーヴェン:エロイカ変奏曲 Op.35, サマーミュージックフェスティバル, 大阪いずみホール, 03.8.30
 ショパン:ノクターン、マズルカ、シューマン:子供の情景より, 知恵の言葉, 神戸女学院講堂, 04.5.15
 ショパン:マズルカ Op.24, Op.33, Op.59, Op.68, ノクターン Op.32, Op.48, ショパンの道, 高槻市民総合センター, 04.5.23
 シューマン:ピアノ四重奏曲 Op.47, ピアノ五重奏曲 Op.44, 山上明美&プリマヴィスタ弦楽四重奏団, 宝塚ベガホール, 05.1.17
 ベートーヴェン:ピアノとヴァイオリンの為のソナタ Op.24, 憩いのひととき, 神戸女学院講堂, 05.6.11
 ショパン:ノクターン, NPO法人パーティ, 宝塚ホテル, 05.6.25
 ドビュッシー:「映像第1集」より水に映る影, ミニコンサート, 神戸女学院ホール, 05.7.23
 ショパン:バルカローレ Op.60 ノクターン Op.posth, 礼拝音楽会, 神戸女学院講堂, 06.6.30
 ラフマニノフ:シンフォニックダンス Op.45, すばらしき音楽仲間, 宝塚ベガホール, 06.11.16
 ラフマニノフ:シンフォニックダンス Op.45, 組曲第2番より「ワルツ」 Op.18, 見て聞いて感じるダンス, 神戸女学院講堂, 06.11.25

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「シューマンの室内楽」, 2005年度, 50万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

コンクール審査の依頼が極端に増加し、演奏、コンサート開催の時間的ゆとりがなくなっている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

入試のあり方 音楽実技について検討。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.11.25 「見て聞いて感じるダンス」生涯教育公開講座

■ 公開レッスン(2006年度)

夕陽ヶ丘高校 公開特別レッスン 06.7.18

■ コンクールの審査等(2006年度)

カワイコンクール 関西地区本選, クレオ大阪西, 06.4.2
日本演奏家コンクール 2次, みつなかホール, 06.5.13
宝塚ベガコンクール 1次・2次, 宝塚ベガホール, 06.6.2,3,4
宝塚ベガコンクール 本選, 宝塚ベガホール, 06.6.25
兵庫県学生コンクール 予選, 伊丹アイフォニックホール, 06.7.24
日本演奏家コンクール 本選, 横浜みなとみらいホール, 06.8.10
ベガ学生コンクール 予選, 宝塚ベガホール, 06.8.18,19
兵庫県高校独唱独奏コンクール, 神戸女学院音楽館ホール, 06.8.25
兵庫県学生コンクール, 枚方ホール, 06.8.26
吹田コンクール 予選, メイシアター, 06.9.1,2,3
ベガ学生コンクール 本選, 宝塚ベガホール, 06.10.9
ショパンコンクール・イン・アジア, 武庫川大学ホール, 06.10.27,28
YPAコンクール, ユープラザうたづ, 06.10.29
日本クラシックコンクール 一般部門, メイプルホール, 06.11.5
日本ピアノ教育連盟オーディション, 神戸女学院音楽館ホール, 06.11.18,19
吹田コンクール 本選, メイシアター, 06.12.3
愛知県ピアノコンクール, 刈谷市民会館, 06.12.16

■ 学外機関委員等(過去5年間)

1986年10月～現在 宝塚演奏家連盟 委員
1999年4月～2001年3月 (財)日本ピアノ教育連盟 評議員
1999年4月～現在 (財)日本ピアノ教育連盟 関西支部運営委員
2001年4月～現在 (財)日本ピアノ教育連盟 特別評議員(東京本部)

■ 主な社会活動(過去5年間)

財団法人日本ピアノ教育連盟において公演等の企画、オーディションの運営を行う。宝塚NPO法人に於て活動。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

第8回ショパン国際コンクール in Asia 指導者賞

■ 専門分野 ピアノ

■ 研究課題1

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ピアノ実技(専攻)

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

国際音楽祭「Armonie sotto la rocco」にソリストとして参加, イタリア、マネルバ・プエニヤゴ, 04

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

ピアノ国際コンクール, ヴェネツィア, 03, バルレッテ, 04,05

国際音楽コンクール, 大阪 堺市, 06

カバレフスキー国際コンクール, サマラ, 07

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2004年～ European Piano Teachers Association サマラ部門代表

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

2002年「ロシア連邦人民芸術家」の称号を授与される。

■ 専門分野 ピアノ

■ 研究課題1

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ピアノ実技(専攻)、ピアノ実技(副専攻)

大学院 ピアノ実技(専攻)、ピアノ実技(副専攻)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2005年度～現在 音楽は感覚的に捉えて演奏してしまいがちだが、1つの作品を仕上げに行くプロセスを具体的に提示し、理解していけるよう工夫している。まず、楽譜の選択(原典版や信頼できる出版社の選択)から始まり、楽譜から情報を正しく読み取ること、次に音色などのイメージを楽譜から導き出すこと、そしてイメージした音色を楽器から引き出すために、どのようなタッチを選択できるか(身体の使い方)の検討、そして、実践してみたタッチからイメージ通りの音が導き出されたかを良く聴き確認すること。学生個人個人の技術にかなりの差があるため、達成度にもかなりの差があったが、プロセスを提示し、一緒に作業する事により、意欲が向上し、自分自身で作品を仕上げに行く力が付いてきたと思われる。

●～現在 試演会等では一人一人の演奏に対して、先生が意見するだけでなく、学生同士にも感じた事や意見を述べるよう求めている。他人の演奏に対して、良くない所を指摘するのは、学生にとって遠慮もあって言いにくいようだが、良かった事を1つでも言えるようアドバイスする事によって、よりスムーズに発言できるようになった。

●2006年度後期～ ピアノ実技は個人レッスンがほとんどなので、学生それぞれのレベルに合わせて、その指導方法もかなり異なったアプローチが必要。これまで、中くらい、又は下のレベルの学生をケアする事により多くのエネルギーを使ってきたように思うが、良い素質を持っているやる気のある学生を、さらに重点的に伸ばす指導にも力を入れたいと思う。

■ 授業評価への対応

●2005年度～現在 楽譜への書き込みは、より明確に具体的に意味がわかる書き込みをするよう心がけている。

●2005年度～現在 音色やタッチについて微妙な表情を言葉で説明する事は非常に難しく、わかりにくい表現になってしまう事が多いが、出来るだけシンプルに伝えられるよう努力している。また言葉ではなく実際に音で表現して聴かせる事も大変効果的だと感じている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●～現在 コンクールや公開レッスンでは、総評などの形で意見を述べる事が多いが、イメージをしっかり持つこと、自分の音を良く聴くことなど、基本的で最も大切なことを伝えるよう努力している。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●～現在 学生の自主性をいかに伸ばしていくか、常に試行錯誤している。レッスンでは、教師の意見をそのまま鵜呑みにしてしまう学生が多いが、教師の意見も、正解があるわけでない音楽の世界では一個人の意見である事を説明し、もっと別の可能性もある事を常に探してみるようアドバイスしている。最初は模倣であっても、4年間で自己表現の方法を少しでも多く身につけて卒業して欲しいと願っている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

シューマン:ピアノ四重奏曲Op.47 他, トリオ・フォンターナ 5th, 和歌山県, きびドーム, 02.8.1

シューマン:ピアノ四重奏曲Op.47 他, トリオ・フォンターナ 5th, 泉佐野市泉の森ホール, 02.8.4

グリーグ:抒情小曲集より、シベリウス:即興曲 他, ムジーク・フェラインありだ第32回演奏会, 有田市文化福祉センター, 02.9.6

ドビュッシー:前奏曲集より 他, 大阪府立岸和田高校新校舎竣工式典, 大阪府立岸和田高校講堂, 03.3.22

アルベニス:タンゴ 他, ネパール支援チャリティコンサート, 堺市立榎文化会館, 03.4.26

シューマン:アラバスク、ドビュッシー:花火 他, 大阪府立岸和田高校総会, 大阪府立岸和田高校講堂, 03.4.29

ドビュッシー:前奏曲集より 水の精、花火, ソアレス先生来日20周年記念コンサート, 東京都, 王子ホール, 03.5.5

ドビュッシー:前奏曲集より 水の精、花火, ソアレス先生来日20周年記念コンサート, 大阪市, いずみホール, 03.5.10

モーツァルト:ソナタK.331、リスト:リゴレットパラフレーズ 他, リサイタル, 京都, 桂ホール, 03.5.17

クライスラー:愛の喜び、愛の悲しみ 他, 生涯学習コンサート, 神戸女学院講堂, 03.6.14

花城研次:だんじり祭り, 森可秀さんを偲ぶコンサート, 岸和田市, 浪切ホール, 03.6.29

ラフマニノフ:前奏曲Op.23-8、Op.32-5,12 他, 岸高の愉快な仲間たち, 大阪府立岸和田高校講堂, 03.10.26

シェーンベルク:浄められた夜 他, トリオ・フォンターナ 6th, 和歌山県, きびドーム, 04.4.15

シェーンベルク:浄められた夜 他, トリオ・フォンターナ 6th, 泉佐野市, 泉の森ホール, 04.4.17

ラフマニノフ: ヴォカリーズ, 生涯学習コンサート, 神戸女学院講堂, 04.5.13
 リスト=アリアビエツァ: うぐいす, リスト=シューマン: 献呈 他, 国際ロータリー財団世界大会, 大阪市, リーガロイヤルホテル,
 04.5.26
 モーツァルト: ピアノ協奏曲K.466, いずみのくに音楽祭, 岸和田市, 浪切ホール, 04.6.3
 R.シュトラウス: 献呈、平井康三郎: 平城山 他, 岸高の愉快的仲間たち, 大阪府立岸和田高校講堂, 04.11.7
 リスト: リゴレットバラフレーズ, 下村和子メモリアルコンサート, 大阪市, いずみホール, 04.11.23
 チャイコフスキー: 偉大な芸術家の思い出 他, トリオ・フォンターナ 7th, 和歌山県, きびドーム, 05.4.1
 チャイコフスキー: 偉大な芸術家の思い出 他, トリオ・フォンターナ 7th, 泉佐野市, 泉の森ホール, 05.4.3
 ルトスラフスキー: パガニーニの主題による変奏曲, 夏期講習会ミニコンサート, 神戸女学院大学音楽館ホール, 05.7.22
 金子みすず: 大漁、星と小鳥と鈴と 他, ロータリーチャリティコンサート, 泉大津市ホテルサンルート, 05.10.29
 バッハ: 主よ、人の望みの喜びよ、高田三郎: 平和の祈り, チャペルアワー, 神戸女学院講堂, 05.11.29
 チャイコフスキー: くるみ割り人形(プロデュース), クリスマスファンタジー, 岸和田市, 自泉会館, 05.12.17
 モーツァルト: ピアノ四重奏曲K.493, クライネ・モーツァルト, 大阪倶楽部, 06.3.13

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

ここ5年間の活動は、定期的なトリオ・フォンターナの室内楽活動を中心に、ピアノ協奏曲やソロの作品も演奏しているが、自主リサイタルという形で発表していない事は反省する点だと思う。コンクールの審査が増える中、他大学の先生方と交流する機会も増え、より情報交換ができる事は有意義だと感じる。また2006年4月から始めた講座では、一般の方々と共に音楽家の生涯や作品をたどるとても楽しい時間を持つ事ができた。日ごろ、ピアノの演奏技法に関する狭い領域にかたまってしまうが、より幅広く音楽を見つめなおす機会ともなり、受講生から学ぶ事も多い。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

まだあまり様子が分からず、大学運営にかかわる活動に関してはあまり役立っていないと思う。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

- 06.4.11 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (初期のピアノ作品、変奏曲)
- 06.4.21 大東楽器 課題曲講座
- 06.4.25 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノ協奏曲①)
- 06.5.23 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノソナタ)
- 06.6.6 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (室内楽①ピアノ四重奏曲)
- 06.6.13 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (室内楽②ピアノとヴァイオリンのためのソナタ)
- 06.6.27 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノ協奏曲②)
- 06.8.22 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノ三重奏曲)
- 06.9.12 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノ小品 幻想曲を中心に)
- 06.9.26 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (2台ピアノの作品、連弾作品)
- 06.10.31 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (歌曲)
- 06.11.14 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (室内楽③)
- 06.12.12 「モーツァルト音楽紀行」 JTBカルチャーサロン (ピアノ協奏曲③)
- 07.1.23 「クラシック音楽の小部屋」ベートーヴェン JTBカルチャーサロン ピアノソナタ「月光」
- 07.2.13 「クラシック音楽の小部屋」ベートーヴェン JTBカルチャーサロン ピアノトリオ「大公」
- 07.3.13 「クラシック音楽の小部屋」ベートーヴェン JTBカルチャーサロン ピアノ協奏曲「皇帝」
- 07.4.24 「クラシック音楽の小部屋」ベートーヴェン JTBカルチャーサロン ヴァイオリンソナタ「春」

■ 公開レッスン(2006年度)

ピアノ教育連盟 本選出場者のための試演会 07.3.11

■ コンクールの審査等(2006年度)

- 泉の森フレッシュコンサート オーディション, 泉佐野市泉の森ホール, 06.6.8
- 摂津音楽祭 予選, 摂津市民会館, 06.10.11,14
- 摂津音楽祭, 摂津市民会館, 06.11.12
- ピアノ教育連盟(副主任), 神戸女学院大学, 06.11.18-19
- 泉の森フレッシュコンサート オーディション, 泉佐野市泉の森ホール, 06.11.25
- ジュニアコンクール, 豊中市ゆやホール, 07.2.18

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2002年4月～現在 財団法人岸和田文化振興財団 評議員

2005年4月～現在 岸和田文化事業協会 理事

2005年4月～現在 関西音楽大学協会 委員

2006年4月～ ピアノ教育連盟関西支部 運営委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

コンクール審査、公開講座などは年々増えて、かなり積極的に取り組んでいると思う。また地元岸和田での文化活動、ピアノ教育連盟の活動にも積極的に関わっている。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 ヴァイオリン演奏
- 研究課題1 ヴァイオリン奏法研究(協奏曲、ソナタ、小品における演奏技術の研究)
- 2 室内楽におけるヴァイオリン奏法の研究と楽譜解読法の研究
- 3 オーケストラにおけるヴァイオリン奏法の研究と1st、2ndヴァイオリンの奏法(役割)の研究

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 オークストラ(I)~(IV)、弦楽合奏(I)~(IV)、室内楽(I)、室内楽(II)、ヴァイオリン実技(専攻)、ヴァイオリン実技(副専攻)
- 大学院 室内楽特別実習 I・II

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2006年4月~現在 特にMajorに関しては、からだの使い方等を中心に授業を展開し、楽器によるからだのトラブルを未然に防ぐことを重視した。
- 2006年4月~現在 室内楽では、必ず学生と共に演奏に参加し、実際の演奏を通じて現場では何が起きているのか、何が重要であるのかを理解してもらうようにした。

■ 授業評価への対応

- 2006年4月~現在 学生の理解を一つずつ確認しながら授業を進めるようにしている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] CD:「歌の翼に」(ヴァイオリン小品集), ISODA-TECHNOLOGY, 03.2
- [共著] 釋伸司・沖田孝司・雨田一孝, CD:「マイハートカルテット」(弦楽四重奏曲集), ISODA-ASSIST, 03.2
- [単著] CD:「愛のあいさつ」(ヴァイオリン小品集), ISODA-TECHNOLOGY, 04.2
- [単著] CD:「ユーモレスク」(ヴァイオリン小品集), ISODA-TECHNOLOGY, 05.3
- [単著] CD:「ファウスト」(ヴァイオリン小品集), ISODA-TECHNOLOGY, 06.2
- [共著] 宮川彬良 他 アンサンブルベガメンバー, CD:「NHKタガクインテット-クラシックス」, ワーナーミュージック, 04.12
- [共著] 宮川彬良 他 アンサンブルベガメンバー, CD:「NHKタガクインテット-コンサート」, ワーナーミュージック, 05.12
- [単著] CD:「Ruralia Hungarica」(ヴァイオリン小品集), ISODA-TECHNOLOGY, 07.2
- [単著] CD:「四季」(ヴァイオリン協奏曲集), ISODA-TECHNOLOGY, 07.2

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

- バッハ: シヤコンヌ 他, フレンチボウ試演会, 横浜美術館, 02.4.2
- ドボルザーク: 弦楽四重奏曲「アメリカ」他, 弦楽四重奏の醍醐味, 秋篠音楽堂, 02.4.13
- ロッシェニ: 弦楽ソナタ第1番 他, アンサンブルベガin大和高田, さざんかホール, 02.4.27
- バッハ: ヨハネ受難曲, ヨハネ受難曲, アルティ, 02.4.29
- ラヴェル: チガース 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 灘区民ホール, 02.5.18
- ブラームス: ホルントリオ 他, ホルントリオ, モーツァルトサロン, 02.5.19
- フランセ: ディベルティスマン 他, アンサンブルベガVol. 8, ベガホール, 02.6.18
- サラサーテ: ハバネラ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, セイバザール, 02.7.6
- ロッシェニ: 弦楽ソナタ第5番 他, アンサンブルベガin庄原, 庄原市民会館, 02.7.7
- チャイコフスキ: 悲愴交響曲 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, 名古屋芸術劇場, 02.7.13
- メンデルスゾーン: 歌の翼に 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 台東区文化センター(台湾), 02.7.19
- サラサーテ: チゴイネルワイゼン 他, マイハートコンサートin三次, 広島厚生年金会館, 02.8.26-28
- バルトーク: 管弦楽のための協奏曲 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, サントリーホール, 02.9.8-9
- バッハ: カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 02.9.16
- ファリャ: 三角帽子 他, 新日フィル特別演奏会, トリフォニーホール他, 02.10.7,12,16
- チャイコフスキ: フィレンツェの思い出 他, コンサートマスターズin神戸, 神戸文化ホール, 02.10.17
- ラヴェル: マメールロア 他, 京都フィルハーモニー, ミラノ音楽院(イタリア)他, 02.10.23-24
- バッハ: ブランデンブルク協奏曲第5番 他, ブランデンブルク協奏曲, 神戸商船大学, 02.11.2
- バッハ: カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 02.11.4
- サラサーテ: カルメン幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 佐倉バプテスト教会他, 02.11.9,24
- ストラヴィンスキ: 火の鳥 他, 新日フィル特別演奏会, 伊勢市文化会館他, 02.11.22-23

ヘンデル:メサイア, 新日フィル特別演奏会, 人見記念講堂, 02.12.7
 モーツァルト:セレナーデ 他, マイハートコンサートin三原, 三原市民会館, 02.12.11
 モーツァルト:ディベルティメント, マイハートコンサートin尾道, テアトルシェルネ, 02.12.11
 サンサーンス:序奏とロンドカプリチオーソ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 湯川病院, 02.12.12
 ヴィヴァルディ:四季 他, 室内楽コンサート, 洛陽教会, 02.12.23
 リムスキーコルサコフ:シェエラザード, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, シンフォニーホール, 03.1.4
 モーツァルト:セレナーデ 他, アンサンブルベガin川西, みつなかホール, 03.1.7
 ヴェーベルン:弦楽四重奏曲 他, 京フィル定期演奏会, 京都コンサートホール, 03.1.12
 ムソルグスキー:展覧会の絵, 新日フィル特別演奏会, 新宿文化センター他, 03.1.25,28,29
 ムソルグスキー:展覧会の絵, 新日フィル特別演奏会, 新宿文化センター他, 03.1.25,28,29
 モーツァルト:弦楽四重奏曲「狩り」 他, マイハート弦楽四重奏団, エリザベトセシリアホール, 03.2.9-10,22
 モナステリオ:シェエラモレーナ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 広島聖書バプテスト教会, 03.2.9
 朴:エミリーの鐘の伝説, 新日フィル特別演奏会, オペラシティ, 03.3.3
 モーツァルト:弦楽四重奏曲「狩り」 他, マイハート弦楽四重奏団, 能美町農村環境改善センター, 03.3.9
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」 他, マイハートコンサートin三次, 三次プラザ他, 03.4.19-20
 ベルリオーズ:ローマの謝肉祭 他, 新日フィル特別演奏会, 文京シビックホール, 03.4.24
 ボッテジニ:グランドデュオ 他, TRCサロンコンサート2, TRCサロン, 03.4.26
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 03.4.29
 サラサーテ:カルメン幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 灘区民ホール, 03.5.17
 ストラヴィンスキー:ペトルーシユカ 他, 新日フィル定期演奏会, トリフォニーホール他, 03.5.30-31,03.6.1
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブルベガ音楽教室, 北鈴蘭台桜ノ宮小他, 03.6.5-6
 ストラヴィンスキー:ペトルーシユカ 他, 新日フィル特別演奏会, トリフォニーホール他, 03.6.19-20,23
 ヴェータン:ロンディーノ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 大分ガス会館, 03.7.10
 バッハ:ブランデンブルク協奏曲第5番 他, 室内楽コンサート, 洛陽教会, 03.7.21
 チャイコフスキ:悲愴交響曲 他, 新日フィル特別演奏会, サントリーホール他, 03.8.21,31
 バッハ:バイオリン協奏曲第1番 他, マイハートコンサートin広島, 広島厚生年金会館他, 03.9.8-11
 ファリャ:三角帽子 他, 新日フィル特別演奏会, 静岡市民文化会館他, 03.9.15-19
 マラー:交響曲第1番 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, サントリーホール, 03.9.22-23
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, 室内楽コンサート, 鳥取梨花ホール, 03.10.13
 ヴィヴァルディ:四季 他, 新日フィル特別演奏会, 柏市民文化会館, 03.10.18
 ワックスマン:カルメン幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 佐倉バプテスト教会, 03.10.25
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」 他, マイハートコンサートin廿日市, 廿日市西高校, 03.10.31
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブルベガ, 大フィル会館, 03.11.1
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 03.11.3
 ブリテン:シンプルシンフォニー 他, アンサンブルベガVol. 8, ベガホール, 03.11.8
 ブルッフ:コルニドライ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 敦賀バプテスト教会, 03.11.22
 ヘンデル:メサイア, 新日フィル特別演奏会, 人見記念講堂他, 03.11.30, 03.12.2
 モナステリオ:シェエラモレーナ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 湯川病院, 03.12.10
 ベートーヴェン:交響曲第9番 他, 第九特別演奏会, 三郷コミュニティセンター, 03.12.14
 ヴィヴァルディ:四季 他, 新日フィル特別演奏会, オーチャードホール, 03.12.17
 ヴェータン:夢 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 千里ニュータウンバプテスト教会, 03.12.21
 バッハ:音楽の捧げもの, 室内楽コンサート, 洛陽教会, 03.12.23
 ベートーヴェン:交響曲第3番 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, シンフォニーホール, 04.1.4
 プロホフ:シムカストーラー 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 舞子あじさいホール, 04.1.10
 リムスキーコルサコフ:シェエラザード, 新日フィル特別演奏会, 新宿文化センター他, 04.1.24-25, 30, 04.2.3
 シェーンベルク:室内交響曲第1番 他, 京都フィルハーモニー定期演奏会, 京都コンサートホール, 04.2.7
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲「ハーブ」 他, マイハートコンサートin福山, 県民文化ホールふくやま他, 04.2.14, 16
 ドビュッシィ:亜麻色の髪の乙女 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 広島聖書バプテスト教会, 04.2.15
 ベートーヴェン:交響曲第9番 他, 新日フィル特別演奏会, 国技館, 04.2.22
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブルベガ, シンフォニーホール, 04.3.6
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲「ハーブ」 他, マイハートコンサートin因島, 因島市民会館他, 04.3.13-14
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 04.4.29
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブルベガ, 霧島みやまコンセル, 04.5.2
 ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンコンサート, 灘区民ホール, 04.5.15
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」 他, マイハート定期演奏会, 広島県民文化センター, 04.5.20
 ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンリサイタル, 広島県民文化センター, 04.6.23
 ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンリサイタル, 大分ガス会館, 04.7.2
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, 木曾川音楽祭2004(アンサンブル・ベガ), 岐阜各務ヶ原市民会館, 04.7.3
 ミヨウ:四季, 京フィル第137回定期演奏会, 京都コンサートホール, 04.7.17
 シュトラウス:ドンファン, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, サントリーホール, 04.9.12-13
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 04.9.20
 ヴィヴァルディ:四季 他, マイハートコンサートスペシャル, 呉市文化センター, 04.9.29-30, 04.10.1
 ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンリサイタル, 野木エニスホール, 04.10.11

ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンコンサート, 佐倉聖書バプテスト教会, 04.10.23
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 04.11.3
 ショーソン:詩曲, 新日フィル特別演奏会, パルテノン多摩, 04.11.23
 ハイドン:ひばり, アンサンブル・ベガVol.10, ベガホール, 04.11.29
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハートコンサート, ベガホール, 04.12.14
 ドボルザーク:新世界より, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, ザ・シンフォニーホール, 05.1.4
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 新潟りゅーとびあ他, 05.1.6,8
 ワックスマン:カルメン幻想曲, 辻井淳バイオリンリサイタル, 福和國民中學演藝廳他, 05.1.21,25
 ストラヴィンスキー:春の祭典, 新日フィル特別演奏会, 所沢ミュージズ, 05.2.6
 ラベル:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハートコンサート, 広島県民文化センター, 05.2.12-13
 モーツァルト:協奏曲, 新日フィル特別演奏会, みなとみらいホール, 05.4.3
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 05.4.29
 ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 灘区民ホール, 05.5.14
 ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンリサイタル, 広島県民文化センター他, 05.5.19,30
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 栗東さくら, 05.6.4
 モーツァルト:協奏曲, ハイドシェックとのコンサート, トップンホール他, 05.6.26, 05.7.2
 バッハ:管弦楽組曲全曲, 管弦楽組曲全曲コンサート, 洛陽教会, 05.7.18
 ワーグナー:前奏曲と愛の死 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, 名古屋芸術劇場, 05.7.29
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, NHKホール, 05.8.17
 モーツァルト:第7協奏曲, マイハートコンサートスペシャル, 広島厚生年金会館他, 05.8.31, 05.9.1
 ストラヴィンスキー:火の鳥, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, サントリーホール, 05.9.22-23
 R.コルサコフ:スペイン奇想曲, 日フィル特別演奏会, 東京芸術劇場, 05.10.2
 ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 栗東さくら, 05.10.6
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハート弦楽四重奏団, 熊野筆の里町民会館, 05.10.12
 ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 町田聖書バプテスト教会, 05.10.15
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, 木曾川音楽祭2005(アンサンブル・ベガ), 岐阜各務ヶ原市民会館, 05.10.28
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 05.11.3
 ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 佐倉聖書バプテスト教会, 05.11.5
 モーツァルト:クラリネット五重奏曲 他, アンサンブル・ベガVol.11, ベガホール, 05.11.18
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハート弦楽四重奏団, フェニックスホール, 05.12.21
 バッハ:クリスマスオラトリオ, 京都バッハゾリステン室内楽, 洛陽教会, 05.12.23
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 兵庫県芸術文化センター, 06.1.2-3
 チャイコフスキ:第4交響曲 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, ザ・シンフォニーホール, 06.1.4
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 新潟りゅーとびあ他, 06.1.6-7
 ボロディン:弦楽四重奏曲第2番 他, マイハート弦楽四重奏団, ふくやまりーデンローズ, 06.2.12-13
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 幸田町民会館さくらホール, 06.2.18
 大澤:ピアノ五重奏曲 他, マイハート弦楽四重奏団, 兵庫県芸術文化センター, 06.3.10
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, NHKホール, 06.3.18
 武満:トゥーライン 他, 京フィル定期演奏会, 京都コンサートホール, 06.4.30
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 兵庫県芸術文化センター, 06.5.5
 ドホナーニ:ルーラリアフガリカ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 灘区民ホール他, 06.5.20,28
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハート弦楽四重奏団, カザルスホール, 06.6.5
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハート弦楽四重奏団, フェニックスホール, 06.6.10
 ドホナーニ:ルーラリアフガリカ 他, 京阪グレイスチャペル3周年記念コンサート, 京阪グレイスチャペル, 06.6.11
 ドホナーニ:ルーラリアフガリカ 他, 辻井淳バイオリンリサイタル, 広島県民文化センター, 06.6.12
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 伊丹市民会館, 06.6.17
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハート弦楽四重奏団, 兵庫県芸術文化センター他, 06.6.14,21,23
 メンデルスゾーン:協奏曲 他, 大阪フィルハーモニー特別演奏会, 神戸学院大学, 06.7.15
 モーツァルト:第39交響曲 他, 関西フィルハーモニー特別演奏会, 関西フィルハーモニー, 06.8.5
 ドホナーニ:ルーラリアフガリカ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 関西VIPセンター, 06.8.7
 バッハ:管弦楽組曲全曲, 京都バッハゾリステン室内楽, 洛陽教会, 06.8.10
 ドボルザーク:新世界 他, アンサンブル金沢特別演奏会, 石川県立音楽堂, 06.8.20
 ストラヴィンスキー:火の鳥 他, 新日フィル特別演奏会, オペラシティ, 06.8.23
 モーツァルト:第5協奏曲, サマーフェスティバル, いずみホール, 06.8.27
 R.コルサコフ:スペイン奇想曲 他, ヴィルトゥオーゾオーケストラ, サントリーホール, 06.9.3-4
 バッハ:第2協奏曲 他, マイハートコンサートスペシャル, 広島厚生年金会館他, 06.9.13-15
 ドホナーニ:ルーラリアフガリカ 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 調布バプテストテンプル他, 06.9.23, 06.11.4
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 長岡クリックホール, 06.10.12
 モーツァルト:クラリネット五重奏曲 他, マイハートコンサート, 広島県民文化センター, 06.11.8
 モーツァルト:クラリネット五重奏曲 他, アンサンブル・ベガ, ベガホール, 06.11.18
 サンサーンス:動物の謝肉祭 他, 鳥取子供の国, 鳥取県民文化会館, 06.11.26
 ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハートコンサート, 尾道テアトルシェルネ, 06.12.16
 バッハ:カンタータ, カンタータ200, 洛陽教会, 06.12.23

ウィニアフスキ:ファウスト幻想曲 他, 辻井淳バイオリンコンサート, 千里ニュータウンバプテスト教会, 06.12.24
サンサーンス:動物の謝肉祭 他, アンサンブル・ベガ, 新潟りゅーとびあ他, 07.1.3,7
ポッテジニ:グランドデュオ 他, 中村公美コントラバスリサイタル, 兵庫県芸術文化センター, 07.1.30
モーツァルト:弦楽四重奏曲「狩」他, マイハートコンサート, フェニックスホール, 07.2.10
チャイコフスキ:第5交響曲 他, 大阪フィルハーモニー特別演奏会, ザ・シンフォニーホール, 07.3.13,17
ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハートコンサート, 山口県教育会館, 07.4.15
ドボルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」他, マイハートコンサート, 岡山さん太ホール, 07.4.16
モーツァルト:弦楽四重奏曲「狩」他, マイハートコンサート, 福山リーデンローズ, 07.4.18
モーツァルト:弦楽四重奏曲「狩」他, マイハートコンサート, クレドホール, 07.4.19
バッハ:第2協奏曲 他, 京都バッハソリスト室内楽コンサート, 洛陽教会, 07.4.30

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「歌の翼に」, 2002年度, 50万円
本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「愛のあいさつ」, 2003年度, 15万円
本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「ユーモレスク」, 2004年度, 50万円
本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「ファウスト・ファンタジー」, 2005年度, 50万円
本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], CD制作「Ruralia Hungarica」, 2006年度, 50万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

楽器とからだの使い方の関係を、弦楽器以外の楽器群についても研究を始めたが、日本人東洋人としてのハンデいは研究途上である。

失われたバイオリン小品集も、音源から楽譜を掘り起こすところからはじめ、100曲以上をCDにおさめることができた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

貢献度は極めて低いが、能力的な問題もあり、非常に難しい。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 コンテンポラリー・モダンダンス
- 研究課題1 Somatic work applying to dance training
- 2
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 テクニック・モダン・コンテンポラリー(Ⅰ)(Ⅱ)、アナライズ'クラス(Ⅰ)、生涯スポーツコース(コンテンポラリー)
大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●テクニック・モダン・コンテンポラリー(Ⅰ)(Ⅱ)、アナライズ'クラス(Ⅰ)、生徒間でお互いの動きを見る、アドバイスを聞く+伝える、身体に支障なく触れる機会を作ることを授業内で意識的にやっている。

■ 授業評価への対応

●まだ多く授業を担当しているわけではなく、具体的に書き込んでいる生徒がいないので、評価自体読み取れないが、マークシートの集計は相対的には好ましい結果である。そのため、授業評価というよりは、個人的に生徒達に直接話を聞き、何が欠落しているか、どんなことが成果に繋がっているかなどを拾いこもうとしている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

創作作品: Epitaph under thousands of petals, Haiku project, St. Paul Trinity church, Toronto, 03.7
 創作作品: her silence, softly breaks..., Aurora Dance Project, Dancemakers Studio, Toronto, 03.11
 創作作品: 大和撫子 さくら編, Dai Don Den 1, Winchester Street Theatre, Toronto, 04.8
 創作作品: Camellia, 日本バレエ協会合同公演, 新国立劇場, 04.8
 創作作品: Penderecki String quartet No.1, Via Salzburg, Glen Gould Studio, 05.12
 創作作品: 魔女の瞳, Dai Don Den 2, Winchester Street Theatre, Toronto, 06.3
 Four Horsemen Project, Theater Centre, Toronto/Factory Theatre, Toronto等, 01~06
 Four Horsemen Project, Factory theatre, Toronto Great Canadian Theatre Centre, Ottawa, 07

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

Performing arts program [代表者], Laidlaw Foundation, 2004 Sep-2005 Sep, CN\$4000
 Dance Initiatives [代表者], Ontario Art Council, 2005 May-2006 March, CN\$12000
 Project grants to dance organizations [代表者], Toronto Arts Council, 2005 Nov-2006 March, CN\$7760
 Performing arts program [代表者], Laidlaw Foundation, 2005 Sep-2006 March, CN\$10000
 [代表者], Japan Foundation Toronto, 2005 Sep-2006 March, CN\$1000

■ 主な研究活動(過去5年間)

ダンス公演の企画・実行・振付・出演

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

今年度は専任としての初年度で、舞踊専攻の12月の公演で、出演者一員として生徒とともに舞台に立った。客員であった昨年は、めぐみ会主催の講演会を担当した(「姿勢法について」)。舞踊専攻の公演でグラハムテクニックのデモンストレーションとして、「Class at 6pm」の構成・振付を行った。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

06.8.6 "dance and Mitzvah Technique" Dance and Media Japan, スタジオ鉄線, 埼玉

06.12.8 「姿勢について」めぐみ会, めぐみ会館

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

Toronto Arts Council Jury (grants to choreographers)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

■ 専門分野 音楽、ピアノ実技

■ 研究課題1

2

3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 ピアノ実技(専攻)、ピアノ実技(副専攻)

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●演奏する過程において、自身の音を聴く重要さに注意する。特にポリフォニーの音楽での実践を通して教育する。

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[単著] CD:「岡田将プレイズリスト」, ACCUSTICA PPCA-601, 04

[共著] 玉井菜摘・ヤン・ソンウォン, CD:「スピカコンサート100回記念ライブ録音」, ACCUSTICA, 06

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番, 出光音楽賞受賞者演奏会, 東京オペラシティコンサートホール, 02.5

シューマン:アラベスク、リスト:ソナタ ロ短調 他, 旬のピアニストシリーズ, トップアンホール, 02.9

日本ショパン協会主催リサイタル, 福銀ホール(福岡), 02

リスト:コンソレーション 全曲、ソナタ ロ短調 他, 第1回エスポワールシリーズリサイタル, トップアンホール, 04.12

フランク:ヴァイオリンソナタ、ドヴォルザーク:ドゥムキー, スピカコンサート100回記念公演, 浜離宮朝日ホール, 05.3

グリーグ:ピアノ協奏曲, 日フィル第151回サンデーコンサート, 東京芸術劇場, 05.5

岡田将ピアノ・リサイタル, バイロイト, 05

マーラー:ピアノ四重奏曲 断章 他, 第2回エスポワールシリーズ室内楽プログラム, トップアンホール, 05.6

スカルラッチェ:ソナタ ロ短調 他, 第3回エスポワールシリーズリサイタル, トップアンホール, 05.12

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

第12回出光音楽賞、第29回日本ショパン協会賞

- 専門分野 計算機工学
- 研究課題1 授業支援システム
- 2 マルチメディア教材開発
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、文系のための数学入門、情報科学基礎演習、卒業研究、情報科学応用演習Ⅱ、情報科学演習、情報科学入門

大学院 情報科学概論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2003年8月～現在 <自学自習環境の構築>2003年の情報科学教室システムの更新の一環として、Webmail(Active!mail)システムの導入によって、自宅等の学外からも大学のメールシステムを利用できるようにするとともに、e-Learning(Blackboard)システムを導入し、時空を超えた学生の自学自習環境を整備した。2004年度からはシラバスの電子化も実現できた。

■ 授業評価への対応

●2002年度～現在 <Webベースの相互評価システムの構築>情報科学演習の授業で行っているプレゼンテーションやWebページの学生による相互評価ならびに自己評価委員会を中心に行っている学生による授業評価アンケートをWeb上で実施し自動集計して瞬時にフィードバックできるようにした。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2004年4月～現在 <メール設定チェックシステムの構築>情報科学教室で使用しているメールシステム(NetscapeMail)およびActive!mailの個人環境設定の自動チェック機能を提供することにより、学生の自立的なITスキルアップを支援している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●2006年3月20日 「携帯メールをシャトルカード代わりにするシステム」(@2005年度 総合研究所助成 情報交換・研究報告会)にて、出席や質問の携帯メールに対応するシステムについて報告した。

●2007年3月5日 「KC-ITSからKC-ESへ」(@2006年度 総合研究助成 成果報告会)にて、同時通訳学習システム(KC-ES)について報告した。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●2003年8月、2006年8月 <CALL教室、マルチメディア教室整備>PCシステムとLL装置、同時通訳ブースなどの通訳トレーニング専用機能を組み合わせたCALLシステムを構築した。2006年度研究所総合研究助成「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」研究代表者

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 島井哲志・池見陽 編, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール, 北大路書房, 107-112, 06.4

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] 出口弘・島井哲志, 出席や質問の携帯メールに対応するシステムの試み ～携帯メールはシャトルカードの代わりになるのか～, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 108-114, 06.7

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

Differential activation patterns between word and sentence translation tasks between Japanese and English: an functional MRI study, 12th Annual Meeting Human Brain Mapping, Florence Italy, 06.7.14

An fMRI study of oral translation between Japanese and English, 12th Annual Meeting Human Brain Mapping, Florence Italy, 06.7.14

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], 国際的なコラボレーションによるGendlin Archive作成のための重要文献デジタル化の試み, 2005年度, 125万円

本学研究所 総合研究助成金[分担者], 少数教育に情報機器を効果的に用いる教育方法の検討, 2005年度, 125万円

本学研究所 総合研究助成金[代表者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究, 2006年度, 108万8000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 心身医学、小児科学、医療心理学
- 研究課題1 摂食障害
 - 2 小児のうつ病
 - 3 心身症

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 演習Ⅱ、心身医学概論、臨床心理学実習Ⅲ、卒業研究、心身医学各論、医療心理学
- 大学院 心身医学特論、M特別研究、D特別研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 最新情報をつたえるため、使用する教材資料を毎年改め、学生に指示した。とくに医学的情報は、最新の出版物を参照して講義した。

■ 授業評価への対応

- 授業評価を踏まえて、学生に説明し、改良の方法を伝えた。とくに授業の静粛を期した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 授業テーマに沿って、毎年、出来るだけ多くの配布資料を作成した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- とくに講演活動のなかで、教育方法や教育実践に関する意見を、しばしば発表した。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 毎年、ゼミ生と、地域での講演会や啓発活動を行なっている。大阪府立高校や神戸女学院高校で、ゼミ生と共に摂食障害の講義や啓発教育を行っている。こうした頻回の対外活動で、多くを学んでいるという意見を聞き及んでいる。
- 2006年12月には、日本心療学会の会長として、ゼミ生を中心として企画・運営にあたった。学生は学会内容から心身医学の実践を学ぶことができた。心療内科外来研修を、ゼミ生や卒業生を対象として週2回行っている。授業では伝え難い治療手技や受診者の状況などを教えている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編, はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房, 148-159, 03.2
- [共著] 河野友信・山岡昌之・石川俊男 編, ストレス診療ハンドブック第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 322-327, 03.5
- [共著] 市民が主役の安全・安心まちづくり, 日本放送出版協会, 121-145, 03.9
- [共著] 柳沢正義 監修 星加明德 編, 小児科外来診療のコツと落とし穴(2) メンタルヘルスケア, 中山書店, 102-103, 04.1
- [共著] 伊藤節子 編, 臨床病態学, 化学同人, 98-104, 04.12
- [共著] 石川俊男・鈴木健二・鈴木裕也・中井義勝・西園文 編, 摂食障害の診断と治療 -ガイドライン2005-, マイライフ社, 145-148, 166-167, 05.1
- [共著] 久保木富房・不安・抑うつ臨床研究会 編, 子どもの不安症, 日本評論社, 153-162, 05.2
- [共著] 摂食障害の新たな診断・治療ガイドライン作成と臨床的実証研究 平成14-16年度総括・分担研究報告書, 69-71, 05.3
- [共著] 丸山進一郎・西連寺愛憲 監修, もう一步踏み込もう!! -学校歯科保健-, 東京臨床出版, 176-180, 05.5
- [共著] 上島国利 編, うつ病診療のコツと落とし穴, 中山書店, 16-17, 05.9
- [共著] 河野友信・石川俊男 編, ストレスの事典, 朝倉書店, 272-274, 05.10
- [共著] 吾郷晋浩・末松弘行・河野友信 編, 臨床心身医学入門テキスト, 三輪書店, 99-101, 05.11
- [共著] 島井哲志・池見陽 編, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール, 北大路書房, 166-171, 199-204, 06.4
- [共著] 食べもの文化編集部 編, ここまでOK! 新・子どものダイエツト, 食べもの文化, 30-37, 07.2

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 摂食障害, からだの科学 225, 50-54, 02.7
- [単著] 摂食障害と包括的支援, 保健の科学 44(8), 615-619, 02.8
- [単著] 現代の病 -摂食障害-, 神戸心身医学 第15号, 7-12, 02.10
- [単著] 児童の摂食障害患者への対策に関する研究, 平成14年度報告書「摂食障害の標準的治療法の開発とそのガイドライン作成と治療体制のあり方についての研究」(主任研究者 切池信夫), 103-104, 03.3
- [単著] 無理なダイエットによる健康障害, School health Education 健康教室 633, 12-14, 03.4
- [単著] 小児の摂食障害, 心療内科 7(3), 214-218, 03.5
- [単著] 摂食障害, 小児内科 35増刊号(小児疾患診療のための病態生理2), 824-832, 03.6
- [単著] 摂食障害, 精神科臨床サービス 3(3), 293-297, 03.7
- [単著] 子どものうつ, 神戸心身医学 16, 6-15, 03.9
- [単著] 摂食障害と自助グループ, こころの科学 112, 88-93, 03.11
- [単著] 学校精神保健に関するアンケート調査について, 神戸心身医学 17号, 24-26, 04.9
- [単著] 抑うつを示す小児への対応, 日本醫事新報 4201, 11-14, 04.10
- [単著] 摂食障害の臨床 -子どもの摂食障害-, ストレスと臨床 21, 8-11, 05.1
- [単著] The prevalence of traumatic events in young Japanese women, Journal of Traumatic Stress 18(1), 33-37, 05.2
- [単著] 特集摂食障害「摂食障害とは」, 健康教室 657, 10-13, 05.8
- [単著] 児童虐待に対する大学生の意識調査, 心療内科 9(6), 442-446, 05.11

- [単著] 子どもにうつ病はあるのか, 医業ジャーナル 42(4), 121-124, 06.4
 [単著] 小児科心療外来受診者の背景にみられた発達障害について, 心身医学 46(4), 310-317, 06.4
 [単著] 子どものストレスと心の訴え, 教育と医学 638, 32-37, 06.8
 [単著] 思春期のうつ, 医学のあゆみ 219(13), 1129-1132, 06.12

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 児童・思春期の抑うつ, 第3回日本うつ病学会総会, 京王プラザホテル, 06.07.27
 摂食障害患者の健康調査に関する研究, 第2回日本摂食障害学会, 東京家政大学, 06.9.23
 小児・思春期の心身医療, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 摂食障害患者の健康調査に関する研究, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 女子大学生における摂食障害予防介入プログラムの効果, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 小・中学生の抑うつ傾向と生活習慣の関連について, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 アロマセラピーの効果について-施術を通して-, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 子どもの抑うつ傾向の現状と課題, 第11回日本心療内科学会, ザ・リッツカールトン大阪, 06.12.2
 摂食障害の早期発見・治療における連携, 第26回日本社会精神医学会, 横浜市開港記念会館, 07.3.22
 The efficacy of an eating disorder prevention program for Japanese college women -A seven-month follow up study-, The 8th International Eating Disorders Conference, Imperial College, London, 07.3.29
 摂食障害のネットワーク形成-摂食障害フェスティバルにおけるアンケート調査から, 第20回神戸心身医学会, 兵庫県中央労働センター, 07.4.21
 女子大生を対象とした摂食障害予防的介入プログラムの開発, 第20回神戸心身医学会, 兵庫県中央労働センター, 07.4.21

■ その他(2006年度)

- 海外文献紹介: Nutrition Counseling for Anorexia Nervosa, Bulimia nervosa, and Binge Eating Disorder, 心身医学46(5), 日本心身医学会, 06.4
 執筆: 成長期の子どもの危険なダイエットから守ろう, 少年写真新聞 第1353号 給食ニュース1-4, 少年写真新聞, 06.6
 執筆: こんな時、親は手出ししていいの? いけないの?, 別冊PHP 平成18年7月号, PHP研究所, 47-55, 06.7
 神戸心身医学 第19号, 06.7
 連載執筆: 身・心, アサヒファミリー1058-1399号, アサヒ・ファミリー・ニュース社, 06.7
 執筆: こころの再生 百人衆, 大阪府教育委員会ホームページ, 06.8
 執筆: 第11回日本心療内科学会学術大会開催にあたって, 日本心療内科学会ニューズレター 1, 06.11
 執筆: 子どものダイエット, 食べもの文化 11月増刊号(368号), 芽ばえ社, 30-37, 06.11
 執筆: 増える子どものうつ病, 日本海新聞 朝刊, 日本海新聞, 06.11
 執筆: 過敏性腸症候群, ビジュアルBOOK灯台「子どもの健康を守る」, 「灯台」編集部 第三文明社, 18-19, 06.12

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 本学人間科学部 研究助成金 [代表者], 2002年度, 30万円
 平成14年度厚生労働省《精神・神経疾患研究》分担研究者 [代表者], 摂食障害の新たな診断・治療ガイドライン作成と臨床的実証研究, 2002年度
 平成14年度厚生労働省《こころの健康科学分野研究》 [代表者], 摂食障害の標準的治療法の開発とそのガイドライン作成と治療体制のあり方について, 2002年度
 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 摂食障害の予防, 2003年度, 60万円
 本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 心理臨床技能の向上を図る教育プログラムの検討~臨床心理士候補生(大学院生)の臨床センスを涵養する試み~, 2005年度, 65万5000円
 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], ストレスによる生物学的反応の研究, 2005年度, 66万円
 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 2006年度, 43万円
 こころの健康科学研究事業分担研究者 [分担者], 思春期の精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究, 100万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

研究活動に力を入れ、多くの報告を行い、成果を挙げたと考える。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

主に広報活動を行った。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

- 神戸心身医学会 代表
 日本心身医学会近畿地方会 評議員・幹事
 2004年6月4日~2006年6月3日 日本心身医学会 幹事
 日本心身医学会 評議員
 日本心身医学会 編集委員会委員(副編集長)
 日本心身医学会 総務委員
 日本心身医学会 国際心身医学会準備委員会委員
 日本心身医学会 摂食障害・医療対策ワーキンググループメンバー
 日本心身医学会 50年史編纂特別委員会委員
 日本心身医学会 第18回世界心身医学会議準備委員会委員

日本心身医学会 プログラム委員
日本心身医学会 2006年度心身医学会アジア部会組織委員
2006年4月～日本心身医学会「BioPsychoSocial Medicine」編集委員
日本心療内科学会 理事・入会資格審査委員会委員・評議員
日本摂食障害研究会 理事
第1回日本国際精神障害予防会議 組織委員
子どもの成長を考える大阪フォーラム 世話役
Japan Committee for Prevention and Treatment of Depression 委員
子どもの心とからだを考える会 世話役
日本小児心身医学会関西地方会 幹事
日本小児心身医学会 摂食障害ワーキンググループメンバー
日本摂食障害学会 理事
2004年6月～日本うつ病学会 評議員
2006年11月2日～2009年11月 日本ストレス学会 評議員

■ 講演(2006年度)

06.5.21 「女子大学生のボディイメージと食行動」 女性医療ネットワーク関西支部設立記念セミナー
06.5.26 「小児心身症」 大阪市大大学院医学研究科発達小児医学講義
06.6.18 「摂食障害について語り合おう」 摂食障害家族の会「あゆみの会」講演
06.7.29 「摂食障害の心理教育的アプローチについて」 青山心理臨床教育センター講座
06.8.29 「摂食障害のセルフヘルプ」 国立精神・神経センター精神保健技術者研修会
06.9.24 司会「摂食障害からの回復のために」 第2回日本摂食障害学会(23～24)市民公開講座
06.10.2 「子どもの心の訴え・理解と対応」 春日井安全アカデミー
06.11.3 「こころの再生府民運動について」 大阪府市町村教育委員研修会
06.12.3 主催と講演「第6回摂食障害ネットワーク総会」
06.12.9 「ダイエットの落とし穴」 神戸女学院の心理学 2006

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

大阪市教育委員会「幼稚園教育の在り方等に関する調査研究会議」座長
大阪市心身障害者リハビリテーション懇話会 委員
第1回日本国際精神障害予防会議 組織委員
大阪府青少年問題協議会 委員
大阪府教育委員会 委員・委員長職務代理者
小児心身問題研究会 代表
医療法人弘道会 理事長
日本摂食障害ネットワーク 代表
日本お母さん学会 代表
摂食障害自助グループ「あゆみの会」代表
大阪府「こころの再生府民運動」委員
2006年8月1日～大阪府青少年問題協議会 委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 臨床心理学
- 研究課題1 スクールカウンセリングの実践的研究
 - 2 文章完成法による心理査定
 - 3 被害者支援

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 心理学入門ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、臨床心理学、卒業研究、スクールカウンセリング論
 - 大学院 臨床心理査定演習、臨床心理実習、臨床心理基礎実習、臨床心理学特論
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 一丸藤太郎・菅野信夫 編 他22名, 学校教育相談(「校内での協力体制」), ミネルヴァ書房, 13,169-182, 02.4
 - [共著] 皆藤章 編 他7名, 臨床心理学全書7 臨床心理査定技法2(「イメージをことばにする技法」(竹内健児と共著)), 誠信書房, 24,102-116, 04.3
- 学術論文(過去5年間)
 - [単著] 心理検査と言葉についての試論, 京都大学カウンセリングセンター紀要 第32輯, 17-26, 03.3
 - [単著] 文章完成法を応用したテストSCT-Bについて, 京都大学教育学研究科博士論文, 05.3
 - [単著] SCT-Bの信頼性とパーソナリティ特性の一貫性についての一考察, 京都大学カウンセリングセンター紀要 第34輯, 1-8, 05.3
 - [単著] SCT-Bの反応パターンと強迫性に関する一考察, 京都大学カウンセリングセンター紀要 第35輯, 19-29, 06.3
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
 - 報告:研修会を開催して, 日本臨床心理士会雑誌, 日本臨床心理士会, 06.9
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 2005年に「文章完成法を応用したテストSCT-Bについて」で京都大学博士(教育学)号を取得した。これに関する論文は2002-2005年までは3本ある。また、2006年度までは京都大学カウンセリングセンターでのカウンセリング、ハラスメント相談窓口などで実践的研究をし、中学でのスクールカウンセラーの実践を通じて、学校臨床心理学の考察を深めている。2006年度には第11回学校臨床心理士全国研修会の実行委員長(1500名参加)を努め、無事成功させた。これに関する著作が2002年に1本ある。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)
- 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 臨床心理学、家族臨床心理学、グループワーク、音楽療法
- 研究課題1 調整的音楽療法の効果についての研究
- 2 打楽器による能動的音楽療法プログラムの開発
- 3 女性にとっての子どもの意味についての考察

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 心理学入門ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、臨床心理学、臨床心理学実習Ⅲ、卒業研究、家族臨床心理学、音楽療法とコミュニケーション
- 大学院 臨床心理査定演習、臨床心理実習、臨床心理基礎実習、合同演習、M特別研究、臨床心理面接特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2006年後期～現在(今後も同様に実施予定)「家族臨床心理学」の授業において、毎回授業終了時にコメントカードの記入を求め、翌週必ず、その中の重要と思われる質問や確認・補足すべき事項について教員からコメントを行なった。(Q&A方式を取ることで、学生からの質問や積極的コメント、授業への参加意欲が増加した。)
- 2006年後期～現在(今後も同様に実施予定)「臨床心理面接特論」のカウンセリング実習において、クライアントとセラピスト役からなる、ロールプレイによる模擬面接を実施し、その内容をビデオに撮影し、全員で応答について検討した。さらに、相互のコメントや教員の見方を開示することで、事例を見立て、治療方針を立てる上での着眼点についてクライアント、セラピスト双方の視点から考察できる工夫を行なった。クライアント役を体験するためには症状理解が必要であるため、同時に症状について学び、クライアントの心理への理解を深めることができた。
- 2006年通年～現在(今後も同様に実施予定)ゼミにおいて、國吉ゼミの院生と学部生が一堂に会して学年を超えて学ぶ場を設定した。院生が学部生を対象にファシリテーターとしてグループワークを実施することで、院生はグループワークの準備、適切な指示の仕方、グループマネジメントについてのスキルを実践的に学ぶことができ、学部生はグループワークを通して、ゼミ生および先輩との交流の機会が持てることで、今後学年を超えたゼミ生同士でのピアサポート体制の基礎を築くことができた。

■ 授業評価への対応

- 2006年～現在 特に要望があったわけでは無いが、自主的に板書をていねいに、話すスピードをゆっくりにすることを心がけた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2006年前期～現在(今後も同様に実施予定)「心理学入門ゼミ」の「ストレス」授業において、学んだ内容を学生が具体的に自らに照らして考えることができるよう、ストレスサインを自己発見できるチェックリスト(教材)を作成した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2002年11月22日 「子育てサポーターとしてのわたし発見」(宇治市生涯学習センター)
- 2003年1月27日 「引きこもりについて考える家族教室」(京都市心の健康増進センター)
- 2003年1月28日 「わたしの価値観を知る」(亀岡市教育委員会・子育てサポーター養成講座)
- 2003年2月18日 「まなざしのボディワーク～母と子を見守るために～」(亀岡市教育委員会・子育てサポーター養成講座)
- 2003年2月21日 「思春期危機と親のかかわりについて」(南加茂台公民館・泉川中学校主催「家庭教育力活性化支援事業」)
- 2003年5月1日 「学校現場に生かす臨床心理学の視点」(京都ノートルダム女子大学)
- 2004年2月13日 「私に気づく ～こころを合わせる」(亀岡市教育委員会・子育てサポーター養成講座)
- 2004年5月25日 2005年5月31日 2006年5月29日 「いじめ・不登校のカウンセリング」(京都府保育協会)
- 2005年12月10日 「親子の心の健康支援事例検討会」(京都市北保健所)
- 2005年7月26日 「人間関係スキル実習」(京都市教育相談総合センター 全校種カウンセラー研修講座)
- 2005年8月19日 「わたしの中の「子ども」」(京都府保育協会 全体研修会)
- 2005年8月22日 「学校教育相談実技指導者養成特別講座」(京都府総合教育センター)
- 2006年2月3日 「コミュニケーション・ワーク」(亀岡市教育委員会・子育てサポーター養成講座)
- 2007年1月24日 「私の中の他者に出会う」(亀岡市教育委員会・子育てサポーター養成講座)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 京都大学教育学部において筆者は「教育心理学」「授業心理学」の授業を担当している。そこでの授業内容では新しい教育コンセプトを取り扱っており、そういった「自己主導型の学び(体験学習・双方向授業の導入)」「学ぶ側への肯定的関心」「ファシリテーターあるいは援助者としての教師」といった視点から授業や教育活動を行なうよう常に心がけている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 鎌田穰 監修 國吉知子・伊藤一美・山本智也・桐野由美子, 心理・福祉のファミリーサポート(「臨床心理士と子育て支援」部分), 金子書房, 179pp., 03.9
- [共著] 岡田康伸・河合俊雄・桑原知子 編 國吉知子 他74名, 心理療法における個と集団(「グループワークにおける「変容」について」部分), 創元社, 511pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 不本意入学の不満を訴える男子学生の枠破りと編入の心理的意味について～学生を支える器としての学生相談室～, 学生相談研究 第23巻第1号, 02.7
- [単著] 療法的音楽活動の試み～クラシック音楽を刺激として用いた描画ワーク～, 京都ノートルダム女子大学生涯発達心理学科研究誌「ブシュケー」第3号, 04.3
- [単著] 心理療法を支える基本的視点～初心者のためのスーパービジョン覚書～, 京都ノートルダム女子大学心理臨床センター紀要 創刊号, 04.12

- [単著] 言葉の問題を持つクライアントと関わるセラピストの言葉をめぐって, 神戸親和女子大学心理相談研究紀要 第3号, 05.3
 [単著] 調整的音楽療法の心身状態への効果について, 京都ノートルダム女子大学生涯発達心理学科研究誌「プシューケー」第4号, 05.3
 [単著] マンダラ塗り絵の心理的意味についての一考察, 京都ノートルダム女子大学心理学部・大学院心理学研究科研究誌「プシューケー」第5号, 06.3
 [単著] 心理臨床における身体感覚の重要性, 京都ノートルダム女子大学心理臨床センター心理相談室紀要 第2号, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

調整的音楽療法(RMT)短縮版の効果についての検討 -STAIとPOMSを用いて-, 第6回 日本音楽療法学会学術大会, 宮城学院女子大学, 06.8.26

■ その他(2006年度)

翻訳:『箱庭療法 -イギリス・ユング派の事例と解釈-』, 山中康裕 監訳 國吉知子・伊藤真理子・奥田亮 訳, 金剛出版, 156-159, 172pp., 03.4
 執筆:アフターメーションと美の基準, 神戸女学院女性学インスティテュート No.41, 神戸女学院女性学インスティテュート, 06.6
 執筆:悪循環から抜け出すために〜解決を構築する〜(職場のメンタルヘルス), IMF-JCNo.285, 金属労協, 07.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト助成 [代表者], 調整的音楽療法の効果についての検討, 2003年度, 50万円
 京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト助成 [代表者], 調整的音楽療法の効果についての検討(2), 2004年度, 50万円
 京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト助成 [代表者], 打楽器を用いた能動的音楽療法プログラムの開発, 2005年度, 50万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

受動的音楽療法の一技法である「調整的音楽療法」の効果の研究と、短縮版プログラムの開発を中心に研究と実践を進めて来た。その成果は毎年「心理臨床学会」および「音楽療法学会」において発表を行なっている。さらに、「子育て支援」の観点から、女性にとっての子どもの意味について考察を進め、既に採取したデータの分析も行なっている。この2つのテーマについて、研究活動を地道に実践している点は自己評価できるが、それらを論文にまとめていく作業をさらに積極的に行なっていくことが今後必要であると考えている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2006年着任であったが、人間科学部倫理委員、カウンセリングルーム運営委員、心理相談室運営委員として活動した。また、積極的にオープンキャンパスや講演会、高校出張模擬授業なども担当した。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 精神医学
- 研究課題1 青年期精神医学
- 2 精神療法
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、精神医学総論、臨床心理学実習Ⅲ、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉援助基礎実習、卒業研究

大学院 臨床心理基礎実習、精神医学特論、合同演習

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月～現在 Power Pointにて教材作成。学生に教材配布。
- 2002年4月～現在 当該分野の最新知見を、適宜教材に反映。

■ 授業評価への対応

- 2002年4月～現在 授業時間内に学生とディスカッション。次年度の教材作成等に反映。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2004.11～2005.1 精神医学ビデオ(『心のトラブル』シリーズ全13巻)日本語訳監修
- 2005.9.5 精神医学教科書(『精神医学への招待』)作成(分担執筆)
- 2006.4.10 心理学教科書(『心理学・臨床心理学入門ゼミナール』)作成(分担執筆)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 精神疾患における認知のメカニズムとその対策, 中山書店, 303-314, 03.5
- [共著] 志水彰・頼藤和寛・水田一郎・岩瀬真生, 精神医学への招待, 南山堂, 05.9
- [共著] 島井哲志・池見陽 編, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール, 北大路書房, 06.4
- [共著] 武田雅俊・工藤喬 編, 心のサイエンス-この10年のあゆみ-, メディカルレビュー社, 06.11
- [共著] 藤本修 編, 現場に活かす精神科チーム連携の実際-精神科医、心理士、精神科ソーシャルワーカーのより良い連携を求めて, 創元社, 06.12
- [共著] 齊藤万比古 編, 不登校対応ガイドブック, 中山書店, 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] メンタルヘルスの意識調査と期待される精神医療サービス, Pharma Medica 20(suppl.), 87-95, 02.4
- [単著] Conflict of intentions or inner negativism -Author's reply, Journal of Neurology, Neurosurgery, & Psychiatry 72(5):681, 02.5
- [単著] Self in Context: Autonomy and relatedness in Japanese and U.S. mother-preschooler dyads, Child Development 73(6), 1803-1817, 02.11
- [単著] ころとからだの<間> -その病としての精神障害, 女性学評論 第17号, 1-21, 03.3
- [単著] 精神分析的な精神療法とマニュアル, 神戸女学院大学心理相談室紀要 4, 3-13, 03.4
- [単著] 神経性大食症に対する認知行動療法の治療効果研究, メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集(2002年度) 第14号, 63-68, 03.6
- [単著] 児童青年精神医学の現在-治療, 発達(別冊) 27, 40-49, 03.9
- [単著] 転換性障害の診断と治療, 精神科 4(2), 79-84, 04.2
- [単著] 通信制禁煙プログラム「禁煙コンテスト」の評価, 公衆衛生学雑誌 51(5), 357-370, 04.5
- [単著] 適応障害, 日本医師会雑誌 131(12), 228-230, 04.6
- [単著] Electrogastrography abnormality in eating disorders, Psychiatry and Clinical Neurosciences 58 (3), 300-310, 04.6
- [単著] 青年期精神療法の原点と今後の展望, 青年期精神療法 4(1), 31-38, 04.11
- [単著] 摂食障害, 臨床精神医学 33, 324-341, 04.12
- [単著] The prevalence of traumatic experiences in young Japanese women, Journal of Traumatic Stress 18(1), 33-37, 05.2
- [単著] 過食症に対する集団療法の試み -自記式質問票に反映されない治療効果について-, 臨床精神医学 34(4), 487-499, 05.4
- [単著] 恋愛・結婚・離婚の心理学, ころの科学 122, 56-62, 05.6
- [単著] 摂食障害とひきこもりの関連についての研究, 厚生労働科学研究費補助金 ころの健康科学研究事業 思春期・青年期の「ひきこもり」に関する精神医学的研究 平成17年度総括・分担研究報告書, 79-89, 06.3
- [単著] 摂食障害とひきこもりの関連についての研究, 思春期・青年期の「ひきこもり」に関する精神医学的研究 平成18年度総括・分担研究報告書, 80-90, 07.3
- [単著] ひきこもり支援における保健所と医療機関の連携の現状と課題, 思春期・青年期の「ひきこもり」に関する精神医学的研究 平成18年度総括・分担研究報告書, 91-102, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

解離性障害の精神病理と精神療法(シンポジウム「青年期の精神病理と治療の現在」), 第29回日本精神病理・精神療学会, 大阪大学, 06.10.5-6
”対人関係”に焦点を当てた摂食障害の集団療法の試み, 第47回日本児童青年精神医学会, 千葉(幕張メッセ), 06.10.18-20

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 心的外傷と精神障害の関連についての研究, 2002年度, 60万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 摂食障害(神経性大食症)に対する集団精神療法の治療効果研究, 2003年度, 60万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 摂食障害(神経性大食症)に対する集団精神療法の治療効果研究, 2004年度, 54万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 体験過程スケール改良のための基礎研究, 2004年度, 95万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 神戸女学院大学における『キャリア教育』のあり方に関する調査研究, 2004年度, 68万8000円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 心理臨床技能の向上を図る教育プログラムの検討～臨床心理士候補生(大学院生)の臨床センスを涵養する試み～, 2005年度, 65万5000円
本学人間科学部教育研究助成金 [代表者], 摂食障害(神経性大食症)に対する集団精神療法の治療効果研究, 2005年度, 54万円
厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業) [分担者], 思春期・青年期のひきこもりに関する精神医学的研究, 2005年度～2006年度, 2000万円(総額)
本学人間科学部教育研究助成金 [代表者], 摂食障害(神経性大食症)に対する集団精神療法の治療効果研究, 2006年度, 43万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2000年～現在 児童青年精神医学会 評議員
2001年～現在 児童青年精神医学会 認定医審査委員
2000年～現在 青年期精神療学会 理事
2000年～現在 近畿児童青年精神保健懇話会 世話人
2003年～2005年 精神神経学会 評議員

■ 講演(2006年度)

06.8.23 「思春期と病理」 大阪府教育センター教育相談研修
06.10.22 「思春期の神経症発症:不登校、家庭内暴力、ひきこもりなど」 日本精神科病院協会主催「こころの健康づくり対策」研修会(思春期精神保健対策専門研修会)
06.12.6 「こころの病気」 神戸女学院大学心理行動科学科市民公開講座

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 生涯発達心理学、ジェンダー心理学
- 研究課題1 日本におけるジェンダー問題：心理学の立場から
- 2 フェミニスト理論と科学
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 心理学入門ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、ジェンダーの心理学、キャリアを考える、教育心理学、心理行動科学実験実習、卒業研究

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2002年4月～現在 映像が使える場合には、使っている。特に、子どもの発達に関する内容の場合には、子どもに触れたことのない学生向けに視覚教材を使っている。

■ 授業評価への対応

●2002年4月～現在 授業評価アンケートの自由記述において、講義の問題点として授業中の私語をとりあげる学生がいるので、私語をする学生がいたら常に注意している。

●2002年4月～現在 板書をわかりやすくという要望があったので、わかりやすく書いた上で、ノートに書くべきポイントを伝えている。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●『はじめてのジェンダースタディーズ』を2003年2月に出版(編著者)。「女性学」の講義の教科書として使用中(2004年～現在)。

●『ジェンダーの心理学 改訂版』は、2004年10月に出版(共著)。2005年度と2006年度に本学で開講している「ジェンダーの心理学(生涯発達)」の教科書として使用した。なお、2002年度～2004年度は、改訂前の『ジェンダーの心理学』を教科書として使用した。

●2002年4月～現在 講義においては、教科書以外に、ほぼ毎回補足のプリント資料を作成。毎年、新しい情報を入れるよう、新聞や雑誌等に注意を払っている。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●2005年10月12日 本学教授会研修会(2005.10.12)において導入教育に関する教育実践報告を行った。タイトル「とりあえずおもしろければいいんじゃない」

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●2002年4月～現在 4年生の卒論指導については、メールでのやりとり、授業時間外の相談(長期休暇も含む)も可能な限り行っている。夏休みには卒業論文中間発表会を行い、3年ゼミ生も出席をさせている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[単著] 女らしさ・男らしさ-ジェンダーを考える-, 北大路書房, 02.10

[共著] ◎森永康子・神戸女学院大学ジェンダー研究会 編 森永康子 他21名, はじめてのジェンダー・スタディーズ, 北大路書房, 03.2

[共著] ◎柏木恵子・高橋恵子 編 柏木恵子 他47名, 心理学とジェンダー -学習と研究のために-, 有斐閣, 03.3

[共著] ◎青野篤子・森永康子・土肥伊都子, ジェンダーの心理学 改訂版, ミネルヴァ書房, 04.10

[共著] ◎青野篤子・湯川隆子 編 青野篤子 他12名, フェミニスト心理学をめざして-日本心理学会シンポジウムの成果と課題-, かもがわ出版, 06.3

[共著] ◎島井哲志・池見陽 編 他34名, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール, 北大路書房, 06.4

[共著] ◎福富護 編 森永康子・池田政子・中澤智恵・上瀬由美子・松田修・土肥伊都子・宇井美代子・青野篤子, ジェンダー心理学, 朝倉書店, 06.6

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] ◎福本環・森永康子, 青年期独身男女の避妊行動を規定する要因の検討にむけて, ヒューマン・サイエンス No.6, 33-38, 03.3

[単著] フェミニズムと心理学, 女性学評論 第17号, 115-129, 03.3

[単著] フェミニズムと心理学(2) -フェミニスト的視点からの解釈についての論考-, 女性学評論 第19号, 195-204, 05.3

[共著] ◎福本環・森永康子, 男女大学生の避妊行動に関する研究 -愛情を感じる相手との最も最近の性交渉において-, 母性衛生 46(1), 143-153, 05.4

[共著] ◎森永康子・飯田祐子・小川真里子・風間孝, フェミニズムとアカデミア -日本心理学会第69回大会ワークショップ報告-, 女性学評論 第20号, 79-113, 06.3

[共著] ◎武知優子・森永康子, ピアノ指導者の子どもに対する期待・指導とジェンダー, 音楽表現学 Vol.4, 33-40, 06.11

[共著] ◎Kannan, P.・Frieze, I.H.・Takechi, Y.・Morinaga, Y.・Aono, A.・Fukutomi, M.・Sreekumar, A., Gender role attitudes comparing women with egalitarian and conservative attitudes in the United States, India, and Japan. Bahria Journal of Professional Psychology, Bahria Journal of Professional Psychology Vol.1, 21-64, 07.1

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

女子大学生のキャリア意識とジェンダー・パーソナリティ, 日本社会心理学会第47回大会, 東北大学, 06.9.17, ◎森永康子・土肥伊都子
若い成人期独身女性の仕事、家庭役割観-志向、自己効力、社会からの評価の3側面から-, 日本心理学会第70回大会, 九州大学, 06.11.4, ◎武知優子・森永康子
変化する母と娘～娘の結婚・出産をきっかけに生じた母娘関係の再構築～, 日本発達心理学会第18回大会, 埼玉大学, 07.3.24, ◎森永康子・大角尚子・武知優子

■ その他(2006年度)

執筆: 女子学生のキャリア意識, 現代のエスプリ別冊 ジェンダー・アイデンティティ-揺らぐ女性像-, 至文堂, 99-108, 06.7

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], Positive emotionをめぐる多面的研究, 2002年度, 90万円
本学研究所 出版助成金[代表者], はじめてのジェンダー・スタディーズ, 2002年度, 106万円
本学研究所 総合研究助成金[分担者], 国際的なコラボレーションによるGendlin Archive作成のための重要文献デジタル化の試み, 2005年度, 125万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

ジェンダー心理学の領域において、専門書のみならず、中高生向け、大学生・一般成人向けの著書を執筆した。また、米国で出版されているハンドブックや一般向けの図書を翻訳した。これらの出版物により、ジェンダーに関する知見を広めることが出来たと考える。また、フェミニスト理論やジェンダー領域の研究を論文や学会で発表している。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002～2004年は学生副部長として大学の運営に関わった。2003年には大学広報誌『Vistas』の創刊の中心をにない、2003年と2004年は大学広報委員長として『Vistas』の編集責任者となった。2006年は心理行動科学科長として、学科の運営の責任をにっている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年1月～2005年12月 日本発達心理学会 編集委員
2002年10月～2006年10月 日本心理学会ジェンダー研究会 幹事

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 認知心理学
- 研究課題1 推論課題を用いた思考の文化差についての研究
- 2 Cross-cultural studies on the human resolution of contradiction
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 心理学入門ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、心理行動科学文献講読、卒業研究、認知心理学、自然と人間、心理行動科学実験実習、行動科学統計Ⅱ

大学院 M特別研究、人間行動学演習Ⅱ、心理統計法特論、認知心理学特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 1993年～現在 常に最新の論文を入手して学生に発表
- 1993年～現在 英文雑誌の論文、読み、書きの指導。そのために、日英専門用語集を作成

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2003年～現在 『進化・文化 -日本人の思考力』, ナカニシヤ出版(2003)
- 2005年～現在 『有斐閣双書KeyWordSeries 認知心理学 キーワード』, 有斐閣(2005)
- 2006年～現在 『認知心理学概論』, 放送大学教育振興会 (2006)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [単著] 思考・進化・文化 -日本人の思考力, ナカニシヤ出版, 03.7
- [単著] メンタリティの構造改革 -健全な競争社会に向けて, 北大路書房, 03.11
- [共著] 中島義明・箱田裕司・繁樹算男 編, 新・心理学の基礎知識, 有斐閣, 05.1
- [共著] 森敏昭・中条和光 編, 有斐閣双書 KeyWordSeries 認知心理学キーワード, 有斐閣, 05.6
- [共著] 高野陽太郎・波多野誼余夫 編, 認知心理学概論, 放送大学教育振興会, 06.3
- [単著] 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書「推論課題を用いた思考の文化差についての研究」, 神戸女学院大学人間科学部, 06.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] Context, goal, utility, and relevance: A reply to Evans (2002) considering Oaksford (2002), *Thinking and Reasoning*, 8, , 225-230, 02.6
- [単著] 直説法的Wason選択課題におけるバイアスをどのように説明できるか?, *認知科学*, 9, 473-486, 02.12
- [単著] Optimal data selection in a dual process model, *The Korean Journal of Thinking & Problem Solving*, 03.1
- [共著] 山 他2名, Cross-linguistic false recognition: How do Japanese-dominant bilinguals process two languages: Japanese and English?, *Psychologia*, 46, 255-267, 03.12
- [共著] 山 他1名, Editorial for the special issue, *Psychologia*, 47(4), 205-206, 04.11
- [共著] 山 他1名, The difference between implicit and explicit associative processes at study to create false memory in the DRM paradigm, *Memory*, 14, 68-78
- [共著] 山 他4名, 人物選択における選好と拒否, *社会心理学研究*, 21, 226-232

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

- 反後知恵バイアス?-日仏比較文化研究, 第4回日本認知心理学会, 中京大学, 06.7.1-2
- 反後知恵バイアス?-日韓英仏比較文化研究, 第70回日本心理学会, 九州大学, 06.11.3-5
- コントロール感と曖昧性が確率判断に与える影響, 第70回日本心理学会, 九州大学, 06.11.3-5
- A cross-cultural study on conditional reasoning and hindsight bias, the 18th Annual Conference of the Cognitive Science Society, University of British Columbia, 06.7.26-29
- Strategies for evaluating opinions: A cross-cultural study, the 18th Annual Conference of the Cognitive Science Society, University of British Columbia, 06.7.26-29
- Culture and cognition 2 (Organizer of Symposium), 5th International Conference on Cognitive Science, University of British Columbia, 06.7.26-29
- Dealing with contradiction in a communicative context: A cross-cultural study (Symposium talk), 5th International Conference on Cognitive Science, University of British Columbia, 06.7.26-29
- Conditional reasoning and hindsight bias: a cross-cultural study of British, French, Koreans, and Japanese, the London Reasoning Workshop: Festschrift for David Over's 60th Birthday, University of London, 06.9.14-15
- 二重過程理論をめぐって。(中垣啓(企画) ワークショップ 合理性論争の解決に向けて), 第70回日本心理学会, 九州大学, 06.11.3-5

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会特定国派遣(短期, 英国) [代表者], 因果推論についての心理学的研究, 2002年度, 960ポンドおよび渡航費・宿泊費

The Daiwa Anglo-Japanese Foundation Small Grant [代表者], Cross-cultural studies on rational thinking between UK and Japan: Rationality in culture and of culture, 2003年度～2004年度, 1000ポンド

日本学術振興会特定国派遣(短期, 韓国) [代表者], 思考の合理性と文化差についての研究, 2005年度, 180万ウォンおよび渡航費

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(2) [代表者], 推論課題を用いた思考の文化差についての研究, 2004年度～2006年度(3年間), 360万円

日本学術振興会二国間交流日仏共同研究CHORUS [代表者], Cross-cultural studies on the human resolution of contradiction, 2004年度～2007年度, 465万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

比較文化研究という大プロジェクトに従事しているが、まだ成果がうまれていない。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

基本的にあまり活発にはおこなっていない。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2003年11月～現在 日本心理学会 機関誌等編集委員(心理学研究 編集委員 Japanese Psychological Research Editorial Board)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2003年4月～2005年3月 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員

■ 主な社会活動(過去5年間)

2006年1月～12月 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

2007年1月～現在 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員(守秘義務あり)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 臨床心理学
- 研究課題1 心理臨床における象徴的表現について
 - 2 女性の中の男性性(アニムス)
 - 3 境界とエロスについて

教育活動

■ 担当授業科目

大学 臨床心理学、演習Ⅰ、演習Ⅱ、深層心理学、臨床心理学実習Ⅲ、卒業研究

大学院 臨床心理査定演習、臨床心理実習、臨床心理基礎実習、M特別研究、D特別研究、心理療法特論、地域実践実習

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2005年度～ 臨床心理学では、各教員の専門分野をオムニバス形式で提供し、なおかつ強化としての整合性を保つために、毎年入念なディスカッションを行っている。

■ 授業評価への対応

●2005年度～ 学生の指摘にしたがって、参考文献を例示した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2006年3月30日 『心理学・臨床心理学ゼミナール入門』(北大路書房)出版に共著者として参加

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

●2002年～2006年 日本ユング研究所における事例検討会のスーパーバイザー、及びセミナー講師

●2003・2004・2005・2006年 各大学院の事例に対するコメント

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 認知心理学辞典, 共立出版, 02.8

[共著] 島井哲志・池見陽 編 他34名, 心理学・臨床心理学ゼミナール, 北大路書房, 06.4

[共著] 樋口和彦 他12名, プシケー25号「山姥-昔話に見る日本の女性元型」, 新曜社, 06.6

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] 石川論文へのコメント-「耳を傾けるということ」, 大阪大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要, 02.11

[単著] サトルボディについて-女性と身体性の観点から, 女性学評論 第17号, 23-36, 03.3

[単著] 国松論文へのコメント, 臨床心理事例研究, 04.3

[単著] 高橋睦美論文へのコメント-「出会うことをめぐって」, 光華女子大学大学院カウンセリングセンター紀要 第2号, 06.3

[単著] 久保明子論文へのコメント-「誕生と死の体験をめぐって」, 臨床心理事例研究, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

死を抱えて生きるために(司会), 第20回日本箱庭療法学会, 京都文教大学, 06.10.7, 発表者:村田雅子

アスペルガー症候群と診断された中学生のイメージ表現(座長), 第25回日本心理臨床学会, 関西大学, 06.10.17, 発表者:北澤弘二

■ その他(2006年度)

執筆:母という神話, 精神療法 Vol.32 No.4, 金剛出版, 06.8

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[代表者], 心理臨床技能の向上を図る教育プログラムの検討～臨床心理士候補生(大学院生)の臨床センスを涵養する試み～, 2005年度, 65万5000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

臨床心理学の実践を通して研究活動を積み重ねている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

心理相談室長として心理相談室の運営、活動に関わった。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年～2006年 日本ユング心理学会 理事

■ 講演(2006年度)

- 06.4.9 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン1
- 06.5.13 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン2
- 06.6.3 「川と魂の邂逅」 心理相談室開設10周年記念対談(司会)
- 06.6.25 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン3
- 06.7.9 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン4
- 06.9.24 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン5
- 06.10 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン6
- 06.11 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン7
- 06.12 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン8
- 07.1.14 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン9
- 07.1.28 「夢分析入門」 日本ユング心理学研究所セミナー
- 07.2.11 日本ユング心理学研究所 グループスーパーヴィジョン10

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 臨床心理学
- 研究課題1 青年期モラトリアムの発達・臨床的研究
 - 2 乳幼児の自己の関係発達
 - 3 学校教育場面での臨床心理士の活動意義

教育活動

■ 担当授業科目

大学 臨床心理学、演習Ⅰ、演習Ⅱ、発達臨床心理学、臨床心理学と人間、臨床心理学実習Ⅲ、卒業研究
 大学院 臨床心理査定演習、臨床心理実習、臨床心理基礎実習、臨床心理学特論、M特別研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2006.4.10 授業に向けてテキストを作成『心理学・臨床心理学入門ゼミナール』

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2006.4.10 『心理学・臨床心理学入門ゼミナール』北大路書房
- 2006.12.15 『心理学実習』培風館
- 2004年～現在 発達臨床心理学、自然と人間、心理学入門ゼミ(以上学部科目) 臨床心理査定演習、臨床心理学特論(以上大学院科目)の授業用資料(レジュメおよびパワーポイント)の作成

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 島井哲志・池見陽 編, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール, 北大路書房, 286pp., 06.4
- [共著] 心理学実習, 培風館, 151pp., 06.12
- [共著] 岡田康伸・川合俊雄・桑原知子編, 心理臨床における個と集団, 創元社, 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 青年期モラトリアムの発達・臨床的意義の再評価, 博士論文(京都大学), 220pp., 03.7
- [単著] 現実感覚に関する一考察～外的現実と内的現実の関連性から～, 神戸女学院大学論集 第51巻第2号, 193-208, 04.12
- [単著] 想像の仲間についての深層心理学的考察, 神戸女学院大学論集 第52巻第2号, 103-124, 05.12
- [単著] 環境と心の相関:臨床心理学は「環境」にどうアプローチするか?, ヒューマンサイエンス 10, 1-12, 07.3
- [単著] 臨床心理士候補生による模擬心理面接とその評価, 神戸女学院大学心理相談研究 第8号, 3-14, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

臨床心理士候補生がトライアルセッションから学ぶことは, 第25回 日本心理臨床学会, 関西大学, 06.9.15-18, 共同発表
 児童期のファンタジー 女子大生への回想調査の分析, 第20回日本箱庭学会, 京都文教大学, 06.10.7-8

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 心理臨床技能の向上を図る教育プログラムの検討～臨床心理士候補生(大学院生)の臨床センスを涵養する試み～, 2005年度, 65万5000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2003年度に博士論文「青年期モラトリアムの発達・臨床的意義の再評価」を提出後、乳幼児期・児童期の自己と関係性の発達臨床を研究中である。また発達の知見を臨床場面に応用する研究を行っている。こうした成果を、本年度中に著作にまとめる予定である。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2002～2003年は佛教大学において教務委員、2005～2006年は神戸女学院大学において学生主事を担当

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 Cognitive Science
- 研究課題1 Mental Representations and Their Contents
- 2 Homeostasis and Its Relation to Mental Representations
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 Philosophy of Psychology、Advanced Writing、Topics in Global Studies、Cross-Cultural Psychology、Advanced Writing II、Public Speaking II

大学院 人間科学特別講義II、人間科学特別講義IV、専門領域通訳特論(自然科学)

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●Class name: Introduction to Information Technology. Contents: History and Applications of Information Technology. Teaching Methodology: Powerpoint presentations, videos, etc. Interactive style of teaching.

■ 授業評価への対応

●Majority of my students had positive evaluations about my class.

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- How to promote interdisciplinary studies.
- How to improve communications with students.

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

●In my view, how much students learn is more important than how much teachers teach. Following this view, I emphasis on effective communications with students so that they are inspired and motivated by what they learnt.

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

[単著] Reasoning and Content: A fundamental problem in formulationg a naturalistic theory of reasoning, Psychologia. Vol.47 No.4, 264-276, 04

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

Mental Lexicon and the Disjunction Problem, Fifth Internatinal Conference on the Mental Lexicon, MCGILL University, 06
Two Kinds of Semantic Relations, International Workshop on Interdisciplinarity in System Sciences, Tokyo Institute of Technology, 06

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

JSPS "Scientific Research" Grant-in-Aid (Kakenhi) for Postdoctoral Researchers [代表者], Ontologies Design for the Large Scale Knowledge Base System, From October 2005 to September 2007, 2,600,000 yen

■ 主な研究活動(過去5年間)

Among other research activities, I organized a research discussion group called TITech E-Intentionality, which mainly involves professors and researchers of TITech Univ.

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

- (1) Organizing an International Conference on Evolution and the Mind.
- (2) Organizing an interdisciplinary studies team, THEIST, which mainly involves professors of KC.

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

Tokyo Institute of Technology TITech E-Intentionality Lecture

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 認知科学
- 研究課題1 人間らしさ認知の構造に関する研究
 - 2 感性の情報化に関する研究
 - 3 感情のモデル化とその応用

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、情報科学応用演習Ⅰ、情報科学基礎演習、人工知能論、認知科学概論、認知情報処理、情報科学演習、卒業研究

大学院 合同演習、人間情報処理特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度～現在 Sc283(1)情報科学応用演習Ⅰ、Sc289(2)認知情報処理の各科目において、プログラム例を多数作成して提示した。
- 2004年度～現在 Sc181(1)情報科学基礎演習、Sc182(2)情報科学演習、Sc283(1)情報科学応用演習Ⅰ、Sc289(2)認知情報処理の各科目において、e-learning システムを使用して、教材の提示・学生とのコミュニケーション・課題の電子的な提出に活用した。
- 2005年度～現在 前項のプログラム例の一部については、学生がプログラム例を直ちに実行したり、一部を容易に修正して再実行するための環境を作成して用意した。

■ 授業評価への対応

- 2002年～現在 授業評価結果を学生に公表した。また、改善の提案に対しては、たとえば、板書の仕方(文字の大きさや消すまでの時間)などを授業に反映させるよう努力した。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年度～現在 Sc181(1)情報科学基礎演習、Sc182(2)情報科学演習、Sc283(1)情報科学応用演習Ⅰ、Sc289(2)認知情報処理の各科目について、WWWページ上の資料ページを適宜改訂・加筆・更新した。
- 2002年度～現在 Sc283(1)情報科学応用演習Ⅰ、Sc289(2)認知情報処理の各科目において、プログラム例を多数作成して提示した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2007年3月5日 発表: 課題ファイル提出システムについて、神戸女学院大学研究所総合研究助成「e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究」成果報告会

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著]島井哲志・池見陽 編, 心理学・臨床心理学入門ゼミナール(第7章 言語と知能), 北大路書房, 55-63, 06.4

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

書評:『青野篤子・湯川隆子 編:フェミニスト心理学をめざして』, 女性学評論 第21号, 神戸女学院大学女性学インスティテュート, 145-148, 07.3

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 総合研究助成金[分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究, 2006年度, 108万8000円

本学研究所 総合研究助成金[分担者], デジタル思考の効用と陥穽, 2006年度, 130万4000円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2003年6月～2005年3月 西宮市大学交流協議会 市民対象講座委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 音楽教育、音楽文化、ピアノ指導法
- 研究課題1 合理的なピアノ指導法・学習法の開発研究
 - 2 学校音楽教育の改善
 - 3 社会における音楽現象の察考

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、音楽による自己表現、音楽文化論、音楽概論、音楽療法とコミュニケーション、卒業研究
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2002年4月～現在「音楽による自己表現」で、ビデオ・カメラにより鍵盤上の手の形を映し、全員に違いがよく分かるように見せながら説明している。
- 授業評価への対応
 - 授業中結果の公表
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2006年4月～現在「音楽による自己表現」の教材を編曲。常時「音楽文化論」「演習Ⅰ、Ⅱ」において新聞記事の活用。
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
- 学術論文(過去5年間)
 - [単著] Finger-walking Methodの基本理念とその学習法(Ⅰ), 神戸女学院大学論集 第52巻第3号, 35-48, 06.3
 - [単著] Finger-walking Methodの基本理念とその学習法(Ⅱ), 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 63-86, 06.7
 - [単著] Finger-walking Method(指歩き奏法)の提言, 音楽表現学, 49-55, 06.11
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
 - ”指歩き”ノススメ-Finger-walking Methodの基本理念, 日本音楽表現学会, 岡山大学, 06.6.17
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 学会発表の結果、今後の発表に期待されるという反応があった。

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)
 - 広報委員

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
- 講演(2006年度)
- 公開レッスン(2006年度)
- コンクールの審査等(2006年度)
- 学外機関委員等(過去5年間)
- 主な社会活動(過去5年間)

- 専門分野 動物生態学
- 研究課題1 海岸砂丘動物群集の保全生態的研究
 - 2 管住性ハチ類による景観生態学研究
 - 3 熱帯雨林におけるアリをモデルにするアリ形グモ群集の進化生態学的研究

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、動物生態学、生態学実習Ⅰ、生態学実習Ⅱ、生物の適応と進化、環境保護論、卒業研究
 - 大学院 合同演習、環境科学演習Ⅱ、M特別研究
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2003年～2006年 学生の主体的な学習意欲を向上させるため、グループでの実地調査とパワーポイントを用いた発表形式の入門ゼミを行った。
 - 2005年10月～現在 レポートの積上げによる自然環境保全への意識の深化。各自の守りたい自然環境についての意義や方法についての意識を深めるために、毎回関連する課題の提示、レポート提出、コメントをつけて返却するという作業を繰り返した。
 - 2006年11月 大規模講義での模擬的実験による授業内容の理解促進。200名近い大きなクラスで、フウセンカズラの種子およびいろいろなかたの種子を飛ばすことにより、生物のかたちと機能の結びつきについて関心をもたせる授業を行った。
- 授業評価への対応
 - 2002年～ 授業評価アンケートの結果をパワーポイントのスライドで提示し、学生に紹介するとともに感想を述べた。
 - 2003年～ 授業評価アンケートでの学生の指摘にしたがった授業の改善を行った。たとえば、授業で用いるパワーポイントの文字の読みやすさ、授業の進度などについて、次年度からのクラスで改善した。
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)
 - 2002年～ 入門ゼミ、演習Ⅰ、卒業研究などで学内の豊かな自然環境を活用した生態学教育を実施している。
 - 2004年～ 自然に対する関心やコミュニケーション能力を高める一助として、ゼミ生に学内で開催される自然観察会でのガイド役や実習助手を担当してもらっている。
 - 2003年度～(夏期休暇中) ビオトープ管理士資格試験受験者に対する指導を実施している。

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 人と自然61話, 兵庫県立人と自然の博物館, 02.10
- 学術論文(過去5年間)
 - [共著] ◎橋本佳明・遠藤知二・西本裕・中西明徳, 管住性ハチ類の多様性による武庫川流域の里山環境評価, 兵庫県立人と自然の博物館総合共同研究平成14・15年度調査報告論文集『武庫川上流の人と自然』, 36-39, 04.3
 - [共著] ◎増井直緒・遠藤知二, 近畿地方におけるキムネクマバチの訪花植物とその特性, ヒューマンサイエンス7号, 31-37, 04.3
 - [共著] ◎遠藤知二・石井友香・西原光恵, 神戸女学院中庭におけるスマレ類とアリの空間分布, 神戸女学院大学論集 第51巻第1号, 91-106, 04.7
 - [共著] ◎井上牧子・遠藤知二, 京都府箱石海岸における海浜植物の訪花性昆虫群集の種構成, ヒューマンサイエンス9号, 39-46, 06.3
 - [共著] ◎Inoue, M.・Endo, T., Spatiotemporal distribution and resource use of scoliid wasps (Hymenoptera) in coastal sand dunes, Entomological Science 9, 359-371, 06.12
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
 - 砂丘に営巣する地中営巣性ハチたち, 土壌動物学会 シンポジウム, 鳥取大学, 06.5, ◎遠藤知二・井上牧子
 - アリ形グモ群集とモデルとしてアリ群集の多様性:アリ形グモ多様性の鋳型としてのアリ類群集構造, 日本昆虫学会 第66回大会, 鹿児島大学, 06.9.16-18, 橋本佳明・遠藤知二・館卓司・山根正気・マリアッティ・モハメド
 - アリ形グモ群集とモデルとしてアリ群集の多様性:アリ擬態はどこで有利になるか, 日本昆虫学会 第66回大会, 鹿児島大学, 06.9.16-18, 遠藤知二・橋本佳明・館卓司・山根正気・マリアッティ・モハメド
 - 地中におけるヒメハラナガツチバチの宿主探索過程:どのように手がかりと宿主を見つけるのか?, 日本昆虫学会 第66回大会, 鹿児島大学, 06.9.16-18, 井上牧子・遠藤知二
 - 海岸砂丘における有剣ハチ類群集とその生息場所, 第54回日本生態学会大会, 愛媛大学, 07.3.19-23, 遠藤知二・井上牧子
 - 西宮市におけるキンノウエタテグモの分布と生息場所の条件, 第54回日本生態学会大会, 愛媛大学, 07.3.19-23, 大家理絵・遠藤知二
 - 宝塚における60年間のチョウ相と景観構造の変化-手塚治虫の見た自然はどう変わったか?, 第54回日本生態学会大会, 愛媛大学, 07.3.19-23, 林江里子・遠藤知二
 - Behavior, mind, and evolution: from biological perspectives, Symposium: Evolution and the Mind Can Darwin's Theory of Evolution Help Us to Understand the Mind, Kobe College, 07.4.21, Inoue, M., Endo, T.

■ その他(2006年度)

論文:竹筒トラップを用いて調査した豊中市内の学校のカリバチ・ハナバチ相, Nature Study 52巻, 大阪市立自然史博物館, 114-117, 06.10
論文:海辺に咲く花と昆虫との関係, 波打ち際の自然史, きしわだ自然史資料館, 07.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会科学研究費補助金萌芽研究 [分担者], アリ類の種多様性はアリグモ類の種多様性の鋳型となっているか? 熱帯林でのアリ・アリグモ共生系の解明, 2004年度(1年間), 130万円
日本学術振興会科学研究費補助金萌芽研究 [代表者], アリ類の種多様性はアリグモ類の種多様性の鋳型となっているか? 熱帯林でのアリ・アリグモ共生系の解明, 2005年度~2006年度(2年間), 140万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 管住性ハチ類を用いた景観生態学-兵庫県下における河川流域間の比較, 2006年度, 43万円
本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究, 2006年度, 108万8000円
兵庫県立人と自然の博物館 [分担者], 人と自然の博物館新総合共同研究「但馬地域の海浜生息性昆虫の生態と分布調査, 46万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2004年度から受領している科研費による海外調査で、熱帯林におけるアリグモ類の多様性についての研究を進めている。アリ擬態に関する仮説の提示と擬態者群集についてある程度の展望をもつことが可能になり、論文として発表する準備を進めている。また、2002年度から管住性ハチ類を用いた自然環境評価を兵庫県下一円で広域的に進めており、現在進行中である。この研究では、局所スケールと景観スケールの両面から生物多様性を分析している。また、1990年代から海岸砂丘で行ってきた単独性カリバチの生態研究は、現在まとめの段階にあり、海浜環境の生息地保全の研究へ移行しつつある。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

2005年度より、FDセンターディレクターとして、大学自己評価委員会の運営に関与しており、「教員活動評価」の導入、点検・自己評価報告書の準備、教授会研修会の運営、学生による授業評価アンケートの運営、その他FD活動を行ってきた。2006年度は環境・バイオサイエンス学科の上級生学生主事を担当したほか、この期間中に研究所委員、入試委員、教務委員、環境保全委員などを担当した。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2000年~現在 兵庫県環境影響評価審査委員
2005年~現在 兵庫県生態系保全対策検討委員会 委員
2005年~現在 西宮市環境審議会 委員長
2006年 兵庫県立大教員選考委員会 外部委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 生態毒性学
- 研究課題1 有機リン化合物の水中濃度分布と水中細菌による分解
 - 2 礫表面の生物膜によるエストロゲンの分解
 - 3 ニジマスの免疫系および薬物代謝系におよぼすTBTの影響

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習 I、人間と化学物質、自然と人間、女性学(実践編)、環境科学基礎実習
 大学院 環境科学特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2002年～現在 環境問題に関することは時代に応じて変化することが多いので、最新の重要事項は配布資料やビデオなどの使用によりそのつと説明を加えている。

■ 授業評価への対応

●2002年～現在 講義内容で理解が難しいとのコメントがある箇所には次回からの説明に配慮している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2004年9月「人間と化学物質」の講義で使用しているテキストは5年ごとに改訂しており、最近では2004年9月に第3版を出版した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 水環境学会関西支部 編, アプローチ環境ホルモン -その基礎と水環境における最前線-, 技報堂出版, 03.9
 [共著] 日本農薬学会 編, 農薬の環境科学最前線 -環境への影響評価とリスクコミュニケーション-, ソフトサイエンス社, 04.8
 [共著] 川合真一郎・山本義和, 第3版 明日の環境と人間 -地球をまわる科学の知恵-, 化学同人, 04.9
 [単著] 川合真一郎, 環境ホルモンと水生生物, 成山堂, 170pp., 04.12
 [共著] 川合真一郎・福岡実・松岡須美子・黒川優子, 三陸の海と生物 -フィールド・サイエンスの新しい展開-, サイエントリスト社, 05.3
 [共著] 川合真一郎, 海の世界微生物学, 恒星社厚生閣, 05.6
 [共著] 川合真一郎・黒川優子・松岡須美子, 環境ホルモン -水産生物に対する影響実態と作用機構-, 恒星社厚生閣, 191pp., 06.6
 [共著] 川合真一郎・黒川優子・張野宏也, 有機スズと環境科学 -進展する研究の成果-, 恒星社厚生閣, 314pp., 07.3
 [共著] 中山彩子・川合真一郎, 有機スズと環境科学 -進展する研究の成果-, 恒星社厚生閣, 238pp., 07.3

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] 太田真由美・中嶋智子・井上壽・川合真一郎・黒川優子, ヒト乳がん由来細胞を用いた産業廃棄物最終処分場からの外因性内分泌かく乱化学物質の検出の試み, 京都府保環研年報 47号, 18-22, 02
 [共著] Kawai, S., Kurokawa, Y., Matsuoka, S., Nakatsukuri, M., Miyazaki, N., Estrogenic substances in the surface seawater collected from Otsuchi Bay, Yamada Bay and Ofunato Bay, Iwate Prefecture., Otsuchi Marine Science No.27, 28-32, 02
 [共著] 中室克彦・上野仁・奥野智史・坂崎文俊・梅谷かおり・川井仁・鶴川昌弘・黒川優子・川合真一郎, 琵琶湖・淀川水系河川水のバイオアッセイによる包括的毒性評価, 水環境学会誌 25巻7号, 403-408, 02
 [共著] Matsumoto, T., Kobayashi, M., Kawai, S., Moriwaki, T., Watabe, S., Survey of estrogenic activity in fish feed by YES assay., Fisheries Science 68, 633-634, 02.11
 [共著] Kawai, S., Kobayashi, M., Kaneko, H., Effects of endocrine active substances in wildlife species: Genetic, biochemical, and physiological factors in variable susceptibility to endocrine disruptors., Pure and Applied Chemistry 75, Nos. 11-12, 2335-2341, 03
 [共著] 與世田兼三・浅見公雄・福元麻衣子・高井良幸・黒川優子・川合真一郎, サイズの異なる2タイプのワムシがスジアラ仔魚の初期摂餌と初期生残に及ぼす影響, SUISANZOSHOKU 51(1), 101-108, 03.3
 [共著] 與世田兼三・團重樹・藤井あや・黒川優子・川合真一郎, 異なった日周条件がスジアラ仔魚の初期摂餌、初期生残および消化酵素活性に及ぼす影響, SUISANZOSHOKU 51(2), 179-188, 03.6
 [共著] Matsumoto, T., Kobayashi, M., Moriwaki, T., Kawai, S., Watabe, S., Survey of estrogenic activity in fish feed by yeast estrogen-screen assay., Comparative Biochemistry and Physiology Part C139, 147-152, 04.1
 [共著] 松岡須美子・黒川優子・中造真衣子・川合真一郎・山田久・藤井一則・大久保信幸・松原孝博・西村定一・橋本伸哉・坂本達也, 数種のin vitroアッセイを用いた我国沿岸海水および河川水中のエストロゲン様物質の測定, 水環境学会誌 27巻12号, 811-816, 04.12
 [共著] 川合真一郎, ネットプランクトンおよび海産哺乳類による水域の汚染評価, 環境科学会誌 18巻2号, 137-144, 05
 [共著] Hashimoto, S., Akatsuka, Y., Kurihara, R., Matsuoka, S., Nakatsukuri, M., Kurokawa, Y., Tani, Y., Kawai, S., Evaluation of the Ishikawa cell line bioassay for the detection of estrogenic substances from sediment extracts., Environmental Toxicology and Chemistry 24 (7), 1587-1593, 05
 [共著] Kurauchi, K., Nakaguchi, Y., Tsutsumi, M., Hori, H., Kurihara, R., Hashimoto, S., Ohnuma, R., Yamamoto, Y., Matsuoka, S., Kawai, S., Hirata, T., Kinoshita, M., In vivo visual reporter system for detection of estrogen-like substances by transgenic medaka., Environmental Science Technology 39(8), 2762-2768, 05
 [共著] Matsuoka, S., Sakakura, R., Takiishi, M., Kurokawa, Y., Kawai, S., Miyazaki, N., Determination of natural estrogens in the sediment of coastal area in Japan., Coastal Marine Science 29(2), 141-146, 05.1

- [共著] 川合真一郎, 有機スズ化合物の微生物分解, 日本マリンエンジニアリング学会誌 40巻1号, 39-45, 05.1
- [共著] ©Matsuoka, S.・Kikuchi, M.・Kimura, S.・Kurokawa, Y.・Kawai, S., Determination of estrogenic substances in the water of Muko River using in vitro assays, and the degradation of natural estrogens by aquatic bacteria., Journal of Health Science 51(2), 178-184, 05.4
- [共著] 川合真一郎, -漁場環境を考える- 環境ホルモン(内分泌攪乱物質)問題はどこまでわかったか, 日本水産資源保護協会月報 No.482, 3-9, 05.6
- [共著] ©Nakayama, A.・Kurokawa, Y.・Kawahara, E.・Kitayoshi, N.・Harino, H.・Miyadai, T.・Seikai, T.・Kawai, S., The immunotoxic effects of tributyltin on non-specific biodefense system in rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*)., Japanese Journal of Environmental Toxicology 8(1), 23-35, 05.8
- [共著] ©Nakayama, A.・Kawai, S., Metabolic interaction between β -Naphthoflavone as a inducer of hepatic cytochrome P4501A and tributyltin in rainbow trout(*Oncorhynchus mykiss*)., Human Science 9, 47-52, 06.3
- [共著] ©松岡須美子・川合真一郎, 海水および底泥中のエストロゲン(女性ホルモン)様物質の分布, 海洋と生物 28巻6号, 590-595, 06.12
- [共著] ©Koyama, J.・Imai, S.・Fuji, K.・Kawai, S.・Chee Kong Yap・Ahmad Ismail, Pollution by estrogens in river and estuarine waters around Kuala Lumpur, Malaysia, and their effects on the estuarine Java-mudcrab, *Oryzias javanicus*., Japanese Journal of Environmental Toxicology 9(2), 141-147, 06.12
- [共著] ©Harino, H.・Yamamoto, Y.・Eguchi, S.・Kawai, S.・Kurokawa, Y.・Arai, T.・Ohji, M.・Okamura, H.・Miyazaki, N., Concentrations of Antifouling Biocides in Sediment and Mussel Samples Collected from Otsuchi Bay, Japan., Archives of Environmental Contamination and Toxicology 52, 179-188, 07.1
- [共著] ©Nakayama, A.・Kurokawa, Y.・Harino, H.・Kawahara, E.・Miyadai, T.・Seikai, T.・Kawai, S., Effects of tributyltin on the immune system of Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*), Aquatic Toxicology 83, 126-133, 07.1

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

- 農林水産省「農林水産業における内分泌かく乱物質の動態解明と作用機構に関する総合研究」[代表者], 培養細胞を用いた水環境中の内分泌かく乱物質のスクリーニング, 2002年度, 279万5000円
- 本学人間科学部 平成14年度 教育研究助成金 [代表者], ヒラメ稚魚における給餌と消化に関する生化学的、免疫組織化学的研究, 2002年度, 60万円
- 本学研究所 研究助成金 [代表者], 魚類の生体防御機構におよぼす環境化学物質の影響, 2002年度, 20万円
- 本学研究所 総合研究助成金 [分担者], エストロゲン様物質の検索とその生物作用 -非生殖器官への影響を中心に-, 2003年度, 100万円
- 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 仔稚魚への給餌条件が消化酵素活性におよぼす影響, 2003年度, 80万円
- 岩手県「夢県土いわて戦略的研究推進事業」[代表者], 三陸海岸の汚染の現状把握と海洋環境保全対策, 2003年度~2005年度, 各315万円
- 農林水産省「農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発委託事業」[代表者], 魚類の薬物代謝機構, 内分泌系および生体防御系に及ぼす有機スズ化合物の影響評価手法の開発, 2003年度~2006年度, 総額760万円
- 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 魚類の生体防御システムにおよぼす化学物質の影響, 2004年度, 72万円
- 本学研究所 研究助成金 [代表者], 我国の沿岸域における底泥中のエストロゲン様物質の検索, 2004年度, 20万円
- 東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター外来研究員助成金 [代表者], 三陸海岸域の環境の現状把握と保全対策について, 2005年度, 20万円
- 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 魚類の生体防御システムにおよぼす化学物質の影響, 2005年度, 66万円
- 本学研究所 研究助成金 [代表者], 我国の沿岸域における底泥中のエストロゲン様物質の検索, 2005年度, 30万円
- 本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 西宮市内の小河川におけるユスリカ防除のための殺虫剤散布と散布後の薬剤の挙動および水中細菌による分解, 2006年度, 66万円
- 本学研究所 研究助成金 [代表者], 水環境中のエストロゲン様物質の動態, 2006年度, 30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学部長や学長の役職に就きながら、学会活動や著書および学術論文の執筆などの研究活動をまづまづ実施している。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

学部長および学長の役職に付随した大学の運営にかかわること、入試・広報に関することはまづまづこなしている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

- 2002年4月~2006年3月 日本水産学会 理事
- 2002年4月~2007年3月 日本水環境学会 関西支部理事
- 2002年4月~2007年3月 日本水産学会 近畿支部評議員
- 2002年4月~2007年3月 日本内分泌攪乱化学物質学会 評議員
- 2002年4月~2007年3月 環境技術研究協会「環境技術」編集委員
- 2003年4月~2004年3月 平成15年度日本水環境学会 シンポジウム等検討委員会委員
- 2003年4月~9月 第6回水環境学会シンポジウム大会 委員長

2003年4月～2004年3月 平成15年度日本水産学会 学会賞推薦委員
2004年4月～9月 平成16年度日本水産学会中国四国・近畿支部合同大会 副委員長
2004年4月～2006年3月 日本水産学会 近畿支部長

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2002年4月～現在 通商産業省化学品審議会 専門委員
2002年4月～2007年3月 海洋環境国際共同研究 事業推進委員
2002年4月～現在 兵庫県科学技術会議 専門委員
2002年4月～現在 「船底塗料用防汚物質の海水中挙動の解明」に係わる研究委員会 委員
2003年4月～2007年3月 兵庫県ノリ漁場環境予測モデル検討委員
2005年4月～現在 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 委員長

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 健康医学
- 研究課題1 細胞のストレス応答
 - 2 動脈硬化
 - 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、入門ゼミ、人体の構造と機能、健康医学、女性学(実践編)、病気の細胞生物学、バイオサイエンス基礎実習、生命の科学実習、卒業研究

大学院 健康医学特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年4月～現在 毎回の授業におけるコメントシートの活用(次回授業におけるフィードバックを含む)
- 2004年4月～現在 Black Boardの利用(復習のための小テストを含む)
- 2005年4月～現在 研究室内サーバー・ネットワークの設置

■ 授業評価への対応

- 2002年4月～現在 自由記述内容に対するフィードバック

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年4月～現在 生命の科学実習教材
- 2006年4月～現在 バイオサイエンス基礎実習教材
- 2005年4月～現在 卒業研究マニュアル

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2005年度教員研修会 Black Boardの利用の実践報告
- 2006年3月15日 高大連携に関する論文発表

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2006年4月～2006年12月 サイエンスパートナーシッププロジェクト
- 2005年4月～現在 男女共同参画事業

研究活動

■ 著書(過去5年間)

- [共著] 西田昌司 他, 最新医学大辞典第3版, 医師薬出版, 05.3
 [共著] 西田昌司・野中泰樹・宗川宗一・北川章・竹中優・広田孝子・藤野英己・上月久治・安藤正人・内藤通孝・和田佳郎・甲村弘子, 解剖生理学-生命のシナリオを学ぶ, 八千代出版, 06.4

■ 学術論文(過去5年間)

- [単著] 西田昌司, 血管平滑筋細胞のMn-SOD発現によるストレス耐性獲得(第二報), 代謝異常治療研究基金研究業績集 29(2002), 69-74, 02.10
 [共著] ◎西田昌司・別井美帆, 成熟マウス心筋細胞の単離と模擬虚血モデルの作成, 神戸女学院大学論集 第50巻第1号, 197-210, 03.7
 [共著] ◎西田昌司・赤松義樹・葛谷恒彦, 血管平滑筋細胞のMn-SOD遺伝子導入によるストレス耐性獲得(第一報), 代謝異常治療研究基金研究業績集 29, 54-66, 03.10
 [共著] ◎近藤奈津子・西田昌司, 女性ホルモンエストロゲンとカタコラミンの血管形成に及ぼす影響, ヒューマンサイエンス 7, 23-30, 04.3
 [共著] ◎西田昌司・近藤奈津子, 女性ホルモンエストロゲンとアドレナリンの血管形成に与える影響-培養血管内皮細胞を用いた検討-, 神戸女学院大学論集 第51巻第1号, 107-117, 04.7
 [共著] ◎西田昌司・福島久美, 血管平滑筋細胞による動脈硬化病変形成に及ぼすエストロゲンの作用-遊走能, 変性LDL取り込み能, コラーゲン産生能の検討-, ヒューマンサイエンス 8, 21-28, 05.3
 [共著] ◎福島久美・西田昌司, 血管平滑筋細胞の表現型変化に及ぼすエストロゲンと植物エストロゲンの影響の比較, 神戸女学院大学論集 第52巻第1号, 135-148, 05.7
 [共著] ◎西田昌司, 環境・バイオサイエンス学科におけるリメディアル教育の必要性和Blackboardシステム利用の試み, 神戸女学院大学論集 第52巻第3号, 49-62, 06.3
 [共著] ◎杉本香奈・西田昌司, マクロファージの変性LDL取り込み能に及ぼすエタノールと性差の影響, ヒューマンサイエンス 9, 53-60, 06.3
 [共著] ◎杉本香奈・西田昌司, 活性化マクロファージのNO産生に及ぼすエタノールと性差の影響-動脈硬化発症との関連から-, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 115-130, 06.7
 [共著] ◎西田昌司・寺嶋正明, 神戸女学院大学での体験型実習を利用した高校生に対する理科教育の試み, 神戸女学院大学論集 第53巻第3号, 83-92, 07.3
 [共著] ◎濱田陽子・西田昌司, 茶カテキンの血管新生に及ぼす影響-培養内皮細胞を用いた検討-, ヒューマンサイエンス 10, 23-30, 07.3
 [共著] ◎平林玲子・西田昌司, 肺胞マクロファージの炎症反応に及ぼすニコチンの影響, ヒューマンサイエンス 10, 31-38, 07.3
 [共著] ◎寺嶋正明・西田昌司, 高校生を対象にした体験実習プログラムの開発, ヒューマンサイエンス 10, 96-98, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

粥状動脈硬化病変と血管新生, 第12回インターハート研究会, 東京大学, 07.2.17

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 研究助成金 [代表者], ストレスタンパク質誘導と負荷耐性 -器官におけるストレス応答の差異に関する検討-, 2002年度, 20万円

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 血管新生におけるエストロゲンの作用機序に関する検討, 2002年度, 60万円

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(2) [代表者], ストレス蛋白質誘導を介した女性ホルモンおよび類似薬の心筋保護効果の検討, 2002年度~2003年度(2年間), 300万円

本学研究所 総合研究助成金 [代表者], エストロゲン様物質の検索とその生物作用 -非生殖器官への影響を中心に-, 2003年度, 100万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], エストロゲンによる血管新生とその作用機序に関する検討, 2003年度, 20万円

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 神経細胞の虚血性障害に対するエストロゲンの作用, 2003年度, 80万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningの教育効果に関する実践的研究, 2004年度, 95万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], エストロゲン様物質による血管新生とその作用機序に関する検討, 2004年度, 20万円

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 心臓の可塑性におよぼすエストロゲン様物質の作用, 2004年度, 80万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], 少人数教育に情報機器を効果的に用いる教育方法の検討, 2005年度, 125万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], FACS(fluorescence activated cell sorter)を用いた細胞内ラジカル産物の測定, 2005年度, 30万円

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 動脈硬化におよぼすアルコールの影響 -性差との関連-, 2005年度, 80万円

本学 研究助成金 [代表者], プラーク内血管新生の細胞モデル作成, 2006年度, 57万円

本学 研究助成金 [代表者], ニコチンによる肺胞マクロファージ活性化の検討, 2006年度, 30万円

本学 研究助成金 [分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究, 2006年度

ダノン学術助成金 [分担者], わが国におけるpicky eating傾向の実体, 2006年度, 100万円

科学振興財団 [代表者], サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト, 2006年度, 100万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

学生・院生との研究活動の成果を学会発表や論文として発表した。査読誌への投稿や、外部資金の獲得では不十分な面もあるが、現在のリソース配分としては致し方ない面もある。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

入試・広報、現代・特色・大学院GP応募、副専攻開設などの大学、学部、学科関連の活動に積極的に参画した。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2003年4月~2005年3月 日本栄養・食糧学会誌 編集委員

2004年4月~2007年3月 日本栄養・食糧学会 編集委員

■ 講演(2006年度)

06.6.24 「消化器・循環器」 栄養情報担当者(NR)養成講座

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 植物生態学
- 研究課題1 東播磨における禿げ山の植生学的研究
- 2 西宮市の植物相の研究
- 3

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、地球生物圏の科学、自然観察入門、生態学実習Ⅰ、生態学実習Ⅱ、植物生態学、卒業研究
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2005年3月 野鳥解説プレートの設置
- 授業評価への対応
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2002年8月～現在 「Sc379生態学実習Ⅱ」(2005年度までは「Sc3339生態学実習」として開講)のテキストの作成
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
 - 2006年6月16日 研究所講演会:岡田山キャンパスの生物相と自然教育
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著] 福嶋司・岩瀬徹・能代修一・大野啓一・中西弘樹・豊原源太郎・星野義延・磯谷達宏・奥富清・野寄玲児 他8名, 図説・日本の植生, 朝倉書店, 153pp., 05.9
- 学術論文(過去5年間)
 - [共著] ◎野寄玲児・山崎香陽子・松山哲子・山田恵・島田佳津比古・海老沢秀夫, 滋賀県朽木村「朝日の森」の高等植物相概説, 森林文化研究 23巻, 02.12
 - [共著] ◎野寄玲児・熊取谷薫・北川智美・西原光恵, 神戸女学院岡田山キャンパスの高等植物相(Ⅰ). 総論および各論第1部-シダ植物門、種子植物門、裸子植物門-, 神戸女学院大学論集 第52巻第3号, 63-90, 06.3
 - [共著] ◎野寄玲児・熊取谷薫・北川智美・西原光恵, 神戸女学院岡田山キャンパスの高等植物相(Ⅱ). 各論第2部-種子植物門、被子植物門、双子葉植物綱、離弁花亜綱-, 神戸女学院大学論集 第53巻第1号, 131-164, 06.7
 - [共著] ◎野寄玲児・熊取谷薫・北川智美・西原光恵, 神戸女学院岡田山キャンパスの高等植物相(Ⅲ). 各論第3部-種子植物門、被子植物門、双子葉植物綱、合弁花亜綱-, 神戸女学院大学論集 第53巻第3号, 93-114, 07.3
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
 - 森林文化協会共同研究[代表者], 朽木村「朝日の森」の植生図化, 2002年度, 20万円
 - 西宮市[分担者], 甲山湿原及び甲山湿原観察園学術調査, 2004年度, 42万円
 - 本学人間科学部 教育研究助成金[分担者], 西宮市内河川の環境を守り育てよう, 2004年度, 15万円
- 主な研究活動(過去5年間)
 - 西宮市甲山周辺の自然環境調査

学内における活動

- 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

- 学会役員等(過去5年間)
 - 2002年4月～現在 植生学会 編集委員
 - 2005年4月～現在 植生学会 運営委員 編集幹事
 - 2005年7月～現在 関西自然保護機構 理事

■ 講演(2006年度)

- 06.5.20 「都市のなかの植物相」 神戸女学院春季公開講座 西宮の環境から学ぶ 第2回
- 06.6.16 研究所講演会:岡田山キャンパスの生物相と自然教育
- 06.9.14 「甲山湿原の再生への道」 西宮市甲山湿原セミナー 第3回
- 07.3.23 第1回子どもサイエンス体験教室:岡田山キャンパス探検隊2007 Spring

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

- 1997年4月～2003年3月 環境庁自然環境保全基礎調査会 検討員
- 2000年4月～2003年3月 兵庫県貴重な生物等専門委員会 委員
- 2006年4月～ 現在 甲山周辺環境保全連絡協議会 委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 応用生命科学
- 研究課題1 微生物を利用した環境修復
- 2 動物細胞を用いたメタボリックシンドローム
- 3 酵母を用いた有用物質の生産

教育活動

■ 担当授業科目

- 大学 入門ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、食品環境学、物理学入門、バイオテクノロジー概論、応用微生物学、バイオサイエンス基礎実習、微生物学実習、卒業研究
- 大学院 環境科学演習Ⅰ、応用生命科学特論、M特別研究

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2002年度～2005年度 バイオテクノロジー概論は、レポート提出後、パワーポイントで発表を行った。これにより理解の向上につながった。
- 2002年度～現在 卒業研究では、1週間当たり4日程度学生と実験と研究を行った。そして、議論をしながら実験の方向性を明らかにする授業をおこなった。これにより、研究能力が身についただけでなく、精神的な面でも強くなることができた。
- 2002年度～現在 微生物学実習のレポートを論文形式で全体をまとめたものを提出させるように変更した。これにより、内容を吟味し、しっかり把握してから整理できる力を養うことにつながった。また卒業研究のトレーニングにもなっている。また、議論して実験をすることを行った。

■ 授業評価への対応

- 2002年～現在 授業評価アンケート以外に、感想を学生に書いてもらい、それを授業にできるだけ反映させた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2002年度～現在 講義(バイオテクノロジー概論、食品環境学など)に対して、オリジナルのテキストを作成した。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2003年～2005年 大学の実践的なキャリア教育に関して提案した。そして、冊子「My vista」で報告した他、05年度に最先端バイオテクノロジーセミナー、及び日本社会心理学会でキャリア教育についてポスター発表した。
- 2003年 「生物工学から見た人間科学－神戸女学院での研究と教育の進め方」というタイトルでバイオの教育の進め方について学内で講演を行った。
- 2003年～現在 高校生を対象に高校(千里高校、百合学院、舞子高校、星陵高校)実習を取りいれながらバイオを理解してもらい興味を持ってもらうための講義をおこなった。

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2003年度～現在 神戸女学院大学で中学・高校生を対象に「バイオ体験実習」を毎年1-2回企画し実施してきた。これにより、高校生のバイオへの理解が得られた。
- 2004年度～現在 化学工学会が主催し、毎年12月に関西大学でおこなわれる「バイオの実験講座」に参画し、中学生・高校生を対象にバイオの実験をおこなった。
- 2004年度～現在 化学工学会関西支部の常任幹事として、バイオに関する企画をおこなった。特に、最先端バイオテクノロジーセミナーは、学生のポスター発表が中心であり、相互の学生が知り合い高めあう場を提供した。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] Murao, K.・Koga, H.・Kuroda, K.・Katoh, S.・Shiomi, N., A new method for production of combinational libraries by mating of *Saccharomyces cerevisiae*, *J. Chem. Eng. Japan* 35,5, 474-478, 02.5
- [共著] Kurokawa, K.・C. Lee・Nakano, A.・Katoh, S.・Shiomi, N., Secretion of α -amylase from *Saccharomyces cerevisiae* and *Pichia pastoris* and characterization of its C-terminus with an anti-peptide antibody, *J. Chem. Eng. Japan* 35,12, 1277-1281, 02.12
- [共著] Yasuda, T.・Katoh, S.・Inoue, Y.・Shiomi, N., A bioremediation method based on self-immobilization of cells in shallow layer of soil, *J. Chem. Eng. Japan* 36,2, 216-219, 03.2
- [共著] Inoue, Y.・Tomioka, K.・Yasuda, T.・Shiomi, N., Immobilization of *Candida* cells showing mycelium-like shapes in porous polyvinyl formal resin and their application, *J. Chem. Eng. Japan* 36, 2,161-165, 03.2
- [共著] C.Y.Lee・Nakano, A.・E.K. Lee・Katoh, S.・Shiomi, N., Effects of substrate feed rates on heterogous protein expression by *Pichia pastoris* in DO-stat fed-batchfermentation, *J. Microbial. Tech.* 33, 358-365, 03.12
- [共著] Yasuda, T.・Inoue, Y.・Kusumoto, N.・Iwasaki, S.・Katsuda, T.・Katoh, S.・Shiomi, N., Characteristics of neutralization of acids by newly isolated fungi cells, *J. Biotech. Bioeng.* 97, 54-58, 04.1
- [共著] 加藤滋雄・塩見尚史, 微生物を利用した土壌汚染浄化法, *ケミカルエンジニアリング* 49, 5,40-45, 04.5
- [共著] Yasuda, T.・Iwasaki, S.・Yamaguchi, Y.・Katsuda, T.・Katoh, S.・Shiomi, N., Neutralization of acids by microorganisms co-immobilized with *Bacillus subtilis* in a shallow layer of model soil, *J. Chem. Eng. Japan* 37,12, 1445-1451, 05.2
- [共著] Yamaguchi, Y.・Nakai, H.・Fujita, T.・Katsuda, T.・Katoh, S.・Shiomi, N., Degradation of cyanuric acid in soil by *Pseudomonas* sp. NRRL B-12227 using bioremediation with self-immobilization system, *Journal of Bioscience and Bioengineering* 102, 206-209, 06.1
- [共著] Nakano, A.・C. Y. Lee・Matsumoto, T.・Katoh, S.・Shiomi, N., Effects of methanol feeding on chimeric α -amylase expression in *Pichia pastoris*, *J. Biotech. Bioeng.* 101,3,227-231, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

メタノール資化性酵母 *Pichia pastoris* の連続培養による一本鎖抗体生産, 第58回 日本生物工学会大会, 大阪大学, 06.9.11-13, 山脇伸哉・松本偉大・大西由夏・勝田知尚・加藤滋雄・塩見尚史
酸性化した池のカビを用いたバイオレメディエーション, 化学工学会 第38回秋季大会, 福岡大学, 06.9.16-18, 鍋島理咲子・加藤滋雄
メタノール資化酵母による一本鎖抗体の効率的生産方法の検討, 化学工学会 第38回秋季大会, 福岡大学, 06.9.16-18, 有井健児・中井裕章・山口豊・勝田知尚・加藤滋雄・塩見尚史
Measurement of adipocytokines secreted from mouse adipocyte, 12th Symposium of Young Asian Biochemical Engineer's Community, Kaohsiung(Taiwan), 06.11.25-27, Mimura, M.・Nabeshima, R.・Shiomi, N.
Neutralization of triazineherbicide degradation cells and application to bioremediation, 12th Symposium of Young Asian Biochemical Engineer's Community, Kaohsiung(Taiwan), 06.11.25-27, Nabeshima, R.・Urase, M.・Kato, S.・Shiomi, N.
Characterization of triazine herbicide degradation cells and application to bioremediation, 12th Symposium of Young Asian Biochemical Engineer's Community, Kaohsiung(Taiwan), 06.11.25-27, Urase, M.・Nabeshima, R.・Nakai, H.・Katsuda, T.・Kato, S.・Shiomi, N.
メタノール資化酵母を用いた一本鎖抗体生産におけるメタノール供給方法, 化学工学会 第72年会, 京都大学, 07.3.19-21, 大西由夏・山脇伸哉・松本偉大・勝田知尚・加藤滋雄・塩見尚史

■ その他(2006年度)

トピックス: 脂肪細胞を用いた肥満の研究, 化学工学 70巻12号, 化学工学会, 68-69, 06.6
研究: 地球のお医者さん, 学報, 神戸女学院, 06.7

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会研究費補助金基盤研究(C)(2) [分担者], 組換えタンパク質の分泌生産効率化のためのプロテオーム解析システムの構築, 2001年度~2002年度(2年間), 350万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 微生物による酸性土壌の修復, 2002年度, 20万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 固定化微生物を用いた農薬や酸性雨による土壌汚染の効率的修復, 2003年度, 20万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 健康生活系図書への補充, 2003年度, 60万円
日本学術振興会研究費補助金基盤研究(B)(2) [分担者], 多様な認識特性の抗体の創出、相互作用、検出及び生産のための統合システム, 2003年度~2004年度(2年間), 960万円
本学研究所 総合研究助成金 [代表者], 神戸女学院大学における『キャリア教育』のあり方に関する調査研究, 2004年度, 68万8000円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], BSISの実用化と応用に向けた検討, 2004年度, 60万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 固定化農薬分解菌による地下水中の農薬の除去, 2004年度, 20万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 環境物質により汚染された土壌及び地下水の微生物による修復, 2005年度, 66万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 環境ホルモン関連物質分解菌の特性とその利用, 2005年度, 30万円
日本学術振興会研究費補助金基盤研究(C)(2) [分担者], メタロチオネインポリマーゲルを利用したガリウム回収システムの開発, 2005年度~2006年度(2年間), 280万円
本学 研究助成金 [代表者], 湖のバイオレメディエーション法の開発, 2006年度, 57万円
本学 研究助成金 [代表者], 海水や土壌の油汚染に対する効果的なバイオレメディエーション法の開発, 2006年度, 30万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

研究活動においては、微生物を利用した環境修復と肥満予防の研究を行った。報告は、論文と学会発表に重点を置いて進めてきた。論文は、査読付きの論文誌に10報を報告し、学会では化学工学会、生物工学会等で33報の発表(国際学会4報)を行った。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

(大学運営活動) キャリア教育において、学内で統合的なキャリア教育を行うために[My vista]を提案し、作成した(2002年~2004年)。また、2005年には学外で神戸女学院大学のキャリア教育の発表を行った。
(入試広報活動) 環境・バイオサイエンス学科のパンフレットを作成した。また、2002年~2006年にわたって、年数回の割合で体験実習、星陵高校の課外実習を実施した。出張授業を4校、高校訪問は、十数高に及ぶ。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年4月~2005年3月 化学工学会 代議員
2005年3月~2008年3月 化学工学会 関西支部常任幹事

■ 講演(2006年度)

06.6.28 出張講義: 「身近なバイオの研究をしよう-理科からサイエンスへ」 百合学院高校
06.7.22 模擬授業: 「理学館探検! バイオサイエンスの実験室を覗いてみよう」 オープンキャンパス 神戸女学院大学
06.8.2 実験講座: 神戸女学院大学 サイエンスパートナーシップ 神戸女学院大学
06.8.26 模擬授業: 「あなたの知らない微生物の世界-実習を通して微生物の世界を体感しよう」 オープンキャンパス 神戸女学院大学
07.1.12 講演: 「湖と土壌の効果的なバイオレメディエーション法の開発」 セミナー「バイオエンジニアリング最前線」 神戸大学工学部創造工学スタジオ

07.1.28 Inha University-Kobeセミナー:「Neutralization of Acid in Pond Water with immobilized Rhizopus delmer cells」神戸女学院大学

07.1.28 Inha University-Kobeセミナー:「High Sensitive Measurement of Adipocytokines Secreted from Mouse Preadipocyte 3T3-L1」神戸女学院大学

07.1.28 Inha University-Kobeセミナー:「Characterization of Cyanuric acid Degradation Cells and Application to Bioremediation」神戸女学院大学

07.3.12 出張講義:「地球環境やメタボリックシンドロームについてバイオを使って研究しよう」舞子高校

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2003年4月～2005年3月 西宮交流センター 産学交流委員会 委員長

2004年5月～2007年11月 日本技術士会 一次試験審査員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 食品分子機能科学
- 研究課題1 食品成分の抗酸化性新評価法の開発
 - 2 フェージディスプレイ法を用いた抗体認識特性の解析
 - 3 水産加工品中のACE阻害物質の探索

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、English Workshop、栄養生化学、文系のための化学入門、食品機能解析実習、バイオサイエンス基礎実習、食品分子機能科学、卒業研究

大学院 合同演習

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2004年～現在 食品分子機能科学で講義に使用したプリントを自分で運営するホームページ上で受講者だけに公開している。(講義の最初にユーザー名とパスワードを学生に伝えている。)宿題プリントを毎回ホームページを通じて配布している。
- 2005年～2006年 2003年度より、神戸女学院大学に赴任 入門ゼミのテキストとして、環境科学やバイオサイエンスを学ぶために必要最小限必要な数学的知識、化学的知識を講義4回分にまとめたプリントを作成した。それは現在担当している文系のための化学入門の基礎となっている。
- 2006年～現在 栄養生化学で毎回宿題プリントを自分で運営するホームページを通じて配布している。次の講義の最初に解答を公開している。

■ 授業評価への対応

- 2003年～現在 アンケート結果を次年度の講義に反映するようにしているが、学生とのディスカッション等を行っていない。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 2003年～現在 入門ゼミ、食品機能解析実習、食品分子機能科学、バイオサイエンス基礎実習ではプリントを作成して、使用している。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

- 2007年3月15日 「神戸女学院大学での体験型実習を利用した高校生に対する理科教育の試み」を西田昌司教授と共著で神戸女学院大学論集に執筆
- 2007年3月30日 「高校生を対象とした体験実習プログラムの開発」を西田昌司教授と共著で人間科学研究科発行のヒューマンサイエンスに執筆

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 2003年～現在 2003年より武庫川女子大学、神戸女子大学、大阪樟蔭女子大学と合同で「遺伝子組換え食品に関する市民セミナー」を毎年開催している。演習Ⅰの一環として毎年、3年生数名をこの取組に参加させ、市民セミナーで発表させている。
- 2006年 2006年度教員研修会のためのワーキンググループのメンバーとして活動した。
- 2004年～現在 演習Ⅰの授業の一環として、毎年1回、身近な製品(ペットボトル飲料、洗剤、調味料など)を製造している企業の工場見学を行っている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 新名惲彦・吉田和哉 監修, 植物代謝工学ハンドブック, エヌ・ティー・エス, 02.6

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] Terashima, M.・Oka, N.・Sei, T.・Yoshida, H., Adsorption of cadmium ion and gallium ion to immobilized metallothionein fusion protein, *Biotechnol Prog* 18巻, 1318-1323, 02.1
- [共著] Yoshida, H.・Oehlschlaeger, S.・Minami, Y.・Terashima, M., Adsorption of CO₂ on Composites of Strong and Weak Basic Anion Exchange Resin and Chitosan, *J. Chem. Eng. Japan* 35巻, 32-39, 02.6
- [共著] Terashima, M.・Hashikawa, N.・Hattori, M.・Yoshida, H., Growth characteristics of rice cell genetically modified for recombinant human α₁-antitrypsin production, *Biochem. Eng. J.* 12巻, 155-160, 02.11
- [共著] Yoshida, H.・Takahashi, Y.・Terashima, M., A Simplified Reaction Model for Production of Oil, Amino Acids, and Organic Acids from Fish Meat by Hydrolysis under Sub-critical and Supercritical Conditions, *J. Chem. Eng. Japan* 36巻, 441-448, 04.2
- [共著] 寺嶋正明, イネ培養細胞における医療用タンパク質の生産, *生物工学会誌*, 83(11)巻, 516-518, 05.11
- [共著] S. Y. Hwang・E. K. Lee・Terashima, M., Chromatography based purification of rhGM-CSF from recombinant rice cell culture, *Chem. Eng. Technol.* 28巻, 1421-1425, 05.11
- [共著] F. Hassan・Kitagawa, M.・Kumada, Y.・Hashimoto, N.・Shiiba, M.・Katoh, S.・Terashima, M., Production kinetics of angiotensin-I converting enzyme inhibitory peptides from bonito meat in gastric juice, *Process Biochem.* 41巻, 505-511, 06.3
- [共著] M. F. Hassan・Kumada, Y.・Hashimoto, N.・Katsuda, T.・Terashima, M., Fragmentation of Angiotensin-I Converting Enzyme Inhibitory Peptides from Bonito Meat under Intestinal Digestion Conditions and Their Characterization, *Food Bioprod. Process.* 84巻, 135-138, 06.6
- [共著] Kumada, Y.・Nogami, M.・F. Hasan・Terashima, M., Epitope screening by use of a random peptide-displayed phage library and polyclonal antibody-coupled liposomes, *J. Chem. Eng. JAPAN* 39巻, 1195-1199, 06.11
- [共著] M. F. Hassan・Kobayashi, Y.・Kumada, Y.・Katsuda, T.・Terashima, M., ACE inhibitory activity and characteristics of tri-peptides obtained from bonito protein, *J. Chem. Eng. JAPAN* 40巻, 59-62, 07.1
- [共著] Terashima, M.・Nakatani, I.・Harima, A.・Nakamura, S.・Shiiba, M., New method to evaluate water-soluble antioxidant activity based on protein structural change, *J. Agri. Food Chem.* 55巻, 165-169, 07.1

[共著] Fujiyama, K.・Tanaka, R.・Terashima, M.・Sekii, T., N-linked glycan structures of glycoproteins in suspension-cultured Arabidopsis thaliana MM2d cells, Plant Biotechnology 24巻, 255-259, 07.2

[共著] 西田昌司・寺嶋正明, 神戸女学院大学での体験型実習を利用した高校生に対する理科教育の試み, 神戸女学院大学論集 第53巻第3号, 83-92, 07.3

[共著] 寺嶋正明・西田昌司, 高校生を対象とした体験実習プログラムの開発, ヒューマンサイエンス 10, 96-98, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

タンパク質の構造変化を利用した新しい抗酸化性評価法, 日本食品工学会第7回年会, つくば市, 国際会議場, 06.8.3-4, 寺嶋正明・播磨亜矢子・中谷泉・中村沙綾香

女子大生の食のライフスタイルと遺伝子組み換え食品のリスク認知, 日本社会心理学会第47回大会, 仙台市, 東北大学, 06.9.17-18, 島井哲志・寺嶋正明

レーダーチャートによる食品抗酸化成分の総合評価, 化学工学会第38回秋季大会, 福岡市, 福岡大学, 06.9.16-18, 寺嶋正明・中谷泉・播磨亜矢子・中村沙綾香・椎葉昌美

Evaluation of Antioxidant Activity Based on Structural Change of Myoglobin, YABEC2006, 高雄市(台湾), I-show大学, 06.11.25-27, Terashima, M.・Nakatani, I.・Harima, A.・Nakamura, S.

リポソームを用いるアンジオテンシンI変換酵素阻害ペプチドのスクリーニングと特性解析, 化学工学会第72年会, 京都市, 京都大学, 07.3.19-21, 熊田陽一・F. Hasan・寺嶋正明・A. Jungbauer・中西一弘・加藤滋雄

抗体結合リポソームを用いたバイオパニング法を利用した抗ペプチド抗体認識特性の解析, 化学工学会第72年会, 京都市, 京都大学, 07.3.19-21, 前田美和子・熊田陽一・加藤滋雄・寺嶋正明

レーダーチャートを用いたお茶飲料の抗酸化性評価, 化学工学会第72年会, 京都市, 京都大学, 07.3.19-21, 寺嶋正明・外山篤美・松村知穂・村井俊子・椎葉昌美

■ その他(2006年度)

執筆: 化学工学年鑑2006「8.2生物分離工学」, 化学工学 10月号, 化学工学会, 552-553, 06.10

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学人間科学部 研究助成金 [代表者], ポリマー化メタロチオネインによる重金属の吸着, 2003年度, 80万円

ニッセイ [代表者], ニッセイ研究ファンド, 2004年度, 100万円

本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 魚肉からのアンジオテンシンI変換酵素阻害ペプチド生成過程の解析, 2004年度, 72万円

基盤研究(C) (2) [代表者], メタロチオネインポリマーゲルを利用したガリウム回収システムの開発, 2004年度~2005年度(2年間), 360万円

ニッセイ [代表者], ニッセイ研究ファンド, 2005年度, 70万円

本学研究所 研究助成金 [代表者], 遺伝子組換え農作物の環境・生態系へ及ぼす影響に関する調査研究, 2005年度, 30万円

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) [代表者], ラジカルによるタンパク質構造変化を利用した新規抗酸化性評価法, 2006年度, 220万円

ニッセイ [代表者], 水産物エキス中のACE阻害物質の探索, 2006年度, 70万円

全国蒲鉾水産加工工業共同組合連合会 [代表者], 「かまぼこ製品が消化されて生成する抗酸化性ペプチドのレーダーチャートを用いた総合評価」, 2006年度, 120万円

本学研究所 総合研究助成金 [分担者], e-learningを含むIT機器を効果的に活用した教育に関する実践的研究, 2006年度, 15万円

本学 研究助成金 [代表者], 新規抗酸化性測定法の確立, 2006年度, 57万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2003年に神戸女学院大学に赴任し、食品分子機能科学を担当している。外部研究資金としては科学研究費、企業の受託研究費等を連続して得ている。2003年度、2004年度は研究室の立上げで、学会発表は行ったものの、論文発表にはいたらなかった。2005年度以降、8報の論文発表も行い、神戸女学院大学での研究活動も軌道に乗ったといえる。食品中の抗酸化活性の新規評価法は学会、産業界で関心を集めている。

国際交流活動では2004年には大阪で開催したアジア若手化学工学会者会議の実行委員長を務めた。2005年に韓国で開催されたAPBioChECでは招待講演を行った。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

文学部から申請された現代GP、音楽学部から申請された特色GPの両方の申請書作成委員会のメンバーとして活動した。2006年より学部長、研究科長として学内の運営に関っている。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2004年4月~ 化学工学会 バイオ部会企画幹事

2004年4月~ 日本生物工学会 関西支部委員

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2003年4月～現在 (財)有機資源再生センター 評議員

2006年8月～現在 (財)ひょうご科学技術協会 研究助成審査会委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 環境科学
- 研究課題1 水圏の環境汚染の現状把握
 - 2 魚類のビテログレニンを指標とした水圏のエストロゲン様作用の評価
 - 3 沿岸海域の重金属汚染調査

教育活動

- 担当授業科目
 - 大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、入門ゼミ、環境科学概論、環境科学基礎実習、環境科学、環境科学入門、卒業研究
 - 大学院
- 教育内容・方法の工夫(過去5年間)
 - 2002年～現在 インターネットを利用して最新情報をとりこむ
 - 2003年～現在 ゼミでは学生自身に発表の機会を与えて、全員で討論する
 - 2004年～現在 パワーポイントの利用
- 授業評価への対応
 - 2003年度～現在 授業中に評価の概要を示し、私の考えも述べる
 - 2003年度～現在 全くふざけた授業評価も多く、腹立たしい思いをすることも多い。
 - 2003年度～現在 授業の改善策を示唆する記述もあるので、それは取り入れている。
- 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)
 - 2005年 教科書として『明日の環境と人間(第3版)』を出版
 - 2002年～現在 環境科学基礎実習のテキストを毎年更新
- 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)
- その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

- 著書(過去5年間)
 - [共著]小川正・的場輝佳 編, 食品加工学(改訂第3版), 南江堂, 03.4
 - [共著] 西宮の川を学ぶ ～指導者用資料集～, NPO法人こども環境活動支援協会, 04.5
 - [共著]川合真一郎・山本義和, 第3版『明日の環境と人間～地球をまもる科学の知恵～』, 化学同人, 04.9
 - [共著]宮崎信之 編, 三陸の海と生物～フィールドサイエンスの新しい展開, サイエンス・エッセイ社, 05.3
 - [共著] 石田祐三郎・杉田治男 編, 海の環境微生物学, 恒星社厚生閣, 05.6
- 学術論文(過去5年間)
 - [共著] 古武家義成・山本義和, 人と水辺環境 -ホテルを通して考える-, 神戸女学院大学論集 第49巻第1号, 157-174, 02.7
 - [共著] Distribution of Organotin Compounds in Aquatic Environment -The Port of Osaka, Japan., Proceedings of International Symposium on Antifouling Paint and Marine Environment(InSAFE) 2004, 61-69, 04.1
 - [共著] 大阪湾における底質重金属と底質環境との関係, 日本水産学会誌 第70巻第2号, 159-167, 04.3
 - [共著] In Vivo Visual Reporter System for Detection of Estrogen-Like Substances by Transgenic Medaka, Environ. Sci. Technol. 2005, 39, 2762-2768, 05.5
 - [共著] 山本義和・湖山歌林, 津門川の感覚的環境評価～アンケート解析および回答者に関する考察～, 神戸女学院大学論集 第52巻第1号, 149-174, 05.7
 - [共著] Butyltin and phenyltin residues in water, sediment and biological samples collected from Otsuchi Bay, Japan, Otuchi Mar. Sci. 28, 84-91, 3
 - [共著] Harino E., Concentration of Antifouling Biosides in Sediment and Mussel Samples Collected from Otsuchi Bay, Japan, Arch. Environ. Contam. Toxicol. 52, 179-188, 07.1
- 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)
- 学会発表(2006年度)
- その他(2006年度)
- 特許・実用新案(過去5年間)
- 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)
 - 日生財団研究助成 [分担者], 有明海特産種の探索と大陸遺伝的生態系の解明, 2002年度, 340万円(総額)
 - 本学研究所 研究助成金 [代表者], 水圏における環境汚染の実態把握, 2002年度, 20万円
 - 岩手県「夢県土いわて戦略的研究推進事業」[分担者], 三陸海岸の汚染の現状把握と海洋環境保全対策, 2003年度～2005年度, 総額(315万円), 分担金(90万円)
 - 本学研究所 総合研究助成金 [分担者], エストロゲン様物質の検索とその生物作用 -非生殖器官への影響を中心に-, 2003年度, 100万円

本学人間科学部 研究助成金 [代表者], 阪神地域の河川と海の環境を守り育てる, 2003年度, 80万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], 大阪湾における環境汚染の実態把握, 2004年度, 20万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 西宮市内河川の環境を守り育てよう, 2004年度, 90万円
本学人間科学部 教育研究助成金 [代表者], 水生植物を利用した下水の高度処理に関する基礎研究, 2005年度, 36万円
本学研究所 研究助成金 [代表者], ムラサキイガイと底質を指標とした内湾海域における重金属汚染の比較研究, 2006年度, 30万円
本学人間科学部 研究助成金 [代表者], メダカのピテロゲニンを指標とした下水の高度処理過程におけるエストロゲン作用低減効果の評価, 2006年度, 43万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

十分とはいえないが、それなりの努力はしている。
成果はあまりあがっていない。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

神戸女学院大学研究所長として研究所員の研究活動発展に寄与

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2002年以前～現在 日本水産学会 近畿支部評議委員
2002年 日本水産学会賞推薦委員
2005年4月～現在 日本水産学会 シンポジウム企画委員
2005年4月～現在 日本水産学会 評議員

■ 講演(2006年度)

06.4.25 「大槌湾の環境汚染評価」 大槌海洋シンポジウム
06.5.13 「西宮市の水環境を守り育てる」 神戸女学院公開講座
06.10.16 「人間社会における化学物質の功罪」 西宮市生涯学習大学
06.10.23 「環境汚染物質の生物濃縮と毒性評価」 西宮市生涯学習大学
06.11.13 「今、環境ホルモン問題は」 西宮市生涯学習大学
06.11.27 「今、ダイオキシン問題は」 西宮市生涯学習大学
06.12.11 「西宮市内の水環境を調べる」 西宮市生涯学習大学
07.2.14 「都市河川の水環境を守り育てる」 シニア自然大学

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2002年～2003年3月31日 農林水産省「農林水産業における内分泌かく乱物質の動態解明と作用機構に関する研究」研究評価委員
2002年～2006年3月31日 独立行政法人「瀬戸内海区水産研究所」研究評価委員
2002年～2006年3月31日 環境省「流出油及び油処理剤の海産生物に対する有害性評価に関する研究」研究評価委員
2002年～2006年3月31日 兵庫県科学技術協会 研究助成金審査委員
2002年4月～現在 農林水産省「農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発」研究評価委員
2003年～2006年3月31日 独立行政法人「瀬戸内海区水産研究所環境保全部」研究評価委員
2003年～2005年3月31日 国土交通省「淀川水系猪名川一庫ダム上流の体形異常に関する調査検討委員会」委員
2003年～2005年3月31日 西宮市環境学習都市推進市民会議 委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、アジアの地域研究
- 研究課題1 熱帯雨林の林産物交易をめぐる社会関係と持続的利用モデルについての調査研究
 - 2 生物多様性消失のポリティカル・エコロジー
 - 3 沈香木の人間・文化生態学的研究

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、入門ゼミ、環境社会学、外国書講読、自然と人間、女性学(実践編)、卒業研究、国際社会環境論
 大学院 環境社会学特論

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

●2002年～現在 多人数の講義では、学生とのコミュニケーションを図るため、コメントシートを配布し、次回それに応える形をとっている。

■ 授業評価への対応

●2002年～現在 授業評価の結果(集計データ)を教材提示装置を使って受講生に示している。その際、改善すべき点などについて確認している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

●2002年～現在 主に海外の調査フィールドで記録した写真や映像を左記の授業で活用している。また、各種林産物(籐や香木など)を教場に持参し、森の恵みに直接触れてもらう機会をつくっている。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] ◎岡本幸江・峠隆一 他, アブラヤシ・プランテーション開発の影 -インドネシアとマレーシアで何が起きているのか-, 日本インドネシアNGOネットワーク 113pp., 02.7

[共著] Japan Environmental Council 編, The State of the Environment in Asia 2002/2003, Springer-Verlag Tokyo, 361pp., 02.12

[共著] 日本環境会議「アジア環境白書」編集委員会 編, アジア環境白書2003/2004, 東洋経済新報社, 446pp., 03.10

[共著] Japan Environmental Council 編, The State of the Environment in Asia 2005/2006, Springer-Verlag Tokyo, 385pp., 05.3

[共著] 池谷和信 編, 熱帯アジアの森の民 -資源利用の環境人類学-, 人文書院, 273-301, 05.6

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] ◎古武家善成・山本義和 他, 津門川の感覚的環境評価 -アンケート解析および回答者に関する考察-, 神戸女学院大学論集 第52巻第1号, 149-174, 05.7

[単著] 森の民と開発の論理 -熱帯雨林の資源利用をめぐる-, 環境社会学研究 第14集, 19-25, 07.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

Distribution Characteristics of the Non-timber Forest Product Gaharu Wood along the Upper Streams of the Baram River in Sarawak, The Eighth Biennial Conference of the Borneo Research Council, Kuching, Sarawak, Malaysia, 06.8.1

■ その他(2006年度)

エッセイ:ウルパラム通信 -サゴ・デンブン, サラワクアップデート 57, サラワク・キャンペーン委員会, 16-17

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

日本学術振興会研究費補助金若手研究(B) [代表者], 熱帯雨林の林産物交易をめぐる社会関係と持続的利用モデルについての調査研究, 2006年度より, 140万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2002年度から2005年度までは低調であったが、2006年度から科学研究費を得て、研究活動を進めている。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

要請のあった入試・広報活動には積極的に協力している(2002年～現在)。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

2005年6月～現在 環境社会学会 運営委員 国際交流委員

■ 講演(2006年度)

- 06.6.17 「住民がつくる環境の豊かさへ」 神戸女学院 春季公開講座「西宮の環境から学ぶ～都市のなかの人と自然～」
- 06.9.20 「熱帯雨林と先住民たち-マレーシア、サラワク州の事例から」 NPO法人シニア自然大学講座
- 06.12.25 「熱帯雨林の生活」 西宮市「宮水学園」マスターコース(環境コース)
- 07.1.15 「森林伐採とプランテーション開発」 西宮市「宮水学園」マスターコース(環境コース)
- 07.1.22 「生態資源としての沈香」 西宮市「宮水学園」マスターコース(環境コース)
- 07.2.19 「貿易の自由化と環境へのインパクト」 西宮市「宮水学園」マスターコース(環境コース)
- 07.2.26 「問題を広く地球規模で考え、地域で行動する」 西宮市「宮水学園」マスターコース(環境コース)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

2002年4月～現在 総合地球環境学研究所 共同研究員
2005年10月～現在 国立民族学博物館 共同研究委員

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 食品科学
- 研究課題1 食生活が肌に及ぼす影響について
 - 2 アミノ酸に対する応答性について
 - 3 精進料理の科学的解析

教育活動

■ 担当授業科目

大学 演習Ⅰ、演習Ⅱ、入門ゼミ、食品学、文系のための化学入門、細胞生物学概論、バイオサイエンス基礎実習、食品学基礎実習、卒業研究

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2006年4月～現在 言葉での説明が困難な化学構造や体内構造などは、スライド、ビデオ、模型などを利用し、視覚に訴えて理解を深めさせた。
- 2006年4月～現在 自分の食生活を調べさせ、それに対しての栄養計算を行わせ、改善点などをレポートにし提出してもらった。個人個人に問題点をコメントした。

■ 授業評価への対応

- 2006年4月～現在 教科書がわかりにくいという指摘があったので変更した。
- 2006年4月～現在 入門といいながら、内容が難しいという指摘があったので、履修前に詳しく説明し、なるべく同じレベルの学生に聴講してもらえるように心がけた。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

- 食べ物と健康、食品学総論食品学におけるタンパク質の部分を担当。タンパク質の構造、機能、性質などについて記述。

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] 津久井亜紀夫・下橋淳子・笠岡誠一・太田徹・笠松千夏・高岡素子, 食べ物と健康・食品学総論, 八千代出版, 03.4

■ 学術論文(過去5年間)

- [共著] Woo, S.H.・Fukuda, M.・N. Islam・Kawasaki・Hirano, H.・Takaoka, M., Efficient peptide mapping and its application to identify embryo protein in the rice proteome analysis., *Electrophoresis*. 23, 647-654, 02
- [共著] Yamazaki, T.・Katoh, E.・Hanada, K.・Sakita, M.・Sakata, K.・Nishiuchi, Y.・Hirano, H.・Takaoka, M., A possible physiological function and the tertiary structure of a 4-kDa peptide in legumes, *European J. Biochemistry* 270, 1269-1276, 03
- [共著] Fukuda M.・N. Islam・Woo, S.H.・Yamagishi, A.・Kawasaki, H.・Hirano, H.・Takaoka, M., Assessing matrix assisted laser desorption /ionization-time of flight?mass spectrometry as a means of quick rice embryo protein identification., *Electrophoresis* 24, 1319-1329, 03
- [共著] Nazul Islam・Sassa, H.・Kawasaki, H.・Hirano, H.・Takaoka, M., Characterization of low molecular weight starch granule associated protein in common wheat by proteome approaches, *Journal of . Electrophoresis*. 47, 43-49, 03
- [共著] Ukegawa, R.・N. Islam・Adachi, T.・Hirano, H.・Takaoka, M., Changes in proteome patterns in buckwheat seed under submergence. , *Adv. Buckwheat Res.* 8, 122-128, 04
- [共著] 笠松千夏・山下進・高岡素子, 食教育のプログラム開発-鎌倉で発達した精進料理を利用した食教育, 鎌倉女子大学学術研究所報 6, 45-56, 06.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

精進料理におけるだし汁の役割。だし汁の違いがサトイモの調理特性に及ぼす影響, 調理科学学会, 岡山県立大学, 06.9, 笠松千夏・高岡素子
精進料理の栄養調査, 日本家政学会, 秋田大学, 06.5.27-28, 笠松千夏・高岡素子

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

(財)浦上食品・食文化振興財団 [代表者], 精進料理におけるおいしさの科学的解明 だし汁と油の役割について, 2006年度, 144万円
本学 研究助成金 [代表者], ソバのデンプン粒結合タンパク質に関する解析, 2006年度, 48万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

企業や他の研究機関との共同研究を積極的に進め、プロジェクトごとに学会発表を行った。また企業の助成金の募集に積極的に応募し、採択された。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

母校および友人が教員をしている県内の公立高校を訪問し、神戸女学院大学と学科の特色をアピールできた。学科説明会では、簡単な実験を行い、科学の魅力を高校生に伝えることに努めた。

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 トランポロピクスについての普及(兵庫県)
- 研究課題1 全国に向けてのトランポロピクスの普及
- 2
- 3

教育活動

■ 担当授業科目

大学 健康スポーツ科学、生涯スポーツコース(トランポピクス)、女性学(理論編)
大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 2005年度・2006年度と女性学(理論編)を担当させていただいている。女性が抱える体の問題を多くの現場での経験を伝え、将来の参考にしていただけるようにした。
- 女学院学生の抱えている身体的運動能力の問題を提起し、自身のデータを一年間記述記入する事により自身も問題点について工夫健康スポーツ科学の授業では学生の測定結果をフィードバックする事により自身の抱える問題点を共通認識しながら授業を進めた。

■ 授業評価への対応

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

- 国体参加を夢見て協会を設立、兵庫県下にスポーツを普及し愛好者を募って880名で国体開会式およびのじぎく大会450名が参加し但馬地区、淡路島に支部を作るべく兵庫県下をくまなく回った協会を設立して本年で5年となる。現在鳥取県における普及活動を教育委員会支援のもとにしている。

研究活動

■ 著書(過去5年間)

■ 学術論文(過去5年間)

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

2006年第61回兵庫県国体(のじぎく国体)とのじぎく大会(第6回全国障害者スポーツ大会)に本学学生を含む880名で開会式に参加

■ 学会発表(2006年度)

■ その他(2006年度)

健康フェアアドバイザー、京都高島屋, 06.1
健康フェアアドバイザー、難波高島屋, 06.2

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金[代表者], 体育芸術活動助成, 2006年度, 38万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

国体開会式参加のために国体局の協力を得て但馬地域・淡路島を始めスポーツの普及のために5年間を費やしてきた。段々と近隣の都道府県にも普及を依頼され、鳥取県教育委員会より講習会の依頼が入り、冬季の寒い体育館での怪我の無い授業展開の一助となる為の活動を指導した。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

■ 講演(2006年度)

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

2001年～現在 兵庫県生涯スポーツ連合 役員
2001年～現在 兵庫県トランポロビクス協会 会長
2001年～現在 兵庫県生涯スポーツ連合 理事
2003年～現在 兵庫県トランポリン協会 顧問
2004年～現在 日本ウエルネス学会 理事
2005年4月～現在 ひょうご生涯スポーツ実行委員
2005年～現在 大学体育連合 近畿支部理事
2005年～現在 ひょうご生涯スポーツ大会 実行委員
2006年1月～現在 HAT Robics Japan 会長
～2006年 神戸トランポリン協会 顧問

■ 主な社会活動(過去5年間)

第61回兵庫県のじぎく国体参加(一年前イベント～カウントダウンイベントまでも含む)
兵庫県生涯スポーツ大会実行委員ならびに大会副院長として活動

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

- 専門分野 体育学
- 研究課題1 神戸女学院の体育の歴史
 - 2 伝統武術・太極拳の資料収集
 - 3 身ぶり表現の実践

教育活動

■ 担当授業科目

大学 生涯スポーツコース(社交 ダンス)、健康スポーツ科学、生涯スポーツコース(太極拳)、生涯スポーツコース(健やかさ再考[講義])、身体による表現

大学院

■ 教育内容・方法の工夫(過去5年間)

- 体育嫌いを無くしたいために、新学期にはたくさん楽しいゲームを実施するなどして、学生同士、またはクラス全体のコミュニケーションが図れるよう楽しく身体活動ができる雰囲気づくりに努めている。
- 新しい種目を取り入れるなど、マンネリ化を防ぐための工夫をしている。一年次の授業で学内の門を巡り、歴史の話も交え自然散策を楽しむ学内案内の時間を設けている。学生には好評である。散策後に五感で感じたことを俳句で表現させている。

■ 授業評価への対応

- 科目全体の平均値やクラスの平均値等を通して話しをする。記述してある内容の紹介、それに対して答えるなどを中心に対応している。

■ 作成した教科書、教材、参考書(過去5年間)

■ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等(過去5年間)

■ その他教育活動上特記すべき事項(過去5年間)

研究活動

■ 著書(過去5年間)

[共著] ◎横沢喜久子・跡見順子・天野勝弘・池田裕恵・遠藤卓郎・帯津良一・久保隆彦・桜井隆史・谷祝子・張勇・伴義孝・平工志穂・松雄志郎・吉本昭治・和田勝・渡會公治, 健康なからだの基礎 ~養生の実践~, 市村出版, 173pp., 06.4

[共著] ◎谷祝子、前林清和、内田樹、安田忠典、伴義孝、小田慶喜、菅原福子、中川昌幸、三浦敏弘、三宅眞理, 自己を語る身体表現, 冬弓舎, 265pp, 07.4

■ 学術論文(過去5年間)

[共著] 谷祝子・井上紀子, 神戸女学院における体育の歴史 -明治時代-, 神戸女学院大学論集 第49巻第2号, 161-209, 02.12

[共著] 佐伯洋子・劉莉・谷祝子, 太極拳愛好者の活動実態と健康度, 身体運動文化論巧 第2巻, 97-112, 03.3

[共著] 谷祝子・井上紀子, 神戸女学院における体育の歴史 -大正時代-, 神戸女学院大学論集 第51巻第3号, 141-187, 05.3

■ 演奏会・競技会等における発表、作曲・編曲の発表(過去5年間)

■ 学会発表(2006年度)

いのちの教育(V) -青年期の終末医療への関心-, 近畿学校保健学会, 京都大学, 06.6.17, 佐伯洋子・高内正子・高山昌子・谷祝子・中神勝

いのちの教育(VI) -自殺に対する教え方を面して-, 近畿学校保健学会, 京都大学, 06.6.17, 高山昌子・佐伯洋子・高内正子・谷祝子・中神勝

いのちの教育(VII) -死の認識について医学部との比較から-, 近畿学校保健学会, 京都大学, 06.6.17, 高内正子・佐伯洋子・高山昌子・谷祝子・中神勝

■ その他(2006年度)

■ 特許・実用新案(過去5年間)

■ 科研費等の助成金の受領状況(過去5年間)

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], 伝統太極拳の資料収集及びビデオ作成, 2005年度, 23万円

本学研究所 体育・芸術活動助成金 [代表者], 体育・芸術活動助成, 2006年度, 50万円

本学学内開催学会補助金 [代表者], 日本養生学会「ようせいフォーラム2007」, 2006年度, 5万円

■ 主な研究活動(過去5年間)

2005年夏に、伝統太極拳に関する資料収集を中国天津に在住の郭福厚老師による取材を実施した。その資料をどうまとめるか、また、継続して取材・収集をどのように進めるかが課題として残っている。更にまとめる方向で頑張りたい。もう一つ長年の課題であった本を「自己を語る身体表現」として4月に出版できた。

学内における活動

■ 主な学内活動(過去5年間)

社会活動

■ 学会役員等(過去5年間)

1997年～2003年 全国大学体育連合 近畿支部会理事
1999年～現在 日本養生学会 常任理事(大学養生学研究会)
1999年～現在 日本学生武術太極拳連盟 理事
1999年12月～現在 身体運動文化学会 関西支部会会長
2000年～現在 身体運動文化学会 常任理事
2000年～現在 (財)大阪府レクリエーション協会 評議員
2002年～現在 日本学生武術太極拳連盟 理事
2003年～現在 NGO活動教育研究センター(NERC) 理事
2005年～現在 全国大学体育連合 近畿支部会兵庫地区副会長

■ 講演(2006年度)

06.8.9 「太極拳:スワイショウ」平成18年度加古川市リラクスマイト研修会
06.7.24-25 幼児教育夏季セミナー「身ぶり表現」実技担当
06.9.28 「触れて、弛めて、「からだ」と「こころ」で」大学共同講座(前期)
06.11.18 「身体表現の面白さ再考」神戸女学院大学秋期公開講座
06.11.30 平成18年度加古川中部エリア健康フェスティバル「健康ありがとうフェスティバル2006」
07.2.8 「太極拳」神戸婦人大学

■ 公開レッスン(2006年度)

■ コンクールの審査等(2006年度)

■ 学外機関委員等(過去5年間)

■ 主な社会活動(過去5年間)

兵庫県独自の取組である「大学洋上セミナー2004」と「大学洋上セミナー2006」に船上講義担当者として乗船する機会を得たのは大変有意義であった。加盟参加教員・スタッフ・学生と運動不足になりがちな船上生活で実技を通して交流ができた。

■ 受賞・栄誉(過去5年間)

2006年度
神戸女学院大学 専任教員 教育・研究業績報告集

2008年2月発行

編集・発行 神戸女学院大学 FDセンター
〒662-8505 西宮市岡田山4番1号
TEL (0798) 51-8582

印刷所 有限会社 三 明 社